

認ムルトキハ別ニ適當ノ場所ヲ指定スルコトアルヘシ
 前項ノ指定ヲ爲ストキハ六ヶ月以内ノ猶豫ヲ與フヘシ
第五條 課署所ニ於テハ巡查宿所簿ヲ調製シ第三條届出ノ要
 領ヲ記入シ置クヘシ

● 巡查休暇細則

(明治三十一年三月三十一日)
 (廳訓第八十一號)

(沿革) 明治三十四年五月廳訓第六八號改正
 警察部 警察署 警察分署 巡查教習所

巡查休暇細則左ノ通り相定メ來ル四月一日ヨリ施行ス
 但シ明治十八年八月已第三十六號巡查休暇細則ハ本則施行ノ
 日ヨリ廢止ス
 右訓令ス

巡查休暇細則

第一條 巡查ハ巡查看守休暇概則及ヒ此細則ノ規程ニ依リ休
 暇ヲ與フ
第二條 皆勤者ニハ豫メ別記様式ノ休暇證ヲ下付スルモノト
 ス但シ半箇年若クハ五箇年皆勤ノ者ニ休暇證ヲ下付シタル
 後休暇ヲ爲サスシテ一箇年若クハ十箇年皆勤シタルトキハ
 之ニ對スル休暇證ヲ下付シ前ニ下付シタル休暇證ヲ返納セ
 シムヘシ
第三條 休暇證ハ警察部課長警察署長分署長及巡查教習所長
 ニ於テ之ヲ下付シ出勤表ニ皆勤期間及下付年月日ヲ朱記ス

ヘシ
第四條 皆勤日數ハ新任者又ハ缺勤者出勤ノ當日ヨリ起算ス
第五條 左ノ事項ニ係ル缺勤ハ缺勤日數ニ算入セス
 一 慰勞休暇
 二 職務上傳染病ニ罹リ療養中
第六條 左ノ事項ニ係ル場合ハ缺勤及皆勤日數ニ算入セス
 一 豫備後備ノ軍籍ニ在ル者被召集中若クハ休職中
 二 傳染病ニ關シ其遮斷若クハ隔離中
 三 忌引中
 四 私事旅行中天災ニ據リ服務セサルモノ
 五 看護其他特許ヲ得テ服務セサルモノ
第七條 休暇ハ皆勤滿期ノ翌日ヨリ起算シ左ノ區別ヲ以テ給
 與トス
 一 一箇年若クハ半箇年皆勤者ハ之ニ繼續スル一ケ年若ク
 ハ半ケ年間
 二 五箇年又ハ十箇年皆勤者ハ無期限
第八條 休暇ハ課署所長ニ於テ事務ノ都合ニ依リ之ヲ認可ス
 ルモノトス
第九條 休暇ヲ爲サントスルモノハ休暇證裏面欄内ニ其年月
 日ヲ記入シ捺印シテ所屬課署所長ノ認可ヲ受クヘシ
第十條 (削除)
第十一條 休暇ハ時宜ニ依リ之ヲ停止スルコトアルヘシ但シ
 此場合ト雖トモ給與期ハ第七條ニ依ル

第十二條 休暇ヲ以テ歸省又ハ旅行セントスルトキハ更ニ所
 屬課署所長ノ許可ヲ受クヘシ
第十三條 休暇中ト雖トモ出火其他非常事變アルトキハ速ニ
 所屬課署所又ハ現場ニ參集スヘシ
第十四條 休暇滿期及給與期限滿了シタルトキハ直ニ休暇證
 ヲ返納スヘシ
 用紙西ノ内四ツ切

(特別) 休暇證

巡查	氏	名
明治何年何月何日ヨリ明治何年何月何日迄何箇年皆 勤ニ付何週間ノ休暇ヲ與フ但左ノ事項ヲ遵守スヘシ		
一	休暇ヲ爲サントスルトキハ本證裏面欄内ニ其年 月日ヲ記入シ捺印ノ上所屬課署所長ノ認可ヲ受 クヘシ	
二	休暇ヲ以テ歸省又ハ旅行セントスルトキハ更ニ 所屬課署所長ノ認可ヲ受クヘシ	
三	休暇中ト雖トモ出火其他非常事變アリタルトキ ハ速ニ參集スヘシ	
四	休暇滿日及ヒ給與滿期ニ至リタルトキハ速ニ此 證ヲ返納スヘシ	
年	月	日
何課署所長		
官	氏	名
印		

署	長	印	年	月	日	年	月	日	認	巡	印

● 巡查結婚セントスルトキ届
 出認可ヲ受クヘキ件

(明治二十一年十一月二日)
 (廳達甲第十八號)

警察(本部) 警察署 警察分署
 自今巡查ニシテ結婚セント欲スル者ハ配偶者ノ族籍氏名年齢
 等ヲ詳記シ豫メ所屬署長ヘ届出其認可ヲ受クヘシ
 但警察(本部)及ヒ巡查教習所詰巡查ハ(警部長)ノ認可ヲ受
 クヘシ

●警察官吏乗車用公務證券及證明書取扱規程

(大正二年九月二十六日) 訓第一八八號

警察官吏鐵道乗車用公務證券及證明書取扱規程左ノ通相定メ
大正二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

警察官吏乗車用公務證券及證明書取扱規程

第一條 警察官吏公務ノ爲鐵道(官私)ニ乗車スルトキハ別ニ定メラレタル公務證券ヲ行使スルモノトス
制服ヲ着用セスシテ乗車ノ必要アルトキハ公務鐵道乗車證明書ヲ携有スルヲ要ス

第二條 公務證券及公務鐵道乗車證明書ハ左ノ區別ニ依リ發行スルモノトス

- 一 一般公務ノ爲乗車スルトキハ甲種公務證券(第一)トス
- 二 囚人及刑事被告人護送ノ爲乗車スルトキハ乙種證券(第二)トス

制服ヲ着用セスシテ公務ノ爲乗車スルトキハ更ニ公務鐵道乗車證明書(第三)ヲ發行ス

第三條 公務證券ハ乗車前賃金ノ半額ト共ニ鐵道掛員ニ差出シ之ト引換ニ乗車切符ヲ受取ルモノトス
公務鐵道乗車證明書ハ警察官吏ノ證トシテ携有シ鐵道掛員

ノ請求アルトキハ之ヲ提示スルモノトス

第四條 公務證券及公務鐵道乗車證明書ノ發行擔任官ハ警察部各課長巡查教習所長警察官署長トス

第五條 公務證券及公務鐵道乗車證明書ニ記載スル注意事項ハ之ヲ恪守スルヲ要ス

第六條 公務證券及公務鐵道乗車證明書ヲ發行スルトキハ發行擔任官ニ於テ第四號又ハ第五號様式ノ整理簿ニ所定ノ記入ヲナシ尙公務證券又ハ公務鐵道乗車證明書ト割印スヘシ

第七條 不用ニ屬シタル公務證券又ハ再用ノ必要ナキ公務鐵道乗車證明書ハ之ヲ截斷シ整理簿摘要欄ニ其ノ事由ヲ記入シ置クヘシ

第八條 公務證券又ハ公務鐵道乗車證明書ノ紛失届出アリタルトキハ其ノ種類番號及發行年月日並記名者ヲ速ニ報告スヘシ

第九條 公務證券及公務鐵道乗車證明書ハ警察部ニ請求シ其ノ交付ヲ受クヘシ

第十條 拘摸犯取締ノ爲鐵道勸合證ニ據リ乗車スル場合ニハ本規程ヲ適用セス

第一様式 甲種公務證券

第 號	發行擔任官
甲 種	
公務證券	自 至
	自 至
大正 年 月 日發行	神奈川縣 團
乗車人	官 氏 名
等	年 齡

注 意

- 一 此ノ證券ハ警察官吏公務乗車スルコトヲ證スル爲發行スルモノトス
- 一 此ノ證券ニハ發行擔任官ニ於テ發行ノ際番號等所要ノ事項ヲ記入スヘシ但シ鉛筆ニテ記入スヘカラス
- 一 此ノ證券ニ記入ノ文字ヲ抹殺改竄シタルトキハ發行擔任官ノ認印アルニアラサレハ無効トス
- 一 此ノ證券ハ一人一葉ニ限ルモノトス
- 一 此ノ證券不用トナリタルトキハ發行擔任官ニ返付スルモノトス
- 一 此ノ證券ヲ紛失シタルトキハ券面番號其ノ他必要ノ事項ヲ速ニ發行擔任官ニ届出ツヘシ
- 一 此ノ證券ノ有効期間ハ發行ノ日ヨリ六十日以内トス

第二樣式 乙種公務證券

第 號	發行擔任官 ㊟
乙 種	
公務證券	
大正 年 月 日 發行	神 奈 川 縣 印
自 驛	至 驛
三等	
乘車人	
監守官吏 官 氏	
囚 徒	
人 名	

裏 面

注 意

- 一此ノ證券ハ囚徒押送ノ爲囚徒及監守官吏ノ乘車スルコトヲ證スル爲發行スルモノトス
- 一此ノ證券ニハ發行擔任官ニ於テ發行ノ際番號等所要ノ事項ヲ記入スヘシ但シ鉛筆ニテ記入スヘカラス
- 一此ノ證券ニ記入ノ文字ヲ抹殺改竄シタルトキハ發行擔任官ノ認印アルニアラサレハ無効トス
- 一此ノ證券不用トナリタルトキハ發行擔任官ニ返付スルモノトス
- 一此ノ證券ヲ紛失シタルトキハ券面番號其ノ他必要ノ事項ヲ速ニ發行擔任官ニ届出ツヘシ
- 一此ノ證券ノ有効期間ハ發行ノ日ヨリ三十日以内トス

第三樣式 公務鐵道乗車證明書

第 號	發行擔任官 ㊟
乘車人	官 氏
年 齡	
公務鐵道乗車ノ證	
大正 年 月 日 發行	神 奈 川 縣 印

裏 面

注 意

- 一此ノ證券ハ警察官吏制服ヲ着用セス公務乗車スルノ證トシテ發行スルモノトス
- 一此ノ證券ニハ發行擔任官ニ於テ發行ノ際番號等所要ノ事項ヲ記入スヘシ但シ鉛筆ニテ記入スヘカラス
- 一此ノ證券ニ記入ノ文字ヲ抹殺改竄シタルトキハ發行擔任官ノ認印アルニアラサレハ無効トス
- 一此ノ證券不用トナリタルトキハ發行擔任官ニ返付スルモノトス
- 一此ノ證券ヲ紛失シタルトキハ本票番號及發行ノ年月日ヲ具シ速ニ發行擔任官ニ届出ツヘシ

第十四類警務 第五章 儀式、賞罰

第四號樣式

公務證券發行整理簿

發行官印	發行月日	證券番號	乘車區間	用務	被交付者官氏名	同上印	摘要

第五號樣式

乘車證明書發行整理簿

發行官印	發行月日	證券番號	用務	被交付者官氏名	同上印	摘要

注意 證券及證明書ノ受入月日竝枚數ハ整理簿ニ記入シ置クヲ要ス

第五章 儀式、賞罰

●新年紀元節天長節祝日拜賀式ノ件

(大正二年十月二十八日) (訓第二〇九號)

警察署 警察分署 巡查教習所 警察病院

新年(一月一日)竝紀元節天長節祝日ニハ其ノ屬署ニ於テ拜賀式ヲ行フハシ

但シ郡部ニ在テハ所在地外ノ勤務者ハ最寄學校其他學式ノ場所ニ於テ拜賀スルコトヲ得

式次心得

一 參賀スヘキ者ハ判任官待遇以上服裝ハ服制アル者ハ正裝其他ハ「フロックコート」又ハ羽織(紋付)袴トス

一 式場ハ清嚴ノ箇所ヲ擇ヒ學式ハ當日午前八時ヨリ同十時マテノ間ニ行フコト

一 各屬長(屬長不在ノト)ハ式場ニ於テ所屬職員ノ祝賀(此時

參賀ノ職員中先任者ハ一同ヲ代表シ)ヲ受クルコト
各屬長ハ式ノ終了後其旨申報スルコト

●神奈川縣警察官會葬式

(明治十四年十月二十八日) (第八十八號)

警察(本部)

明治十一年四月相達候本縣警部巡查會葬式左ノ通改定候條此旨相達候事

神奈川縣警察官會葬式

第一條 (縣令)ノ葬式ハ左ノ人員之ニ從フモノトス

警察(本署)署ト書ス(長)

(本署)各係警部二名ツ、

横濱(區)内(以下單ニ區)各警察署(以下單ニ各)署ト書ス(長)

(區)内各署非番警部總員

(本署)及ヒ(區)内各署非番巡查總員

第二條 (書記官)ノ葬式ニハ左ノ人員之レニ從フモノトス

(本署)署長

(本署)各係警部一名ツ、

(區)内各署長

(區)内各署非番警部一名ツ、

第三條 (本署)及ヒ(區)内各署非番巡查三分ノ二

(本署)署長)ノ葬式ニハ左ノ人員之ニ從フモノトス

第十四類警務 第五章 儀式、賞罰

(本署)各係警部一名ツ、
(區)内各署長
(區)内各署非番警部一名ツ、
所屬非番巡查總員

第四條 各署長ノ葬式ニハ左ノ人員之ニ從フモノトス

(本署)警部一名

(區)内各署非番警部一名ツ、

所屬非番巡查總員

(本署)及ヒ(區)内各署非番巡查四分ノ一

(本署)警部一名

(區)内各署長

第五條 各警部ノ葬式ニハ左ノ人員之ニ從フモノトス

(本署)警部一名

(區)内各署長

(區)内各署非番警部一名

詰署非番巡查總員

第六條 (一)二等)巡查ノ葬式ニハ左ノ人員之ニ從フモノトス

(本署)及ヒ(區)内各署非番巡查五分ノ一

詰署非番巡查十名

第七條 (三四等)巡查ノ葬式ニハ左ノ人員之ニ從フモノトス

(本署)及ヒ(區)内各署非番巡查二名宛

詰署非番巡查五名

(本署)及ヒ(區)内各署非番巡查一名ツ、

第八條 前各項ニ記載スル人員中職務ニ差支アルトキハ適宜減員スルヲ得ルモノトス

第九條 出會スルモノハ必ス死者ヨリ下級ノモノトシ若シ前各條ニ記載スル人員中上級ノモノアルトキハ出會セサルモノトス

但〔十等〕警部及〔四等〕巡查ニ限り同級ノモノ出會スルモノトス

第十條 前各條中警部巡查總員出會セサル場合ニ於テハ圖取ヲ以テ出會スル人員ヲ定ムルモノトス

第十一條 前各條ノ禮式ヲ行フハ一回ニ限ル假令改葬スルコトアルモ再ヒ之ヲ行ハサルモノトス

第十二條 傳染病ニ罹ルモノハ別段ノ詮議アルニアラサレハ前各條ノ禮式ヲ行ハサルモノトス

第十三條 横濱〔區〕外警察署又ハ分署詰ノモノハ前各條ノ禮式ヲ用ヒサルモノトス

第十四條 前各條ニ記載シタル人員ハ必ス制略服ヲ著シ警部ハ帶劍スルモノトス

情誼ヲ以テ該員外ニ出會スルモノハ制略服ヲ用ヒス帶劍セサルモノトス

第十五條 職務ノ爲メニ斃レタルモノ、葬式ニハ臨時ノ詮議ヲ以テ之ノ人員ヲ増スコトアルヘシ

● 神奈川縣警察官吏追祭式

〔沿革〕明治二十年九月應達甲第四一號改正
〔應達甲第十五號〕

神奈川縣警察官吏追祭式左ノ通り相定ム
警察〔本部〕 警察署 警察分署

神奈川縣警察官吏追祭式

第一條 神奈川縣警察官吏ニシテ職務ニ斃レタルモノ、靈魂ヲ慰センカ爲メ祭祀ヲ爲スノ式トス

第二條 死者紀念ノ爲メ警察〔本部〕ニ紀念帖ヲ調製保存スルモノトス

第三條 紀念帖ニハ左ノ項目ヲ記スヘシ

一 勳位官職氏名身分族籍年齒所屬親又ハ近親ノ氏名在勤官署名履歷功績

一 證名死亡ノ原由年月日時地名墓地名傳贊墓誌墓銘ノ寫等

第四條 毎年春秋左ノ定月警察〔本部〕ニ於テ相當祭式ヲ行フモノトス

春時祭 三月

秋時祭 九月

第五條 墳墓ハ警察〔本部〕ノ指定シタル警察署ニ於テ保存方注意スヘシ

第六條 死者生前ノ肖像寫眞其他紀念ノ爲メ保存ヲ要スル物件アルトキハ死後三十日以内ニ所屬署長ヨリ警察〔本部〕ヘ送付スヘシ

● 巡查精勤證書授與手續

〔明治二十二年七月十九日〕
〔應達甲第三十一號〕

〔第二部〕 警察〔本部〕 警察署 警察分署
〔監獄〕

本年五月内務省訓令第二十一號ヲ以テ巡查看守精勤證書授與規則ヲ定メラレタルニ付テハ本縣巡查看守精勤證書授與手續左ノ通り相定ム

巡查看守精勤證書授與手續

第一條 巡查〔看守〕ニシテ精勤ノ者ヘハ巡查看守精勤證書授與規則ニ據リ精勤證書ヲ授與スルモノトス

第二條 巡查看守精勤證書授與規則第三條ニ適當スル者アルトキハ巡查ハ署長、看守ハ典獄ヨリ詳細事情ヲ具ヘ申出ツヘシ

第三條 規則第三條ノ調査方ハ左ノ手續ニ據ルヘシ
第一項ハ巡查ハ外勤警部〔看守ハ看守長〕ノ見込上申書ヲ添ルモノトス

第二項ハ上申ノ時ヨリ前三年間勤缺取調書ヲ添ルモノトス
第三項上申ノ時ヨリ前一年間署長〔又ハ典獄〕ニ於テ最モ至當ナル結果ヲ得タルト思料スヘキ事務處分ノ成績書又ハ善美ナル報告上申書等ノ原書又ハ其寫書ヲ添ルモノトス

第四項ハ滿三年奉職ノ證明書ヲ添ルモノトス

第十四類 警務 第六章 給與

第四條 水火災若クハ盜難等ニ罹リ精勤證書ヲ亡失シタル者アルトキハ本人ノ手續書ヲ添ヘ巡查ハ署長〔看守ハ典獄〕ヨリ事情ヲ具ヘ再渡ヲ申出ツヘシ

第五條 規則第七條ニ當ルモノアルトキハ巡查ハ署長〔看守ハ典獄〕ヨリ其事情ヲ具ヘ申出ツヘシ

第六章 給與

● 巡查俸給ノ件

〔明治三十九年十月十日〕
〔訓令第三十三號〕

〔沿革〕明治四一年三月訓令第一四號改正

警察署 警察分署 巡查教習所

巡查俸給ハ明治三十九年十月四日ヨリ本年勅令第二百五十九號巡查給與令ニ依リ從前乙號五級以下ヲ給與シタル者ハ八月俸十二圓ヲ給與シ更ニ辭令ヲ交付セス

教習中ノ巡查ハ八月俸十圓トス

● 巡查休職給支給規則

〔明治三十七年五月三日〕
〔訓令第二十三號〕

巡查休職給支給規則左ノ通り定メ明治三十七年五月一日ヨリ施行ス

警察署 警察分署
巡查休職給支給規則

第一條 戰時又ハ事變ニ際シ陸軍又ハ海軍ニ召集セラレタル爲休職ヲ命シタル巡查ニハ本則ニ依リ休職給ヲ支給ス

第二條 休職給ハ休職巡查ノ陸軍又ハ海軍ニテ受クル俸給又ハ給料ノ額(戰時加俸ヲ除ク)休職ヲ命シタル當時ノ巡查俸給額ヨリ寡少ナルトキニ限リ其ノ不足ニ相當スル金額ヲ支給ス

第三條 休職給ハ休職ノ翌月ヨリ解散除隊若ハ轉職免職ノ日又ハ死亡ノ月迄之ヲ支給ス

第四條 休職給ハ本俸支給ノ例ニ據リ當廳ニ於テ支給ス但シ第五條第一號ノ届出ナキ時ハ届出ノ日迄支給ヲ停止ス

第五條 休職巡查ハ當廳警察部ニ左ノ事項ヲ届出ヘシ

一 陸軍又ハ海軍ニテ受クル俸給又ハ給料ノ額及受給開始ノ月日但シ戰時加俸ヲ除ク

二 前號ノ額ニ異動アリタルトキハ其ノ増減額及異動ノ月日

三 解散又ハ除隊ノ月日

前項第一號第二號ノ届出ハ所屬部隊ノ證明ヲ要ス

第六條 前條第二號第三號ノ届出ナキ若ハ届出ノ錯誤遲延等ノ爲第二條第三條ノ支給額ニ過不足アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ事實ヲ確認シタル翌月以後ニ於テ年度ノ區別ニ從ヒ追給若ハ控除ス若シ控除スル能ハサル時ハ追徴ス

第七條 本則施行前休職ヲ命シタル巡查ノ休職給ハ本則施行ノ月ヨリ之ヲ支給ス

左ノ區別ニ依リ之ヲ支給ス

一 車馬賃一里ニ付警部補ハ十五錢巡查ハ十二錢

一 旅行三日迄ハ宿泊料一夜ニ付警部補ハ八十錢巡查ハ七十錢日當一日ニ付警部補ハ五十錢巡查ハ四十錢

一 前號ノ外宿泊料一夜ニ付警部補ハ七十錢巡查ハ六十錢日當一日ニ付警部補ハ四十錢巡查ハ三十錢

本條ノ旅行中引續本條指定ノ用務若ハ他ノ用務ニ服シタルトキハ繼續ト看做シテ前項ノ旅費ヲ支給ス

第五條 他府縣ニ於テ施行スル各種講習會ニ出席スル警部、警部補及巡查ニハ到着ノ翌日ヨリ出發ノ前日迄警部ハ日額六十錢警部補ハ日額五十錢巡查ハ日額四十錢ヲ支給シ其他ハ普通旅費ヲ支給ス

第六條 刑事被告人及囚人其他押送ニ依ル出張ニシテ本條各號ニ該當スル場合ニ於テハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ支給ス

一 電車、鐵道馬車、輕便鐵道ニ依ルトキハ最低ノ實費

一 所轄内管區巡查ノ押送ニシテ片道四里以上ニ涉ルトキハ第十三條ノ例ニ拘ラス第四條ニ規定シタル車馬賃ヲ支給ス

一 前號同一旅行ニシテ鐵道及電車、鐵道馬車、輕便鐵道、

●警察官吏旅費支給規則

(明治四十三年八月五日) 訓令第五十三號

(沿革)明治四四年四月訓令第一九號、大正二年四月同第二九號改正

警察署 警察分署

警察官吏旅費支給規則左ノ通相定ム

警察官吏旅費支給規則

第一條 警察官吏ノ旅費ハ本則又ハ別ニ定ムルモノノ外明治四十三年六月勅令第二百七十四號及同年七月內務省訓令第七號ノ規程ニ依ル

第二條 陸路四里未滿鐵道十哩未滿水路拾海裡未滿ノ旅行ニアリテハ公務ノ都合ニ依リ宿泊シタル場合ノ外日當ヲ支給セス

第三條 警部補及巡查ノ日當、宿泊料、車馬賃ハ左ノ區別ニヨリ之ヲ支給ス

一 警部補ハ日當一日ニ付六十錢宿泊料一夜ニ付壹圓車馬賃一里ニ付二十錢

一 巡查ハ日當一日ニ付五十錢宿泊料一夜ニ付八十錢車馬賃一里ニ付十五錢

第四條 警備、檢疫、傳染病豫防、各種講習、捜査、押送要視察人及機密用務其ノ他諸般ノ檢査取締若ハ助勤ノ爲出張シタル警部補及巡查ノ旅費ハ第五條ノ場合ヲ除キ

陸路等ニ依リタル場合ト雖通算シテ片道四里以上ニ涉ルトキハ陸路及哩數ニヨリ車馬賃、鐵道賃ヲ其他ハ實費ヲ支給ス

第七條 汽車及電車内取締ノ爲出張スル巡查ニハ鐵道賃電車ニ對スル車馬賃及宿泊料ヲ支給セス日當一日ニ付四十錢ヲ支給ス

第八條 他廳ヨリ出向シ巡查ニ採用スルモノ又ハ新ニ巡查ニ採用スル爲召喚シタルモノノ旅費ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ支給ス

一 他廳ヨリ出向シタルモノニハ鐵道賃一哩ニ付二錢船賃一海裡ニ付三錢車馬賃一里ニ付十五錢日當一日ニ付四十錢宿泊料一夜ニ付七十錢

一 召喚シタルモノニハ鐵道賃一哩ニ付二錢船賃一海裡ニ付二錢車馬賃一里ニ付十錢日當一日ニ付三十錢宿泊料一夜ニ付六十錢

第九條 警視、警部、警部補所轄内駐在巡查部長ノ監督擔當區域内巡查受持區内旅費ハ左ノ等級區分ニ依リ月額ヲ以テ支給ス

等	級	月	額	署	區	長	警	分	部
一	等	七	圓	小田原					

二	等	六	圓	藤澤、松田	
三	等	五	圓	中野、都田、厚木、横須賀、神奈川、大磯、川崎、鎌倉、溝	
四	等	四	圓 貳 拾 錢	戸塚、桑野、伊勢原、葉山	
五	等	參	圓 六 拾 錢	壽町、目下、高津、三崎、浦賀	横須賀、神奈川及郡部警察署 在勤警部
六	等	參	圓	横濱水上、戸部、伊勢佐木町、加賀町、山手本町	横濱市内警察署在勤警部(神奈川ヲ除ク)
等	級	月	額	警部補(分署長タル警部補ヲ含ム)	巡 查 部 長 巡 査
一	等	參	圓 五 拾 錢	横須賀、藤澤、松田、小田原、中野、厚木、都田、鎌倉、伊勢原、目下	
二	等	參	圓	高津、三崎、浦賀、葉山、川崎、大磯、戸塚、溝、桑野	
三	等	貳	圓 七 拾 錢	横須賀、藤澤、松田、小田原、中野、厚木、都田、溝、神奈川(市部ヲ除ク)、鎌倉、桑野	
四	等	貳	圓 拾 錢	葉山、伊勢原、目下、戸塚、大磯、高津、川崎、三崎、浦賀	
五	等	貳	圓	横濱市	
六	等	壹	圓 六 拾 錢		横須賀警察署及郡部署在管區巡查
七	等	壹	圓 五 拾 錢		駐在巡查

八

等 壹圓貳拾錢

横濱市内署在管區巡查請願巡查

第十條 警部補及巡查ノ管内赴任ニハ舊任地ヨリ新任地迄本則ニ所定シタル車馬賃及鐵道賃船賃ノ額ニ相當スル赴任手當ヲ支給ス

第十一條 警部補及巡查ノ移轉料ハ總テ之ヲ支給セス

第十二條 警視警部警部補ニシテ警察署長又ハ分署長ヲ兼務スルトキハ當該署長相當ノ月額ヲ併給ス郡部管區巡查他ノ受持ヲ兼務スルトキハ其ノ月額ノ半額ヲ併給ス

第十三條 月額ヲ受ケタル警視警部警部補及巡查ハ其ノ所屬警察署内ニ出張スルモ旅費ヲ給セス但シ警備警備又ハ議員選舉其ノ他非常事故ノ爲急速ノ出張ヲ命セラレタルトキ若ハ上司隨行等旅行ノ性質ニヨリ舟車馬賃其ノ他實費ヲ要シタルトキハ之ヲ給シ尙宿泊三夜以上ニ渉ルトキハ日當及宿泊料ヲ左ノ各號ニヨリ之ヲ支給ス

一 警視ハ日當一日ニ付七十錢宿泊料一夜ニ付一圓

一 警部ハ日當一日ニ付五十錢宿泊料一夜ニ付八十錢

一 警部補ハ日當一日ニ付四十錢宿泊料一夜ニ付六十錢

第十四條 月額ヲ受ケタルモノノ所轄内旅行ニシテ本則ノ規定ニ拘ラス旅費ヲ給スル場合ハ其ノ時々之ヲ指定ス

第十五條 月額旅費ハ左ノ場合ニ限リ三十分ノ一ノ割合ヲ以テ計算ス

第十四類警務 第六章給與

一 新任ノトキハ其ノ勤務ニ服シタル日ヨリ轉任休職死亡ノトキハ發令又ハ死亡ノ當日迄之ヲ支給ス但シ轉任ノ當日新任ノ勤務ニ服シ月額ノ支給ヲ要スルトキハ其ノ翌日ヨリ之ヲ支給ス

一 病氣引退其ノ他賜暇等公務ニ服セサル日數ハ凡テ之ヲ控除ス

一 日當ノ支給ヲ受ケタル旅行ハ其ノ日數ヲ控除ス

第十六條 月額旅費ヲ受ケタルモノハ別ニ定ムル様式ニヨリ翌日五迄ニ請求スヘシ

第十七條 月額旅費ハ翌月十五日迄ニ之ヲ支給ス但シ給與ヲ停止シタルトキハ其ノ時々之ヲ支給ス

附 則

本則ハ明治四十三年八月ヨリ之ヲ施行ス

第十四條ニヨリ已ニ指定セラレタルモノハ本則施行ノ際尙其ノ效力ヲ有ス

明治四十三年四月神奈川縣訓令第二十號及本則ニ抵觸スルモノハ之ヲ廢止ス

請 求 書

一金 圓 錢也

但何月分何等月額又ハ何等月額ノ處何日出張又ハ休暇ニ

付控除殘日數何日分
右請求候也
年 月 日

某 署 職 氏 名 印
知事 宥

- 備考
- 一 請求書ハ主長ノ認印ヲ受クヘキモノトス
 - 一 請求ハ連名ニテ爲スコトヲ得
 - 一 連名ノ請求ニハ金額ノ下ニ官氏名ヲ記入シ請求者ノ金額ヲ明瞭ナラシムルコト
 - 一 多數巡查ノ合同請求ハ主長ノ調査ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

●訓練中ノ巡查ニ旅費支給ノ件

(明治四十四年六月二十日)
(訓令第三十四號)

警察署 警察分署

巡查教習所規程ニ依リ訓練ノ爲郡部ヨリ召集セラレタル巡查

等級	支	給	地	宿	料	月	額	區	分
一 等	横濱市			警	部	補	巡	區	查
二 等	横須賀市			警	部	補	巡	區	查

ノ往復ニハ普通旅費ヲ給シ其ノ期間ニ於ケル滞在旅費ハ月額金三圓ヲ支給ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●警部補及巡查宿料支給規則

(明治四十三年四月十二日)
(訓令第二十六號)

(沿革)明治四十四年三月訓令第一〇號改正

警察署 警察分署

警部補及巡查宿料支給規則左ノ通相定メ明治四十三年度所屬ヨリ之ヲ施行ス

警部補及巡查宿料支給規則

- 第一條 宿料ハ警部補ニ在テハ所屬部署所々在地ニ居住スル者巡查ニ在テハ明治三十七年二月廳訓第十八號巡查宿所規程第一條所定ノ箇所ニ居住スル者ニ之ヲ支給ス但シ駐在巡查ハ此ノ限ニ在ラス
- 第二條 宿料ノ支給地其ノ等級額ヲ左ノ五等ニ區分ス

三 等	鎌倉町、浦賀町	二、五〇〇	二、〇〇〇
四 等	川崎町、小田原町、藤澤町	二、〇〇〇	一、五〇〇
五 等	前等級以外ノ地	一、五〇〇	一、〇〇〇

年度限り之ヲ廢止ス

●巡查部長派出所勤務ノ巡查部長ニ借家料ヲ支給スルノ件

(明治四十三年五月三十一日)
(訓令第四十號)

警察署 警察分署

巡查部長派出所勤務ノ巡查部長ニハ明治三十五年三月廳訓第二十八號巡查駐在所借家料規則ヲ準用シ借家料ヲ支給シ巡查部長派出所勤務規定實施ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●巡查駐在所借家料規則

(明治三十五年三月二十七日)
(廳訓第二十八號)

内務部 警察部 警察署 警察分署
巡查教習所

明治三十四年三月廳訓第三十四號駐在所巡查借家料支給規則左ノ通改正シ本年四月一日ヨリ施行ス
右訓令ス

- 第三條 宿料ハ左ノ區分ニ依リ日割ヲ以テ之ヲ支給ス
 - 一 新任又ハ轉勤ノトキハ警部補ハ著任ノ當日ヨリ巡查ハ宿所規程ニ指定ノ地ニ移轉ノ當日ヨリ起算スルモノトス但シ其ノ著任又ハ移轉ニシテ發令當日ナルトキハ其ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス
 - 二 休職免職失職及他ヘ轉勤ノトキハ發令ノ日死亡ノトキハ其ノ當日ヲ以テ打切トス
 - 三 警部補ニシテ官舎ヲ貸與セラレ又ハ返納シタルトキハ其ノ受渡當日ヲ以テ限界トス
- 第四條 宿料ヲ受クヘキ巡查ニシテ宿所指定地ヘ移轉ノトキハ所屬課署所長ニ届出ツヘシ
- 第五條 宿料ハ毎月盡日之ヲ支給ス但シ公暇日ニ相當スルトキハ之ヲ繰上クルモノトス
- 第三條第二號ノ場合ニ於テハ其ノ時々之ヲ支給シ其ノ同一經濟ノ箇所ニ轉勤ノ場合ニ限リ支給定日ノ勤ノ警察署ニ於テ之ヲ支給ス

附則

第六條 明治四十年三月神奈川縣訓令第二十四號ハ明治四十二年

第十四類 警務 第六章 給與

巡查駐在所借家料規則

- 第一條 借家料ハ左ノ二種トス
 - 一 横濱市内駐在所ハ實費
 - 二 郡部駐在所ハ一ヶ所一ヶ月金五十錢
- 第二條 前條第一號ノ實費ハ所屬警察署ニ於テ直接其家屋ノ所有主ニ下付シ第二號ノ借家料ハ駐在所ニ在テ之ヲ支給ス
- 第三條 横濱市内駐在所ハ駐在所ニ居住ノ日ヨリ三日以内ニ居住月日並ニ借家料借料月額及家屋貸主ノ住所氏名ヲ所屬警察署長ニ届出認可ヲ受クヘシ其變更シタルトキ又同シ
- 第四條 借家料ハ駐在所ニ居住ノ日ヨリ日割ヲ以テ計算ス
- 第五條 巡查宿料ノ支給ヲ受ケ居ル者ニシテ發令當日居住シタル者ハ其ノ翌日ヨリ計算ス
- 第六條 休職及轉免ノトキハ發令ノ日迄失職並死亡者ハ其當日迄日割ヲ以テ計算ス
- 第七條 借家料ハ毎月末日支出ス但休職ニ相當スルトキハ便宜様上若ハ順延スルコトヲ得
- 第八條 第五條第六條ノ場合ニ於テハ前條ノ定日ニ拘ハラス其時々支出ス

巡查特別手当支給規則

(明治四十年三月三十日)
訓第七六號
(沿革)明治四十二年六月訓令第三六號改正

警察署 警察分署

明治三十三年三月三十一日訓令第三十四號巡查特別手当支給規則左ノ通改正シ本年四月一日ヨリ施行ス

巡查特別手当支給規則

- 第一條 特別手当ハ左記各號ノ勤務ニ從事セシムル巡查ニ之ヲ支給ス
 - 一 刑事事務巡查
 - 二 通譯、速記、主計、事務又ハ兼務巡查
 - 三 電氣事務補助巡查
 - 第二條 前條ノ命免及手当額ニ就テハ所屬課署所長ヨリ其意見ヲ警務長ニ具申スヘシ
 - 第三條 (削除)
 - 第四條 特別手当ノ支給額ハ一ヶ月金拾圓已内トス
 - 第五條 特別手当ハ任命、増給、減給トモ凡テ發令ノ翌日ヨリ解除ノトキハ發令ノ當日迄日割ヲ以テ計算ス
 - 第六條 休職、免職及他ヘ請替ノトキハ發令ノ日マテ失職並ニ死亡者ハ其當日迄日割ヲ以テ計算ス
 - 第七條 病氣引忌引休職其他私事ノ故障ニ依リ公務ニ服セサル日數五日マテハ之ヲ支給シ六日以上ニ涉ルトキハ凡テ之ヲ控除ス
- 本條控除日數ノ計算ハ其月内併算シ前月ヨリ翌月ニ引續タルモノニシテ其月内公務ニ服セサルトキハ凡テ之ヲ控除ス

第八條 特別手当ハ毎月盡日之ヲ支給ス

但休職ニ相當スルトキハ便宜様上クルモノトス第六條ノ場合ニ於テハ前項ニ拘ラス其時時之ヲ支給ス

巡查非番勤務手当支給規則

(明治四十一年四月十四日)
訓令第二十六號

警察署 警察分署

巡查非番勤務手当支給規則左ノ通之ヲ定メ明治四十一年度ヨリ施行ス

巡查非番勤務手当支給規則

- 第一條 巡查非番ノ日ニ於テ臨時ノ勤務ニ服シタルトキハ本則ニ依リ非番勤務手当ヲ支給ス但シ口調査出火出場犯罪ノ捜査並ニ密行勤務ハ臨時ノ勤務ト看做サス
- 第二條 日勤ノ者ノ公暇日ハ本則ニ於テ之ヲ非番ノ日ト看做ス但シ當直ニ相當シ勤務スル者ハ此ノ限ニ在ラス
- 第三條 非番勤務時間ハ晝夜ニ拘ラス引續キ八時間以上ヲ一日トシ五時間以上ヲ半日トシテ計算ス
- 第四條 非番勤務手当ハ市部一日金二十五錢半日金拾五錢トシ郡部一日金貳拾錢半日金拾錢トス
- 第五條 非番勤務手当ノ支給ハ辨當料ノ支給ヲ妨ケス
- 第六條 非番勤務手当ハ出張中ノ者又ハ非番勤務時間内ニ旅費ヲ受クル用務ニ服シタル者ニ之レヲ給セス
- 第七條 非番勤務手当ハ每一ヶ月分ヲ計算シ翌月五日迄ニ之

第十四類 警務 第六章 給與

ヲ支給ス但シ轉免死亡等ノ場合ハ其ノ時々之ヲ支給ス

巡查特別辨當料支給規則

(明治三十六年三月二十七日)
訓令第三十三號

内務部 警察部 警察署

巡查特別辨當料支給規則左ノ通り之ヲ定メ本年四月一日ヨリ施行ス

特別辨當料支給規則

- 第一條 横濱市内在勤巡查ニシテ横濱市内ニ於ケル火災ノ消防ニ從事シタル者ニハ左ノ場合ニ限リ特別辨當料ヲ支給ス
 - 一 非直(日勤ハ)又ハ休職中ナルトキ
 - 二 二時間以上引續キ消防ニ從事シタルトキ
- 第二條 特別辨當料ハ一度金十五錢トス
- 第三條 特別辨當料ハ每一ヶ月分ヲ取繼メ翌月十日迄ニ之ヲ支給ス

警部補巡查給與品及貸與品

(明治三十一年六月一日)
訓令第四百四號

(沿革)明治三十二年三月訓令第六二號、三十五年四月同第三七號、四一年三月同第一〇號、四四年三月訓令第一三號、大正二年五月同第三五號改正

内務部 警察部 警察署 警察分署

第十四類警務 第六章給與

- 第二條 警部補及巡查ニ貸與スヘキ品目左ノ如シ
- 一 帽章
 - 一 眉章
 - 一 劍緒
 - 一 劍帶
 - 一 外套及被服釦
 - 一 外套絨革
 - 一 手帖

- 一 捕繩
- 第三條 代料ヲ以テ支給スヘキモノハ左ノ價格ヲ標準トシ勤務ニ從事シタル日數十六日以上ハ全額十五日以内ハ半額ヲ支給ス

品目	價部		格
	部	價	
下襟	料	一ヶ月金拾	金八錢
手套	料	同	金六錢
肌著	料	同	金貳拾
靴下	料	同	金拾貳
長靴	料	同	金五拾
短靴	料	同	金六拾

第四條 刑事其ノ他特別ノ勤務ニ服シ制服ノ着用ヲ要セサル警部補巡查ハ現品保存期限(巡查ハ本期)滿了ノ翌月ヨリ前條ノ區分ニ依リ左ノ代料ヲ支給ス

但シ保存期限滿了後ト雖臨時着用ニ差支ナカラシムルタメ其ノ現品ヲ保存スヘシ

品目	代料	支額	支給期間
帽	一ヶ月金拾六錢	一ヶ月金四錢	毎月

冬服	甲外	乙外	夏服	日覆
料	料	料	料	料
同	同	同	同	同
金六拾錢	金五拾八錢	金五拾錢	金貳拾錢	金貳錢
同	同	同	同	同
金參拾錢	金參拾六錢	金貳拾錢	金貳拾錢	金貳錢
自十月至翌年五月	毎月	自六月至九月	同	同

第五條 國庫地方ノ經濟ヲ異ニスル署ハ轉任セシ者ニハ長靴短靴(現品給與中)ハ現品ヲ給與シ其ノ保存期限滿了ノ翌月ヨリ代料ヲ以テ支給スルモノトス

第六條 代料ハ左ノ各項ニ依リ之ヲ支給ス

- 一 代料ハ毎月盡日ヲ以テ支給ノ定日(休暇ニ當ル)トス但退職休職轉職死亡ノ際ハ此ノ限ニアラス
- 二 甲乙轉署ノ場合ハ支給定日在勤ノ警察署ニ於テ之ヲ支給ス

第七條 現品給與期日後新任又ハ復職ノ者ニハ帽、冬服、夏服、甲乙外套、日覆ハ還納品ノ内保存期限殘月數ニ相當スルモノヲ給與ス

第八條 但巡查冬服及夏服ハ本期品豫備期品ノ二組トス現品給與ノ被服ハ保存期限經過スルトキハ本人ニ付與ス

第九條 貸與品ハ退職休職轉職死亡ノ際ハ三日以内ニ還納スヘシ保存期限ノ終ラサル給與品亦同シ

第十條 自己ノ過失怠慢ニヨリ貸與品及保存期限ノ終ラサル

給與品ヲ毀損亡失シタルトキハ貸與品ハ原價給與品ハ其保存期限殘月數ニ應スル調製代價ヲ賠償セシメ更ニ代品ヲ交付シ其ノ毀損品ハ本人ニ交付ス

第十一條 (削除)

第十二條 貸與品ハ破損若ハ汚染シ使用ニ堪ヘサルニ至リタルトキハ代品又ハ修理ヲ加ヘ交付ス

但手帖ハ餘白ノ盡キタルトキ之ヲ交付ス

第十三條 保存期限中ニ係ル被服ハ著用期節ヲ終レハ各自ニ於テ相當修理ヲ加ヘ保管スヘシ

第十四條 本則施行前警部補ニ給與シタル冬服及甲乙外套竝帽ノ保存期限ハ本則第一條ノ例ニ依ル

第十五類 保安

第一章 印刷、出版、漉入紙

●紙幣類似印刷物取締ノ件

(明治二十七年二月十二日)
縣令第三號

紙幣類似ノ印刷物ヲ所持シ又ハ授受若クハ賣買スルコトヲ得
ス違フ者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上一圓
九十五錢以下ノ科料ニ處ス

●社寺守札等出版ノ件

(明治十五年十月二十三日)
布達甲第百六十七號

神社寺院ノ守札ト可認モノ及神佛號ヲ記載セル畫像ハ其神社
寺院ノ外出版不相成候條此旨布達候事

●文字畫紋漉入紙製造届書經

(明治二十年八月二十九日)
縣令第三十八號

今般勅令第三十六號及ヒ大藏省令第十二號ヲ以テ文字畫紋漉
入紙製造取締規則發布ニ付本廳へ差出スヘキ届書ハ所轄警察
署ヲ經由スヘシ

第二章 行政執行、檢視

第十五類 保安 第一章 印刷、出版、漉入紙 第二章 行政執行、檢視

●行政執行法施行手續

(明治三十三年六月二十五日)
廳訓第百七號

(沿革)明治三十四年四月廳訓第六二號改正

警察署 警察分署

行政執行法施行手續左ノ通之ヲ定ム

行政執行法施行手續

第一條 警察署長分署長ハ行政執行法第一條第一項ニ依リ身

體ノ自由ヲ檢束スルノ必要アリト認ムル者アルトキハ先ツ

本人ノ住所氏名其ノ他必要ノ事項ヲ第一號様式ニ依リ行政

留置人名簿ニ記載シ一時警察官署又ハ適當ノ場所ニ留置キ

巡查ヲシテ看守セシムヘシ

前項ノ檢束ヲ爲シタルトキハ可成速ニ措置ヲ了シ翌日ノ日

没ヲ待タス之ヲ釋放シ又ハ親族故舊若ハ官公署病院等ニ引

渡スヘシ

武器兇器其ノ他危險ノ虞アル物件ノ假領置ヲ爲ス必要アリ

ト認ムルトキハ第二號様式ノ帳簿ニ品名數量所持者ノ住所

氏名其ノ他必要ノ事項ヲ記入シ領置ノ證トシテ其ノ一片ヲ

所持者ニ交付シ物品ヲ還付シタル時ハ之ヲ引上クヘシ

第二條 行政執行法第二條ニ依リ警察官職務執行ノ際制服ヲ

著用セサルトキハ警部ハ其ノ證票ヲ巡查ハ官給ノ手帳ヲ各

携帯シ若シ警察官タル證票ノ閱覽ヲ請求スル者アル時ハ之

ヲ示スヘシ

第十五類保安 第二章 行政執行、檢視

第三條 密賣淫ノ罪ニ依リ其ノ言渡確定シタルトキハ警察醫者ハ囑托醫ヲシテ黴毒ノ有無ヲ診斷セシメ病毒ニ感染セル業醫ノ治療ヲ受ケシムヘシ

警察署長分署長ハ前項ノ患者又ハ媒合者ニ於テ費用ヲ負擔スルノ實力ナシト認ムル時ハ其ノ生活ノ狀況及家族ノ員數家具ノ點數價格等ヲ詳細ニ調査シ治療ニ要スル費用ノ豫算書ヲ添ヘ入院後五日以内ニ知事ニ具申シ無實力者タルノ認定ヲ受クヘシ

前項ノ認定ヲ經タル者ノ治療費用ハ配當ヲ受ケタル警察費豫算内ヨリ支辨スヘシ

第四條 密賣淫ノ罪ニ因リ處罰シタル人員及健康診斷ノ結果ハ第五號様式ニ依リ毎年一月十五日迄ニ前年分ヲ報告スヘシ

第五條 行政執行法第四條ニ依リ水火災等天災事變ニ際シ土地、物件ヲ使用又ハ處分シ又ハ使用ヲ制限スルハ其ノ土地物件ヲ使用若ハ處分シ又ハ使用ヲ制限スルニ非レハ到底其ノ災害ヲ防止スル能ハスト認ムルトキニ限ルヘシ其ノ數量區域又ハ期間等ハ必要止ムヲ得サル程度ニ止メ所有者ノ損失ヲ輕減スルコトニ注意スヘシ但シ水火防禦ニ際シ土地ヲ使用スルハ汎濫區域外凡ソ六十間ニ家屋ヲ使用スル場合ハ第一號様式（用紙半紙）

第一號様式（用紙半紙）

一箇所凡ソ三十坪ニ止ムヘシ

第六條 警察署長分署長ニ於テ行政執行法第五條ノ處分ヲ爲サムトスルトキハ第三號様式ニ依リ戒告書又ハ決定書ヲ作製シ第四號様式ノ送達書ヲ以テ巡查ヲシテ義務者ニ送達セシムヘシ若シ義務者ニ於テ其ノ交付ヲ受クルヲ拒ムトキハ送達者其ノ事實ヲ送達書ニ記載シ記名捺印スルニ依リ送達ヲ了リタルモノト看做スヘシ

第七條 行政執行法第五條第一項第一號ノ處分ヲ爲サムトスルトキハ重要ノ事件ニ關シテハ其ノ事由ヲ具シ〔警察署長〕ニ稟議スヘシ

第八條 義務者ニ代リ執行スヘキ工事等ニシテ其ノ費用十圓以上ト認ムルモノハ營業者三人以上ニ入札セシメ最低價格ノ者ヘ受買ハシムヘシ

第九條 警察署長分署長ニ於テ當廳ノ行政處分ヲ要スルモノト認ムル事件アリタルトキハ其ノ狀況及處分上必要ノ事項ヲ詳細調査シ意見ヲ付シ知事ニ具申スヘシ

第十條 行政執行法第六條ノ費用又ハ過料ヲ徴收スルカ爲メ國稅徵收法ノ規定ニ依リ滯納處分ヲ爲スヘキ場合ニ於テ收稅官吏ノ執ルヘキ職務ハ行政處分ヲ爲シタル警察署長分署長之ヲ行フヘシ

第二號様式（用紙西洋紙）

氏 所持者住所 縣府 郡市 村町 番地	量數名品	東邊ノ事由	人 顏色 頭髮 目 鼻	相 身長 肉 耳 口 鬚 髯	賄 何 朝 晝 夕 何 朝 晝 夕	留置年月日時 明治 年 月 日 午前 時 主任	釋放年月日時 明治 年 月 日 午前 時 主任	所 持 品	住 所 氏 名	年 氏 名
								一何 何個	縣府 郡市 村町	番地士族(平民)
								一何 何個	氏 名	何年何月

第十五類保安 第二章 行政執行、檢視

第十五類保安 第二章 行政執行、檢視

領置年月日	明治 年 月 日	署長
解除年月日	明治 年 月 日	主任者
本書ノ物品還附相成正ニ領收致候也 明治 年 月 日 署長 主任		

領置證書 (領置物件ノ還付ヲ受クル時ハ印形ヲ携帶スヘシ)

一何々 何個

一、一、 何個

右行政執行法第一條ニ依リ來何月何日マテ當署ニ領置ス該期日ニ至ラハ此證書ヲ携帶出頭シ現品ヲ受取ルヘシ
 明治 年 月 日
 何々警察署長

何 某殿

某 團

第三號 (用紙通常紙)

號 戒告書

神奈川縣何郡何町何番地

右所有ニ係ル肩書地ニ在ル家屋ハ明治 年 月 日神奈川縣令第 號ノ屋上制限ニ反スルモノト認ムルヲ以テ本戒告書送達ノ日ヨリ起算シ十日以内ニ該縣令ニ基キ改造スヘシ但シ指定期間内ニ履行セサルニ於テハ當署自ラ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシメ其費用ヲ徵收スヘシ
 右行政執行法第五條及行政執行法施行令第五條ニ依リ戒告スルモノ也
 何警察署(又ハ何分署)長
 官氏 名 團

右原本ニ依リ正本ヲ作ルモノ也

年 月 日

官氏

名 團

第 號 戒告書

神奈川縣何郡何町何番地何業
 何村ノ 誰

右肩書地ハ居住制限地外ナルヲ以テ本戒告書送達後三十日以内ニ營業區域内ニ退去スヘシ但シ指定期間ニ退去セサルニ於テハ過料ニ處スヘシ
 右行政執行法第五條及行政執行法施行令第五條ニ依リ戒告スルモノ也
 何警察署(又ハ何分署)長
 官氏 名 團

年 月 日

官氏

名

右原本ニ依リ正本ヲ作ルモノ也

年 月 日

官氏

名

第 號 決定書

神奈川縣何郡何町何番地
 何村ノ 誰

一金、一、一、圓也
 右所有ニ係ル家屋屋上制限違背ニ付改造ノ件ニ關シ明治 年 月 日付第 號戒告書ヲ送達シ置キタルニ指定期間ニ履行セサリシヲ以テ當署自ラ之ヲ執行シ其ノ金額ヲ頭書ノ通決定ス因テ明治 年 月 日限リ當廳ニ納付スヘシ但シ指定期日內納付セサルトキハ國稅徵收法ニ依リ徵收スヘシ
 右行政執行法施行令第六條ニ依リ決定スルモノ也
 何警察署(又ハ何分署)長
 官氏 名 團

年 月 日

官氏

名

第十五類保安 第二章 行政執行、檢視

右原本ニ依リ正本ヲ作ルモノ也
 年 月 日
 官氏 名 團

第四號 (用紙西洋紙)
 甲 號
 送達ノ文書、一、一、第 號戒告書(決定書又ハ何々)

送達書

送達ノ文書、一、一、第 號戒告書(決定書又ハ何々)

第十五類保安 第二章 行政執行、檢視

送達ノ日時	明治 年 月 日
送達ノ地	府(縣又ハ市) 郡 町 番地
受送達者	記 名 印
送達者	記 名 印
備考	年月日 官 署 名 印

第五號樣式 (用紙通常半紙罫紙)

月次	項目	明 治 年 密 賣 淫 人 員 及 健 康 診 斷 結 果 取 調 表			
		娼 妓	其 他	小 計	(何 署)
	密 賣 淫 人 員	娼 妓	其 他	小 計	有 健 康 診 斷 無 結 果
	娼 妓	娼 妓	其 他	小 計	
	其 他	娼 妓	其 他	小 計	
	小 計	娼 妓	其 他	小 計	

備考
送達書ハ書類送達ノ際切離シテ乙號ハ之ヲ受送達者ニ交付シ甲號ハ之ヲ官署ニ保存スルモノトス
乙號ニハ送達者之ニ記名調印ノ上受送達者ニ交付シ甲號ニハ送達者受送達者共ニ調印スルヲ要ス
備考ノ欄ニハ受送達者ニ於テ送達書ノ受領ヲ拒ミタル等其ノ他送達ニ伴ヒ生シタル事項ヲ記入スルモノトス
受送達者ノ氏名ハ本人ヲシテ記入セシメ其ノ記入シ能ハサル者アルトキハ送達者代テ之ヲ記シ受送達者ニ讀聞カセ捺印セシメ其ノ旨備考欄ニ付記スヘシ

受送達者	記 名 印
送達者	記 名 印
備考	年月日 官 署 名 印

月次	項目	一 月	二 月	三 月	四 月	五 月	六 月	七 月	八 月	九 月	十 月	十 一 月	十 二 月	合 計
	密 賣 淫 人 員													
	娼 妓													
	其 他													
	小 計													
	有 健 康 診 斷													
	無 結 果													
	娼 妓													
	其 他													
	小 計													

備考

- 一其他トハ廢業者ニアラサル女ヲ云フ
- 二有毒トハ花柳病(梅毒、淋病)アル者ヲ云フ
- 三無毒トハ花柳病ニアラサル都テノ者ヲ云フ

第十五類保安 第二章 行政執行、檢視

警察官檢視ノ節 戶長立會ヲ要セサル件

(明治十九年三月十六日) 布達乙第六十八號

郡區役所 (戶長) 役場
從來行政司法ノ事務ニ付警察官檢視檢證等之節多クハ(戶長)ノ立會ヲ要シ來リ候處自今法ニ明文アル場合ノ外立會ニ及ハス

住所氏名不明ノ死體判明セシトキ通知方

(明治三十九年十二月十八日) 訓令第三十八號

郡役所 市役所 町村役場
市町村長カ警察官署ヨリ住所氏名ノ分明ナラサル死體ノ引取ヲ了シ公告其ノ他ノ方法ニ依リ調査ノ結果其ノ住所氏名等判明セシトキハ遲滞ナク前ニ檢視ヲ了シタル警察官署ニ通知スヘシ

第三章 銃砲、火藥、危險物

銃砲火藥類取締法施行取扱規則

(明治四十四年五月九日) 縣令第三十六號
(沿革) 大正二年四月縣令第五十六號改正

銃砲火藥類取締法施行取扱規則左ノ通之ヲ定ム

銃砲火藥類取締法施行取扱規則

第一條 火藥類貯藏所ノ新設ヲ爲サムトキハ左ノ事項ヲ具シ出願スヘシ其増設改築修繕又ハ模様替ノ工事ヲ爲サムトキハ亦同シ但シ位置ノ變更ナキモノハ第一號ノ圖面ヲ省略スルコトヲ得

一、設置位置ヨリ五町以内ノ場所圖面但シ銃砲火藥類取締法施行規則第三十三條第一項各號規程ノ距離ヲ詳記シ同條第一項第一號ノ所在地ニ在リテハ二十二町以内ノ圖面ヲ要ス
倉庫ニ在リテハ二町以内ノ圖面トス

二、設備

三、建設物構造設計書建設物ノ側面及平面圖
四、落成期日

第二條 假貯藏所ノ設備ハ左ノ各號ノ制限ニ從フヘシ

一、屋根ハ輕量ニシテ小形ナル不燃質物ヲ用キ屋根裏又ハ天井ヲ設ケ窓ニハ透明ノ硝子ヲ用ウヘカラサルコト

二、内部ニハ石土砂其他塵芥等ノ剝落飛散ヲ防クノ裝置ヲ爲シ床ハ密ニ張詰メ鐵類ヲ露ハサ、ルコト

三、建設物ノ周圍ニハ其ノ外側面ヨリ一間乃至六間ノ距離ニ於テ高サ屋頂ト同一ノ土堤ヲ設ケルコト但シ天然又ハ人造ノ掩體ノ狀態其ノ他土地ノ狀況ニ依リ危險ノ虞ナシト認ムルトキハ土堤ノ全部又ハ一部ノ省略ヲ許可スルコト

ヲ負擔スヘシ

第一號樣式

第一條 耐熱試驗施行ニ關シ技術官ノ出張ヲ要スルトキハ申請者ハ其官職相當ノ旅費及試驗器具運搬費ヲ負擔スヘシ

第九條 前二條ノ費用ハ明治四十四年三月神奈川縣令第二十二號縣稅外諸收入徵收規則ニ依リ之ヲ徵收ス

第十條 銃砲火藥類取締法及同法ニ基キテ發スル命令ノ規程ニ依リ提出スヘキ願屆書ハ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

附則

明治三十二年九月神奈川縣令第七十號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

銃砲取引及月末現在届(用紙美濃紙)何月分

種	類	讓	受	數	讓	渡	數	現	在	數

年 月 日

住所職業

氏

名

所轄警察(分)署長宛

備考 銃砲火藥類取締法施行規則第三十九條ニ依リ取引

第七條 銃砲火藥類取締法施行細則第五十一條ニ依リ警察官署ニ火藥類ノ耐熱試驗ノ施行ヲ申請シタルトキハ左ノ費用

ニ依ルヘシ

第六條 銃砲火藥類取締法施行細則第八條ノ届書ハ左記樣式ニ依ルヘシ

第五條 銃砲火藥類取締法施行規則第十八條各號以外ノ火藥類消費者ハ火藥收支ノ帳簿ヲ備付ケ其ノ授受消費ノ都度之ヲ登載スヘシ

第四條 銃砲火藥類取締法施行規則第三十九條ニ依リ許可ノ出願ヲ爲ストキハ授受運搬又ハ攜帶ノ目的及原籍住所氏名年齢ヲ詳記スヘシ

第三條 銃砲火藥類取締法施行規則第三十九條ニ依リ許可ノ出願ヲ爲ストキハ授受運搬又ハ攜帶ノ目的及原籍住所氏名年齢ヲ詳記スヘシ

第二條 銃砲火藥類取締法施行規則第三十九條ニ依リ許可ノ出願ヲ爲ストキハ授受運搬又ハ攜帶ノ目的及原籍住所氏名年齢ヲ詳記スヘシ

第一條 銃砲火藥類取締法施行規則第三十九條ニ依リ許可ノ出願ヲ爲ストキハ授受運搬又ハ攜帶ノ目的及原籍住所氏名年齢ヲ詳記スヘシ

第十五類保安 第三章 銃砲、火藥、危險物

及月末現在ニ關シテモ本表ニ記入ヲ要ス

第二號様式

火藥取引及月末現在届(用紙美濃紙)何月分

種類	前月越	譲	受	譲	渡	現	在

年月日

住所職業

氏名

所轄警察(分)署長宛

銃砲火藥類取締法施行取扱手續

(明治四十四年五月九日訓令第三十一號)

(沿革)大正二年四月訓令第三三號改正

警察署 警察分署

銃砲火藥類取締法施行取扱手續左ノ通之ヲ定ム

銃砲火藥類取締法施行取扱手續

第一條 銃砲火藥類ノ製造販賣其ノ營業又ハ火藥類貯藏所設置若クハ火藥類ノ讓渡讓受ノ許可出願アリタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ許可ノ意見ヲ附シ進達スヘシ其ノ變更等ノ出

願アリタルトキ亦同シ

一、願書記載ノ事項ニ相違ナキヤ否

二、法令違背ノ點ナキヤ否

三、危険ノ虞ナキヤ否

四、他人ニ名義ヲ藉スモノニアラサルヤ否

其ノ他取締上必要ト認メ又ハ參考ニ供スヘキ事項

第二條 銃砲火藥類取締法施行細則第三十五條ニ依リ船舶ノ一時倉庫代用ヲ爲シ同則第三十六條ニ依リ船舶内ニ火藥類ヲ貯藏セントスル出願アリタルトキハ横濱港内ニ於テハ港務部長及警察部長ニ其ノ他ノ場所ニ於テハ警察部長ニ稟議スヘシ同則第三十六條第二項ニ依リ位置ノ指定又ハ變更其ノ他必要ノ命令ヲ爲ストキ亦同シ

第三條 銃砲火藥類取締法施行規則第十七條第十八條第二十二條ニ依リ火藥類ノ讓渡讓受同則第二十五條ニ依リ火藥類ノ行使及同則第三十九條ニ依リ拳銃短銃仕込銃仕込刀劍其ノ他變裝シタル武器ノ讓渡讓受運搬又ハ携帯ノ許可認可ノ出願アリタルトキハ事實ヲ審査シ危害ノ虞ナシト認メタルトキ許可又ハ認可スヘシ

銃砲火藥類取締法施行規則第十七條各號ノ火藥類ノ讓渡讓受許可及同則第二十二條第二項及第二十五條ノ數量ニシテ同則第十七條各號ニ等シク又ハ之ヲ超過スル許可若クハ認可ヲ爲ストキハ警察部長ニ稟議スヘシ

前二項ノ許可又ハ認可ヲ爲シタルトキハ第七號様式ニ依リ

毎月分ヲ統計シ翌月十日限リ警察部長ヘ報告スヘシ

第四條 銃砲火藥類取締法施行細則第三十九條ニ依リ火藥類ノ運搬許可ヲ爲シタルトキハ其ノ運搬日時以前ニ關係警察官署ヘ通報スヘシ其ノ管外ニ關スルモノハ警察部ヘ報告スヘシ

第五條 銃砲火藥類取締法施行規則第四條ニ依リ證書更正ヲ爲シタルトキ又ハ住所ノ異動アリタルトキハ關係警察官署ニ通知スヘシ

第六條 警察官署ハ毎月一回銃砲火藥製造業者及其ノ販賣業者火藥類貯藏所ノ實況設備現品帳簿其ノ他ノ力取扱ニ關スル事項ヲ精密検査シ危害又ハ法令違背ノ廉ナキヤ否ヲ監視スヘシ

銃砲火藥類取締法施行細則第三十條ニ依ル火藥類ノ消費者ニ關シテハ毎月二回以上臨檢シ前項ノ検査及收支消費數量等ヲ監視シ之カ執行ノ都度收支帳簿ニ檢印スヘシ

前二項ノ検査又ハ監視ニシテ技術ヲ要スルモノト認ムルトキハ警察部ニ報告スヘシ

第七條 警察部ヨリ時々吏員ヲ派遣シ前條ノ検査ヲ執行スルコトアルヘシ

第八條 銃砲火藥類取締法施行細則第五十一條ニ依リ耐熱試験ノ施行申請アリタルトキハ警察部ニ技術者ノ派遣ヲ請求スヘシ

第九條 銃砲火藥類取締法施行細則第五十二條ニ依リ火藥類

第十五類保安 第三章 銃砲、火藥、危險物

ノ運搬ヲ爲ストキハ警察部長ニ稟議スヘシ

第十條 左ノ事項ハ警察部長ニ報告スヘシ

一、法令ニ違背ノモノアリタルトキ

二、銃砲火藥類取締法施行規則第十六條第十七條ノ許可ヲ受ケタルモノニ對シ同則第十九條ニ依リ許可ノ取消ヲ爲スヘキ場合

三、銃砲火藥類取締法施行規則第十八條ノ許可ヲ受ケタルモノニ對シ同則第十九條ニ依リ許可ノ取消ヲ爲シタル場合

四、銃砲火藥類取締法施行規則第八條ニ依リ設備其ノ他ノ事項ヲ命スル必要アリト認メタルトキ

五、銃砲火藥類取締法施行規則第八條第一項ノ届出アリタルトキ

六、銃砲火藥類取締法施行規則第二十六條第二項ノ命令ヲ爲ス必要アリト認メタル場合

七、銃砲火藥類取締法施行規則第五十三條ノ届出アリタルトキ

第十一條 銃砲火藥類取締法及同法ニ基キテ發スル命令ノ規程ニ依リ許可又ハ認可シタルモノハ左ノ區別ニ依リ臺帳ヲ作製記入スヘシ

一、銃砲火藥製造又ハ營業者臺帳 第一號様式

一、火藥類貯藏所臺帳 第二號様式

一、火藥類運搬許可臺帳 第三號様式

第十五類 保安 第三章 銃砲、火藥、危險物

- 一、軍用銃砲讓渡讓受許可臺帳 第四號樣式
- 一、火藥讓受讓渡許可認可臺帳 第五號樣式

- 一、拳銃短銃仕込銃仕込刀劍其他縫裝シタル戎器授受又ハ運搬攜帶許可臺帳 第六號樣式

銃砲火藥製造又ハ營業者臺帳

號	番	開	廢	種	目	位	置	原	籍	現	住	稱	身	分	備	考

第二號樣式(用紙美濃紙)

火藥類貯藏所臺帳

名稱	許可ノ時	住	人	願

備考	構造	位置	期間	同番號	所	
					氏名	距離

第三號樣式(用紙美濃紙)

火藥類運搬許可臺帳

許可年月日	火藥種類	數量	運搬日時	運搬通路	發所	運搬方法	願人住所氏名	備考

第四號樣式(用紙美濃紙)

第十五類 保安 第三章 銃砲、火藥、危險物

第十五類保安 第三章 銃砲、火藥、危險物

軍用銃砲讓渡讓受許可臺帳

許可年月日	銃砲種類	種類	挺	數	讓受人住所氏名

第五號樣式(用紙美濃紙)

火藥讓受讓渡許可認可臺帳

許可年月日	火藥種類	數	量	讓受人住所氏名	讓渡人住所氏名	備考

備考 銃砲火藥類取締法施行規則第二十五條ニ依ル許可ノ場合ハ備考ヘ其ノ事由ヲ記入スヘシ同則第二十二條ニ依ル認可ノ場合亦同シ

第六號樣式(用紙美濃紙)

拳銃短銃仕込銃仕込刀劍其他變裝シタル武器授受又ハ運搬攜帶許可臺帳

許可年月日	種類	數	許可ノ理由	願人住所氏名	備考

第七號樣式(用紙半紙)

火藥類讓渡讓受許可又ハ認可報告

明治 年 月 日

何々警察官署

許可年月日	種類	數	量	許可又ハ認可ノ事由	願人ノ住所氏名

導火線煙火劇發質玩弄品取締規則

(明治四十年一月四日 縣令第七號)

(沿革)明治四一年九月縣令第七八號、四四年五月同第三七號改正

導火線煙火劇發質玩弄品取締規則左ノ通之ヲ定ム

導火線煙火劇發質玩弄品取締規則

第一條 導火線、煙火、劇發質玩弄品ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ヲ經縣廳ニ願出許可ヲ受クヘシ其ノ建物ノ改築増築改造又ハ大修繕ヲ爲サムトスルトキ亦同シ

第十五類保安 第三章 銃砲、火藥、危險物

- 一 住所氏名年齢法人ニ在テハ其ノ名稱事務所所在地代表者ノ氏名ヲ記シ定款ヲ添付スヘシ
 - 二 製造品ノ種類及一个年間ノ製造額
 - 三 製造場及火藥又ハ劇發性原料置場並製造品置場ノ位置及附近ノ略圖
 - 四 建物構造仕様書及圖面
 - 五 製造方法及原料品ノ種類名稱
 - 六 作業時間
 - 七 建物落成期日
- 前項敷地又ハ建物カ他人ノ所有ニ係ルトキハ願書ニ所有者ノ連署又ハ承諾書ヲ添付スヘシ

第十五類 保安 第三章 銃砲、火藥、危險物

第二條 導火線、煙火、劇發質玩弄品販賣營業ヲ爲サムトスルモノハ左ノ事項ヲ具シ前條ノ手續ニ從ヒ許可ヲ受クヘシ

- 一 住所氏名年齢法人ニ在テハ其ノ名稱事務所所在地代表者ノ氏名ヲ記シ定款ヲ添付スヘシ
- 二 置場ノ位置及附近ノ略圖並其ノ構造仕様書及圖面
- 三 販賣品ノ種類及製造者ノ住所氏名

第三條 未成年者禁治産者ノ願書ニハ其ノ法定代理人有夫ノ婦又ハ準禁治産者ノ願書ニハ夫又ハ保佐人ノ連署ヲ要ス

第四條 本則ニ違背シ又ハ公安ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ營業ヲ許可セス許可後ト雖之ヲ禁止シ又ハ停止スルコトアルヘシ

第五條 營業者左ノ事項ノ一ニ該當スルトキハ七日以内ニ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ但シ第三號ノ場合ハ戸主又ハ家族ヨリ其ノ手續ヲ爲スヘシ

- 一 原籍住所氏名法人ニ在テハ其ノ事務所所在地代表者ノ氏名若ハ定款ヲ變更シタルトキ
- 二 休業又ハ廢業シタルトキ
- 三 死亡又ハ所在不明トナリタルトキ
- 四 法定代理人保佐人又ハ夫カ其ノ氏名ヲ變更シ若ハ代理又ハ保佐ノ事由カ止ミタルトキ
- 五 敷地又ハ建物所有者ノ變更

第六條 製造場、火藥又ハ劇發性原料置場製造品置場ノ位置

ハ阜陵、社寺境内、公園、火ヲ取扱フ場所、發火質物品ヲ蓄積スル場所、瓦斯傳道管、宅地公道、鐵道電線汽船ノ航路ヨリ五十間以上又蓄積セル燃質物ヨリ十四間以上ノ距離ヲ保有スヘシ但シ製造場火藥又ハ劇發性原料ノ置場製造品置場ト互ニ其ノ境界ヲ接スルハ此ノ限ニ在ラス

營業者ニシテ特ニ縣廳ノ認可ヲ得タル場合ハ前項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第七條 導火線、煙火及劇發質玩弄品製造場並火藥又ハ劇發性原料若ハ製造品置場ノ構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ

- 一 建物ハ土藏又ハ煉瓦造トシ内部ハ鐵類石瓦ヲ表ハササルコト
- 二 屋根ハ輕量不燃質物ヲ用フルコト
- 三 窓ニ硝子ヲ用ユル場合ハ不透明ノモノニ限ル
- 四 建物ニハ總テ效力アル避雷針ヲ設備スヘシ前條製造場及各置場ハ互ニ兼用スルコトヲ得ス

第八條 製造場及各置場ノ工事落成シタルトキハ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出検査ヲ受クヘシ其ノ検査ヲ受ケスシテ使用スルヲ得ス

第九條 縣廳ハ何時ニテモ營業ニ關スル命令ヲ發シ又ハ警察官吏ヲシテ營業所若ハ各置場ニ臨檢セシムルコトアルヘシ
營業者ハ前項命令又ハ臨檢ヲ拒ムコトヲ得ス
第十條 製造所及各置場ニハ警察官署ノ指示ニ依リ消火器ヲ

設備スヘシ

第十一條 營業者ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

- 一 製造場及火藥又ハ劇發性原料置場ニハ安全ノ裝置ヲ爲スヘシ燈火ヲ携ヘ又ハ機噐吹煙具其ノ他發火ノ虞アル器具ヲ携帶シ又ハ靴若ハ土足ニテ出入セサルコト
- 二 製造場ニハ製造ニ要スル物品ノ外存置セサルコト
- 三 製造場外ニ於テ製造又ハ製造ニ關スル作業ヲ爲スヘカラサルコト
- 四 十六歳未満ノ者ヲシテ製造ニ關スル作業ニ從事セシメサルコト
- 五 日出前日没後ハ製造及製造品取扱ヲ爲ササルコト

第十二條 煙火ヲ打揚ケムトスルモノハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ニ届出認可ヲ受クヘシ

- 一 煙火ノ種類及其ノ數量
- 二 打揚ノ日時及場所
- 三 打揚場所ト人家公道ノ距離
- 第十三條 前條ノ認可ヲ得タルモノト雖強風ノトキハ之レカ打揚ヲ爲スコトヲ得ス
- 第十四條 導火線、煙火及劇發質玩弄品ヲ運搬セムトスルトキハ其ノ種類數量運搬ノ日時通路及運搬先ヲ具シ所轄警察官署ニ願出テ其ノ許可證ヲ携帶スヘシ

前項ノ許可ヲ受ケ運搬スルニハ赤地ニ火藥ノ二字ヲ白書シタル小旗(陸路ニハ曲尺縱二尺横二尺五寸水路小船ニハ曲

第十五類 保安 第三章 銃砲、火藥、危險物

尺縱三尺五寸横五尺)ヲ建テ看守人ヲ附シ火氣ニ注意シ休泊ノトキハ安全ナル場所ヲ選フヘシ

第十五條 導火線、煙火、劇發質玩弄品製造營業者ハ簿冊ヲ製シ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 火藥買入年月日及其ノ數量火藥賣渡人ノ住所氏名
- 二 製造品ノ種類數量及賣渡品ノ種類數量買受人ノ住所氏名
- 三 火藥及製造品月末現在高

第十六條 導火線、煙火、劇發質玩弄品販賣營業者ハ簿冊ヲ製シ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 買入品ノ種類數量及年月日賣渡人ノ住所氏名
- 二 賣渡品ノ種類數量及年月日買受人ノ住所氏名
- 三 月末現在高

第十七條 前二條ノ簿冊ハ豫メ所轄警察官署ノ檢印ヲ受ケ最

後ノ日附ヨリ五ヶ年間保存スヘシ
第十八條 所轄警察官署ニ於テ單ニ劇發質玩弄品ノミヲ販賣スル者ノ其ノ販賣貯藏ノ量共ニ微少ニシテ危險ノ虞ナシト認メタルモノニ對シテハ本則ヲ適用セス

第十九條 本則ニ違背シタル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十

圓未滿ノ科料ニ處ス
刑法ニ正條アルモノニ付テハ本條ヲ適用セス營業者ハ從業

第十五類 保安 第三章 銃砲、火藥、危險物

ル場合ハ本則ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス

第二十條 本則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則

第二十一條 營業者ニ非ラスシテ導火線、煙火、劇發質玩弄

品ヲ製造スル者ニ對シテハ本則第六條乃至第十一條第十四

條第十五條第十七條第十九條ノ規程ヲ準用ス

第二十二條 從來許可ヲ得タル煙火製造營業者ニシテ其ノ建

物ノ構造カ本則ノ規定ニ適合セサルモノハ明治四十年十二

月三十一日限り改造スヘシ

第二十三條 明治十九年一月甲第十七號煙火取締規則ハ本則

施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第二十四條 本則ハ銃砲火藥類取締法及同法ニ基キテ發スル

命令ノ緩燃導火線ニ適用スルモノトス

久良岐郡大岡川村永田火藥

庫事務取扱方

(明治四十五年四月三十日)

訓令第十九號

壽町警察署 日下分署

久良岐郡大岡川村永田火藥庫ニ關スル事務ハ壽町警察署ニ於

テ處理スヘシ

火器放發取締規則

(明治二十七年二月十二日)

縣令第四號

者及第四條ノ禁止ヲ受ケ尙ホ放發シタル者竝ニ第五條第六

條第七條ニ違犯シタルモノハ三日以上十日以内ノ拘留ニ處

シ又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

火器放發取締規則執行心得

(明治二十七年二月十五日)

廳訓第二十六號

(沿革)明治二十七年六月廳訓第一二八號、三四年一〇月同第

一一〇號改正

警察部 警察署 同分署

火器放發取締規則執行心得左ノ通之ヲ定ム

右訓令ス

火器放發取締規則執行心得

第一項 規則第一條ノ指示スル範圍内ニ屬スルモノハ銃砲、

空氣銃、爆竹、其他火藥、劇發火藥又ハ空氣壓搾ノ裝置ヲ

爲シ銃砲ニ類似スル音響ヲ放發スルモノヲ包含ス

第二項 規則第二條ノ射的場トハ銃砲射的場、放鳥射擊場ヲ

云ヒ工業場トハ官設又ハ公設ノ工業場ヲ云ヒ遊技場、諸興

行場及煙火トハ渾テ官署ノ許可ヲ得タルモノヲ云ヒ制規ニ

依リ當然放發スル火器トハ狩獵又ハ學校生徒ノ發火演習其

他制規ノ手續ヲ履行シタル火器放發ヲ云フモノトス

第三項 火器放發ノ届出アリタルトキハ左ニ掲クル事項ニ觸

レサルモノニ限り認可スヘシ但シ第一及第五ヲ除外安寧

ヲ妨ケス又ハ危險ノ虞ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十五類 保安 第三章 銃砲、火藥、危險物

火器放發取締規則左ノ通之ヲ定ム

火器放發取締規則

第一條 本則ニ於テ火器放發ト稱スルハ火藥若クハ劇發物ヲ

裝置シ音響ヲ放發スルモノヲ云フ空氣壓搾ノ裝置ヲ爲シ音

響ヲ放發スルモノ亦前項ニ準ス

第二條 本則ハ官署ノ認許ヲ得タル射的場、工業場、遊技

場、諸興行場及煙火其他制規ニ依リ當然放發スル火器ニ適

用セス

第三條 火器放發ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ記シ放發地

ノ管轄警察官署ニ届出テ認可ヲ受クヘシ

一 放發者ノ住所氏名、年齢、職業

二 火器ノ種類及放發ノ方法

三 放發ノ場所及日時

四 放發ノ目的

第四條 火器放發ニシテ安寧秩序ヲ妨ケ又ハ危險ノ虞アリト

認ムルトキハ警察官署ハ認可ヲ與ヘス又ハ認可後ト雖モ之

ヲ禁止スルコトアルヘシ

第五條 火器放發ノ認可ヲ得タル日時ニ放發セサルトキハ認

可ノ效ヲ失フモノトス

第六條 火器放發認可證ハ之ヲ携帶シ官吏公吏ノ求メアルト

キハ之ヲ開示スヘシ

第七條 火器放發認可證ハ貸與スヘカラス

第八條 本則第三條ノ認可ヲ受ケスシテ放發シ又ハ認可ヲ得

タル事項ヲ變更シ若クハ詐欺ノ届出ヲ爲シテ認可ヲ得タル

一 未丁年者又ハ女子

二 日没後日出前

三 同時及同一ノ場所ニテ二人以上ノ放發

四 建造物、國縣道、鐵道公園其他舟車通行ノ場所ヘ至ル

二町未滿ノ地

五 放發ノ目的ニ理由ナキトキ

第四項 左ノ場合ニ於テハ直ニ火器放發ヲ禁止シ一面所屬署

長ヘ急報スヘシ

一 認可ノ日時ヲ經過シ放發セントスルトキ

二 認可ノ事項ニ反スルノ行爲アリト認ムルトキ

第五項 火器放發ノ認可ヲ與ヘ又ハ認可ヲ與ヘサルトキ及禁

止シタルトキハ(警部長)ニ報告スヘシ

第六項 火器放發認可證ハ左式ニ依ルヘシ

火器放發認可證
一何々
二何々
三何々
四何々
右認可ス
年 月 日
某警察署(分署)長
官氏 名

用紙 厚美濃紙四ツ折

揮發物貯庫規則

(明治二十七年六月三十日)
告示第五十九號

(沿革) 明治三六年告示第二三六號改正

揮發物貯庫規則別冊ノ通定シ本年七月一日ヨリ施行ス

(別冊)

揮發物貯庫規則

第一條 貯庫ハ十月一日ヨリ三月三十一日迄ノ間ハ毎日午前八時ヨリ午後四時迄四月一日ヨリ九月三十日迄ノ間ハ午前八時ヨリ午後六時迄之ヲ開クヘシ併シ日曜日並ニ左ノ休日ヲ取除ク

一月一日ヨリ三日迄 一月五日(一月三十日) 二月十一日 四月三日 十月十七日(十一月三日) 十一月二十三日 十二月二十九日ヨリ三十一日迄 春秋季皇靈祭 但シ右休日ノ内開庫ヲ欲スルトキハ必ス一日(二十四時)前ニ告知スヘシ

若又前書日數ノ外出格ノ開庫有之時ハ横濱新聞紙ニテ一週日前ニ之ヲ報知スヘシ

第二條 石炭油其外燃燒スヘキ性質ノ商品ヲ庫入レセント欲スル者ハ別紙A號書式ノ願書ニ其品ハ税關ヘ届濟ニシテ税納濟ヲ顯ハシタル證書ヲ添テ之ヲ貯庫ノ支配役ニ差出スヘシ

第三條 貯庫ノ支配役ハ其書類ヲ吟味シ庫入レ願書中ノ文言

ノ確實ヲ儘ムル爲ニ其品物ヲ検査シ別紙B號式ノ通り預リ證書ヲ仕出スヘシ

税關ノ受取證書ハ預ケ主ヘ返却スヘシ 若シ入庫ニ差出シタル品物ノ量目寸法ト願書面ニ認メタルモノト相違アルヲ貯庫支配役ニテ見出ス時ハ之ヲ其預ケ主ニ報知スヘシ而シテ確實ノ相違ヲ證明セラルハニ於テハ預ケ主ハ必ス其願書ヲ改正シ又右ニ付若干ノ入費アルトキハ預ケ主ヨリ之ヲ拂フヘシ 但シ品物ノ預リ證書ハ預人ノ好ニ隨ヒ其高ヲ幾枚ニモ分チ受ケ取ル事ヲ得ル也

第四條 石炭油ハ五十(ガロン)以下ノ高ハ貯庫ニ受取ルコトナク又引渡スコトモ許サ、ルヘシ併シ他ノ燃燒スヘキ性質ノ物品ハ此ノ限ニアラス

第五條 火藥其外破裂物ハ貯庫ニ受取ラサルヘシ

第六條 入庫スル前ニ箱ノ綴附詰直シ其他總テ修繕ヲ加フルノ便利ヲ得ル爲メ一ツノ屋根掛所ヲ構内ニ設ケ置クヘシ

第七條 各品ノ箱蓋荷包ハ必ス分明ニ記號ヲ附ケ且損傷ヲ受ケサル様爲シ置クヘシ

第八條 若シ貯庫ニ預ケ置キタル品物ノ預ケ主ニテ其品ヲ貯庫ヨリ引移スコトナクシテ其儘他人ヘ讓渡サント欲スル時ハ預リ證書ノ裏ニ讓渡ヲ認メ貯庫ヘ持參シ支配役ノ確定ヲ得且其連署ヲ受ケテ之ヲ施行スヘシ若シ讓受人數名ナル時ハD號ノ式ノ如ク讓渡證書ヲ認メ元ノ預リ證書ハ返却スヘシ

シ讓受人ノ數ニ隨ヒ若干證書ヲ認メ出スヘシ

第九條 預ケ品ノ總高或ハ一部分ニテモ引取リヲ爲ス時ハ必ス其藏數ヲ拂フヘシ但シ此規則ノ順序ヲ逐ハサルノ間ハ其品ヲ引取ルコトヲ許サス

第十條 預ケ主ニテ見本ノ箱ヲ引取ラント欲スル時ハ其品ノ預リ證書ヲ持參シ貯庫ノ支配役ハ其證書ニ引取リタル高ヲ書入ルヘシ

亦貯庫ニ於テ見本ヲ相示スノ便利ヲモ得セシムヘシ

第十一條 預ケ品引取ノ節ハC號式ノ書面ヲ差出シ品物ハ遅滞ナク引取ルヘシ

第十二條 預ケ品ノ總高ヲ不殘引取ル時ハ預リ證書ヲ返却スヘシ

第十三條 庫入願書其他式紙ハ和英兩語ヲ用ヒ政府ニ於テ刊行シ無代ニテ下ケ渡ス可シ

第十四條 入庫ノ期限ハ一年ヲ過クヘカラス其一年ヲ過テ若シ預ケ主ニテ猶其儘ニ預ケ置ント欲スルトキハ先ツ藏數金ヲ拂ヒ終リ然ル後ニ一般ノ規則ニ從ヒ新タニ願書ヲ差出スヘシ

若シ一ケ年ノ期ヲ過キテ品物ヲ引取ルコトナク亦藏數金ヲモ拂ハスシテ其儘ニ差置ク時ハ政府ニテ其事ヲ一ケ月ノ間新聞紙ヲ以テ廣告スヘシ

其時間ヲ過キテ其物品ハ猶引取ルコトナキトキハ政府ニテ其品物ヲ公ケノ競賣ヲ以テ賣拂フコトヲ爲シ右賣代金ヨリ

第十五類 保安 第三章 銃砲、火藥、危險物

藏數ノ高竝ニ賣拂ノ諸入費其他公告料ヲ引去リ殘金ハ政府ニ留置クヘシ

其後前書品物ノ預ケ主來リテ其所有物ヲ請求シ且預リ證書ヲ差出ストキハ右殘金ノ内百分ノ一ヲ差引テ之ヲ其者ニ渡スヘシ

第十五條 藏數金ハ左ノ通

石炭油 通常ノ箱ニテ十(ガロン)入

一ケ月一箱ニ付三厘四分ノ三他ノ燃燒物一ケ月英尺一(フート)立方ニ付二厘

但シ十五日以下ノ藏數金ハ日數ノ多少ヲ論セス總テ半月ト算スヘシ

〔右藏數金ハ向後經驗ニ仍リ要求スル廉ヲ發願スル時ハ地方官ニテ條約濟各國領事ト協議ノ上之ヲ變革スルコトヲ得ヘシ〕

第十六條 第一條ニ據リ休日ニ當リ開庫ヲ要スルモノハE號式ノ願書ヲ差出シ且開庫一時間ニ付金壹圓ノ手数料ヲ納付スヘシ

但一時間未滿ノ端數ハ一時間トシテ計算ス

第十七條 貯庫ニ貯ヘタル品物ノ注意ハ日本政府ノ擔當ナリト雖モ漏泄火難或ハ其品ノ激發ヨリ生シタル損失ニハ關係ヲ受ケサルナリ

第十八條 日本人ノ品物モ此同規則ニ從フヘシ尤モ右ハ別庫ニ入レ貯ユヘキコト

第十五類保安 第三章 銃砲、火藥、危險物

A 號

庫入願書

第 號
 地ヨリ國名船ヲ以テ輸入仕候左件ノ荷物ヲ貯庫ニ御預リ被下度右ハ千八百八十年 月 日税關へハ届濟ニ有之候尤私共記名ノ願ニ限リ御渡可被下候也

年 月 日

何ノ誰印

貯庫掛士官貴下

B 號

預 證 書

第 號
 何國何船ヲ以テ輸入シ一千八百八十年 月 日横濱税關へ誰ヨリ納税濟左ノ荷物ヲ國名商ヨリ受取候尤貯庫規則ニ基キ凡入費請取候上ニテ引渡可申候也

年 月 日

貯庫掛士官 印

號	番	記	筒	品物及

號	番	記	筒	品物及

C 號

預リ品引渡シ申請書

Application for delivery.

預リ券番號

No. of Certificate.

入庫月日

Date of Storage.

明治何年何月何日

庫番號	No. of Warehouses.	記	號
貨物名稱及個數	Description and No. of Goods.	Mark.	

右物御引渡相成度別紙預リ券相添エ此段申請候也
 Please deliver to bearer the above said Goods, Certificate of Deposit Produced.

明治何年何月何日

住 氏 所

名

神奈川縣揮發物貯庫御中

D 號

讓 渡 書 式

某年 月 日ノ願書ニ依リ貴下ニテ別紙預リ證書ノ通リ
 ヲ御預リ置被下候然者今般何卒
 ヲ某氏へ
 年 月 日
 貯庫掛士官貴下

何ノ誰

E 號

臨時開庫願

揮發物出(入)庫ノ爲メ何月何日午前(後)何時ヨリ何時マテ何時間臨時開庫相成度此段相願候也

年 月 日

何ノ誰

貯庫掛士官貴下

第十五類保安 第三章 銃砲、火藥、危險物

● 爆揮發物貯庫近傍ニ危險物蓄積禁止ノ件

(明治十七年五月十六日) 布達甲第三十七號

爆發物揮發物貯庫牆壁外十四間以内ノ地ニ於テ特ニ許可シタルモノ、外新ニ諸種ノ建物ヲ設ケ又ハ燃質物ヲ蓄積シ同二十八間以内ノ地ニ於テ火ヲ取扱建物ヲ設ケ瓦斯管ヲ施シ發火質ノ物品ヲ蓄積スルコトヲ禁ス
此規則ニ違背シタル者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
此旨布達候事

但明治十四年十二月二十二號布達ハ自今廢止ス

● 石油貯藏規則

(明治二十二年十二月二十六日) 縣令第五十一號

(沿革) 明治二六年五月縣令第一九號改正
石油貯藏規則左ノ通相定ム

但明治十四年十二月二十四號布達ハ廢止ス

石油貯藏規則

第一條 石油貯藏所ノ外家屋内ニ於テ石油六箱(一箱十カ)以上ヲ貯藏スヘカラス

第二條 石油貯藏所ヲ設ケントスル者ハ貯藏所ノ位置建物ノ

● 石油燈火ノ油壺容器使用ニ關スル件

(大正二年五月十六日) 縣令第六十二號

石油燈火ノ油壺ハ金屬製ノ容器ヲ使用スヘシ
本令ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

附則

本令ハ明治三十九年十二月神奈川縣令第七十一號街路取締規則施行區域ニ限リ大正二年九月一日ヨリ其ノ他ノ區域ハ同年十二月一日ヨリ施行ス

● 電線電氣器械器具變更禁止ノ件

(明治四十二年一月八日) 縣令第三號

電氣事業者ノ施設シタル電線電氣器械器具等ハ事業者ノ承諾ヲ得シテ之カ變更ヲ爲スヘカラス
本令ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

● 電氣事業取締規則ニ依ル願届書經由方

(明治二十九年十二月二十八日) 縣令第五十號

(明治二十九年五月遞信省令第九號電氣事業取締規則)ニ據リ當願ヲ經由シ又ハ當願ニ提出スル願届書ハ總テ管轄警察官署ヲ經由スヘシ

第十五類 保安 第三章 銃砲、火藥、危險物

種類竝ニ人家トノ距離ヲ詳記シ四隣地主又ハ家作主ノ承諾書ヲ添ヘ所轄警察署分署ヘ願出認可ヲ受クヘシ

第三條 土藏、石造、煉瓦造ニアラサル貯藏所ハ人家ヲ距ルコト十間以内ノ場所ニ建設スルコトヲ許サス

又既ニ認可ヲ與ヘタルモノト雖モ本文ノ距離内ニ人家密接スル場合ハ認可ヲ取消スコトアルヘシ

第四條 左ニ記載スル場所ニ於テハ官立揮發物貯庫ノ外倉庫ト雖モ石油三十箱以上ヲ貯藏スヘカラス
橫濱市

橋郡郡神奈川町

久長岐郡戸太村 中 村 本牧村 字本牧本郷

第五條 貯藏所ニハ公衆ノ視易キ場所ニ石油貯藏所ノ五字ヲ明記シタル標札ヲ掲出スヘシ

第六條 石油ハ日没ヨリ日出迄ノ間貯藏所ニ出入シ又ハ家屋内ニテ小賣ヲ爲スヘカラス

第七條 貯藏所ニ於テ石油ノ小賣及火器又ハ發火質物ノ取扱ヲ爲スヘカラス

第八條 小賣商ニ要スル石油容器ハ不燃質物ニシテ且適當ノ蓋ヲ設ケ常ニ密閉スヘシ

第九條 此規則第三條ヲ除クノ外各條ニ違犯スル者ハ一日以上十日以下ノ拘留又ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第十條 石油槽ニ關スル取締規則ハ別ニ之ヲ定ム

● 汽罐並汽機取締規則

(明治二十九年二月十一日) 縣令第十一號

(沿革) 明治三二年五月縣令第二八號、三九年一〇月同第五五號、四二年六月同第五一號、四五年五月同第四八號改正

汽罐並汽機取締規則左ノ通之ヲ定ム

汽罐並汽機取締規則

第一條 汽罐並汽機ヲ設置セムトスル者ハ其ノ定置ニ係ルモノハ据前其易搬ニ係ルモノハ使用前左ノ事項ヲ具備シタル書面ヲ添附シ管轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出認可ヲ受クヘシ其ノ増設變更ヲ爲サムトスルトキ亦同シ但シ此ノ場合ニ於テハ其ノ増設變更ニ關スル事項ノ外添附スルヲ要セ

一 設置場ノ地名番號並四隣ノ略圖

二 製造場ノ名稱及製造品ノ種類

三 汽罐汽機構造整備期日

四 機械ノ名稱及其ノ個數

五 汽罐汽機使用ノ目的及使用时间

六 汽罐汽機取扱主任ノ履歷

七 汽罐構造圖書

一 汽罐ノ種類及箇數「コルニツシ」「ランカシヤ」「直立罐或ハ管成罐等ノ類

第十五類 保安 第三章 銃砲、火藥、危險物

- 一 汽罐ノ寸法 罐胴長何呎何吋 筒長何呎何吋 火局長何呎何吋 火管徑何吋 何本等
- 一 罐板ノ種類及厚サ 銅鐵等ノ類厚何吋
- 一 支柱並鉸ノ種類寸法及距離 支鉸實種何吋 距離何吋 鉸鐵實列數何吋 距離何吋
- 一 水壓試驗及其ノ試驗年月日 每平方吋上何磅
- 一 常用汽壓 每平方吋上何磅
- 一 爐格ノ面積 何呎何吋 長サ何呎
- 一 安全瓣ノ種類箇數及寸法 何呎何吋 發條等
- 一 製作所名製作年月並其ノ履歷 何々工場又ハ何人ノ製作受何年何月何日何人ヨリ買月修繕等
- 一 燃料ノ種類並消費高 石炭又ハ松薪等ノ類一日何程一月何程一年何程ノ區別
- 一 汽機ノ構造調書
- 一 汽機ノ種類及箇數 凝縮又ハ不凝縮横置又ハ直立等ニシテ何個何吋
- 一 汽筒ノ寸法 徑何吋
- 一 衝路ノ寸法 長サ何呎
- 一 回轉ノ數 一分間何回
- 一 實馬力 何程
- 一 煙筒ノ構造調書
- 一 煙筒ノ基礎

- 一 煙筒ノ方法 地上面ノ高及徑
- 一 保安裝置
- 第二條 汽罐並汽機ハ据付又ハ使用前受檢ノ準備ヲ整ヘ管轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出檢査ヲ請ヒ檢査證及罐體ノ檢印ヲ受クヘシ其ノ檢査ヲ受ケスシテ使用スルコトヲ得ス
- 第三條 汽罐並汽機ヲ設置スル製造場及工場ニ就テハ必要ト認ムル場合ニ於テ其ノ構造ノ材料並設計ノ方法ヲ指示スルコトアルヘシ
- 第四條 汽罐並汽機ノ設置場ニシテ公安ニ害アリト認ムルトキハ之ヲ認可セサルコトアルヘシ其ノ既設ニ係ルモノト雖除害ノ裝置ヲ命シ若ハ使用ヲ停止又ハ禁止スルコトアルヘシ
- 第五條 第一條ニ依リ設置セル汽罐並汽機ヲ買受若ハ讓受借受使用セムトスル者ハ双方連署ヲ以テ管轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出ツヘシ但シ持主死亡シ相續人ニ於テ繼續使用スル場合ハ其ノ旨五日以内ニ届出ヘシ
- 第五條ノ二 汽罐汽機取扱主任ヲ變更シタルトキハ履歷書ヲ添ヘ五日以内ニ所轄警察官署ヲ經由シ縣廳ニ届出ヘシ
- 縣廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ汽罐汽機取扱主任ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ
- 第六條 第二條ノ檢査證ハ機關室内見易キ場所ニ揭示スヘシ
- 第七條 正當ノ事由ナクシテ左ノ事項ノ一ニ觸ル、モノハ其

- ノ認可ノ失效ヲ命スヘシ
- 一 認可ヲ得タル日ヨリ三十日以内ニ建設ニ著手セサルトキ
- 二 落成期日ヲ經過シ尙ホ竣功セサルトキ
- 三 製造場及工場燒失若ハ崩壞ニ係リ六箇月以内ニ其ノ再築ニ著手セサルトキ
- 四 休業六ヶ月以上ニ及ビタルトキ
- 第八條 檢査證面ニ異動ヲ生シ又ハ檢査證ヲ亡失毀損シタルトキハ五日以内ニ管轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出書換又ハ再渡ヲ請フヘシ
- 汽罐並汽機ノ使用ヲ廢止シタルトキハ檢査證ヲ返納スヘシ但シ持主死亡シタルトキハ相續人ヨリ檢査證返納ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第九條 汽罐ハ常用汽壓ヲ超過シテ使用スルコトヲ得ス
- 第十條 汽罐又ハ汽機ニ異狀ヲ生シタルトキハ其ノ使用ヲ中止シ速ニ其ノ原因及模様ヲ詳記シ管轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出檢査ヲ受クヘシ
- 第十一條 汽罐並汽機ハ必要ト認ムル場合ニ於テ檢査員ヲ派遣シ檢査スヘシ
- 第十二條 汽罐並汽機ノ檢査ハ其ノ要部ヲ點檢シ必要ト認ムルトキハ罐體ノ周圍全部ヲ露シ檢査員ノ目前ニ於テ水壓試驗又罐板孔穿檢査ヲ施行セシムルコトアルヘシ但シ其ノ檢査ニ要スル費用ハ受檢者ノ負擔トス

- 第十三條 檢査ニ依リ汽罐並汽機ノ使用ニ堪ヘスト認メタルトキハ罐體ニ消印シ其ノ檢査證ヲ返納セシム
- 第十四條 檢査ノトキハ汽罐ノ貯水ヲ排出シ人孔、泥孔及爐格並火橋ヲ取外シ罐體ヲ冷却セシメ汽筒ノ蓋ヲ取拂ヒ煙突其ノ他檢査ニ必要ノ部分ヲ洒掃シ受檢ノ準備ヲナシ置クヘシ但シ豫メ檢査ノ通知ナキトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第十五條 檢査ノトキハ製造場工場ノ持主及汽罐汽機取扱主任ハ檢査ニ立會フヘシ但シ豫メ檢査ノ通知ナキトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第十六條 第十四條ノ準備ヲ怠リ若ハ正當ノ事故ナクシテ檢査ヲ拒ミタル者ハ汽罐並汽機ノ使用ヲ停止スルコトアルヘシ
- 第十七條 本則第一條第五條第六條第八條第九條第十條第十五條ニ違背シタル者及第二條ノ檢査ヲ受ケスシテ使用シタル者並第四條第十六條ノ停止中使シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
- 附則
- 第十八條 從來ノ汽罐並汽機ハ明治二十九年二月末日マテニ本則第一條ノ各號ヲ記シ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ
- 第十九條 從來ノ汽罐並汽機ハ明治二十九年三月十五日以後ニ於テ檢査員ヲ派遣シ第一回定期檢査ヲ行フ
- 第二十條 石油及瓦斯發動機ニ關シテハ本則ノ規定ヲ準用ス

第十五類 保安 第三章 銃砲、火藥、危險物

第十五類保安 第三章 銃砲、火藥、危險物

第二十一條 從來設置ニ係ル石油及瓦斯發動機並ニ非營業用汽罐汽機ハ明治三十九年十一月三十日迄ニ本則第一條ノ手續ヲ爲スヘシ

●汽罐並汽機取締規則取扱手續

(明治二十九年二月二十二日)
(廳訓第五十五號)

(沿革)明治三十七年三月廳訓第二四號改正

汽罐並汽機取締規則取扱手續左ノ通之ヲ定ム 警察署 警察分署 右訓令ス

- 第一條 規則第一號ノ届書ヲ受理シタルトキハ規程ノ事項ヲ具備スルヤ其ノ事項ハ事實ニ相違ナキヤ否ヲ審査シ第一號離形ノ調査書ヲ添ヘ速ニ進達スヘシ
- 第二條 規則第五條ニ據リ汽罐並汽機ヲ買受ケ又ハ讓受ケムトスルノ届書ハ第一號離形ノ調査書ニ準據シ異動アル事項及意見ヲ記入シ進達スヘシ
- 第三條 汽罐並汽機設置ノ認可書其ノ他指令書ノ交附アリタルトキハ第二號離形ノ汽罐汽機帳ニ記入濟ミノ上營業者ニ下附スヘシ但シ新設ニ係ル場合ハ臺帳ニ記入スヘキ事項ヲ警察部ヨリ通知スヘシ
- 第四條 規則第四條第七條ニ據リ停止、禁止又ハ失効ヲ命スヘキモノアルトキハ其ノ事由ヲ具申スヘシ

- 第五條 規則第十條ニ據リ汽罐又ハ汽機ニ異狀ヲ生セムトスルノ届出アリタルトキハ一應事實ヲ調査シ本廳検査員ノ臨檢ヲ要スルモノト認ムルトキハ其ノ旨(警部長)ヘ急報シ検査員ノ臨檢ヲ要セサルモノト認ムルトキハ第六條ニ準據シ調査ノ狀況書ト共ニ營業者ノ届書ヲ進達スヘシ
- 第六條 汽罐並汽機ノ破裂又ハ損壞ニ係リタルトキハ臨檢シ左ノ事項ヲ調査シ(警部長)ヘ報告スヘシ
 - 一 汽罐並汽機所在ノ位置ハ私ニ變更シタルコトナキヤ否
 - 二 修繕シタルコトアレハ其年月、修繕ノ部分、修繕シタル地名、人名
 - 三 常用汽壓ヲ私ニ變更シタルコトナキヤ否
 - 四 破裂又ハ損壞ノ原因ト認ムヘキ事項並其ノ以前ニ於ケル汽罐ノ異狀ノ模様
 - 五 破裂又ハ損壞後ノ狀況並圖面
 - 六 危害當時汽罐取扱人ノ狀況
- 第七條 定期又ハ臨時検査ノ期日ハ警察部ヨリ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ通知スヘシ但シ検査ノ際ハ署員ヲ立會ハシムヘシ
- 前項通知ノ期日ニ於テ營業上差開アルトキハ事實危害ノ虞ナシト認ムル場合ニ限り一週間以内ニ於テ更ニ期日ヲ定メ(警部長)ヘ申報スヘシ此ノ場合ニ於テハ假ニ規則第九條検査證ノ表示期限ヲ超過シ使用スルコトヲ許スコトヲ得

第八條 營業人ヨリ提出スル書類ニシテ意見ヲ附スルコトヲ要セサルモノハ署長ノ職印ヲ欄外ニ捺シ速ニ進達スヘシ

第九條 所轄警察署又ハ分署ニ於テハ汽罐並汽機ノ構造又ハ第一號離形 (設置願書添付用)半紙半切

使用其ノ他煤烟、騒音等危害ヲ醸スノ虞ナキヤ否ヲ隨時視察スヘシ但シ營業ノ妨害トナラサル様注意スヘシ

明治		年	月	日	汽罐汽機設置願書		調査	
設置場ノ名稱	設置ノ目的	何々製造場又ハ何々株式會社	何品製造	何々供給	何警察署(分署)長	氏名	氏名	氏名
營業資本額及其他ノ所有財産	願人ノ住所	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名
此欄ニハ概ネ三百間以内ニアル社寺公園學校病院國道縣道鐵道河川其他重ナル建物並ニ地中布設物ノ種類等本願ニ付被害アルヘシト思料スル場所ヘノ距離ヲ記録スヘシ	此欄ニハ署長ノ意見ヲ記述スルモノトス其事項ハ例ヘハ現在將來ニ付支障ト利益ニ關スル利害ノ比較近傍人民ノ意見等設置ノ許否ニ關スル資料トナルヘキ事項ヲ記述スルヲ要ス							

第二號離形 汽罐汽機臺帳用紙

第十五類保安 第三章 銃砲、火藥、危險物

業名	番 號	認 可	年 月 日	所 有 者	住 所	氏 名	汽		種 類		及 質 類		法 寸	水 壓 試 驗	爐 格	安 全 辦	燃 料	製 造					
							汽 常 用	汽 最 大	鏡 厚	鏡 厚	筒 長	筒 徑							室 高	支 厚	支 距	鏡 板	汽 室
							局 厚	管 距	火 筒	火 筒	火 筒	火 筒							火 筒	火 筒	火 筒	火 筒	火 筒
							年 月 日	明 治	年 月 日														

第一回	第二回	第三回	第四回	第五回	第六回	第七回	第八回	第九回	第十回	第十一回	第十二回
年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日

第十五類 保安 第三章 銃砲、火藥、危險物

●非營業射的場等設置出願ノ件

(明治二十七年二月二十日) 縣令第八號

營業ニアラスシテ室内銃又ハ大弓ノ射的場ヲ設ケタルトキハ其場所及構造法ヲ記シ管轄警察官署ヘ届出ツヘシ但シ從來設置スル者ハ本令施行ノ日ヨリ三日以内ニ届出ツヘシ其場所及構造法ニ危險ノ虞アリト認ムルトキハ警察官吏ニ於テ改造又ハ使用ノ停止ヲ命スルコトアルヘシ届出ヲ爲サスシテ射的場ヲ設ケ又ハ警察官吏ノ命令ニ違背シテ改造ヲ爲サス又ハ停止中使シタル者ハ十錢以上一圓以下ノ料ニ處ス

第四章 狩獵、畜犬、野犬

●狩獵法施行細則

(明治三十四年九月二十六日) 縣令第四十七號

狩獵法施行細則左ノ通之ヲ定ム

狩獵法施行細則

第一條 狩獵法第八條ニ據リ免狀ヲ受ケムトスル者ハ其ノ願書ニ狩獵法施行規則第二條ニ掲ケタル事項ノ外獵具ノ種類ヲ記載スヘシ但シ願書ニ添付スヘキ税額ニ關スル證明書ハ納税地市町村長ノ證認ヲ要ス

第二條 狩獵法第十八條又ハ第二十條但書ニ據リ特ニ許可ヲ

受ケムトスル者ハ其ノ願書ニ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 身分、職業、氏名、住所、年齢
 - 二 鳥獸又ハ其ノ卵雛ノ種類、員數
 - 三 捕獲採取ヲ要スル理由及其ノ方法
 - 四 捕獲採取ノ期限區域
 - 五 有害鳥獸ノ驅除ニ付テハ前各號ノ外其ノ場所ノ圖面
- 第三條 狩獵法及狩獵法施行規則ニ據リ本廳ニ提出シ又ハ本廳ヲ經由シテ農商務大臣ニ提出スル願書ハ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

第四條 狩獵法施行規則第二十六條第一項ノ報告書ハ其ノ前月分ヲ翌月五日限り差出スヘシ狩獵法第十八條又ハ第二十条但書ニ據リ許可證ヲ受ケタル者ハ期間終了後十五日以内ニ其ノ證ヲ返納スヘシ

附則

第六條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第七條 明治二十八年五月神奈川縣令第十五號狩獵法ニ關スル願届手續ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

●狩獵法取扱心得

(明治三十四年九月二十七日) 廳訓第六號

(沿革) 明治四三年四月訓令第二八號改正

警察部 警察署 警察分署
明治二十八年五月神奈川縣廳訓第一百十五號狩獵法取扱心得左ノ通改正ス

右訓令ス

狩獵法取扱心得

- 第一條 狩獵法第八條ニ依リ狩獵免狀願書ヲ受ケタルトキハ狩獵法施行規則第二條及同法施行細則第一條ニ依リ調査シ狩獵法第八條第二項同第十一條第十六條ニ牴觸セサルモノト認メタルトキハ免狀ヲ下付スヘシ
- 前項ノ願書ニハ税額ニ相當スル收入印紙ヲ貼用セシメ免許ヲ與ヘタルトキハ之ニ消印スヘシ
- 第二條 狩獵法第十五條第一項ニ據リ狩獵免狀ノ亡失ヲ届出タルトキハ第一號様式ニ依リ又發見シタルトキハ其ノ旨直ニ(警部長)ニ報告スヘシ
- 第三條 狩獵法施行規則第六條ノ免狀原簿ハ警察官署ニ備置キ同條ニ規定ノ事項ヲ登錄スヘシ
- 第四條 免狀ノ再渡又ハ書換ヲ請求スル者アルトキハ狩獵法第十五條第二項及同施行規則第三條ニ依リ下付スヘシ
- 第五條 狩獵法施行規則第四條第一項ノ届出アリタルトキハ免狀及免狀原簿ヲ訂正スヘシ
- 第六條 狩獵法第六條ニ依リ土地所有者ヨリ禁獵區ノ設置又ハ變更ヲ出願シタルトキハ同施行規則第十條ニ依リ調査シ

第十五類 保安 第四章 狩獵、畜犬、野犬

意見ヲ付シ進達スヘシ

第七條 狩獵法第六條ニ依リ鳥獸蕃殖保護ノ爲設ケタル禁獵區ノ所轄警察署長分署長ハ同施行規則第十二條ニ依リ毎年九月十五日迄ニ鳥獸蕃殖ノ狀況ヲ取調ヘ(警部長)ニ報告スヘシ

第八條 狩獵法第六條又ハ第七條ニ依ル禁獵區ノ設置銃獵ノ禁止又ハ同施行規則第十八條ニ依ル共同狩獵地免許ノ取消若ハ制限ヲ爲スノ必要アルトキハ事實ヲ具シ上申スヘシ其ノ禁獵區ヲ廢止シ若ハ銃獵禁止ヲ解除スルノ必要アルトキ亦同シ

第九條 禁獵區ニハ狩獵法施行規則第二十條ニ依リ木標ヲ建設スヘシ但同條第二項ノ場合ハ出願者ヲシテ木標設置ノ費用ヲ負擔セシムヘシ

第十條 狩獵法第七條ニ依リ銃獵ヲ禁シタル區域ニハ同施行規則第二十二條ニ依リ制札ヲ建設スヘシ

第十一條 禁獵區ノ木標又ハ銃獵禁止ノ制札ニシテ亡失、毀損若ハ字體不明ニ至リタルトキハ直ニ(警部長)ニ報告スヘシ

土地所有者ノ出願ニ據ル共同狩獵地ヘ建設シタル木標ニシテ前項ノ事實アルトキハ速ニ新設又ハ改標ヲ命スヘシ

第十二條 狩獵法施行規則第十條第十三條第十四條ノ願書ヲ

第十五類 保安 第四章 狩獵、畜犬、野犬

受ケタルトキハ事實ヲ審査シ共同狩獵地ノ免許及區域變更願書ニハ狩獵法施行規則第十五條ノ關係ヲ調査シ共ニ意見ヲ附シ進達スヘシ

第十三條 狩獵法第十八條第二十條但書ニ依ル願書ニハ同施行規則第二十三條ニ依リ指定スヘキ事項及捕獲、採取ヲ要スル理由ヲ調査シ意見ヲ付シ進達スヘシ

第十四條 狩獵法施行規則第十九條ノ報告書ヲ受ケタルトキハ直ニ進達スヘシ

第十五條 狩獵法施行規則第二十六條第一項同施行規則第四條ニ依リ鳥獸又ハ卵雛ノ種類及員數ノ報告書ヲ受ケタルトキハ第二號様式ニ依リ前月分ヲ翌月十日マテニ〔警部長〕ニ報告スヘシ

第十六條 狩獵免狀ノ用紙ハ毎年六月末日マテニ下付數ヲ概算シ〔警部長〕ニ申告スヘシ

第一號様式(半紙罫)

第十七條 狩獵免狀用紙ハ警察部ニ於テ應印ヲ押捺シ前條ノ概數ニ依リ豫メ警察官署ニ送致シ置クヘシ警察官署ハ狩獵者ノ身分住所職業氏名及年齢ヲ記入シ下付スヘシ

第十八條 狩獵者ヨリ免狀ヲ返納シタルトキ又ハ概數ヲ以テ送付ヲ受ケタル免狀用紙ニ剩餘ヲ生シタルトキハ獵期滿限後之ヲ斷裁スヘシ

第十九條 免狀統計表ハ第三號様式ニ依リ調製シ毎年四月三十日迄ニ〔警部長〕ニ報告スヘシ

第二十條 狩獵法第十一條ノ免許稅ハ一ケ年度分ヲ集計シ第四號様式ニ依リ製表シ毎年四月十日限り報告スヘシ但外國人ニ係ル免許人員稅額ハ備考欄ニ内譯掲記スヘシ

第二十一條 警察官署ニ於テハ第五號様式ニ依リ保護鳥獸飼養原簿ヲ備置キ狩獵法施行規則第三十一條乃至第三十三條ノ届出ヲ受ケタルトキハ其ノ事項ヲ登錄スヘシ

狩獵免狀亡失報告

免狀番號	種類等級	亡失年月日	亡失理由	亡失場所	住所氏名

明治 年 月 日 署 名

第二號様式(半紙罫)

備考

其一

鳥獸(卵雛)捕獲(採取)表

鳥獸(卵雛)名	員數	捕獲(採取)ノ理由	捕獲(採取)地	許可ヲ受ケタル者ノ住所

自明治 年 月 日 至 自明治 年 月 日 署 名

其二

有害鳥獸捕獲表

鳥獸名	員數	被害ノ狀況	捕獲地	許可ヲ受ケタル者ノ住所

自明治 年 月 日 至 自明治 年 月 日 署 名

第三號様式(半紙罫)

明治何年度狩獵甲(乙)種免狀統計表

種目	一	二	三	署計
免狀受取高				

第十五類 保安 第四章 狩獵、畜犬、野犬

第十五類 保安 第四章 狩獵、畜犬、野犬

免狀下付高	免許稅	免狀再渡及	書狀再渡及	免狀再渡及	書狀再渡及	附錄	附錄
						新設地名	解除地名
						何何	

第四號樣式(半紙罫)

明治何年度分 自何年四月三十一日 狩獵免許稅表

署 名

考

種目	甲種			乙種			種目	等級	免許人員	稅額	再渡書換人員	手數	料備
	計	三等	二等	一等	二等	三等							

第五號樣式(半紙罫)

合計

保護鳥獸飼養原簿

鳥獸名稱	異動ノ年月日	買由	年月日	買受人ノ姓名	飼養届出日	飼養所	飼養氏名	主名
鳥								
獸								
鳩								
雀								
何々								
何々								
何々								

●禁獵區

(明治四十四年二月二十八日 告示第五十九號)

三浦郡浦賀町ノ内東京灣要港地帯區域ノ一部左記略圖ノ場所

明治四十四年二月十六日ヨリ同五十四年二月十五日迄禁獵區ト定ム

第十五類 保安 第四章 狩獵、畜犬、野犬

禁獵區域圖



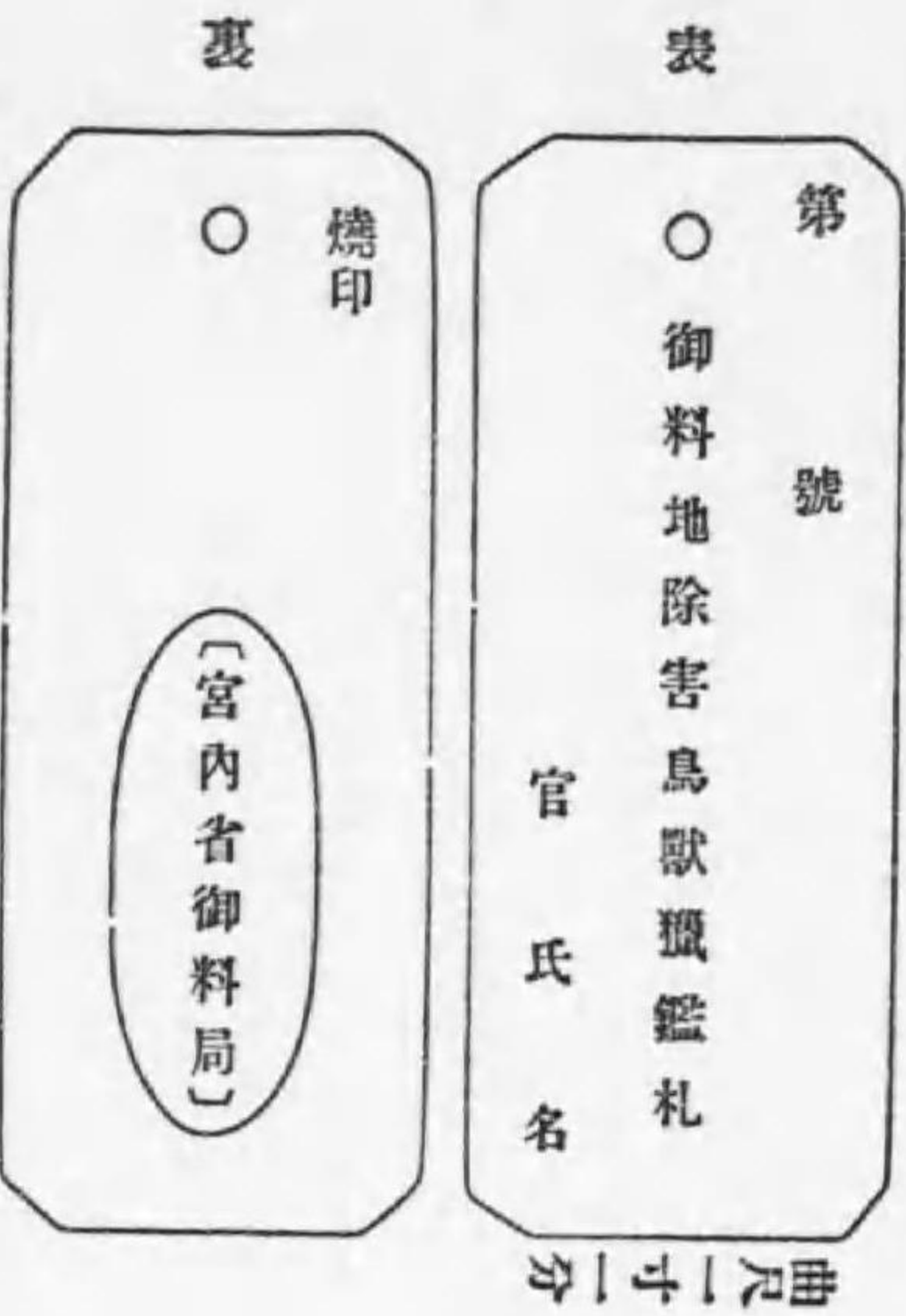
註記
 以內ハ禁獵區域ヲ示ス
 ○ハ禁獵制札植立位置ヲ示ス

●御料地除害鳥獸獵鑑札雛形

(明治二十三年三月三十一日)
 告示第三十號

管下官林及官有山林原野等御料地へ編入相成タルニ付宮内省ニ於テハ右掛官吏ニ左ノ雛形ノ如キ鑑札ヲ渡置キ巡視ノ際猛獸ノ害ヲ防キ又ハ有害ノ鳥獸ヲ除ク爲メ其御料地内ニ限り銃獵ヲ差許シ來ル四月一日ヨリ實施セラル

曲尺二寸



●一時滞在ノ外國人狩獵免狀
 下付出願ノトキ證明書添付

第十五類保安 第四章 狩獵、畜犬、野犬

方

(明治三十七年二月二十五日)
 廳訓第二十二號

警察部 警察署 警察分署
 本邦ニ一時滞在スル外國人ニシテ狩獵免狀ノ下附ヲ願出ルトキ狩獵法第十一條ニ定ムル租稅ヲ納メサルコト明瞭ナル場合ニハ同法施行規則第二條第二項ノ證明書ヲ願書ニ添付セシムルコトヲ要セス
 右訓令ス

●畜犬取締規則

(明治三十四年二月十九日)
 縣令第八號

畜犬取締規則左ノ通之ヲ定ム
 畜犬取締規則
 第一條 犬ヲ畜養スル者ハ其ノ種類、毛色、形狀(毛ノ長短小及特) 牡牝ヲ記シ畜養ノ日ヨリ十日以內ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ其ノ畜養ヲ廢止シ若ハ讓與、逸出、斃死シタルトキ又ハ畜犬者ニシテ他管ヨリ轉入他管ヘ轉出ノトキ亦同シ
 第二條 犬ノ畜養ヲ廢止セムトスルニ際シ買受人又ハ讓受人ナキトキハ該犬携帶其ノ旨所轄警察官署ニ届出ヘシ但シ郡部ニ於テハ巡查駐在所ニ届出ルモ妨ケナシ
 第三條 畜犬ニハ畜養者ノ住所氏名ヲ記シタル頸環ヲ拵メ若ハ牌子ヲ附シ置クヘシ

第十五類 保安 第四章 狩獵、畜犬、野犬

四〇

第四條 咆哮、狂睡其ノ他人畜ニ危害ヲ加フヘキ虞アル畜犬ハ其ノ畜養者又ハ管理人ニ於テ該犬ニ繫鎖若ハ口綱ヲ施スヘシ

第五條 警察官吏ヨリ畜犬ニ繫鎖若ハ口綱ヲ施スヘキ命令ヲ受ケタル場合ニ於テハ畜養者又ハ管理人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第六條 警察官吏ヨリ畜犬ニ繫鎖若ハ口綱ヲ施スヘキ命令ヲ受ケタル畜養者又ハ管理人ハ所轄警察官署ノ許可ナクシテ之ヲ解除スルコトヲ得ス

第七條 第一條ノ届出ヲ爲サス及第二條ノ頸環ヲ箱メス若ハ牌子ヲ付セサル犬ハ警察官署ニ於テ之ヲ撲殺スルコトアルヘシ

第八條 第一條第二條第三條第五條第六條ニ違背シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第九條 從來ノ畜犬者ハ第一條ニ依リ本令施行ノ日ヨリ十日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第十條 明治十二年十月布達甲第九十四號ハ廢止ス

野犬撲殺業取締規則

(明治四十二年五月二十五日) 縣令第四十號

野犬撲殺業取締規則左ノ通之ヲ定ム

野犬撲殺業取締規則

八 就業時間ト雖限リニ人ノ所有地内ニ立入ルヘカラス

九 就業中ハ免許證ヲ携帶シ要求者アルトキハ之ヲ示スヘシ

十 撲殺ノ場所ハ公衆ノ耳目ニ觸レサル施設ヲ爲シ常ニ清潔ヲ保持スヘシ

十一 捕獲シタル野犬ハ一定ノ容器ニ收容スヘシ

十二 就業及終業ノ日時場所ハ其ノ都度所轄警察官署ニ届出ツヘシ

十三 警察官吏ヨリ野犬又ハ病犬ノ撲殺ヲ要求セラレタルトキハ何時ニテモ之ニ應スヘシ

第五條 本則第一條第二條及第四條ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附則 本則施行前當廳ノ許可ヲ受ケタル者ハ一箇月以内ニ所轄警察官署ニ届出テ免許證ノ書換ヲ請フヘシ

第五章 製造場、工場 製造場工場取締規則

(明治四十年十二月三日) 縣令第三百三號

(沿革) 明治四一年九月縣令第七八號、四五年五月同第四九號改正

製造場工場取締規則左ノ通之ヲ定ム

第十五類 保安 第五章 製造場、工場

第一條 野犬撲殺業ヲ爲サムトスル者ハ其ノ原籍住所氏名年齢及業務ヲ行フヘキ區域ヲ記シ所轄警察官署ニ願出テ免許ヲ受クヘシ

其ノ業務區域ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第二條 左ノ場合ニ於テハ三日以内ニ所轄警察官署ニ届出テ免許證ノ再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

一 廢業、原籍住所ノ異動又ハ改氏名ヲ爲シタルトキ

二 免許證ヲ亡失、毀損シタルトキ

第三條 他人ニ名義ヲ假シ若ハ公安ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ免許證ヲ又ハ免許シタル後ト雖之カ停止若ハ禁止ヲ命スルコトアルヘシ

第四條 野犬撲殺人ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一 免許證ハ他人ニ貸與スヘカラス

二 就業中ハ交通ノ妨害ヲ爲スヘカラス

三 人ノ驚愕又ハ嫌厭スヘキ行爲ヲ爲スヘカラス

四 公衆ノ耳目ニ觸ルル場所ニ於テ撲殺シ又ハ苛酷ノ所爲ヲ爲スヘカラス但シ疾病アル野犬ヲ撲殺スル場合ニ於テ特ニ警察官吏ノ臨檢シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

五 飼主ノ目標ナキ狗犬ト雖飼養者アルコトヲ疏明スルモノ若ハ持主アリト思料スルモノハ撲殺スヘカラス

六 狗犬ハ捕獲後三日間ヲ經過セサレハ之ヲ撲殺スヘカラス

七 就業時間ハ日出後日没前トス

製造場工場取締規則

第一條 本則ハ左ニ掲クル製造場工場ニ適用ス

一 瓦斯製造所及貯藏場

一 コークス製造所

一 礦油、魚油、獸油、植物油精製所及貯藏場

一 肥料製造所

一 金屬精煉場所及鍍金場

一 硝子製造所

一 煉瓦陶磁器、坩堝製造所及玻璃燒付場

一 石鹼製造所

一 荏油、亞麻仁油類ノ植物性油ヲ原料トスル護膜引防水布等ノ製造所

一 染料製造所及染色場織物整練所(日本藍染)場ヲ除ク

一 砂糖及糖蜜精製所

一 印刷墨汁及靴墨製造所

一 蠟及封蠟製造所

一 煉炭製造所

一 土器、瓦及炭燒場

一 燒酎及アルコール、エーテル、其ノ他引火シ易キ化合物製造所及貯藏所

一 礦酸類、醋酸、硝石、硫黃、硫酸鐵、硫酸銅、昇汞、格魯兒伽爾基、格魯兒伽加爾、沃度、炭酸曹達其ノ他有臭有害ノ瓦斯及排液ヲ生スル製造所

- 一 礫石類、硝子、煉瓦、陶器層、古鐘等ノ粉碎場及粉塵又ハ騒響震動甚シキ製造所
 - 一 海藻、魚鳥獸類ノ肉骨毛皮乾燥及貯蔵所
 - 一 船渠及造船鐵工諸機械工場
 - 一 絹綿絲紡績工場
 - 一 製函及製材所
 - 一 電線及電氣器具製造所
 - 一 穀類精製所
 - 一 茶精製所
 - 一 煙草依託製造所
 - 一 製紙工場
 - 一 前各號ノ外危害ヲ生シ又ハ健康ヲ害シ若ハ其ノ虞アル製造場工場
 - 前項ノ製造場工場中當廳ニ於テ其ノ必要ヲ認メサルモノニ付テハ本則ヲ適用セサルコトアルヘシ
 - 製造場工場ニ附屬スル工作物其ノ他ノ設備ハ總テ製造場工場ト看做ス
- 第二條** 製造場工場ヲ設ケムトスルモノハ左ノ事項ヲ具シ當廳ニ願出テ許可ヲ受クヘシ其ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ但シ他ノ法令ニ別段ノ規定アルモノハ其ノ規定ニ從フ
- 一 原籍、住所、氏名、年齢但シ法人ニ在リテハ其ノ名稱事務所所在地及代表者ノ氏名ヲ記シ定款ヲ添付スヘシ

- 二 製造場工場ノ種類、名稱
 - 三 製造場工場ノ位置敷地並建物ノ坪數四隣ノ距離及附近略圖
 - 四 原動機ノ種類及馬力數
 - 五 作業ノ目的、方法、使用器械ノ名稱及個數
 - 六 建物ノ構造仕樣書及圖面
 - 七 就業人員並作業時間
 - 八 工事落成期日
 - 九 前各號ノ外特ニ當廳ニ於テ指示シタル事項
- 前項出願者ニシテ汽機並汽機ヲ使用セムトスルトキハ汽機並汽機取締規則第一條ノ屆書ヲ添付スヘシ
- 第三條** 製造場工場ハ當廳ノ検査ヲ受ケ使用認可ヲ受ケタル後ニアラサレハ使用スルコトヲ得ス
- 第四條** 危害ヲ生シ若ハ健康ヲ害スルノ虞アル製造場工場ニ在リテハ豫メ適當ナル豫防設備ヲ爲スヘシ
- 前項ノ場合ニ於テ當廳ハ除害ノ装置ヲ命シ又ハ其ノ工作物ノ使用ヲ停止シ若ハ廢止ヲ命スルコトアルヘシ
- 第五條** 製造場工場ノ使用權ヲ承繼シタル者ハ原籍、住所、氏名、年齢、法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地及代表者ノ氏名ヲ記シ定款ヲ添付シ前權利者ノ連署ヲ以テ三日以内ニ當廳ニ届出ツヘシ
- 前項承繼者ハ製造場工場ノ設置者ト看做ス
- 第六條** 左ノ場合ニ於テハ三日以内ニ當廳ニ届出ツヘシ但シ

第三條ノ場合ニ在リテハ戸主又ハ家族ヨリ其ノ手續ヲ爲スヘシ

- 一 設置者ノ原籍、住所、氏名、法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地代表者ノ氏名並定款ヲ變更シタルトキ
- 二 休場又ハ廢場シタルトキ
- 三 設置者死亡又ハ所在不明、法人ニ在リテハ其ノ解散

第十一條 本則ニ違背シタルモノハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十日未滿ノ科料ニ處ス

第十二條 法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者、法人ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタル場合ニ於テハ前條ノ科料ヲ法人ノ代表者ニ適用ス

- 一 製造場工場内ノ管理取締ニ任スヘキモノノ選定
 - 二 職工及傭人等ノ期ニ關スル方法但シ寄宿舍アルモノハ其ノ舍則
 - 三 職工及傭人等ノ勞銀額ノ標準
 - 四 同上疾病死傷救護ニ關スル方法
 - 五 同上勞務時間並休日
 - 六 同上賞與懲戒及貯金ニ關スル方法
- 第八條** 左ノ事項ノ一ニ該當スルトキハ業務ヲ停止シ又ハ許可ヲ取消スコトアルヘシ
- 一 設置ノ許可ヲ受ケタル時ヨリ六ヶ月以内ニ工事ニ著手セサルトキ
 - 二 公安ヲ害スルノ虞アリト認メタルトキ
- 第九條** 當廳ハ何時ニテモ業務狀態ヲ検査シ若ハ公安維持上必要ナル命令ヲ發スルコトアルヘシ
- 第十條** 本則ノ規定ニ依リ當廳ニ差出スヘキ書類ハ凡テ所轄

第十三條 本則第一條ニ掲クル製造場工場ニシテ本則施行以前ノ設置ニ係ルモノハ凡テ本則ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

前項製造場工場設置者ハ明治四十一年一月末日迄ニ本則第一條ニ掲クル事項ヲ當廳ニ届出ツヘシ但シ從前許可ノ手續ヲ經タルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 明治二十四年一月一號奈良縣令第一號黃機摺附木製造取締規則ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

工場ノ災害事故ニ關スル報 告方

(明治三十三年九月二十一日)
 (總則第三百三十五號)
 警察署 警察分署

工場ノ災害事故ニ關スル報告方左ノ通之ヲ定メ明治三十三年十月一日ヨリ施行ス

右訓令ス

職工徒弟十人以上雇使スル工場及其ノ寄宿舍其ノ他ノ附屬建

設物ニ於テ災害其ノ他ノ事故ニ因リ死亡又ハ負傷者ヲ生シタルトキハ第一號調査書ニ依リ調査シ五日內ニ報告スヘシ但シ負傷者ヲ生スルモ負傷ノ程度業務ヲ繼續シ得ヘキ場合又ハ災害其ノ他ノ事故ノ生シタル日ノ翌日ヨリ起算シ三日內ニ復業シ得ヘキ場合ハ此ノ限ニ在ラス

職工徒弟十人以上履使スル工場及其ノ寄宿舍其ノ他ノ附屬建築物ニ於テ火災アリタルトキ又ハ建物煙突高架槽傳動裝置汽機汽機機械類ニ大ナル毀損ヲ生シタルトキハ死傷者ヲ生セサルモ其ノ都度尙第一號調査書ニ依リ調査シ災害其ノ他ノ事故ノ生シタル日ヨリ三日內ニ報告スヘシ但シ汽機類ノ破裂アリタルトキハ職工徒弟十人以上ヲ履使スル工場ニ於ケルトキ其ノ他ノ工場ニ於ケルトキハ前項ニ依リ報告スヘシ職工徒弟十人以上履使スル工場ノ火災又ハ建物煙突高架槽等崩壞毀損又ハ汽機類ノ破裂毀損ニ關シテハ調査シ得ラル、限リ同時ニ第二號調査書ニ依リ調査シ報告スヘシ但シ汽機類ノ破裂アリタルトキハ職工十人以上ノ工場ニ於ケルモ亦同シ前第一項二項ノ場合ニ於テ事體重大ナルトキハ其ノ概況ヲ急報スヘシ

第一號調査書

- 一 工場ノ名稱所在及工業主氏名
- 二 工業ノ種類
- 三 災害其ノ他ノ事故ノ生シタル日時場所其ノ原因及狀況
- 四 死傷者アルトキハ其ノ數男女別年齡及職名

五 死亡者アルトキハ其ノ致死ノ原因負傷者アルトキハ其ノ負傷ノ部位症狀經過等及救護ノ顛末

第二號調査書

- 一 建築物ノ位置、構造及材料（平家二階三階等ノ區別煉瓦造、石造、土藏造、塗屋造、木造又ハ以上ノ混成等但シ鐵骨又ハ鋼鐵骨ナルトキハ其ノ旨ヲ附記ス）
- 二 火災ヲ發見セシ當時ノ狀況及其ノ際ニ施セシ防禦方法並ニ避難順序
- 三 避難ノ設備（出入口、昇降口、非常口、階段ノ配置及構造、扉ノ開閉方避難品ノ種類及配置等）
- 四 火災豫防ノ設備（防火壁ノ構造、防火塗劑ノ用否、自動消火器、消火用自動唧筒其ノ他ノ消火品ノ種類個數等）
- 五 給水ノ狀況
- 六 汽機破裂毀損ニ關シテハ左ノ事項ノ報告ヲ要ス但シ製絲用蒸釜若ハ二重底蒸釜等汽壓ヲ使用セサルモノ、破裂毀損ニ關シテモ亦之ニ準ス
- 六 汽機ノ製作年月、製作地及製作者
- 七 最近ノ水壓試驗明細書
- (一) 試驗ヲ爲セシ年月日
- (二) 試驗ヲ爲セシ責任者
- (三) 水壓試驗ノ最高壓力及之ヲ保持セシ時間

(四) 試驗成績

- 八 汽機修繕ノ有無其ノ年月日汽機ノ部分修繕ノ方法並ニ修繕ヲ爲セシ人名
- 九 舊機ヲ購入セシモノナラハ其ノ沿革
- 十 災害ノ當時現ニ蒸汽ヲ使用セシヤ否使用セシモノナラハ其ノ用途及壓力
- 十一 汽機ノ明細書
 - (一) 汽機ノ種類
 - (二) 汽機ヲ製作セシ材料ノ種類
 - (三) 汽機ノ寸法
 - (イ) 汽機及火筒ノ直徑
 - (ロ) 汽機ノ長
 - (ハ) 金屬板ノ厚
 - (ニ) 銅板、鏡板、火筒
 - (ホ) 管
 - (ヘ) 原、長、直徑、個數
 - (ヘ) 接合
 - (ホ) 周圍 縱
 - (ハ) 鉸鉸ノ直徑並ニ心距
 - (ト) 支柱ノ種類、構造寸法
- (四) 安全瓣ノ個數及種類、口徑、錘ノ重量、錘桿上ノ位置並ニ錘桿ノ寸法（又ハ發條ノ壓力量）

第十五類 保安 第六章 構造

第六章 構造 長屋建築規則

(明治十九年六月二十六日) 布達甲第六十五號

(沿革) 明治二〇年八月縣令第三五號、二一年七月同第二六號、二二年一〇月同第四七號、二八年五月同第一四號改正

長屋建築規則左ノ通相定メ來ル七月二十日ヨリ橫濱區三浦郡橫須賀及其接續地ヘ施行ス

但接續地施行區域ハ別ニ告示スヘシ

右布達ス

長屋建築規則

第一條 此規則ニ於テ長屋ト稱スルハ人ノ住居ニ供スル家屋

- ニシテ一棟内ニ二戸以上ヲ設クル者ヲ總稱ス
- 第二條 長屋ヲ建築スルモノ及一棟建築ヲ區畫シテ二戸以上ニ改造スル者若クハ棟續キテ一戸以上ヲ増設スル者ハ都テ此規則ニ遵フヘシ
- 第三條 長屋ヲ建築改造又ハ増設セントスルモノハ遅ク共著手十日前ニ左ノ事項ヲ記載シ「戸長ノ奥印ヲ受ケ」所轄警察署ヘ届出認可ヲ受ケヘシ
 - 一 敷地所在ノ町村名番號及所有者ノ名
 - 二 建築縮圖
 - 三 河海山岨ニ沿フタル場所ハ其距離
 - 四 隣地ニ對スル土地ノ高低
- 第四條 認可ヲ得タル建築落成シタル時ハ所轄警察署ヘ検査ヲ請ヒ其認可ヲ受クルノ後ニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス
- 第五條 左ノ各項ノ一アル時ハ認可ヲ與ヘス
 - 一 危險ノ虞アリト認めタル時
 - 二 健康ニ害アリト認めタル時
 - 三 認可ヲ受ケタル築造法ニ違フタル時
- 第六條 一棟ノ戸數ハ六戸ニ過クルコトヲ得ス
但シ煉化造又ハ石造ノ家屋ハ此限ニ在ラス
- 第七條 裏長屋ハ表家ヲ通過セス別ニ路次口ヲ設ケ其廣サハ六尺以上タルヘシ
- 第八條 長屋ノ前面ニハ土臺ヨリ計リ八尺以上ノ通路ヲ設ク

- ヘシ若シ他ノ家屋ノ前面ト相對スル時ハ双方土臺ノ中間ニ一丈以上ノ通路ヲ設クヘシ
- 第九條 長屋ノ屋後ニハ六尺以上ノ空地ヲ存スヘシ
- 第十條 第七條第八條第九條ノ制限ハ隣地地主ト協議ノ上之ヲ共用スルコトヲ得
- 第十一條 建築ノ土臺ハ周圍下水ノ上端ヨリ三寸以上床ノ高サハ土臺ノ下端ヨリ一尺五寸以上天井ノ高サハ床上六尺五寸以上タルヘシ
- 第十二條 毎戸ノ前面出入口アル一方ヲ除キ他ノ三方中ニ空氣流通ニ適スヘキ窓戸一ヶ所以上ヲ設クヘシ
- 第十三條 便所ハ毎戸ニ一ヶ所以上ヲ設クヘシ
但敷地ノ形狀等ニ依リ止ヲ得サル場合ニ於テハ特ニ認可ヲ受ケ三戸以下ニ一ヶ所ヲ設クルコトヲ得
- 第十四條 便所ハ其近傍自他ノ井戸ヨリ一丈二尺以上ノ距離アルニ非サレハ之ヲ新設スルヲ得ス井戸ヲ新設スル時便所トノ距離ニ於ケルモ亦同シ
- 第十五條 便所及下水溝下水溜下水溜ノ構造ハ明治二十年縣令第二十二號市街清潔規則ニ據ルヘシ
- 第十六條 此規則第一條第五條第十條ヲ除クノ外各條ニ違背シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處スルノ外行政ノ處分ヲ以テ其使用ヲ禁止スルコトアルヘシ

長屋建築規則施行區域

(明治十九年六月三十日) 告示第六十八號

(沿革) 明治十九年告示第七二號、二〇年四月同第三八號、二一年二月同第一六號、二二年二月同第一一號改正
本年甲第六十五號布達長屋建築規則橫濱區三浦郡橫須賀接續地施行區域左ノ如シ

- 橫濱(區)接續施行區域
- 久良岐郡之内
- 戸部町之内 字 石崎 御所 反目 山王山 野毛坂
- 小松原 境ノ久保 宮ノ前
- 太田村之内 字 西中耕地 前里 霞耕地 谷原耕地
- 東耕地 富士見耕地 西中耕地 鬼子母神社 吉田新田
- 中村之内 堀割川東北一圓 字池下堀割川岸
- 根岸村之内 字 猿田 相澤 柏葉 夢田 字西竹ノ丸 字エゴ田之内 零五十九番地ニ至ル競馬場道沿
- 北方村之内 字 上野西ノ谷 七三十九番地 竹ノ花 天沼 泉 小港
- 本牧本郷村之内 字 上臺 牛込 八王子入合ノ道路ヲ遊歩道ヨリ山際ヘ二
- 遊歩道ヨリ山際ヘ二
- 三浦郡横須賀接續施行區域
- 三浦郡之内
- 深田村

長屋建築規則ノ制限空地内ニ便所其他建物ヲ設クルモ

處分方

(明治二十七年十月一日) 警察部 警察署 警察分署 警察署ノ認可ナキ建設物ハ相當ノ猶豫期限ヲ付シ取拂ハシムヘシ但シ期限ハ持主ノ申出ヲ參酌スヘシト雖モ長期三ヶ年ヲ經過スヘカラス

三建設物取拂ノ期限ハ地主家主ノ受書ヲ徴シ置後日賣渡讓渡

ノトキハ買受人讓受人ニテ取拂ハシムヘシ
四前各項ノ處分ハ長屋建築規則施行以前ノ建物ニ及ホスヲ得
サルモノトス

●横濱市ニ於ケル建物屋根覆葺制限

(明治三十四年六月十八日)
縣令第三十七號

(沿革)明治三十五年二月縣令第一〇號改正

横濱市ニ於テ新築若ハ改築スル建物ノ屋根ハ不燃質物(鐵、
亞鉛、「ブリツキ」ヲ除ク)ヲ以テ覆葺スヘシ但シ建築上不燃
質物ヲ以テ覆葺スルコト能ハサル特別ノ理由アルモノ又ハ防
火上無害ノ建物ニ限り所轄警察官署ノ認可ヲ受ケ本文ノ制限
ニ據ラサルコトヲ得
本令ニ違背シタルモノハ十日以下ノ拘留又ハ一圓九十五錢以
下ノ科料ニ處ス

本令ハ當分ノ内左ノ區域ニ施行セス
西戸部町、南太田町、南吉田町、尾張屋町、西平沼町、中
村町、本牧町、北方町、根岸町、神奈川町、青木町、淺間
町、岡野町、久保町

明治三十二年八月神奈川縣令第六十七號ハ之ヲ廢止ス

●横須賀市ニ於ケル建物屋根覆葺制限

(明治三十七年四月十九日)
縣令第三十四號

(沿革)明治三十七年五月縣令第四一號、三十八年五月同第二〇

いノ六、ろ、三六三番地 自三六四番地合、三六七番地ノ一、
自三六八番地至三七一番地、三七二番地ノ一及二、三、三七
三番地、自三七六番地至三八八番地、三九〇番地、三九二
番地、三九四番地、三九五番地、三九六番地ノ一及二、三
九七番地ノ一及二、三九八番地ノ一、四〇一番地ノ一、
四五二番地ノ一及二、四五三番地、四五四番地ノ一、二及
三、四五五番地ノ一及二、四五六番地合、四五七番地ノ一
及二、四五八番地ノ一、四六〇番地、四六二番地、四六三番
地ノ一、四六四番地ノ一及二、四六五番地ノ一、四六
六番地ノ一、四六七番地ノ一、四六八番地ノ一及二、四六
九番地ノ一、四七〇番地、四七一番地ノ一及二、四七
二番地、四七三番地、四七六番地ノ一及二、四七七番地、
四七八番地ノ一及二、自四七九番地至四八四番地四八六番
地四八八番地、四九一番地ノ一、四九四番地ノ一及二、三、
四九九番地、五五〇番地ノ一及二、五五二番地ノ一、
五五三番地、五五六番地合、五五六番地ノ二、
五五七番地、五五八番地ノ一及二、自五五九番地合、
自五七三番地合ノ一及二、至五七七番地合、
至五七六番地合ノ一及二、五七七番地ノ一及二、五八〇番
地ノ一、五八三番地ノ一及二、は、乙、ヲ除ク)
〔豊島町〕ノ内大字佐野(字自一番地至二番地、自二七番地
至二九番地ヲ除ク)及大字公郷ノ内小字山崎、堀ノ内、宗源
寺、瀧ヶ崎、神金、田戸、大字公郷飛地、大字深田飛地、
大字中里飛地、大字不入斗

號、四一年九月同第七八號改正

〔三浦郡〕横須賀(町及豊島町)ニ於テ新築改築又ハ大修繕ヲ爲
ス建物ノ屋根ハ不燃質物(鐵、亞鉛、「ブリツキ」ヲ除ク)ヲ
以テ覆葺スヘシ但シ建築上不燃質物ヲ以テ覆葺スルコト能ハ
サル特別ノ理由アルモノ又ハ防火上無害ノ建物ニ限り所轄警
察官署ノ認可ヲ受ケ本文ノ制限ニ據ラサルコトヲ得
本令ニ違背シタル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十圓未滿ノ科
料ニ處ス

左ノ區域ニ對シテハ當分ノ内本令ヲ施行セス

横須賀(町)ノ内大字逸見小字楠ヶ浦大字谷町大字港町大字
坂本大字汐入(四番地ノ一及二、五番地、六番地ノ
一、自七番地至一二番地、一二番地ノ一及二、自一三番地至
一五番地、一六番地ノ一及二、一七番地、一八番地ノ一及
二、一九番地、二〇番地、自六二番地至六九番地、七
〇番地ノ一及二、自七一番地至七四番地、三一九番地ノ一
及二、三二〇番地至三二五番地、三二五番地ノ一及二、
自三二七番地至三三四番地、三三七番地ノ一及二、三三八番
地ノ一及二、三、三三九番地、三四〇番地ノ一及二、三、
三四一番地、三四二番地ノ一及二、自三四三番地至三四五
番地、三四六番地ノ一及二、自三四七番地至三五〇番地
自三五一番地合ノ一及二、自三五二番地、三五三番地
ノ一及二、三、四、三五八番地、三五九番地ノ一及二、
自三六〇番地合ノ一及二、自三六一番地、三六二番地ノ一及二、
至三六二番地合ノ一及二、いノ三、いノ四、いノ五、
至三六二番地合ノ一及二、いノ三、いノ四、いノ五、

左ノ區域ニ對シテハ明治四十二年十二月三十一日迄本令ノ施
行ヲ延期ス

〔豊島町〕ノ内前項除外地及大字中里ノ内字一番地、大字深
田ノ内字二番地、字三番地、字四番地ノ内自五〇番至五二
番、字一一番地ノ内自二四番至二二八番及二四四番、字
一二番地、大字佐野ノ内字一番地、字二番地ノ内自二三番
至二五番、字二七番地、大字公郷字二〇番地ノ内自二四三
番、二二四四番地、自二二四九番至二二五二番、字二二番
地ノ内自二四七八番ノ一、二三八一番、二三八二番ノ一及二、
四、二三八三番、二三八四番ノ一及二、二三八五番、二三
八六番、自二三八六番ノ四至八、二四四七番、二四四八番
ノ一及二、二四四九番ノ一、二四五二番ノ一、二
四五三番ノ一、自二四五四番至二四五七番、二四五八番ノ
一及二、二四四九番ノ一及二、二四六〇番ノ一、自二四六
二番至二四六四番、二四六五番ノ一及二、二、二
四六六番ノ一及二、二四七一番、二四七三番、二四七六番
ノ一、二四七七番、自二四七九番至二四八一番、二四八二
番、及字柏木田貸座敷指定地一圓ヲ除キタル殘地域

●屋根覆葺制限施行區域外ニ

關スル件

(明治三十五年二月六日)
訓令第六號

今般明治三十四年六月神奈川縣令第三十七號中ニ改正ヲ加ヘ同
市役所

第十五類 保安 第七章 消防

五〇

年四月ヨリ新ニ横濱市ニ編入シタル各町ヲ當分該縣令ノ施行區域外ニ置キタリト雖右各町ハ人口ノ増加ニ伴ヒ家屋倍々周密ヲ爲シ勢ヒ再ヒ其ノ施行區域ニ入ルヘキハ現時ノ趨勢ニ徴シテ明カナルコトナレハ其ノ時期ノ如何ニ拘ハラズ宜シク今日ノ狀態ニ苟安セス克ク縣令ノ旨趣ヲ體シ將來建造物ノ新營又ハ改築ニハ成ルヘク其ノ構造ヲ堅牢ニシ以テ縣令ノ旨趣ニ副ハシメ能ク防火上ノ施設鞏固ナルヲ期シ一朝烏有ニ歸スルノ悔ヒナカラシムル様深ク此ニ留意シ其ノ效果ヲ收メシメラルヘシ

●煙筒取締規則

(明治三十三年十月二日) 縣令第五十八號

煙筒取締規則左ノ通之ヲ定ム

煙筒取締規則

- 第一條 煙筒ノ構造ハ左ノ制限ニ依ルヘシ但シ別段ノ規程アルモノハ此ノ限ニ在ラス
 - 一 煙筒ハ石、煉化石、金屬又ハ陶器製ノモノニ限ルコト
 - 二 金屬製ノ煙筒ハ木材ニ接觸スル部分ノ周圍ヲ不燃質物ト爲スコト
 - 三 家屋其ノ他ノ建造物ノ側面ニ出シタル煙筒ハ屋檐ヨリ一尺以上ノ距離ヲ有テ上方ニ屈曲セシムルコト
 - 四 煙筒ノ高サハ屋頂八尺以上トスルコト
- 第二條 前條第二號及第四號ノ制限ハ建設場所ノ狀況又ハ煙

筒使用ノ目的ニ依リ所轄警察官署ノ許可ヲ受ケ斟酌スルコトヲ得

第三條 煙筒ハ毎月一回以上掃除スヘシ

第四條 警察官署ハ官吏ヲ派シ煙筒ヲ臨檢セシメ公安上必要ト認ムルトキハ改造修補又ハ掃除ヲ命スルコトアルヘシ

第五條 本則第一條第二條ニ違背シ又ハ第四條ノ命令ニ従ハサル者ハ三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

附則

第六條 此ノ規則發布以前ニ建設シタル煙筒ノ構造第一條ノ制限ニ抵觸スルモノハ修繕ノ際本則ノ制限ニ依リ改造スヘシ

第七條 本則ハ左ノ市町村ニ施行ス

- 一 横濱市一圓
- 一 久良岐郡戸太町、中村、本牧村字北方一圓
- 一 橋樹郡神奈川町
- 一 (三浦郡)横須賀(町)

第七章 消防

●消防組規則施行細則

(明治三十年十二月十四日) 縣令第六十二號

(沿革)明治三三年七月縣令第四〇號、三七年二月同第一二

入ルコトヲ禁ス

- 一 線内ニ居住シ又ハ建造物ヲ所有若ハ占有スル者
 - 二 線内ノ官署公署學校病院其ノ他會社又ハ一定ノ詰所等ニ勤務スル者
 - 三 瓦斯、水道、電信線、電話線其ノ他電氣事業ノ係員又ハ危險物、貯藏物若ハ家屋財産ノ被保險物等ノ救護ニ從事スル證アル者
 - 四 所轄警察官署ノ許可證ヲ有スル者又ハ特ニ警察官ニ於テ許可スル者
- 前各號ノ者ト雖警察官ハ防火又ハ救護上必要ト認ムルトキハ立入ルヲ禁スルコトヲ得
- 第五條 消防組員ノ勤務ハ警察署長又ハ警察分署長ニ於テ左ノ標準ニ依リ分擔ヲ定ムルコトヲ得但シ繩持、旗持、高張持、喇叭手等ハ組頭ノ附屬トス
- 一 鳶係又ハ豫防係
 - 二 唧筒係又ハ防禦係
 - 三 救護係
 - 四 供水係
- 第六條 消防組ニ事務所ヲ要スルトキハ別ニ之ヲ指定ス
- 第七條 消防組員ハ身體強壯ニシテ左ノ事項ニ觸レサル者ヨリ之ヲ採用スルモノトス
- 一 一年齡滿十八年以下ノ者
 - 二 平素粗暴ノ行爲アル者

號、三八年一月二月同第五一號、四一年四月同第三六號改正

明治二十七年五月神奈川縣令第十九號消防組規則施行細則左ノ通改正ス

消防組規則施行細則

- 第一條 消防組ノ設置區域、名稱、人員ハ別ニ之ヲ定ム
- 第二條 火災ノ警鐘ハ左ノ如シ
 - 一 知ラセ
 - 一 消防區域外又ハ未タ應援ヲ要セスト認ムルトキハ一點打トス
 - 一 出方
 - 一 消防組員ノ出場ヲ要スルトキハ二點打トス
 - 一 近火
 - 一 出火場ヨリ凡ソ三四丁ノトキ其ノ他風下ニテ危險アリト認ムルトキハ三點打トス
 - 一 非常
 - 一 大火ノ際其ノ他非常ナル危險ヲ生スヘキ處アル際ニハ亂打トス
- 第三條 警鐘擔當者ハ警察署長又ハ警察分署長ニ於テ指定スヘシ
- 第四條 火災場周圍凡ソ一丁ヲ限リ非常線ヲ設クルコトアルヘシ
- 前項ノ場合ニ在テハ左ニ掲クル者ヲ除ク外ハ非常線内ニ立

第十五類 保安 第七章 消防

五一

第十五類 保安 第七章 消防

- 三 公權褫奪若ハ停止中ノ者
- 四 禁治産中ノ者
- 五 懲罰處分ニ依リ組頭小頭及消防手ヲ免セラレ滿一年ヲ經過セサル者
- 第八條 消防組員ニシテ前條各號ノ一ニ觸ル、者アルトキハ直ニ其ノ職ヲ免スルモノトス
- 第九條 消防手及小頭ノ命免賞罰ハ警察署長又ハ警察分署長之ヲ行ヒ組頭ノ命免賞罰ハ警察部長之ヲ行フ
- 第十條 消防手及小頭ニシテ疾病其ノ他ノ事故ニ因リ職務ニ服スル能ハサルトキハ組頭ニ届出ヘシ其ノ組頭ニ在リテハ警察署長又ハ警察分署長ニ届出ヘシ
- 第十一條 組頭ノ掌理スル庶務ノ概目左ノ如シ
 - 一 小頭以下ノ勤怠、功過及出火現場又ハ演習訓練ニ出場シタル人名ヲ警察署長又ハ警察分署長ニ報告スルコト
 - 二 組員名簿及消防器具臺帳ヲ整理スルコト
 - 三 毎年十二月末日現在ノ器具ヲ取調ヘ翌年一月十五日マテニ警察署長又ハ警察分署長ヲ經テ市參事會若ハ町村長ニ報告スルコト
 - 四 消防器具ノ保管及修理ニ關スルコト
 - 五 前各號ノ外消防組ニ屬スル庶務ノ整理ニ關スルコト
- 第十二條 小頭ハ各部各係又ハ各伍ニ分屬シ組頭ヲ助ケ部下ノ指揮取締ニ從事ス

- 組頭事故アルトキハ小頭之ヲ代理ス但シ小頭數名アルトキハ警察署長又ハ警察分署長ニ於テ豫メ代理者ヲ指定シ置クヘシ
- 第十三條 消防手ハ組頭及小頭ノ指揮ニ從ヒ受持ノ位置ヲ守リ消防ニ從事ス
- 第十四條 警察署長又ハ警察分署長ハ火災警戒ノ爲必要アルトキハ消防手ニ夜警巡回ヲ命スルコトヲ得
- 第十五條 警察署長又ハ警察分署長ハ毎年一月乃至二月及九月乃至十月ノ間ニ於テ消防組ヲ巡檢シ紀律ノ保持及器具ノ狀況ヲ警部長ニ報告スヘシ
- 第十六條 警部長警察署長又ハ警察分署長ハ消防組員ノ訓練演習其ノ他監査ヲ要スル場合ニ於テハ臨時ニ消防組員ノ全部又ハ一部ヲ召集スルコトアルヘシ
- 第十七條 消防組員ハ警察署長又ハ警察分署長若ハ組頭、小頭ノ指揮ニ從ヒ時々消防事務ヲ演習スヘシ
- 第十八條 消防組員ハ警察官吏ノ指揮命令ニ服從シ一致協力ヲ旨トスヘシ
- 第十九條 消防組員ハ自己ノ受持區域内ニ於テ出方又ハ非常ノ信號ヲ聞キ若ハ自ラ火災アルヲ知りタルトキハ直ニ所屬ノ位置ニ參集スヘシ
- 第二十條 消防組員ハ現場引揚ノトキハ警察官吏ノ點檢ヲ受ケ退場スヘシ若シ警察官吏ノ出張ナキトキハ組頭、小頭ノ點檢ヲ受クヘシ

- 第二十一條 組頭、小頭ハ器具使用ノ都度掃除ヲ爲シ何時ニテモ使用ニ差間ナカラシムヘシ
- 第二十二條 消防組員ハ警察官吏ノ指揮ナクシテ建物ヲ破壞スルコトヲ得ハ
- 第二十三條 消防組員ハ參集又ハ消防中若ハ現場出張ノ途中ハ勿論平常タリトモ左ノ事項ヲ遵守スヘシ
 - 一 組員互ニ又ハ他ノ組員ト爭鬪ヲ企テ若ハ功ヲ爭ヒ其ノ他ノ紛議ヲ爲サ、ルコト
 - 二 他人ニ對シ強迫カマシキ行爲又ハ粗暴ノ舉動ヲ爲サ、ルコト
 - 三 警察官吏ノ許可ヲ得スシテ職務上金品又ハ飲食物ヲ受ケ或ハ寄附金ヲ募ル等ノコトヲ爲サ、ルコト
 - 四 消防組ノ名義ヲ以テ諸興行ヲ爲シ又ハ物件ヲ贈與シ又ハ各種ノ約束ヲ爲サ、ルコト
- 第二十四條 消防組員ニシテ消防上顯著ノ功勞アリタルトキハ賞與又ハ賞狀ヲ下附スルコトアルヘシ
- 第二十五條 消防組員ノ懲罰ハ左ノ三種トス
 - 一 解職
 - 二 停職又ハ停給
 - 三 譴責
- 前項ノ外器具ヲ毀損シタルトキハ之ヲ賠償セシムルコトアルヘシ
- 第二十六條 消防組員ニシテ左ニ掲クル事項ニ該當スルトキ
 - 一 出場及演習手當
 - 二 一時間又ハ一回ニ付金拾五錢以内
 - 三 夜警其他臨時手當

- ハ前條ノ區別ニ依リ懲罰ヲ加フルモノトス
- 一 規則又ハ警察官吏其ノ他指揮ノ任アル者ノ命令ニ違背シタルトキ
- 二 消防組タルノ職務ヲ汚損シタルトキ
- 三 正當ノ事由ナクシテ二回以上現場ニ出張セス又ハ演習其ノ他ノ召集ニ應セサルトキ
- 四 組員互ニ爭鬪シ又ハ故ナク紛議ヲ企テタルトキ
- 五 濫ニ集合シ又ハ勤務中許可ヲ得スシテ進退ヲ爲シタルトキ
- 六 前各項ノ外職務上爲スヘカラサルコトヲ爲シタルトキ
- 第二十七條 消防組員ニ手當並ニ被服ヲ給スルトキハ左ノ標準ニ依ルヘシ
 - 一 月手當
 - 二 常務者ニ在テハ組頭ハ金五拾圓以内小頭ハ金參拾圓以内消防手ハ金貳拾圓以内
 - 三 常務者以外ニ在テハ組頭ハ金拾圓以内小頭ハ金貳圓以内消防手ハ金壹圓以内但シ小頭ニシテ組頭ノ事務代理ヲ指定セラレタル者ハ組頭ノ額マテ増給スルコトヲ得
 - 四 事務所ノ書記ニ從事スル消防手ハ金八圓以内給與スルコトヲ得

第十五類 保安 第七章 消防

第十五類保安 第七章 消防

- 一 日又ハ一夜ニ付金壹圓以内
- 四 傷病疾病手當
職務ノ爲メ傷病疾病ヲ受ケ休業中一日金五拾錢以内若シ
發疾不具ニ至リタルトキハ一時金六拾圓以内ヲ給スルコ
トヲ得
- 五 療治料
一日金壹圓以内トス但シ治療費一日平均金壹圓ヲ超過シ
タルトキハ適當ト認ムル實費額ヲ追給スルコトアルヘ
シ
- 七 功勞賞與手當
一人ニ付金拾圓以内又ハ一消防組ニ付金五拾圓以内
- 八 被服
頭巾又ハ帽ノ現品又ハ代料
法被又ハ洋服ノ現品又ハ代料
- 第二十八條 消防組員死亡スルトキハ左ノ標準ニ依リ弔祭料
及扶助料ヲ給ス
一 弔祭料
職務ノ爲メ傷病疾病ヲ受ケテ死亡シタルトキハ金百圓
以内其ノ他ノトキハ金拾圓以内
- 二 扶助料
職務ノ爲メ死亡シタルトキハ遺族扶助料トシテ金八拾圓
以内

- ニ之ヲ給與ス
- 一 配偶者
- 二 直系卑屬
- 三 直系尊屬
- 四 兄弟姊妹
- 第二十九條 消防組ニ要スル器具及設備ノ物件ハ概ネ左ノ如
シ
- 一 警鐘
- 二 繩、刺叉、旗、高張、提燈
- 三 唧筒、龍吐水、立管、水管及其ノ附屬品
- 四 斧、鋸、鋸口、槌、万力、釣機
- 五 錫綱、繩綱、麻繩
- 六 運水器、水槽、器械車
- 七 消防器具置場、火ノ見櫓
- 第三十條 警察署長又ハ警察分署長ハ水災ニ關係アル地ノ消
防組員ニ命シ水災ノ警戒防禦ヲ爲サシムルコトヲ得
- 第三十一條 水災ニ關係アル地ノ消防組ニ在リテハ土地ノ
習慣ニ依リ豫メ水災防禦ニ必要ナル器具ヲ備置クコトヲ
得

消防組設置區域名稱人員表

(明治二十七年五月六日)
(縣令第二十號)

(沿革)略ス
消防組ノ設置區域名稱人員左表ノ通之ヲ定ム

郡市名		町村名	消防組名	定員	部名	小頭及配置	編成區域
横			伊勢佐木消防組	組頭 一人 小頭 八人 消防手 六十二人			長者町(自五丁目)北仲通 辨天通 本町 南仲通 住吉町 海岸通 相生 町 眞砂町 太田町 尾上町 柳町 常盤町 吉田町 南吉田町 伊勢佐 木町 港町 末吉町 浪花町 福富町 羽衣町 松ヶ枝町 委見町 若竹町 賑町 蓬萊町 足曳町 雲井町 梅ヶ 枝町 吉岡町 駿河町 久方町 若葉 町 長島町 内田町(一、二丁目) 元 濱町 櫻木町(一丁目)
			伊勢佐木消防隊	常備小頭 一人 常備消防手 十九人			伊勢佐木町警察署管轄内
			戸部消防組	組頭 一人 小頭 十六人 消防手 百八十三人	第一部	小頭 八人 消防手 九十五人	日ノ出町 黃金町 三春町 英町 初 音町 霞町 花咲町 清水町 戸部町 宮川町 野毛町 月岡町 平沼町 老 松町 福島町 線町 宮崎町 伊勢町 裏高島町 仲ノ町 材木町 長住町 橋町 高島町(自一丁目) 櫻木町(自三丁目) 内田町(自三丁目) 至八丁目)
第三部	第二部	同	同	同	同	同	南太田町 久保町
同	同	同	同	同	同	同	西戸部町 西平沼町 尾張屋町

橋		郡							岐			其		
川崎町	保土ヶ谷町	屏風浦村	日下村	澤村	金澤	小頭	組頭	消防手	消防手	消防手	消防手	消防手		
川崎消防組	保土ヶ谷消防組	屏風浦消防組	日下消防組	澤村消防組	金澤消防組	組頭 一人	小頭 十五人	消防手 五百三十二人	組頭 一人	小頭 十二人	消防手 四百五十人	消防手 三十三人		
第一組	第一組	第一組	第一組	第一組	第一組	第一組	第一組	第一組	第一組	第一組	第一組	第一組		
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同		
七十三人	八十四人	八十八人	六十二人	七十二人	八十八人	七十人	七十人	八十人	五十二人	百五十三人	六十五人	百二十人		
砂子、小土呂	新宿、堀ノ内、久根崎	保土ヶ谷町	杉田	森中原	森	田中	峰、矢部野、栗木、上中里、氷取澤	日野	笹下	洲崎	町屋	野島、泥龜ノ一部	寺前、泥龜ノ一部	富岡

久		市										
金	六浦	六浦	六浦	六浦	六浦	六浦	六浦	六浦	六浦	六浦	六浦	六浦
六浦消防組	六浦消防組	六浦消防組	六浦消防組	六浦消防組	六浦消防組	六浦消防組	六浦消防組	六浦消防組	六浦消防組	六浦消防組	六浦消防組	六浦消防組
組頭 一人	小頭 十二人	消防手 四百五十人	組頭 一人	小頭 二十一人	消防手 二百十人	組頭 一人	小頭 二十一人	消防手 二百十人	組頭 一人	小頭 二十一人	消防手 二百十人	組頭 一人
第一組	第一組	第一組	第一組	第一組	第一組	第一組	第一組	第一組	第一組	第一組	第一組	第一組
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
七十二人	五十二人	百四十六人	百五十三人	百五十三人	百五十三人	百五十三人	百五十三人	百五十三人	百五十三人	百五十三人	百五十三人	百五十三人
柴	谷津、泥龜ノ一部	蓋利谷、小字宿下、坂本、北谷、白山、道、赤井、御仲井、宮ヶ谷、赤坂	三分小字、室ノ木、瀬ヶ崎、高谷	峠村、三分小字、川大道、三艘	三分小字、瀬戸、六浦	字海道通、自三二九〇番地	字海道通、自三二九〇番地	字海道通、自三二九〇番地	字海道通、自三二九〇番地	字海道通、自三二九〇番地	字海道通、自三二九〇番地	字海道通、自三二九〇番地

樹											
原	中			村	幸	御	村	吉	住	村	田
中原消防組				御幸消防組	住吉消防組			生田消防組			
小組頭 一人	小組頭 一人			消防手 二百三十五人	消防手 二百二十九人			消防手 百八十四人			
第四部	第三部	第二部	第一部	第四部	第三部	第二部	第一部	第三部	第二部	第一部	第五部
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
四十七人	四十八人	六十六人	六十八人	六十一人	六十二人	五十一人	五十三人	四十二人	四十二人	四十三人	三十二人
字下小田中	字上小田中ノ内神地	字上丸子	字小杉	南河原	小向	中丸子	上平間、戸手、下平間、塚越、古川	蒔宿	井田、今井、市ノ坪	木月、北加瀬、蒔宿	金程、細山
											東長澤、西長澤
											東五反田、西五反田、大作
											高石

生	村	田	町	村	津	高
	町田消防組	高津消防組				
	消防手 百十人	小組頭 一人	小組頭 一人	消防手 三百八十九人		
第一部	第四部	第三部	第二部	第一部	第十部	第九部
同	同	同	同	同	同	同
五十八人	十八人	二十六人	二十八人	三十八人	十九人	四十二人
根岸、北耕地、明王、土澤、榎戸、稻目、飯室	菅沼	矢向、江ヶ崎	潮田	市場	下野毛	北見方
						諏訪河原
						坂戸
						久本
						片町
						下作延
						久地
						二子
						溝口

第十五類保安 第七章 消防

筑		都			郡				
村治新	村岡都	村内山	村吉日	村島田	村尾見生	村			
上菅田消防組	都岡消防組	山内消防組	南加瀬消防組	中島消防組	生見尾消防組				
消防手頭 三十五人	消防手頭 百六十五人	消防手頭 百九十七人	消防手頭 五十五人	消防手頭 五十四人	組頭 一人 小頭 二十四人 消防手 二百九十二人				
	第一部 第二部 第三部	第一部 第二部 第三部			第一部 第二部 第三部 第四部	第四部			
	同 同 同	同 同 同			同 同 同 同	同			
	三十六人 八十二人 五十一人	七十四人 七十四人 七十四人			六十四人 八十八人 八十八人 八十八人	四十八人			
上菅田	下川井 今宿 上川井	中村、下谷 平川、舟頭、牛込 保木、荏子田	日吉村ノ内字南加瀬	中島	東寺尾一圓 生夢 岸、原、木宮 生夢 南町、北町 鶴見一圓	大字末長			

第十五類保安 第七章 消防

橋		村原河師大			村田稻			村		
橋	消防組	消防手	組頭	小頭	組頭	小頭	消防手	消防手	組頭	小頭
橋	消防組	消防手	組頭	小頭	組頭	小頭	消防手	消防手	組頭	小頭
		百七十人	一人	十四人	一人	八十二人	七十九人	二百三十一人	一人	十六人
		第三部	第一部	第二部	第一部	第二部	第三部	第四部	第一部	第二部
		同	同	同	同	同	同	同	同	同
		三十三人	四十三人	五十二人	三十五人	三十二人	三十二人	六十四人	四十三人	四十六人
		大字子母口	大字新作	大字千歲	上下田町、江ヶ町、上下殿町	鹽濱、出來野臺、南東	遠藤野、四ッ谷、藤崎、池上新田	本村、中瀬	北東、新門前、裏門前、西、南川中、	堰村
								宿河原	中野島	菅村
								登戸	字新城	字上小田中ノ内大ヶ谷戸
										字宮内

[村 越 田]							村 山 業							村 浦	
返子消防組							業山消防組								
組頭 一人 小頭 八人 消防手四百三十五人							組頭 一人 小頭 十九人 消防手六百七十人							消防手三百九十人	
第七部	第六部	第五部	第四部	第三部	第二部	第一部	第六部	第五部	第四部	第三部	第二部	第一部	第四部	第三部	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
百五十二人	五十人	二十五人	四十五人	四十人	六十人	六十人	七十二人	八十四人	八十二人	六十人	二百三十九人	百三十三人	六十人	百人	
小坪	久木	山ノ根	池子	沼間	櫻山	返子	長柄	上山口	下山口	木古庭	堀ノ内	一色	長坂、荻野	佐島	

三							市賀須横		郡		
西 [中]		村 郷 浦							村 田 郡		村谷西
西浦消防組		浦郷消防組					横須賀消防組		東方消防組		上星川消防組
組頭 一人 小頭 九人		組頭 一人 小頭 二十一人 消防手五百十二人					組頭 一人 消防手三百九十一人		組頭 一人 消防手七十七人		組頭 一人 消防手二十六人
第二部	第一部	第七部	第六部	第五部	第四部	第三部	第二部	第一部			
同	同	同	同	同	同	同	同	同			
八十人	百五十人	八十人	四十人	六十五人	七十五人	六十人	百三十人	六十二人			
荻名	秋谷	田ノ浦、荒井	元長浦	田浦	船越	深浦、榎戸、日向	東鉦切、西鉦切	本浦	横須賀市一圓	西谷村	
									郡田村ノ内東方一圓	郡田村字大熊	

町		崎		三		村浦下北			村濱	
		三崎消防組				北下浦消防組				
消防手五百五十人		小頭 二十二人	組頭 一人	消防手四百九十一人			消防手二百九十人			
第八部	第七部	第六部	第五部	第四部	第三部	第二部	第一部	第三部	第二部	第一部
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
五十二人	百四人	五十二人	五十二人	五十二人	五十二人	百四人	百四人	百四十人	二百八十人	百四十人
小網代	諸磯原	宮川	向ヶ崎、田中	城ヶ島	海外、白石	海南、四野、上橋、東岡、宮城、西濱	日ノ出、入舟、仲崎、花暮	津久井	長澤	野比
								宮前 至二二〇番地	同 至一九七番地	八幡久里濱ノ内 字臺ノ坂 至一九七番地

里久		町				賀浦					
久里濱消防組		吉久消防組	大津消防組	走水消防組	鴨居消防組	浦賀消防組					
消防手 十二人		消防手 四十七人	消防手 百五十七人	消防手 百二十一人	消防手 百三十六人	消防手 四百十三人		小頭 一人		組頭 一人	
第三部	第二部	第一部				第六部	第五部	第四部	第三部	第二部	第一部
同	同	消防手				同	同	同	同	同	同
六十人	七十人	六十人				五十二人	七十六人	八十三人	七十三人	五十六人	七十三人
内川新田	原久村	岩戸、佐原	吉井、久比里	大津	走水	鴨居	洲崎、新井	大ヶ谷、新町	荒卷、築地新、築地古、芝生	宮下、谷戸、高坂	紺屋、田中
	八幡久里濱ノ内 字八幡前、原、松										川間、濱町、蛇島

南 下 浦 村												長	
南下浦消防組													
組頭 一人												組頭 一人	
小頭 二十二二人												消防手 五百二十人	
第一部	第二部	第三部	第四部	第五部	第六部	第七部	第八部	第九部	第十部	第十一部	第十二部	第十三部	第十四部
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
四十二人	四十二人	四十二人	四十二人	四十二人	四十二人	四十二人	四十二人	四十二人	四十二人	四十二人	四十二人	四十二人	四十二人
昆沙門、丸込、片楚、大崎	渡戸、江名、八浦	松輪、田島原、房造、大畑	池田、柳作、八ヶ久保、間口	金田、岩浦、入鋒、仙神	蛭田、殿畑、宮ノ懸、水神、唐池、北野、瀬防	菊名全部	上宮田、岩井口、松原、木ノ間	道場、山ヶ谷戸、鹿穴、池代	芝原、石作	仲今井、今井原	大木根、小根岸	大久保、長濱	井尻
假ヶ屋崎、東													

井 村												初 聲 村				武 山 村			
長井消防組												初聲消防組				武山消防組			
小頭 二十七人												組頭 一人				組頭 一人			
消防手 五百十人												小頭 二十二二人				小頭 十五人			
消防手 二百六十五人												消防手 三百六十五人				消防手 二百六十五人			
第一部	第二部	第三部	第四部	第五部	第六部	第七部	第八部	第九部	第十部	第十一部	第十二部	第十三部	第十四部						
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同						
六十人	六十人	六十人	六十人	六十人	六十人	六十人	六十人	六十人	六十人	六十人	六十人	六十人	六十人						
屋形	番揚	新宿	染山	荒井	和田	高圓坊ノ内	臺原	下宮田ノ内	三戸	下宮田ノ内	飯森、中尾、向畑、岩上、元屋敷	高圓坊ノ内	大井戸、小長作、仲尾、水ヶ尻						
太田和	林	須輕谷	武	武	武	武	武	武	武	武	武	武	武						

高										郡			
溝										村坂小	町大藤	村口川	
溝消防組										小坂消防組	大富消防組	川口消防組	
組頭 一人										組頭 一人	組頭 一人	組頭 一人	
小頭 二十七人										小頭 十三人	小頭 三十四人	小頭 六十八人	
消防手 三百三十人										消防手 二百三十五人	消防手 三百四十八人	消防手 六百八十八人	
第一部	第二部	第三部	第四部	第五部	第六部	第一部	第二部	第三部	第四部	第五部	第一部	第二部	第三部
同	同	同	同	同	同	消防手	同	同	同	同	同	同	同
三十一人	三十六人	五十六人	三十一人	三十四人	三十三人	三十一人	三十三人	三十三人	三十三人	三十三人	三十三人	三十三人	三十三人
迄	大阪町旅籠河岸ヨリ榮町迄	大阪町東坂戸ヨリ車田迄	大阪町立石ヨリ善行寺迄	大鋸、西富	小字乙二號乙三號ノ内、小名東岸	澤、竹ノ内	小字乙五號ノ内、小名川端ヨツヤ	久保	小字乙六號ノ内、小名上三谷	小字乙一號ノ内、小名石橋	小字乙二號ノ内、小名田中、甲六	小字甲七號ノ内、小名田尻	小字甲七號ノ内、小名田尻

倉					鎌			郡				
村	津	越	腰	鎌倉	町塚戸	村笠	笠	衣	村	笠	衣	
腰越津消防組					鎌倉消防組	戸塚消防組	衣笠消防組					
組頭 一人					組頭 一人	組頭 一人	組頭 一人					
小頭 二十六人					小頭 十人	小頭 十人	小頭 十一人					
消防手 三百四十人					消防手 四百三十七人	消防手 百十人	消防手 二百七十四人					
第一部	第二部	第三部	第四部	第五部	第一部	第二部	第三部	第四部	第五部	第一部	第二部	第三部
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
四十九人	四十九人	六十五人	七十四人	六十四人	三十七人	三十七人	三十六人	六十三人	四十二人	五十二人	五十八人	六十三人
腰越ノ内、小字中原町	腰越ノ内、小字下町	腰越ノ内、小字土橋町	腰越ノ内、小字神戶町	腰越ノ内、小字濱上町	矢部及元町	同町一、二丁目及吉田	戸塚町三、四、五、六丁目	小矢部、森崎	金谷	安部倉、池上	平作	衣笠、大矢部

澤		大 村 原 相				村		
大澤村消防組		清兵衛新組	小山消防組	橋本消防組	相原消防組			
小頭	組頭	消防頭	消防頭	消防頭	消防頭	第九部	第八部	第七部
二十五人	一人	四十一人	八十八人	六十六人	百十人	二十人	二十七人	四十三人
第五部	第四部	第三部	第二部	第一部	第二部	第一部	同	同
同	同	同	同	消防頭	同	消防頭	同	同
三十八人	四十人	四十七人	五十二人	六十四人	四十人	四十人	五十五人	四十五人
同	同	同	同	大字大島上大島	清兵衛新田	大河原、中東、原村、坂下、中村、久保、松葉	橋本	常麻田、三谷、田尻
同	同上九澤一圓	同	同	同	同	同	同	同
							小字甲四號	小字甲三號ノ内 小名番田
							小字甲五號ノ内 小名虹吹甲六號	
							森下	

座													
大 町			崎 ケ 茅				村						
東茅部消防組			茅ヶ崎消防組				消防手三百八十三人						
消防手百七十九人			消防手三百五十六人				消防手百七十九人						
第一部	第二部	第三部	第七部	第六部	第五部	第四部	第三部	第二部	第一部	第九部	第八部	第七部	第六部
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
四十五人	三十七人	六十八人	七十四人	五十三人	六十一人	五十三人	四十五人	四十一人	四十六人	二十八人	十九人	四十九人	五十三人
大野村	茅ヶ崎町	菱沼	小和田	下南湖ノ南部	上南郷ノ南部	上南郷ノ北部、鳥井戸	土間坂、梅田	四石神、東石神	前ノ田、八王子下	同	同	同	同
原平	高田									宮下モ	内出	下九澤上組	

第十五類保安 第七章 消防

村 溝 麻			村 野							
當麻消防組	下溝消防組	矢部新田消防組	上矢部消防組	鷓ノ森消防組	上鶴間消防組	淵野邊消防組				
小組頭 十二人	小組頭 十四人	消防手 三十八人	消防手 四十四人	消防手 四十四人	消防手 八十三人	小組頭 十七人	消防手 二百三十八人	小組頭 一人	消防手 一人	
第一部	第一部	第一部	第一部	第一部	第一部	第三部	第四部	第五部	第二部	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
三十五人	五十四人	五十八人	四十五人	六十五人	四十八人	五十四人	四十六人	四十七人	六十人	
原、當麻	上宿、下宿	谷ノ開戸ノ内、大橋、東澤ノ内	前原、袋澤	溝開戸、上谷開戸、谷ノ開戸ノ内	矢部新田	上矢部	鷓ノ森	ムヲ山	同村淵野邊小字山中村ノ内一部及中村ノ内一部	
								同村小字大沼新田	同村小字下村谷戸	
									同村淵野邊小字中村ノ内一部	

第十五類保安 第七章 消防

村 瀬 綾		村 名 田										
寺尾消防組	吉岡消防組	田名消防組										
消防手 八十三人	消防手 九十三人	消防手 四百二人	小組頭 一人	小組頭 二十五人								消防手 百十五人
第一部	第一部	第一部	第一部	第一部	第一部	第一部	第一部	第一部	第一部	第一部	第一部	第一部
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
二十七人	四十二人	四十二人	二十五人	四十一人	三十六人	四十三人	三十三人	三十三人	四十五人	四十二人	三十四人	四十人
寺尾	吉岡	清水	葛輪	四ツ谷	新宿	鹽田	望地	陽原	牛在家	堀ノ内	久所	瀧
												市場、芹澤

吾		村野桑南					村野桑東					町野桑	町山大
山西消防組		南桑野消防組					東桑野消防組					桑野消防組	大山消防組
消防頭頭 百八十三人		消防頭頭 二百四十人					消防頭頭 二百四十人					消防頭頭 二百四十人	消防頭頭 九十五人
第一部	第二部	第一部	第二部	第三部	第四部	第一部	第二部	第三部	第四部	第五部	第六部	第一部	第二部
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	消防頭	同
八十二人	七十八人	四十二人	四十二人	八十四人	八十四人	四十二人	四十二人	四十二人	四十二人	四十二人	四十二人	四十二人	四十五人
小字木梅澤	小字越地、釜野、茶屋	四大竹	尾尻	今泉	平澤	簗毛、小簗毛	落合	寺山	名古屋	西田原	東田原	桑野町	子易
百二十七戶	百五十戶												

中			郡					
町原勢伊	町塚平		町磯大			町澤藤		村名老海
伊勢原消防組	平塚新宿消防組	平塚消防組	大磯消防組			藤澤消防組		國分消防組
消防頭頭 七十六人	消防頭頭 三十五人	消防頭頭 三十四人	消防頭頭 百十八人	消防頭頭 十一人	消防頭頭 十一人	消防頭頭 二百六人	消防頭頭 十三人	消防頭頭 九百一人
第一部	第二部	第三部	第一部	第二部	第三部	第四部	第五部	第一部
同	同	同	同	同	同	同	同	消防頭
三十九人	三十九人	三十七人	四十六人	四十五人	四十五人	三十七人	三十五人	三十五人
伊勢原	平塚新宿	平塚	高麗	西小磯	大磯、東小磯	大鋸、西宮	同立石ヨリ善行寺迄	同東坂戸ヨリ車田迄
田中、板戸							藤澤町藏前辰巳町及停車場前迄	藤澤旅籠町河岸ヨリ榮町迄
								國分

旭						村馬須		村野泰西	村野泰北			
旭消防組						須賀消防組	馬入消防組	西泰野消防組	北泰野消防組			
消防手	小頭	組頭	組頭	組頭	組頭	消小組防手頭	消小組防手頭	消小組防手頭	消小組防手頭			
三百一人	三十四人	一人	一人	一人	一人	八十一人	六十九人	六十七人	百六十八人			
第六部	第五部	第四部	第三部	第二部	第一部				第四部	第三部	第二部	第一部
同	同	同	同	同	消小組防手頭				同	同	同	消小組防手頭
三十七人	三十四人	四十八人	三十四人	五十三人	五十六人				四十二人	四十二人	四十二人	四十二人
河内	公所	根岡板	出繩	萬田	山下、高根	大字須賀	大字馬入	西泰野村大字堀西ノ内 森戸、波多川、黒木、欠畑	横野一圓	戸川一圓	羽根一圓	菩提原一圓

村野大					村府國	村妻		
南原消防組	八幡消防組	四ノ宮消防組	眞土消防組	中原上下消防組	本郷消防組	一色消防組	中里消防組	二ノ宮消防組
消小組防手頭	消小組防手頭	消小組防手頭	消小組防手頭	消小組防手頭	消小組防手頭	消小組防手頭	消小組防手頭	消小組防手頭
五十二人	五十四人	五十四人	八十三人	八十三人	八十九人	八十五人	六十五人	百五十一人
南原	八幡	四ノ宮	眞土	中原上下	國府本郷一圓	大字一色 百二十五戸	大字中里 百二戸	大字二ノ宮 三百十七戸

		柄									
中	村口ノ井	井			村島田吉		村柄足南	岸消防組			
		曾比	柏山東部	柏山西部	下島	上島	南足柄				
	井ノ口消防組	曾比消防組	柏山東部消防組	柏山西部消防組	下島消防組	上島消防組	南足柄消防組				
	消防手百二十一	消防手頭	消防手頭	消防手頭	消防手頭	消防手頭	消防手頭	消防手頭			
	八人	一人	三人	三人	四人	四人	二百九十人	六十人			
第一部	第一部							第二部			
同	同							同			
六十人	六十人							三十人			
田中、北田、遠藤	北田、久所、遠藤	昌、向臺、遠藤原	小字、宮、西ノ窪、清太ヶ谷、井頭、番	馬場、葛ノ木、田中、中境地、櫻ヶ	舞臺、養畑	道上、道下	曾比	道通河原、左近耕地、下島道下、郷左衛門河原	宮ノ上、高臺、榎木、寺ノ下、中屋村耕地、小野澤、吉田新田	南足柄村	柏坂、原耕地、宮ノ窪、南原、字一、東谷戸、大道祖神、西谷戸淵ノ上、中原

		足			郡									
村	川	村田松		村澤土	村多々比	村根大	村							
		向原	山北	松田	下吉澤	比々多村		大根						
	向原消防組	山北消防組	松田消防組	下吉澤消防組	比々多村消防組	大根消防組								
組頭	消防手頭	消防手頭	消防手頭	消防手頭	消防手頭	消防手頭	消防手頭							
一人	六十二人	六十二人	百五十人	六十九人	八十二人	八十一人								
第一部	第二部	第一部	第二部	第一部			第七部							
同	同	同	同	同			同							
三十人	三十人	三十人	三十人	四十人	五十二人	六十人	三十二人							
土佐屋敷、間瀬、水上澤、馬達戸、西ノ上、並松、押出、高瀬	上木村、下木村、中里、村雨	下鷲鷹	安洞、流入、西耕地、上ノ臺、上鷲鷹	梶山ノ内一部	鶴野、清水、万隨、堂山、堀込、宮地、	馬場、萩原、竹内、臺、杉ノ木、梶山ノ内一部	神山	松田總領	松田熊子	下吉澤	神戶、串橋	大根村落幡	經	德延

第十五類保安 第七章 消防

郡														
福	村田金	村			本			岡			寄			村
	金田村消防組	岡本消防組			寄消防組			消防手二百二十八人						
消防手	組頭 一人 四十人	組頭 一人 二十人	組頭 一人 二十人	組頭 一人 二十人	組頭 一人 二十人	組頭 一人 二十人	組頭 一人 二十人	組頭 一人 二十人	組頭 一人 二十人	組頭 一人 二十人	組頭 一人 二十人	組頭 一人 二十人	組頭 一人 二十人	組頭 一人 二十人
第一部		第六部	第五部	第四部	第三部	第二部	第一部	第四部	第三部	第二部	第一部	第六部	第五部	第四部
消防手	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
四十人	三十五人	三十二人	三十二人	三十二人	三十二人	三十二人	三十二人	四十二人	五十二人	八十二人	八十二人	三十三人	三十九人	四十二人
大字竹松	金田村	和田河原	炭焼所、駒形新宿	三竹山	沼田	岩原	塚原	登沼	虫澤、田代	中山、宇津茂、土佐原	彌勒寺、宮地	鬼柳	西大井	上大井

第十五類保安 第七章 消防

上													
我	曾	村田山	村野秦上			村							
		山田消防組	上秦野消防組			中村消防組							
消防手	組頭 一人 十二人	組頭 一人 五十人	組頭 一人 八人	組頭 一人 八人	組頭 一人 八人	組頭 一人 二十人	組頭 一人 二十人	組頭 一人 二十人	組頭 一人 二十人	組頭 一人 二十人	組頭 一人 二十人	組頭 一人 二十人	
第一部			第四部	第三部	第二部	第一部	第九部	第八部	第七部	第六部	第五部	第四部	第三部
消防手	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
二十人	二十人	四十人	五十人	五十人	八十二人	五十三人	三十六人	七十二人	三十三人	三十四人	八十四人	三十九人	三十八人
曾我大澤	曾我	下大井	山田村	八澤	三廻部	菅浦	柳川	境別所	境村	鴨澤	古怒田	松本、雜色、比奈窪、岩倉	藤澤

足												
前	國津府國	村	句	酒	町	原	田	小	村	澤		
	國府津消防組		酒句消防組		小田原消防組				福澤村消防組			
組頭	小組頭 消防手 百六十一人		小組頭 消防手 百八十一人		小組頭 消防手 二百二十二人				小組頭 消防手 百六十四人			
一人	第一二部	第一二部	第一二部	第一二部	第一二部	第一二部	第一二部	第一二部	第一二部	第一二部	第一二部	第一二部
	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
	六十人	四十人	六十人	六十人	六十人	六十人	六十人	六十人	六十人	六十人	六十人	六十人
	向原、町屋	國府津村	山王原	網一色	酒句	小八幡	綠町	十字町	幸町	新玉町	鷹年町	大字怒田ノ内 下怒田

柄												
村	中	府	上	村	我	曾	下	村	中	下	村	羽
		上府中消防組			下曾我消防組				下中消防組			前羽村消防組
		組頭 小頭 消防手 百三十二人			組頭 小頭 消防手 百七十二人				組頭 小頭 消防手 二百四十三人			小頭 消防手 百五十人
		一人			一人				一人			六人
		第一二部			第一二部				第一二部			第一二部
		同			同				同			同
		三十八人			三十八人				三十八人			三十八人
		西大友			曾我岸				曾我原			西前川、仲ノ宿

第十五類保安 第七章消防

				下								
				村濱吉	村浦福	村岩	村真	村川早	村窪大	元箱根	箱根町	仙石原
				吉濱消防組	福浦消防組	岩村消防組	真鶴消防組	早川消防組	大窪消防組	元箱根消防組	箱根消防組	仙石原消防組
				消防小組 手頭百九十五人	消防小組 手頭六十二人	消防小組 手頭六十二人	消防小組 手頭百五十六人	消防小組 手頭六十五人	消防小組 手頭六十四人	消防小組 手頭三十二人	消防小組 手頭五十二人	消防小組 手頭二十五人
第一部	第三部	第二部	第一部									
同	同	同	消防小組 手頭									
六十三人	五十二人	二十五人	百二十四人									
門川	鍛冶屋	川堀	吉濱	福浦村	岩村	真鶴村	早川村	大窪村	元箱根村	箱根町	仙石原村	

第十五類保安 第七章消防

村泉温	村本湯	村野久	村子苜	村川二	村川豐	村島田
温泉消防組	湯本消防組	久野消防組	苜子消防組	二川消防組	豐川消防組	田島消防組
消防小組 手頭百五十一人	消防小組 手頭百三十六人	消防小組 手頭九十三人	消防小組 手頭四十五人	消防小組 手頭七十六人	消防小組 手頭八十二人	消防小組 手頭三十二人
第二部	第一部	第二部	第一部	第二部	第一部	第一部
同	同	同	消防小組 手頭	同	同	消防小組 手頭
四十二人	六十三人	三十二人	八十四人	三十一人	四十三人	三十一人
大平臺	底倉	塔ノ澤	湯本村	久ノ上	字申宿	舟ヶ原
			苜子村	多古	井細田	桑原
					成田	飯泉
						田島村

第十五類保安 第七章 消防

愛											郡			
村			野			荻			町		厚		野宮	村
荻野消防組									厚木消防組		宮城野村消防組			
組頭 一人			小頭 十二人			消防手 二百人			組頭 一人		小頭 十四人	消防手 百六十一人	組頭 一人	消防手 百七十人
第一部	第四部	第三部	第二部	第一部	第七部	第六部	第五部	第四部	第三部	第二部	第一部		第四部	第三部
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	消防手	同	同
五十人	五十人	五十人	五十人	五十人	二十三人	二十三人	二十三人	二十三人	二十三人	二十三人	二十三人	二十三人	四十人	五十人
小字北原、楠ノ北部	下荻野	中荻野	同 南部	上荻野ノ内北部	同 字下町	同 字仲町	同 字天王町	同 字天王町	同 字上裏町	同 字上町	厚木町字横町	宮城野村一圓	江之浦	根府川

第十五類保安 第七章 消防

浦	片	村本湯	村			足	村中府下	村	肥	土	
片浦村消防組	畑宿消防組	久野消防組	多古消防組	井細田消防組	荻窪消防組	下府中消防組		土肥消防組			
組頭 一人	消防手 三十七人	消防手 八十四人	消防手 二十七人	消防手 三十七人	消防手 三十七人	消防手 六十二人		組頭 一人	小頭 十三人	消防手 二百四十五人	
第二部	第一部	第二部	第一部					第五部	第四部	第三部	第二部
同	消防手	同	消防手					同	同	同	同
四十人	四十人	四十人	四十人					五十人	三十人	四十五人	六十人
米神	石橋	畑宿	久野字中宿	久野字欠ノ上	大字井細田	大字荻窪	鴨宮、上新田、中新田、下新田	宮上ノ内 湯河原	城堀	宮上	宮下

第十五類保安 第七章 消防

甲														
高 峰			村 川 愛			村 津			中					
高 峰 消 防 組			牛 原 消 防 組			愛 川 消 防 組			中 津 消 防 組					
組 頭 一 人 小 頭 二 十 三 人 消 防 手 二 百 十 三 人			組 頭 一 人 小 頭 八 十 一 人 消 防 手 百 八 十 一 人			組 頭 一 人 小 頭 八 人 消 防 手 百 人			組 頭 一 人 小 頭 十 八 人 消 防 手 三 百 七 十 五 人					
第 三 部	第 二 部	第 一 部	第 二 部	第 一 部	第 二 部	第 一 部	第 九 部	第 八 部	第 七 部	第 六 部	第 五 部	第 四 部	第 三 部	第 二 部
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
四 十 五 人	三 十 六 人	七 十 二 人	九 十 五 人	八 十 六 人	五 十 四 人	五 十 四 人	三 十 二 人	三 十 五 人	四 十 二 人	五 十 二 人	五 十 二 人	三 十 二 人	四 十 二 人	五 十 二 人
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同 村 角 田 内 箕 輪	同 村 角 田 内 小 澤	高 峯 村 三 增 内 下 部	宮 本	川 北	同 平 山、館 山、上 河 内 一 部、下 河 内、道 入、上 原、下 原	同 平 山、館 山、上 河 内 一 部、大 内 出、下 田 代、殘 草、西 原、上 田 代、關 口	小 字 大 塚、大 塚 前	小 字 諏 訪 東、上 六 倉、下 六 倉	小 字 坂 本、金 山	小 字 稻 荷 前、神 田 前、若 宮	小 字 二 井、二 井 坂	八 管 山、小 字 下 平	小 字 北 下 谷、南 下 谷、尾 山	小 字 松 臺、楠 南 部

第十五類保安 第七章 消防

村 南 毛 利 村														
小			村 利 毛 南			村			妻 田					
小 鮎 消 防 組			南 毛 利 村 消 防 組			妻 田 消 防 組			妻 田 消 防 組					
組 頭 一 人 小 頭 四 十 五 人			組 頭 一 人 小 頭 四 十 人 消 防 手 三 百 七 十 二 人			組 頭 一 人 小 頭 五 十 一 人 消 防 手 四 十 一 人			組 頭 一 人 小 頭 五 十 一 人 消 防 手 四 十 一 人					
第 五 部	第 四 部	第 三 部	第 二 部	第 一 部	第 八 部	第 七 部	第 六 部	第 五 部	第 四 部	第 三 部	第 二 部	第 一 部	第 四 部	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
四 十 三 人	八 十 二 人	五 十 九 人	六 十 六 人	六 十 六 人	五 十 五 人	二 十 九 人	五 十 七 人	五 十 五 人	三 十 八 人	四 十 五 人	六 十 六 人	四 十 七 人	六 十 六 人	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
同 飯 山 内 上 飯 山	同 飯 山 内 中 飯 山	同 飯 山 内 日 枝 部 落	同 飯 山 内 臺	大 字 飯 山 内 千 頭	妻 田	愛 甲 一 圓	船 子 一 圓	長 谷 一 圓	愛 名 一 圓	下 溫 水 一 圓	上 溫 水 一 圓	恩 名 一 圓	戸 室 一 圓	同 村 角 田 内 角 田

第十五類保安 第七章 消防

井		久				
南湖	村連日	村倉名	村長木千	驛瀨與	村	
葉山島消防組	日連消防組	名倉消防組	千木長消防組	與瀨驛消防組		
消防小組頭 四十四人	消防小組頭 九十一人	消防小組頭 九十一人	消防小組頭 百七十二人	消防小組頭 百七十八人		消防手三百八十二人
	第三部	第二部	第一部	第三部	第二部	第一部
	同	同	同	同	同	消防手頭
	三十六人	三十二人	三十一人	十八人	二十八人	四十五人
葉山島	宇勝瀨	宇日連、青田、荒倉	宇杉	大刀	名倉	葛原、日向、芝田
					千木長村	與瀨驛
					同 穴川、風間、瀧尻、雨降	同 小松
					同 町屋、須南	同 原宿

第十五類保安 第七章 消防

津				郡			
尻川	驛野吉	村野中	ケ外谷煤	ケ村	村		
川尻消防組	吉野消防組	中野消防組	煤ヶ谷村消防組	ケ外谷煤	村		
消防小組頭 十六人	消防小組頭 二十二	消防小組頭 五十八人	消防小組頭 十九人	消防小組頭 十九人			消防手四百八十四人
第四部	第三部	第二部	第一部	第三部	第二部	第一部	第九部
同	同	同	同	同	同	同	同
三十二人	八十三人	四十七人	四十五人	五十三人	五十八人	五十八人	五十四人
同 向原、山野	同 久保澤	同 谷ヶ原	小字畑久保、都井澤	吉野驛	森戸、中村	上町、不津倉	奈良井、大澤、川坂
						下煤ヶ谷村	中煤ヶ谷村
						上煤ヶ谷村	ノ内、平山下
						大字下古澤ノ内	大字下古澤ノ内
						下分、大字飯山	上分、中分
						大字上	同 飯山ノ内
							原、旗ヶ谷

郡				
村	小原町	鳥屋村	青野	原
小倉消防組	小原消防組	鳥屋消防組	東消防組	西消防組
組頭	組頭	組頭	組頭	組頭
六十八人	六十七人	五十三人	五十一人	五十一人
小倉	小原町	鳥屋村一圓	字前戸、梶野、青野原	字長野、西之野

消防組ニ關シ市役所處辨方

(明治二十七年五月七日) 訓令第三十九號

市役所

消防組ニ關シ警察署長又ハ分署長ヨリ左ノ事項ニ付通牒ヲ受ケタルトキハ其事務ヲ處辨スヘシ

- 一 消防組ニ要スル諸建物ノ設備及其修繕ニ關スルコト
- 二 消防器具ノ設備修繕其他備品消耗品ニ關スルコト
- 三 被服其他諸手當賞與ノ給與ニ關スルコト

消防組ニ關シ町村長處辨方

(明治二十七年五月七日) 訓令第三十八號

火番取締規則

(明治三十七年一月十三日) 縣令第五號

(沿革) 明治四一年九月縣令第七八號改正
火番取締規則左ノ通之ヲ定ム

- 一 消防組ニ要スル諸建物ノ設備及其修繕ニ關スルコト
- 二 消防器具ノ設備修繕其他備品消耗品ニ關スルコト
- 三 被服其他諸手當賞與ノ給與ニ關スルコト

第一條 本則ニ於テ火番ト稱スルハ個人ニ於テ火災及竊盜豫防又ハ消防ノ爲道路ヲ巡視シテ各自ヲ警戒スルモノヲ云フ

第二條

多衆共同シテ組合ヲ組織シ火番ヲ設ケムトスルトキハ左記事項ヲ具シ組合員又ハ總代ヨリ所轄警察官署ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

- 一 費用ノ徵收方法
- 二 經費ノ支出方法
- 三 火番人ノ勤務方法
- 四 總代及事務取扱者ノ氏名
- 五 組合員ノ氏名

第三條 左ノ場合ニ於テハ十日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

一 第二條第一號乃至第四號ニ異動アリタルトキ

一 火番人ヲ選定シタルトキ及異動アリタルトキ

第四條 警察官ハ火番人ノ勤務ヲ指揮監督スルコトアルヘシ

第五條 警察官署ハ素行不良又ハ不精勤ト認ムル火番人ノ勤務ノ停止又ハ禁止ヲ命スルコトヲ得

第六條 警察官署ハ公益ニ反シ又ハ公安ヲ害スルト認ムルトキハ火番組合ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第七條 本則第二條又ハ第三條ニ違背シタル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十日未滿ノ科料ニ處ス

第八條 本則ハ明治三十七年二月一日ヨリ施行ス

第十五類 保安 第八章 營業

第九條

從前設置シタル火番ハ本則施行ノ日ヨリ一个月以内ニ本則第二條ノ手續ヲ爲スヘシ

第八章 營業

古物商取締法ニ關スル施行規則

(明治二十八年八月二十四日) 縣令第二十號

(沿革) 明治三二年七月縣令第五五號、三九年四月同第二三號、四一年二月同第一七號改正

古物商取締法ニ關スル施行規則左ノ通之ヲ定ム

古物商取締法ニ關スル施行規則

第一條 古物商取締法及同細則ニ據ル願書又ハ届書ハ管轄警察署長分署長ニ差出スヘシ

第二條 左ノ營業者ニシテ隨時其營業ニ屬スル古物ヲ賣買交換スルトキハ古物商取締法及細則並ニ此ノ施行規則ヲ遵守スヘシ

- 一 煙管商
- 一 兩替商

第三條 古物商營業願書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 營業物品ノ種類
- 一 營業者ノ住所、氏名、年齢但シ法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所及在地及代表者ノ住所、氏名、年齢ヲ記シ定款ヲ添付スヘシ

第十五類 保安 第八章 營業

- 三 營業所又ハ店舗ノ所在地
- 四 營業者又ハ法人代表者前三ケ年内ノ營業種類及當時ノ住所並ニ廢業ノ年月日若シ族籍、氏名、住所ヲ變更シタル者ハ其舊族籍、氏名、住所、變更ノ年月日
- 五 營業者死亡シ許可ノ效力ヲ失シタルニ由リ願出ル者ナルトキハ其ノ繼續者タルノ事由
- 第四條 營業物品ノ種類ヲ増加シ又ハ變更セムトスルトキハ其ノ種類ヲ記シ願出ヘシ
- 營業物品ノ種類ヲ減シタルトキハ十日以内ニ届出ヘシ
- 第五條 (削除)
- 第六條 古物商取締法細則第三條ニ據ル届書ニハ管理人ノ住所、氏名、年齢及前三ケ年内ノ營業種類並ニ當時ノ住所ヲ詳記スヘシ
- 管理人ノ住所氏名ニ異動アリタルトキハ十日以内ニ届出ヘシ
- 第七條 古物商取締法細則第八條ニ據リ行商又ハ露店ノ鑑札ハ第二號様式ニ據リ調製シ攜帶者ノ住所、氏名、年齢ヲ記シタル書面ヲ以テ管轄警察官署ニ願出烙印ヲ受クヘシ但シ鑑札調製ノ費用ハ營業者ノ負擔トス
- 露店鑑札ハ見易キ場所ニ標出スヘシ
- 第八條 行商又ハ露店ノ鑑札ヲ亡失、毀損又ハ文字ノ不明ニ至リタルトキハ管轄警察官署ニ其ノ事由ヲ届出更ニ鑑札ノ烙印ヲ受クヘシ

鑑札面記載ノ事項ニ異動ヲ生シ又ハ廢業シタルトキハ十日以内ニ届出鑑札ノ更正若ハ消印ヲ受クヘシ

第九條 古物商ハ左ノ帳簿ヲ製シ使用前ニ管轄警察官署ニ差出し檢印ヲ受ケ事故ノ生シタル都度之ヲ記載スヘシ但シ番號ハ毎年之ヲ改ムヘシ

- 一 物品買入讓受明細帳

此ノ帳簿ニハ物品ノ種類、品名、品質、模様、番號、賣主若ハ讓渡主ノ住所、氏名、代價、年月日及買受、讓受、交換ノ事由ヲ記載スヘシ但シ營業物品ノ種類ニ依リ帳簿ヲ區別シ又ハ一帳簿ヲ數口ニ分チ記載スルトコトヲ得

番號ハ物品毎ニ附スヘシト雖モ同一ノ物品ニシテ其ノ賣渡讓渡人同一同時ナルトキハ數點ヲ合シテ一號ノ下ニ記載スルトコトヲ得

- 一回住所、氏名ヲ詳記シタルトキハ其ノ以後ニ在テハ單ニ其ノ氏名ノミヲ記載スルトコトヲ得
- 證人アルトキハ其ノ住所、氏名又警察官署ノ認可ヲ受ケタルトキハ其ノ事由ヲ記スヘシ
- 自用ノ物品又ハ寄藏ノ物品ヲ賣品ニ供スルトキハ其ノ種類、品名、品質、模様、番號、年月日及其ノ事由ヲ記載スヘシ
- 買受、讓受ケタル物品ヲ改造又ハ變造若ハ分解シタルトキハ其ノ事由ヲ記載スヘシ

物品買入讓渡明細帳

- 一 組合加入及退去手續
 - 一 組合費用收支方法及精算方法
 - 一 組合規約違反者處分方法
 - 一 前各號ノ外組合ニ於テ必要ト認ムル事項
 - 第十三條 組合事務所ニハ複寫用器具ヲ備ヘ置キ警察官署ヨリ品觸ヲ受ケタルトキハ直ニ謄寫シ同業者ニ配付スヘシ但シ印刷及送達等ニ關スル費用ハ組合ノ負擔トス
 - 前項品觸書ハ隨時編纂シ六ヶ月間保存スヘシ
 - 第十四條 一 本則第四條第二項、第六條第二項、第七條第二項、第八條、第九條、第十條ニ違背シタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
 - 第十四條ノ二 法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者、法人ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタルトキハ前條ノ規定ヲ法人ノ代表者ニ適用ス
 - 附則
 - 第十五條 古物商取締法實施前ニ許可ヲ受ケ現ニ開業スル古物商ハ更ニ許可ヲ受ケスシテ其ノ效力ヲ有ス
 - 第十六條 古物商取締法實施前ニ警察官署ノ檢印ヲ受ケタル帳簿ハ明治二十八年十二月三十一日マテ其ノ效力ヲ有ス但シ記載方ハ本則第九條ノ規定ニ據ルヘシ
- 此ノ帳簿ニハ買却若ハ交換ニ因テ讓渡シタル物品ノ番號(物品買入讓受明細帳ニ記シタル)代價若ハ交換物品ノ番號及其ノ年月日ヲ記載スヘシ又買主讓受主ヲ詳ニスルヲ得タルトキハ其ノ住所、氏名ヲ記載スヘシ
- 賣品ヲ自用ニ供シ若ハ無償ニテ他人ニ讓渡シタルトキハ其ノ種類、品名、品質、模様、番號、年月日及其ノ事由ヲ記載スヘシ
- 第十條 行商、露店及市場ノ營業ニ從事スルトキハ第九條ニ規定スル帳簿ヲ攜帶シ取引ノ都度記載スヘシ
- 第十一條 傳染病毒ニ汚染シタル物品ナリト認ムルノヲ消毒ノ上買受ケ讓受ケタルトキ又ハ買受ケ讓受ケヲ欲セザルトキハ直チニ警察官署ニ申告スヘシ
- 第十二條 古物商營業者ハ警察官署ノ管轄區域毎ニ同業組合ヲ組織シ事務所ヲ設ケ取締役ヲ選定シ所轄警察官署ニ届出ツヘシ之レヲ變更シタルトキ亦同シ
- 組合ハ規約ヲ定メ所轄警察官署ニ届出テ認可ヲ受クヘシ之レヲ變更シタルトキ亦同シ
- 規約ニ規定スヘキ事項概ネ左ノ如シ
- 一 組合會議ノ方法
 - 一 取締役ノ人員選舉ノ方法及其ノ任期
 - 一 取締役ノ職務
 - 一 取締役以下ノ報酬

第十五類 保安 第八章 營業

第一號様式

年月日許可
古物商
道具 銅鐵
吳服 金物
何々 何々
住所屋號
氏名

二箇所以上ノ營業所又ハ店舗ヲ設クルモノハ住所氏名ノ外其ノ營業所又ハ店舗タルコトヲ明記スヘシ

第二號様式

竪七寸

烙番號
年月日許可
露店(行商)
古物商 道具 書畫
何々 何々
住所
氏名

家族雇人ナルトキハ營業者ノ氏名ヲ肩書ニシ家族雇人タルコトヲ明記スヘシ

古物商取締法施行手續

(明治二十八年八月二十九日)
 廳訓第五百五十五號

(沿革)明治三〇年四月廳訓第一一八號、三三年三月同第五二號、四一年二月訓令第六號改正
 警察署 警察分署

古物商取締法施行手續左ノ通之ヲ定ム
 右訓令ス

古物商取締法施行手續

- 第一條 古物商取締法第二條物品ノ種類ハ概ネ左ノ如シ
 道具 書籍 書畫 古著 金銀 吳服 金物 袋物 小間物 鼈甲 時計 飾屋 煙管 刀劍
- 第二條 古物商營業ノ願出アリタルトキハ施行規則第三條ノ各項ヲ審査シ免許證ヲ下附スヘシ
- 第三條 左ノ事項ノ一ニ該當スル者ハ概ネ古物商營業者又ハ其管理人若ハ法人ノ代表者タルヲ得サルモノトス但シ特別ノ免許ヲ與フルノ必要アル場合ハ其事由ヲ具シ知事ノ指揮ヲ受クヘシ
 一 未成年者又ハ白痴瘋癲者ニシテ後見人ナキ者
 二 營業停止ノ處分ヲ受ケ未タ解停セラレサルニ廢業シ三ケ年ヲ經過セサル者
 三 盜罪詐欺取財其他贓物ニ關スル罪ヲ犯シ刑期滿限後三ケ年ヲ經過セサル者
 四 他人ノ名義ヲ藉ル者
- 第四條 營業ヲ免許セサルトキハ其事由ヲ具シ〔警部長〕ヘ報

告スヘシ

- 第五條 古物商取締法細則第九條古物ノ市場ヲ認可セントスルトキハ知事ノ指揮ヲ承クヘシ
- 第六條 帳簿ノ檢印ヲ願出タルトキハ帳簿ノ初葉ニ紙數、年月日及署名ヲ記シ檢印シ尙ホ帳簿ノ側面ニハ三ヶ所以上檢印シ紙數ノ抜キ挿シヲ防クヘシ
- 第七條 施行規則第十一條ノ申告アリタルトキハ速ニ現品ニ就キ監査シ消毒未濟又ハ不充分ト認ムルトキハ嚴密ニ消毒ヲ施サシムヘシ
- 第八條 帳簿廢棄ノ願出アリタルトキハ其帳簿ノ種類及附込終了月日ヲ調査シ四ヶ年ヲ經過シタルモノナルトキハ帳簿ノ檢印ヲ消シ口頭ヲ以テ許可スル旨ヲ示シ願書ニハ許可ノ年月日ヲ記入シ署名認印スヘシ
- 第九條 古物商取締法第十三條第二項物品ノ領置證書ハ第二號様式ニ依ルヘシ
- 第十條 古物商取締法第十四條ニ據リ營業ヲ禁止又ハ停止スルノ必要アリト認ムルトキハ法律命令ニ違犯シタル事實及平素ノ行狀ヲ審ニシ知事ニ具申スヘシ
- 第十一條 營業禁止ヲ受ケタル者一ヶ年以上ヲ經過シ檢改ノ狀顯著ニシテ禁止ヲ解クヘキモノト認ムルトキハ知事ニ具申スヘシ
- 第十二條 古物商取締法第十七條ニ據ル命令書ハ第三號様式ニ據ルヘシ

第十三條 組合規約ノ届出アリタルトキハ之ヲ調査シ其寫ヲ添ヘ速ニ知事ニ報告スヘシ

第一號様式(創除)

第二號様式

住所(營業所又ハ店舗)
 古物商 氏名

一何々 何點

住所(營業所又ハ店舗)
 古物商 氏名

一何々 何點

住所(營業所又ハ店舗)
 古物商 氏名

右ハ何々犯罪ノ嫌疑アル物品(又ハ何所何某ノ遺失物)ト認ムルニ付之ヲ領置スルモノナリ

警察署
 警部 氏名

第三號様式

住所(營業所又ハ店舗)
 古物商 氏名

一何々 何點

住所(營業所又ハ店舗)
 古物商 氏名

一何々 何點

住所(營業所又ハ店舗)
 古物商 氏名

右ハ遺失物(又ハ贓物)タルコト何々ニ由リ明晰ナリ依テ被害者タル住所氏名ニ還付スル爲メ(又ハ然ルニ被害者判明セサルニ付法第十七條ニ依リ徵收シ二ヶ年間領置ス、之ヲ押收ス年 月 日 何警察署

●質屋取締法ニ關スル施行規則

(明治二十八年八月二十四日) 縣令第二十一號

(沿革) 明治三二年七月縣令第五六號、三九年四月同第二二

號

質屋取締法ニ關スル施行規則左ノ通之ヲ定ム

質屋取締法ニ關スル施行規則

第一條 質屋取締法及同細則ニ據ル願書又ハ届書ハ管轄警察

署長分署長ニ差出スヘシ

第二條 質屋營業願書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 營業者ノ住所、氏名、年齢

二 營業店舗ノ所在地

三 前三ケ年内ノ營業種類及當時ノ住所並ニ廢業ノ年月日

若シ族籍、氏名、住所ヲ變更シタルモノハ其ノ舊族

籍、氏名、住所變更ノ年月日

四 營業者死亡ニ由リ許可ノ效力ヲ失シタルモノナルトキ

ハ其ノ營業繼續者タルノ事由

第三條 管理人ノ届書ニハ其ノ族籍、住所、氏名、年齢、管

理スヘキ支店及前三ケ年内ノ營業ノ種類並ニ當時ノ住所ヲ

詳記スヘシ

管理人ノ住所、氏名ヲ變更シタルトキハ十日以内ニ届出

シ

第五條 質屋ハ左ノ帳簿ヲ製シ使用前ニ管轄警察署ニ差出

シ檢印ヲ受ケ事故ノ生シタル都度之ヲ記載スヘシ但シ番號

ハ毎年之ヲ改ムヘシ

一 質物臺帳

此ノ帳簿ニハ質物ノ種類、品名、品質、模樣、番號(物品毎ニ

スヘシト雖モ一人一回ニ數點ヲ質入ス) 貸金額質入主及

ルトキハ一號ノ下ニ記載スルコトヲ得) 貸金額質入主及

質使人ノ住所、氏名、質入、受戻、入換、流質ノ年月日

及利子ノ割合ヲ記スヘシ但シ一回住所、氏名ヲ詳記シタ

ルトキハ其ノ以後ニ於テハ單ニ氏名ノミヲ記スルモ妨ケ

ナシ證人アルトキハ其ノ住所、氏名又警察官吏ノ認可ヲ

受ケタルトキハ其ノ事由ヲ記スヘシ

一流質物賣拂帳

此ノ帳簿ニハ賣却シタル流質物ノ種類、品名、品質、模

樣、番號(質物臺帳ノ番號) 代價、買主ノ住所氏名、賣却

ノ年月日ヲ詳記スヘシ

流質物ヲ自用ニ供スルトキハ其ノ種類、品名、品質、模

樣、番號年月日及其ノ事由ヲ記載スヘシ

第六條 質札及通帳ニハ質屋取締法細則第七條ニ據ルノ外質

屋取締法第六條ノ事項ヲ記載スヘシ但シ質札及通帳ニハ質

屋臺帳ニ記載スル番號ヲ記スヘシ

第七條 帳簿廢棄ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ其ノ帳簿ノ種

類及附込終了月日ヲ記シタル願書ニ帳簿ヲ添ヘ管轄警察官

署ニ差出スヘシ

第八條

質屋營業者ハ警察官署ノ管轄區域毎ニ同業組合ヲ組

織シ事務所ヲ設ケ取締役ヲ選定シ所轄警察官署ニ届出ツヘ

シ之レヲ變更シタルトキ亦同シ

組合ハ規約ヲ定メ所轄警察官署ニ届出テ認可ヲ受クヘシ之

レヲ變更シタルトキ亦同シ

規約ニ規定スヘキ事項概ネ左ノ如シ

一 組合會議ノ方法

一 取締役ノ人員選舉方法及其ノ任期

一 取締役ノ職務

一 取締役以下ノ報酬

一 組合加入及退去手續

一 組合費用收支方法及精算方法

一 組合規約違反者處分方法

前各號ノ外組合ニ於テ必要ト認ムル事項

第九條 質屋取締法第六條ニ列記スル事項ハ管轄警察官署ニ

届出ヘシ其ノ變更シタルトキ亦同シ但シ組合ヲ設ケタルト

キハ其ノ組合ヨリ届出ルコトヲ得

第十條 傳染病毒ニ汚染シタル物品ナリト認ムルモノヲ消毒

ノ上質ニ取リタルトキ又ハ之ヲ質ニ取ルコトヲ欲セサルト

キハ直チニ警察官吏ニ申告スヘシ

第十一條 組合事務所ニハ複寫用器具ヲ備ヘ置キ警察官署ヨ

リ品觸ヲ受ケタルトキハ直ニ謄寫シ同業者ニ配付スヘシ但

シ印刷及送達等ニ關スル費用ハ組合ノ負擔トス

第十五類 保安 第八章 營業

前項品觸書ハ隨時編纂シ六個月間保存スヘシ

第十二條 本則第三條第二項、第六條、第九條ニ違背シタル

者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

附則

第十三條 質屋取締法實施前ニ許可ヲ受ケタル質屋ニシテ現

ニ開業スル者ハ更ニ許可ヲ受ケスシテ其ノ效力ヲ有ス

第十四條 質屋取締法實施前ニ管轄警察官署ノ檢印ヲ受ケタ

ル質屋臺帳及流質物賣拂帳ハ明治二十八年十二月三十一日

マテ其ノ效力ヲ有ス但シ記載事項ハ本則第五條ノ規定ニ據

ルヘシ

●質屋取締法施行手續

(明治二十八年八月二十九日)

廳訓第五百五十六號

(沿革) 明治三〇年四月廳訓第一一八號、三三年三月同第五

三號改正

質屋取締法施行手續左ノ通之ヲ定ム

右訓令ス

警察署 警察分署

第一條 質屋取締法施行手續

項ヲ審查シ免許證ヲ下付スヘシ

第二條 左ノ事項ノ一ニ該當スル者ハ概ネ質屋營業者又ハ其

管理人タルコトヲ得サルモノトス但シ特別ノ免許ヲ與フル

第十五類 保安 第八章 營業

ノ必要アル場合ハ其事由ヲ具シ知事ノ指揮ヲ承クヘシ

- 一 未成年者又ハ白痴癡癲者ニシテ後見人ナキ者
二 營業停止ノ處分ヲ受ケ未タ解停セラレサルニ廢業シ三ケ年ヲ經過セサル者
三 盜罪詐欺取財其他贓物ニ關スル罪ヲ犯シ刑期滿限後三ケ年ヲ經過セサル者
四 他人ノ名義ヲ藉ル者

第四條 帳簿ノ檢印ヲ願出タルトキハ帳簿ノ初葉ニ紙數年月日及署名ヲ記シ檢印シ尙帳簿ノ側面ニハ三ヶ所以上檢印シ紙數ノ抜キ挿シヲ防クヘシ

第五條 帳簿廢棄ノ願出アリタルトキハ其帳簿ノ種類及附込終了年月日ヲ調査シ四ヶ年以上經過シタルトキハ帳簿ノ檢印ヲ消シ口頭ヲ以テ許可スル旨ヲ示シ願書ニハ許可ノ年月日ヲ記入シ署長認印スヘシ

第六條 施行規則第十條ノ申告アリタルトキハ速ニ現品ニ就キ監査シ消毒未濟又ハ不充分ト認ムルトキハ監密ニ消毒ヲ施サシムヘシ

第七條 質屋取締法第十五條第二項ニ據ル領置證書ハ第二號様式ニ依ルヘシ

第八條 質屋取締法第十六條ニ據ル命令書ハ第三號様式ニ依ルヘシ

第九條 質屋取締法第十八條ニ據リ營業ヲ禁止又ハ停止スルノ必要アリト認ムルトキハ法律命令ニ違犯シタル事實及平素ノ行狀ヲ審ニシ知事ニ具申スヘシ

第十條 營業禁止ヲ受ケタル者一ケ年ヲ經過シ檢改ノ狀顯著ニシテ禁止ヲ解クヘキモノト認ムルトキハ其事由ヲ知事ニ具申スヘシ

第十一條 組合規約ノ届出アリタルトキハ之ヲ調査シ其寫ヲ添ヘ速ニ知事ニ報告スヘシ

第一號様式(削除)
領置證
住所(營業所又ハ店舗)
質屋 氏 名

一何々 何點
住所(營業所又ハ店舗)
質屋 氏 名

一何々 何點
住所(營業所又ハ店舗)
質屋 氏 名

一何々 何點
住所(營業所又ハ店舗)
質屋 氏 名

一何々 何點
右ハ遺失物(又ハ贓物)タルコト何々ニ由リ明晰ナリ依テ被害者タル住所氏名ニ還付スル爲メ(又ハ然ルニ被害者判明セサルニ付法第十六條二項ニ依リ徵收シ二ケ年間領置ス)之ヲ押收ス
年 月 日
神奈川縣何警察署
警部 氏 名

諸印版取締規則

(沿革)明治十四年三月十二日(明治十四年三月十二日)
(布達甲第三十七號)
年同第一四三號、二〇年一〇月縣令第四六號、二二

今般諸印版取締規則左之通制定來ル五月一日ヨリ施行候條此旨布達候事
諸印版取締規則

第一條 印刷板木活版銅版燒印石版等ノ業ヲ營ム者及ヒ其他ノ者ト雖モ若シ官廳外ヨリ官ノ文書及印影ノ彫刻印刷ヲ頼ム者アルトキハ其住所氏名ヲ聞取り其著手前直ニ所管警察署又ハ分署ニ届出指揮ヲ受クヘシ
但(局長)役場並ニ公立學校病院モ亦本文同様タルヘシ

第十五類 保安 第八章 營業

第二條 前條ノ營業者ハ一郡區ヲ一組トナシ一組ニ正副行事ヲ置クモノトス其行事ハ互選投票ヲ以テ之ヲ定メ其組合並ニ行事ノ氏名共所管警察署ニ届出ヘシ

但取締向ニ付費ス所ノ費用ハ各組合ニ於テ適宜ニ之ヲ定ムヘシ

第三條 行事ハ警察官ノ指揮ニ隨ヒ其郡區内營業者等ニ傳達シ及ヒ之ヲ申報スヘシ

第四條 印章ハ其印影文書ハ其書名並依囑者ノ住所氏名ヲ帳簿ニ詳記シ臨時取調ノ用ニ供スヘシ

第五條 疑數者ト見認ルトキハ最寄警察署又ハ分署ヘ密告スヘシ

第六條 此規則ニ違背シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

代書人取締規則
(沿革)明治三十九年一月三十日(縣令第二號)
改正
(明治四一年七月縣令第六四號、同年九月同第七八號)
代書人取締規則左ノ通之ヲ定ム

代書人取締規則
第一條 本則ニ於テ代書人ト稱スルハ他人ノ委託ヲ受ケ文書ノ作製又ハ代書ヲ業トスル者ヲ謂フ

第二條 代書業ヲ爲サムトスル者ハ族籍、住所、氏名、年

第十五類 保安 第八章 營業

齡、營業場所及履歷ヲ具シ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受ク

ヘシ

第三條 左ニ掲クル者ハ代書人タルコトヲ得ス

- 一 公權剝奪若ハ停止中ノ者
- 二 信用ヲ害スル罪財産ニ對スル罪誣告又ハ誹毀ノ罪ヲ犯シタル者
- 三 素行不良ト認ムル者

前項第一號第二號ニ該當スル者ニシテ改悛ノ情アリト認ムル者ハ特ニ許可スルコトアルヘシ許可ノ後第一號第二號ノ事實生シタルトキハ當然其ノ效力ヲ失フモノトス

第四條 代書人ハ左ノ行為ヲ爲スコトヲ得ス

- 一 訴訟又ハ非訟事件ニ關シ代理人トナリ又ハ補佐人タルコトヲ強請シ或ハ他人ノ紛議ニ干與シ事件ノ鑑定辯護士ノ紹介ヲ爲スコト
- 二 住所又ハ營業所ニ於テ他人ヲシテ法律事務ヲ取扱ハシムルコト
- 三 代書人ニ非サル者ヲシテ業務上ノ代理ヲ爲サシムルコト
- 四 同一事件ニ付利害ヲ異ニスル當事者雙方ノ代書ヲ爲スコト
- 五 代書事件ヲ他人ニ漏告スルコト
- 六 名義ノ如何ヲ問ハズ代書料以外ノ報酬ヲ請求又ハ受納シ其ノ他故ヲニ不必要ノ文書ヲ作製シテ代書料ヲ貪ル

七 代書ノ委託ヲ勸誘シ又ハ正當ノ事故ナクシテ代書ノ委託ヲ拒ムコト

第五條 代書人業務上ニ使用スル印影ハ豫メ所轄警察官署ニ届出代書シタル文書ノ末尾ニ署名捺印スヘシ但シ法令ニ別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六條 代書人ハ代書料ヲ定メ所轄警察官署ニ届出認可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第七條 代書人ハ左記様式ニ依リ事件簿ヲ調製シ其ノ使用前所轄警察官署ノ檢印ヲ受クヘシ

事件簿ニハ受託事件ノ名稱要領年月日文書ノ紙數料金及委託者ノ住所氏名ヲ明記スヘシ

第八條 警察官吏ハ何時ニテモ事件簿ノ檢閱ヲ爲スコトヲ得

第九條 左ノ場合ニ於テハ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出許可書ノ書換再渡又ハ返納ノ手續ヲ爲スヘシ但シ死亡ノトキハ戸籍法ニ依リ順位義務者ヨリ本項ノ手續ヲ爲スヘシ

一 氏名ヲ變更シ又ハ住所若ハ營業所ヲ移轉シタルトキ

二 許可證ヲ亡失毀損シタルトキ

三 廢業又ハ死亡シタルトキ

(沿革) 明治四一年九月縣令第七八號改正
人事周旋營業取締規則左ノ通之ヲ定ム

第一章 總則

第一條 本則ニ於テ人事周旋營業ト稱スルハ左ノ營業ヲ爲ス者ヲ謂フ

- 一 藝妓又ハ娼妓稼業者ノ周旋
- 二 雇傭者又ハ其ノ他ノ勞務者及里子ノ周旋
- 三 内外船舶乗組海員ノ周旋
- 四 商工業上ニ使用スル多數勞働者ノ周旋

第二條 人事周旋營業ヲ爲サムトスル者ハ本則ノ規程ニ從ヒ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ其ノ支店ヲ開設セムトスルトキ亦同シ但シ支店開設地ニシテ他ノ警察官署ノ管内ニ係ルトキハ本店所轄警察官署ヲ經由シ願出ヘシ

第三條 前條ノ願書ニハ左ノ事項ヲ具備スヘシ

- 一 原籍住所氏名年齢
- 二 營業ノ種目
- 三 屋號及營業所

前項營業ニシテ法人ナルトキハ其ノ名稱事務所所在地及代表者ノ氏名ヲ記シ定款ヲ添付スヘシ

第四條 未成年者禁治産者ノ願書ニハ其ノ法定代理人有夫ノ婦又ハ準禁治産者ノ願書ニハ其ノ夫又ハ保佐人ノ連署ヲ要ス

● 人事周旋營業取締規則

(明治四十年一月四日) 縣令第六號

取扱月日	件名	摘要	文書紙數	料金	委託者住所氏名

事件簿樣式

第十三條 本則施行以前ヨリ代書業ニ従事シタル者ニシテ業務ヲ繼續セムトスル者ハ明治三十九年二月十日迄ニ本則ノ規定ニ從ヒ許可ヲ受クヘシ

第十二條 本則ニ違背シタル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十圓未滿ノ科料ニ處ス

附則

出ハ新舊双方ノ警察官署ニ爲スモノトス

第十條 業務上ニ關シテハ家族又ハ雇人ノ所爲ト雖代書人其ノ責ニ任ス

第十一條 代書人本則ニ違背シ又ハ公安ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ其ノ業務ヲ停止シ又ハ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第五條 本則ノ營業者ハ左ノ區別ニ從ヒ實權又ハ抵當權ノ目的ヲササル所定ノ動產不動産ヲ所有スルコトヲ要ス

- 一 第一條第一號ノ營業者ニ在テハ時價二百圓以上ノ不動產若ハ所轄警察官署ニ於テ確實ト認メタル有價證券
- 二 第一條第二號ノ營業者ニ在テハ時價百圓以上ノ不動產若ハ所轄警察官署ニ於テ確實ト認メタル有價證券
- 三 第一條第三號ノ營業者ニ在テハ時價三百圓以上ノ不動產
- 四 第一條第四號ノ營業者ニ在テハ時價二百圓以上ノ不動產

前項ノ資産ハ出願ノトキ登記簿本又ハ土地臺帳簿本若ハ證券ヲ以テ證明シ又何時ニテモ所轄警察官署ノ要求アリタルトキ之カ説明ヲ爲スヘシ

第六條 第一條各號中營業ノ種目ヲ定メ許可ヲ受ケタル者ハ特ニ兼業ヲ禁セサル者ト雖許可ナクシテ他ノ種目ノ營業ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 營業者ハ貸座敷、引手茶屋、宿屋、料理屋、待合茶屋、飲食店、貸席、藝妓屋、遊技場其ノ他之ニ類スル營業ヲ兼ネ又ハ是等營業ホノ管理人若ハ使用人タルコトヲ得ス

第八條 營業上管理人又ハ使用人ヲ置カムトスルトキハ其ノ原籍住所氏名年齢ヲ記シ所轄警察官署ニ届出認可ヲ受ケヘシ

第十五條 營業者ハ被周旋人ノ意思ニ反シ又ハ稼業中ノ者若ハ雇傭契約期間内ノ者ヲ勸誘シ他家ニ周旋ヲ爲スヘカラス

第十六條 營業者ハ被周旋人ヨリ金錢物品ヲ預リ又ハ買受ケ若ハ物品ノ買入賣却等ノ周旋ヲ爲スヘカラス

第十七條 營業者ハ被周旋人ヲ營業所若ハ其ノ住所ニ宿泊セシムヘカラス

第十八條 營業者ハ被周旋人ノ給料前借金若ハ養育料等ノ授受ニ干與スヘカラス

第十九條 營業者ハ各所定様式ノ帳簿ヲ調製シ紙數ヲ記シ所轄警察官署ノ檢印ヲ受ケ各項目ニ該當スヘキ事由アル毎ニ之カ記入ヲ爲スヘシ

第二十條 警察官吏又ハ當事者若ハ利害關係者ニシテ營業帳簿ノ閱覽ヲ求メタルトキハ之レヲ拒絕スルコトヲ得ス

第二十一條 營業帳簿ハ營業許可ヲ取消サレ又ハ廢業シタルトキト雖二個年間之ヲ保存スルコトヲ要ス

第二十二條 營業者ハ左ニ掲クル者ノ周旋ヲ爲スヘカラス但シ第三號以下ニ該當スル者ニシテ雇主寄寓主其ノ他需用者ノ承諾ニ依リ周旋簿ニ認印ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一 未成年者ニ在リテハ法定代理人妻ニ在テハ夫ノ承諾ヲ得サル者

二 身元詳カナラサル者

三 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

第十五類 保安 第八章 營業

管理人又ハ使用人ニシテ公安秩序ヲ害スルノ虞アリト認メタルトキハ其ノ認可ヲ取消スコトアルヘシ

第九條 營業者ハ其ノ住所、氏名、屋號及營業種目ヲ記シタル看板(長二尺五寸)ヲ店頭ニ掲出スヘシ但シ第一條第三號ノ營業者ニ在テハ別ニ定ムル雜形ニ依ル

第十條 手数料額及其ノ授受ニ關スル手續ハ豫メ所轄警察官署ノ認可ヲ受ケヘシ

前項手数料額及授受ノ手續ハ營業所内見易キ場所ニ揭示スヘシ

第十一條 營業者ハ契約確定ノ後ニ非サレハ手数料又ハ其ノ内金ヲ受クルコトヲ得ス

周旋手数料ハ各當事者其ノ半額ヲ負擔ス但シ當事者双方ノ承諾アルトキハ別段ノ方法ニ依ルコトヲ得

營業者手数料ヲ領收シタルトキハ領收證ヲ交付スヘシ

第十二條 營業者ハ何等ノ名義ヲ以テスルモ手数料ノ外報酬ヲ受ケヘカラス

第十三條 營業者ハ廣告揭示其ノ他何等ノ方法ヲ問ハス事實ヲ虛構誇張シ又ハ街路公園及船車發着場所若ハ宿屋其ノ他衆人ノ出入スル場所等ニ於テ被周旋人タルヘキコトヲ勸誘シ又ハ勸誘セシムヘカラス但シ第一條第四號ノ營業者力第三十五條ノ認可ヲ得テ正當ニ募集ヲ爲スヲ妨ケス

第十四條 確實ナラサル周旋方法ヲ指示シ其ノ他虛偽ノ事實ヲ作爲シテ引受ヲナスヲ得ス

四 懷胎中ノ者

第二十三條 左ノ場合ニ於テハ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ但シ第五號ノ場合ハ戸主又ハ家族ヨリ其ノ手續ヲ爲スヘシ

一 營業者ノ原籍住所氏名屋號及營業所ヲ變更シタルトキ

二 法人ニ在テハ其ノ名稱事務所所在地、代表者氏名若ハ定款ヲ變更シタルトキ

三 法定代理人、保佐人又ハ夫カ其ノ氏名ヲ變更シ若ハ代理又ハ保佐ノ事由カ止ミタルトキ

四 休業又ハ廢業シタルトキ

五 營業者死亡シ又ハ所在不明トナリタルトキ

六 營業上ノ管理人又ハ使用人ヲ解除シタルトキ

住所又ハ營業所ヲ他ノ警察官署ノ所轄内ニ移轉シタルトキ

ハ舊所轄警察官署ニ届出ヘシ

第二十四條 本則ニ違背シ其ノ他公安秩序ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ營業ヲ許可セス許可後ト雖之ヲ禁止若ハ停止スルコトアルヘシ

第二章 藝妓又ハ娼妓稼業者ノ周旋

第二十五條 本章ノ營業者ハ他種目ノ營業ヲ兼ヌルコトヲ得ス

第二十六條 娼妓稼業者ノ周旋ヲ爲サムトスルトキハ明治三十三年十月内務省令第四十四號ニ依リ娼妓タルノ要件ヲ具フル者ニ非サレハ之カ周旋ヲ爲スヘカラス

第十五類 保安 第八章 營業

第三章 雇傭者及里子ノ周旋

第二十七條 雇傭者周旋手數料ハ雇傭者カ其ノ契約期間内ニ解雇セラルトキハ其ノ期間内ニ對スル手數料ヲ双方ニ拂戻スヘシ但シ契約力當事者自己ノ便宜又ハ過失ニ因リ解雇セラレタルトキハ其ノ當事者ハ前項ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得ス

第二十八條 周旋ヲ爲シタル雇傭者カ疾病其ノ他正當ノ事由ニ依リ雇主ヨリ身柄引取ヲ求メラレタルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十九條 第十七條ノ規定ハ營業者カ前條ニ依リ身柄引取ヲ求メラレタルトキ一時之ヲ宿泊セシムル場合ニ適用セ

第四章 内外船舶乘組海員ノ周旋

第三十條 營業者ノ願書ニハ市町村長ノ身分證明アル二名以上ノ保證人連署スルコトヲ要ス

第三十一條 營業者ハ横濱市内ニ其ノ營業所ヲ設置スルヲ要ス

第三十二條 營業者ハ支店又ハ出張所ヲ設クルコトヲ得

第三十三條 本章ノ營業者ハ他種目ノ營業ヲ兼ヌルコトヲ得

第三十四條 營業所ニハ海員手帖ハ有者ト雖直ニ海員ノ需用アルモノニ非サル旨ヲ記シ掲出スヘシ

第三十五條 營業者ハ移民取扱ニ關スル業務ヲ兼ヌルコトヲ得

第五章 商業ニ使用スル多數勞働者ノ周旋

第三十六條 紡績織布製絲又ハ其ノ他之ニ類スル事業者(以下「事業者」ヨリ申込ヲ受ケ職工又ハ其ノ他ノ勞務者ノ募集ヲ爲サムトスルトキハ其ノ十日以前ニ左ノ事項ヲ具シ双方連署ノ上所轄警察官署ニ届出認可ヲ受クヘシ)

- 一 募集ノ方法
- 二 募集地名及其ノ期間
- 三 豫定人員(男女ニ區別)
- 四 應募者往返旅費宿舍費ニ關スル方法
- 五 勞銀額及疾病死傷保護ニ關スル方法
- 六 契約年限就業時間休日並年限内解雇ニ關スル方法
- 七 賞與懲戒貯金ニ關スル方法
- 八 教育ニ關スル方法

第三十七條 職工又ハ其ノ他ノ勞務者ヲ募集シタルトキハ募集終了後五日以内ニ其ノ住所氏名年齢ヲ記シ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第三十八條 事業者ヨリ申込ヲ受クルニ非サレハ職工又ハ其ノ他ノ勞務者ヲ募集スルコトヲ得

第三十九條 他府縣下ノ事業者又ハ周旋ヲ營業トスル者若ハ其ノ委託ヲ受ケタル者ニシテ本縣下ニ於テ職工又ハ其ノ他ノ勞務者ヲ募集セムトスルトキハ募集著手前本則第三十六

條ノ各項ヲ具シ募集地所轄警察官署へ届出認可ヲ受ケ募集了リタルトキハ三日内ニ應募者ノ住所氏名年齢ヲ記シ同様届出ヘシ

第六章 罰則

第四十條 本則ニ違背シタル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十圓未滿ノ科料ニ處ス

第四十一條 營業上ノ管理人使用人ノ所爲ニ就テハ營業者其ノ責ニ任ス

第四十二條 十二歳未滿ノ者又ハ禁治産者若ハ法人ニシテ本則ニ違背シタルトキハ第四十條ノ處罰ヲ其ノ法定代理人又ハ法人ノ代表者ニ科ス

第四十三條 本則ハ明治四十年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

(第一號様式)

藝妓娼妓周旋簿

番	號	第何號
申込	年 月 日	何年何月何日
周旋	年 月 日	同上
原籍	身分	何府何郡何町何番地戸主何某(何男何女又ハ某)
住	所	何縣何市何町何番地何某方

第十五類 保安 第八章 營業

第四十四條 現在ノ雇入口入營業者及ヒ外國船乘組稼人口入營業者ニシテ引續キ營業ヲ爲サムトスル者ハ明治四十年二月一日迄ニ本則第二條ノ手續ニ依リ所轄警察官署ニ届出ヘシ此ノ期日ヲ經過シタルトキハ許可ノ效力ヲ失フモノトス

第四十五條 本則施行前ヨリ本則第一條各號ノ營業ヲ爲ス者ニシテ前條ノ規定ニ該當セサル者尙引續キ其ノ營業ヲ爲サムトスルトキハ本則施行ノ日迄ニ本則ノ規定ニ從ヒ許可ヲ受クヘシ

第四十六條 明治十八年二月甲第十四號外國船乘組稼人口入營業取締規則及明治三十一年五月神奈川縣令第十九號雇入口入營業取締規則ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

第十五類保安 第八章 營業

舊寄寓主ノ住所	何府何郡何町何番地(貸座敷藝妓屋)何某
新寄寓主ノ住所	同上
職業ノ種類	藝妓(娼妓) 就業何年何月何日
稼業ノ契約期間	何个年(月)
前借金	何程
手数	何程
規則第二十二條第三號第四號ノ事由及雇主承認印	盜罪(何々) 懷胎中 雇主承認印
事故	例令契約期間内何年何月何日廢業

(第二號樣式ノ一)

雇傭及其他ノ勞務者周旋簿

番號	第何號
雇主	囑托年月日 何年何月何日
雇人	申込年月日 何年何月何日
周旋	年月日 同上
氏名	何某 何年何月何日生
原籍	何府何郡何町何番地戶主何某(何男何女又ハ妻)

住	所	何府何郡何町何番地何某方
舊雇主ノ住所	何府何郡何町何番地何某方	
新雇主ノ住所	何府何郡何町何番地何某方	
職業ノ種類	同上	
雇人ノ種類	下婢(何々) 就業何年何月何日	
雇傭契約期間	何年(月)	
給料若ハ所得稅	一个月(年)何程	
手数	何程	
雇傭契約解除年月日	何年何月何日	
手数	何程	
規則第二十二條第三號第四號ノ事由及雇主承認印	盜罪(何々) 懷胎中 雇主承認印	
事故	例令契約期間内何年何月何日契約解除	

(第二號樣式ノ二)

里子周旋簿

番號	第何號
申込	年月日 何年何月何日

第十五類保安 第八章 營業

第十五類保安 第八章 營業

周旋	年月日	同上
幼兒氏名	年齡	何某 何年何月何日生
實父母住所職業氏名及存亡並嫡私ノ區別		何府何郡何町何番地職業何某存(亡)嫡出(私生子)
保育者(實父母ナキトキ)住所職業氏名		何縣何市何町何番地職業何某
監護者住所職業氏名	年齡	何府何郡何町何番地職業何某何年何月何日生
監護契約期間		何年(月)
養育料手数料漆金其ノ他授受金品種類數量價額		一个月(年)何々何程
監護契約解除年月日		何年何月何日
周旋手數料		何程
事	故	例令契約期間内何年何月何日契約解除

(第三號樣式)

内外船舶乘組海員周旋簿

番	號	第何號
申込	年月日	何年何月何日
周旋	年月日	同上

(第四號樣式)

商業上ニ使用スル多數勞動者周旋簿

氏名	年齡	何某 何年何月何日生
原籍	身分	何府何郡何町何番地戶主何某何男
住	所	同上
舊雇主住所氏名及乘組船舶並船長氏名		同上何汽船會社支配人何某
新雇主住所氏名及乘組船舶並船長氏名		何丸船長何某
海員ノ種類及航行先雇止地		同上
契約期間		水夫(火夫何々) 何年(月)
給料	料	何程
手數	料	何程
規則第二十二條各號事由及雇主又ハ船長承認印	故	例令契約期間内何年何月何日契約解除

第十五類保安 第八章 營業

番	號	第何號
申込	年月日	何年何月何日

周旋年月日	同上
氏名年齢	何某 何年何月何日生
原籍身分	何府何郡何町何番地何某(何男何女)又ハ妻)
職業要者ノ住所	何府何郡何町何番地職業何某
新需要者ノ住所	同上
勞務ノ種類	紡績工(織布工、製絲工、(何々)米搗(油絞何々)
勞務供給契約期間	何月(何日乃至何月何日)
賃錢若ハ所得額	何程
手数	何程
規則第二十二條第三號第四號ノ事由及雇主承認印	盜罪(何々)懷胎中 雇主承認印
事故	何々

第九條看板雛形

上以尺一幅

Employment Agency for seamen
To serve abroad Japanese
or foreign vessels.

横濱市何町何番地

内外船舶乗組海員周旋營業

氏名

長三尺以上

●宿屋營業取締規則

(明治二十二年四月二十四日)
(縣令第二十四號)

(沿革)明治三二年七月縣令第四七號、三七年四月同第二七號、三八年九月同第四三號改正
宿屋取締規則別冊ノ通り相定メ來ル五月十五日ヨリ施行ス
但明治十四年十二月甲第二百三十九號布達ハ本令施行ノ日ヨリ廢ス

宿屋營業取締規則

第一章 通則

第十五類保安 第八章 營業

- 第一條 宿屋ヲ分テ旅人宿下宿屋木賃宿ノ三種トス
- 第二條 宿屋營業ヲ爲サントスル者ハ其場所種類ヲ記シ營業用ニ供スル建物坪數及ヒ間取リヲ記シタル圖面ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ヘ願出免許ヲ受クヘシ
- 其場所種類又ハ間取坪數ヲ變更増減セントスル時モ豫メ圖面ヲ以テ届出テ認可ヲ受ケ落成ノ上ハ更ニ届出檢査ヲ受クヘシ
- 第三條 左ニ列舉シタル者ハ營業者タルコトヲ得ス
- 一 未丁年者白痴瘋癲者ニシテ後見人ナキ者
 - 二 盜罪及ヒ詐欺取財ノ罪ヲ犯シ又ハ現ニ監視中ノ者

第十五類 保安 第八章 營業

三 風俗ヲ亂ルヘキ所爲アリタル者

第四條 宿屋營業者ハ免許ヲ受ケタル後ト雖トモ客室坪數若クハ構造此規則ノ制限ニ適セサル間ハ其業ヲ營ムコトヲ得ス但建替修繕等ノ爲メ一時制限ニ適セサル場合ハ此限りニアラス

第五條 代換リ改氏名又ハ廢業シタル時ハ七日以内ニ其旨所轄警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ其後見人ノ變換改氏名ニ於ケルモ亦同シ

第七條 宿屋營業者ハ雇人請宿ヲ兼業スルコトヲ得ス又一戸内ニ於テ貸座敷ヲ兼業スルコトヲ得ス

第八條 警察署分署ニ於テ必要ト認メタルトキハ宿屋營業者ニ組合ノ設置ヲ命スルコトアルヘシ

第九條 行事ハ官署ノ命令ヲ同業者ニ傳達シ同業者ノ願届ニ加印スヘシ

第十條 組合ニ關スル費用ハ其組合營業者ノ負擔トス

第十一條 組合費用收支ノ方法及ヒ行事ノ進退任期等ハ組合規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十二條 宿泊料其他宿泊人ニ關スル緊要ノ事項ハ帳場其他

見易キ場所ニ揭示スヘシ

第十三條 何等ノ名義ヲ以テスルモ家外ニ於テ客ヲ誘引スルコトヲ得ス

第十四條 宿泊人ノ承諾ナクシテ他人ヲシテ濫リニ室内ニ入ラシムヘカラス

第十五條 宿泊人疾病ニ罹ル時ハ醫藥看護等其求メニ應シ特ニ懇切ニ取扱フヘシ

第十六條 宿泊料ノ抵償トシテ警察官ノ允許ヲ得ス私ニ宿泊人ノ所有品ヲ預リ又ハ受領スヘカラス

第十七條 宿泊人ニ遊興ヲ勸メ又ハ濫リニ客ノ求メナキ飲食物ヲ供スヘカラス

第十八條 宿泊人變死傷ニ罹ルカ又ハ其所有品紛失シタルトキハ即時警察官又ハ巡查ニ申出ヘシ

第十九條 左ノ事項中ノ一ニ該當スルトキハ營業ヲ停止シ又ハ免許ヲ取消スコトアルヘシ

- 一 第三條各號ノ事實生シタルトキ
- 一 風俗ヲ紊リ又ハ公安ヲ害スルノ虞アル・キ
- 一 本則ニ違背シタルトキ

第二章 旅人宿

第二十條 旅人宿ハ横濱市内鎌倉郡川口村ノ内江ノ島足柄下郡箱根七湯(湯元、塔ノ瀨、宮ノ下、堂)ニ於テハ客室二十坪以上其他ハ客室十二坪以上ヲ有スル家屋ニアラサレハ營業スルヲ許サス

假僻村ニ於テハ此制限ニ拘ハラステニ許可スルコトアルヘシ

第二十一條 客室ハ充分ニ光線ヲ取り且空氣ノ流通宜キ様構造スヘシ

第二十二條 客室ニハ堅固ナル錠前付ノ押入又ハ戸棚ヲ設ケ

但シ出入口ノ戸ニ錠前アリテ他ヨリ出入スヘカラサル客室ハ必スシモ本條ノ設備ヲ要セス

第二十三條 二階以上ノ客室二十坪以上アルモノハ階子ニケ

所以上ヲ設ケヘシ其幅ハ四尺ヲ下ルヘカラス

建造物五十坪毎(二階以上ハ各別トス)ニ一個臺所浴場等

ニハ一個所毎ニ一個ノ消火器ヲ設備シ其ノ設置ノ場所ハ所轄警察官署ノ指定ヲ受クヘシ

燈火ノ油壺ハ舍屬ノモノヲ使用スヘシ

前二項ハ土地ノ狀況ニ依リ所轄警察官署ノ許可ヲ經テ之ニ據ラサルコトヲ得

第二十四條 便所ハ臭氣ノ客室ニ及ハサル所ニ設ケ糞尿ヲ受

容スヘキ部分ハ石、敲キ、陶器等ヲ以テ構造シ且小便所ハ

一口毎ニ區劃ヲ爲スヘシ但シ便所構造規則施行ノ場所ハ尙ホ其規則ニ從フヘシ

第二十五條 便所ハ日々清潔ニ掃除ヲ爲スヘシ

第二十六條 客室ハ壹坪ニ付旅客一人ノ割合ヲ超過スヘカラ

ス其承諾アル場合及ヒ同行者ハ此限りニアラス

第十五類 保安 第八章 營業

第二十七條 同行者ニアラサル男女ヲ同室ニ宿泊セシムヘカ

ラス

第二十八條 正當ノ事故ナクシテ旅人ノ宿泊ヲ拒ムヘカラ

ス

第二十九條 旅人宿營業者ハ別紙様式ニ從ヒ宿泊人名簿ヲ調

製シ警察署又ハ分署ノ檢印ヲ受ケ宿泊人アリタルトキハ之

カ記入ヲ爲シ警察署、分署、巡查派出所、巡查駐在所、所

在地ニ於テハ六時間以内ニ便宜警察署、分署又ハ巡查派出所、

巡查駐在所ニ差出スヘシ其ノ他ノ場所ニ於テハ警察官

吏巡回ノ際檢閲ヲ受クヘシ

宿泊人名簿ハ三ヶ年間之ヲ保存スヘキモノトス

第三章 下宿屋

第三十條 下宿屋營業者ハ下宿人投宿後二十四時間内ニ其下

宿人ト連署ノ上下宿人ノ族籍住所氏名年齢下宿ノ事由ヲ記

シタル届書ヲ所轄警察署又ハ分署巡查駐在所ニ差出スヘ

シ

第三十一條 第二十二條第二十三條第二十四條第二十五條ハ

下宿屋ニ於テモ亦之ヲ適用ス

第三十二條 下宿人ハ客室三坪ニ付四人ノ割合ヲ越ルコトヲ

得ス

第三十三條 下宿人ノ本貫氏名ヲ記シタル木札ヲ店頭又ハ門

戸ニ掲出スヘシ

第三十四條 下宿人輒宿シ又ハ五日以上外泊シテ所在ノ不分

第十五類 保安 第八章 營業

明ナル時ハ二十四時間以内ニ其旨ヲ所轄警察署、分署又ハ
巡查駐在所ヘ届出ヘシ

第四章 木賃宿

第三十五條 木賃宿ハ特ニ指定シタル場所ニ於テハ營業ヲ許
サス

第三十六條 宿泊人滯在中外泊シタル者アル時ハ其旨ヲ帳簿
ニ記載シ置クヘシ

第三十七條 宿泊人名簿ニ關スル規則ハ第二十九條ノ例ニ從
フヘシ

第五章 罰則

第三十八條 此規則第二條第四條第五條第十三條第十四條第
十五條第十六條第十七條第十八條第二十六條第二十七條第
二十八條第二十九條第三十條第三十二條第三十三條第三十
六條ニ違背シタル者及ヒ第六條第十二條第二十五條第三十
三條ニ違背シテ官ノ督促ニ從ハサル者ハ一日以上三日以下
ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處

宿泊人名簿様式

到著	月日	時	出發	月日	時	行先	又ハ	國籍	居住	所職	業年	齡氏	名

- 一 從前免許ヲ得タル營業者ニシテ引續キ營業ヲナサント
スル者及ヒ客室ノ坪數若クハ構造規則ノ制限ニ適セサ
ルモノハ來ル十一月十五日迄ニ此規則ノ手續ニ從ヒ更
ニ免許ヲ受ケ又ハ建増改造ヲ爲スニ非サレハ營業ヲ爲
スヲ得ス
- 一 從前免許ヲ得タル營業者ニシテ貸座敷又ハ雇人受宿ヲ
兼業スル者ハ來ル八月三十一日限り兼業スルコトヲ得
ス
- 一 從前免許ヲ得タル木賃宿ニシテ本則營業制禁地内ニ在
ル者ハ來ル十一月十五日限り制禁地内ニ於テ營業ヲ爲
スヲ得ス
- 一 本則第二十三條第二項第三項ニ定ムル消火器ニシテ現
ニ設備ナキモノハ明治三十七年六月三十日迄ニ設備ス
ヘシ

●木賃宿制限地指定

(明治二十二年四月二十四日)
縣令第二十六號

(沿革)明治二五年三月縣令第三九號、同年十月同第五一號、
三七年二月同第一三號、四一年一〇月同第八二號改
正

宿屋取締規則第三十四條ニ依リ木賃宿制禁地左ノ通り指定
ス

木賃宿制禁地

横濱市

本町、北仲通、元濱町、海岸通、南仲通、辨天通、境町、
太田町、相生町、往吉町、常盤町、尾上町、眞砂町、港
町、吉田町、柳町、福富町、長者町、末吉町、伊勢佐木
町、姿見町、羽衣町、浪花町、蓬萊町、若松町、松ヶ枝
町、梅ヶ枝町、若葉町、賑町、久方町、足曳町、雲井町、
長島町、吉岡町、駿河町、萬代町、不老町、霧町、扇町、
壽町、松影町、吉濱町、三吉町、千歳町、山田町、富士見
町、山吹町、永樂町、眞金町、櫻木町、内田町、長住町、
綠町、橋町、平沼町、高島町、裏高島町、花咲町、野毛

第十五類 保安 第八章 營業

族籍又ハ國籍欄ニハ内國人ナルトキハ族籍外國人ナルトキハ國籍ヲ記ス
外國人ニシテ帝國内ニ居住所ヲ有セサル者ニ關シテハ外國ニ於ケル住所ヲ記載スヘシ

町、月岡町、老松町、宮川町、日出町、福島町、宮崎町、
伊勢町、戸部町、仲町、材木町、黃金町、三春町、初音
町、英町、霞町、元町、諏訪町、上野町、千代崎町、山本
町、石川町、石川仲町
青木町ノ内横町、瀧町、宮ノ町、宮洲町、下臺町、瀧ノ下
輕井澤、神奈川町ノ内新町、十番町、小傳馬町、神明町、東
幸ヶ谷、二ツ谷、西戸部町ノ内小松原、宮ノ前、南太田町ノ
西ノ町、仲木戸、反目、御所
内東耕地、清水、南吉田町ノ内堀割川、北方町
町、入船町

三浦郡

横須賀(町)ノ内港町、汐留、同新道、谷町、元町、諏訪、
稲岡、旭町、小川、大瀧、若松、山王、汐入、楠ヶ浦邊
見(字)一番地二番地三番地四番地五番地六番地七番地八
道(番地)ノ内九百八十七番地及千九百三十三番山林ニ接スル
以東)坂本(九十一番地九十二番地九十六番地)
豐嶋村ノ内深田中里不入斗(字)三番地四番地五番地
佐野(字)一番地二番地六番地(公郷)十一番地二十番地二
二十七番地二十八番地)郡

第十五類 保安 第八章 營業

大磯町ノ内字南本町、字茶屋町、字北本町、字神明町、字北下町、字南下町
 足柄下郡
 小田原町ノ内幸町、新玉、緑町、十字、萬年ノ内一丁目三丁目四丁目

案内業者取締規則施行細則

(明治四十年八月二十日)
 縣令第八十三號

案内業者取締規則施行細則左ノ通之ヲ定ム

- 案内業者取締規則施行細則
- 第一條 案内業者取締規則ニ依リ提出スヘキ諸願届書ハ所轄警察官署ヲ經由スヘシ但シ本縣以外ノ居住者ハ直接當廳ヘ提出スヘシ
 - 第二條 案内業者ハ同業組合ヲ組織シ事務所ヲ設ケ取締役ヲ選定シ當廳ヘ届出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ
 組合ハ規約ヲ定メ當廳ヘ願出認可ヲ受クヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ
 組合ニ規定スヘキ事項概ネ左ノ如シ
 一 組合會議ノ方法
 二 取締役ノ人員選舉方法及其ノ任期
 三 取締役ノ職務
 四 取締役ノ報酬
 五 組合加入及退去手續

六 組合費用收支方法及精算方法

七 規約違背者處分方法

八 有各項ノ外組合ニ於テ必要ト認ムル事項

第三條 組合事務所ノ出張所ヲ設置シタルトキハ當廳ニ届出ツヘシ

附則

第四條 本令ハ明治四十年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五條 明治三十六年三月神奈川縣令第二十號案内業者取締規則ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

案内業者取締規則取扱手續

(明治四十年八月二十日)
 訓令第四十二號

警察署 警察分署

案内業者取締規則取扱手續左ノ通之ヲ定ム

- 案内業者取締規則取扱手續
- 第一條 規則第一條ノ願書ヲ受ケタルトキハ規則第六條各號ノ事實ヲ精査シ進達スヘシ
 - 第二條 規則第十三條ノ願書ヲ受ケタルトキハ實否ヲ精査シ進達スヘシ
 - 第三條 規則第十五條ニ依リ處分ヲ要スヘキ事實アリタルトキハ知事ニ具申スヘシ
 - 第四條 第一號様式ニ依リ所轄内ノ案内業者名簿ヲ設備スヘシ

(第一號様式)

免許證號	年月日	失效停止年月日	住	所氏	名	年	齡	備	考
------	-----	---------	---	----	---	---	---	---	---

案内業者試験規程

(明治四十年八月十九日)
 廳訓第四十號

警察部

案内業者試験規程左ノ通之ヲ定ム
 右訓令ス

- 案内業者試験規程
- 第一條 案内業者試験ハ當廳内ニ於テ施行シ其ノ日時ハ試験委員長之ヲ定メ公示スヘシ但シ願書提出者ニ對シテハ其ノ期日ヲ通知スヘシ
 - 第二條 案内業者試験委員長ハ〔警務長〕ヲ以テ之ニ充テ委員ハ當廳官吏雇員若ハ警察通譯ノ中ヨリ知事之ヲ命ス
 外國語ニ關シテハ相當學識アル者ニ委員ヲ囑託スルコトアルヘシ
 - 第三條 試験ノ事務ニ關シ書記ヲ置キ警察部ノ警部中ヨリ知事之ヲ命ス
 - 第四條 受験順序並受験者心得ハ試験委員長之ヲ規程ス
 - 第五條 試験問題ハ封緘シ試験官列席ノ上受験者ノ面前ニ於テ開封スヘシ

第十五類 保安 第八章 營業

- 第六條 筆記試験ノ問題ハ一科二問以上トシ答按ハ一時間トス但シ口述試験ノ問題及答辯時間ハ試験官ニ於テ隨時之ヲ定ムヘシ
- 第七條 外國語ノ試験ハ會話、作文及翻譯ノ三科ニ分チ地理及歴史ハ筆記口述ニ分ツヘシ
- 第八條 成績ハ各科目一百點ヲ以テ滿點トシ得點四十點未滿ヲ不合格トシ各科目平均六十點ヲ合格トス

汽船營業取締規則

(明治二十七年十月二十二日)
 縣令第三十五號

(沿革) 明治三十四年五月縣令第三十五號、三十四年七月同第四九號、三十九年三月同第一八號、大正二年七月同第七五號改正

- 汽船營業取締規則左ノ通之ヲ定ム
- 汽船營業取締規則
- 第一條 本則ニ於テ汽船營業ト稱スルハ汽船ヲ以テ乘客又ハ貨物ヲ運航スルモノヲ謂フ
 前項汽船ニ代フルニ發動機船ヲ以テスル者ニ對シテハ本則ノ規定ヲ準用ス

第十五類 保安 第八章 營業

第二條 汽船營業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ願出免許ヲ受クヘシ其ノ増減變更ヲ要スルトキ亦同シ

一 發着場及寄航場ノ地名
二 發着場及寄航場ノ發着時限
三 發着時限ヲ豫定スルヲ得サル事情アルモノハ其ノ事實

四 船舶ノ數 數航路ヲ設クルモノハ每航路ニ乗客及貨物ノ運賃額
五 船名及船舶検査證寫 數航路アルモノハ每航路ニ供スル
六 航場力相互ニ一町以内ニ在ルトキハ汽船ノ發着時間ニ五分

第四條 汽船營業ノ免許ヲ受ケタル者開業セムトスルトキハ五日前ニ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出ツ
但シ船舶検査證書ヲ有セサル船舶ヲ汽船ニ連繫シテ使用セムトスル者ハ其ノ使用前横濱水上警察署ノ検査ヲ受クヘシ

一 取締人ノ氏名
二 會社ハ其ノ社則
第五條 正當ノ事由ナクシテ營業免許ノ日ヨリ百八十日以内ニ開業セサル者並三十日以上休業スル者ハ免許ノ失效ヲ命

スルコトアルヘシ

第六條 廢船休船其ノ他事故ノ爲各發船時限ニ應スヘキ船數ヲ缺キ若クハ數航路ヲ有スル者ニシテ三十日以上出船セサル航路アルトキハ其ノ發船時限又ハ航路ノ免許失效ヲ命スルコトアルヘシ

第七條 左ノ事項ニ係ルモノハ五日以内ニ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ但シ第一號ニ係ル届書ニハ其船舶検査證寫ヲ添付スヘシ

一 船舶検査證面ニ異動ヲ生シタルトキ
二 住所氏名又ハ業務擔當者若クハ社則ヲ變更シタルトキ
三 取締人又ハ其ノ氏名ニ變更アリタルトキ
四 休業又ハ廢業シタルトキ

第八條 左ノ事項中第一號ニ係ルモノハ出船ノトキヨリ三時間前ニ第二號第三號ニ係ルモノハ事故ノトキヨリ三時間以内ニ其事由ヲ所轄警察官署ニ届出ヘシ
一 甲航路ニ使用ノ船舶ヲ一時乙航路ニ使用セムトスルトキ
二 定時ニ發船ヲ休ミタルトキ
三 發船後途中ヨリ歸航シタルトキ

第九條 乗客ヲ運航スル汽船ニハ取締人ヲ置キ乗客又ハ貨物ニ關スル取扱其ノ他船中ノ取締ヲ爲サシムヘシ
第十條 縣廳ニ於テ特ニ指定スル場所ニ航行ノ汽船ニ供ク除ハ別紙様式ノ簿冊ヲ製シ汽船發着者毎ニ月日及時間ヲ記

入シ其ノ地所轄ノ警察官署又ハ警察官吏ノ檢印ヲ受ケ船内ニ備ヘ置クヘシ

第十一條 運賃ノ定額ヲ明記シ汽船ノ每客室乗客ノ見易キ所ニ掲クヘシ

第十二條 乗客ノ用ニ供スル甲板上船舷ナキモノハ其周圍ニ高サ一尺五寸以上ノ欄干ヲ設クヘシ

第十三條 左ノ事項中第一號ニ係ル者ハ船舶ニ乗載スヘカラス第二號第三號ニ係ル者ハ他ノ乗客ト其ノ室ヲ異ニスヘシ

一 六種傳染病患者
二 看護人ノ附添ナキ瘋癲者
三 乗客ノ厭忌スヘキ疾病者及亂醉者

第十四條 航行中六種傳染病ニ罹リタル者アルトキハ速ニ隔離消毒法ヲ施シ到着地警察官署ノ指揮ヲ受ケタル後ニアラサレハ乗客及荷物ヲ陸揚ケスヘカラス

第十五條 左ノ事項ニ係ルモノハ乗客又ハ他ノ貨物ト其室ヲ異ニスルニアラサレハ乗載スヘカラス
一 獸畜類
二 乗客ヲ妨害シ若クハ汚漬ノ虞アル物品

汽船 丸發着日時登記簿

Table with columns: 檢印, 月, 日, 地名, 發船, 時間, 檢印, 月, 日, 地名, 著船, 時間

第十五類 保安 第八章 營業

月	日	東	浦	山	日	月	日	東	浦	山	日	月
後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後
時	分	時	分	時	分	時	分	時	分	時	分	時

● 乗合船營業取締規則

(明治三十四年四月二十七日) 縣令第三十號

(沿革) 明治四一年七月縣令第六〇號改正 乗合船營業取締規則左ノ通之ヲ定ム

乗合船營業取締規則

第一條 本則ニ於テ乗合船營業ト稱スルハ汽船營業船艇營業取締規則ニ依ルモノノ外河海湖水等ニ於テ一定ノ場所ニ乗客及乗客ノ攜帶スル貨物又ハ牛馬車輛ヲ搭載往復スル渡船早船等ノ業ヲ營ム者ヲ謂フ

船夫ト稱スルハ營業者ニ使役セラレ操船ノ業ニ從事スル者ヲ謂フ

第二條 乗合船營業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ管轄警察官署ニ願出テ免許ヲ受クヘシ其ノ増減變更ヲ爲サムトスルトキ亦同シ

- 一 族籍、住所、氏名、年齢
 - 二 地方ノ慣行ニ因リ共同營業ヲ爲ス者ハ其ノ代表者ノ族籍、住所、氏名、年齢
 - 三 發着場、寄船場及船路ノ圖面
 - 四 發着場、寄船場ニシテ官有地ニ係ルトキ又ハ棧橋、階段、昇降場等ヲ設ケムトスル者ハ土地ノ使用又ハ設置許可ノ寫他人ノ所有地ニ係ルトキハ地主ノ承諾書寫(期限ヲ定メアルモノハ之ヲ明記スヘシ)
 - 五 營業期間及營業時間(渡船營業) 船ノ員數(長幅ノ詳) 者ヲ除ク)
 - 六 他人ノ所有船ヲ以テ營業セムトスルトキハ船主ノ承諾書寫
 - 七 賃銀額
- 營業許可後縣廳ニ於テ必要アリト認ムルトキハ棧橋、階段、昇降場ノ改造又ハ其ノ位置ノ變更ヲ命スルコトアルヘ

第三條

乗合船營業ノ免許ヲ受ケタル者ハ左ノ事項ヲ記シ横濱市内ハ横濱水上警察署其ノ他ハ所轄警察官署ニ願出テ船體ノ検査ヲ受ケ其ノ検査證ハ警察官署ヨリ指示スル個所ニ釘付スヘシ船體ノ改修ヲ爲シタルトキ亦同シ

- 一 船數及種類
- 二 船體ノ寫
- 三 乗客ノ定員

第四條

營業者ハ毎年一回(二三月) 所轄警察官署ノ指定シタル期日及場所ニ於テ船體ノ検査ヲ受クヘシ 警察官署ニ於テ必要ト認ムルトキハ臨時検査ヲ爲スコトアルヘシ

第五條

營業者左ノ各號ノ一ニ觸ルルトキハ營業ノ停止又ハ免許ノ失効ヲ命スルコトアルヘシ

- 一 正當ノ事由ナクシテ營業免許ノ日ヨリ三個月以内ニ開業セサルトキ
- 二 二回以上本則ヲ犯シ猶改換ノ狀ナシト認ムルトキ

第六條

船夫タラムトスル者ハ其ノ族籍、住所、氏名、年齢ヲ詳記シ營業者連署ニテ所轄警察官署ニ願出テ免許證ヲ受クヘシ營業者ニシテ船夫ヲ兼ヌルトキ船體ノ失毀損ノ

第十五類 保安 第八章 營業

トキ又ハ其ノ記載事項ニ異動ヲ生シ若ハ字體磨滅不明ニ至リタルトキ亦同シ

第七條

- 一 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ船夫タルコトヲ得ス
- 一 醉狂又ハ暴行ノ癖アル者
- 一 十六年未滿ノ者又ハ婦女
- 一 瘋癲白痴ト認ムル者
- 一 強竊盜又ハ贓物ニ關スル罪ヲ犯シ改換ノ狀ナシト認ムル者

第八條

營業者及船夫休業セムトスルトキハ所轄警察官署ニ其ノ旨届出ヘシ

第九條

營業者及船夫廢業ノトキハ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出テ免許證、検査證及船夫體檢ノ消印ヲ受クヘシ船夫死亡シタルトキハ營業者、營業者死亡シタルトキハ相續人若ハ之ニ代ルヘキ者其ノ手續ヲ爲スヘシ

第十條

免許證、検査證及船夫體檢ハ轉用又ハ貸與スヘカラス

第十一條

- 一 船夫ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ
- 一 就業中ハ體檢ヲ維持スヘシ
- 二 就業中ハ見苦シキ服裝ヲ爲スヘカラス
- 三 乗客ニ對シ侮慢ノ言行ヲ爲スヘカラス
- 四 酩酊シテ就業スヘカラス
- 五 強テ乗船ヲ勸誘スヘカラス
- 六 競争又ハ危險ノ行為ヲ爲スヘカラス

第十五類 保安 第八章 營業

- 七 護岸、沈床等ニ竿ヲ建テ水害豫防工作物保存ノ障害ヲ爲スヘカラス
- 第十二條 乗合船營業中盛間ハ第一號ノ雜形ノ號旗ヲ船尾ニ掲揚シ夜間ハ必ス點燈スヘシ
- 第十三條 乗合船ニハ一艘毎ニ救命具一個以上ヲ備ヘ置クヘシ但シ渡船ハ此ノ限ニ在ラス
- 第十四條 營業者及船夫ハ何等ノ名義ニ拘ラス所定以外ノ賃銀ヲ請求スヘカラス
- 第十五條 定員外ニ客ヲ乗載スヘカラス
- 第十六條 故ナク出船ヲ拒ミ又ハ遲滞スヘカラス
- 第十七條 發着場、寄船場ニハ船客ノ見易キ場所ニ賃銀表發着時間ヲ揭示シ夜間ニハ點燈スヘシ
- 第十八條 發着場、寄船場以外ニ於テ乗客ヲ昇降セシメ又ハ他船ニ轉乘セシムヘカラス
- 第十九條 警察官吏ニ於テ暴風雨出水其ノ他必要ト認ムルトキハ出船ヲ停止スルコトアルヘシ
- 第二十條 乗合船營業免許期限內ト雖公益事業ノ爲必要ヲ生スルトキハ其ノ營業ヲ停止若ハ禁止スルコトアルヘシ
- 第二十一條 鑑札及検査證ニ充ツル木札ハ左ノ寸法ニ據リ營業者船夫ニ於テ調製スヘシ
- 鑑札 竪二寸 横三寸 検査證 竪三寸 横四寸
- 第二十二條 他管下ヨリ船路ヲ聯通スル乗合船營業者ニ於テ使用スル船體並船夫ハ其ノ管轄廳ノ免許證、検査證及船夫

- 鑑札ヲ受有スル者ニ限り本則ノ免許證、検査證及船夫鑑札ヲ要セム
- 第二十三條 本則第二條第三條第四條第六條第八條第九條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第十五條第十六條第十七條第十八條ニ違背シタル者又ハ第五條第十九條ノ停止中ニ營業シタル者ハ十日以下ノ拘留又ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
- 第二十四條 本則ノ規定(第二十三條ヲ除ク)ハ郡市町村其ノ他ノ公共團體ノ渡船ヲ設營スル場合ニ之ヲ準用ス
- 前項ニ依リ提出スル文書ハ所轄警察官署及所轄郡市役所ヲ經由スヘシ
- 附則
- 第二十五條 本則ハ明治三十四年五月一日ヨリ施行ス施行前既ニ免許ヲ受ケタル渡船及乗合船營業者ハ明治三十四年六月三十日迄ニ第二條各號ノ事項ヲ届出テ及第三條ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第二十六條 明治十四年十二月甲第二百四十二號布達橋船渡場取締規則中渡船ニ關スル條項ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
- 乗合船第一號旗雜形

轎丁及小荷物運搬人營業取締規則

(明治三十二年六月九日 縣令第三十二號)

第一條 此ノ規則ニ於テ轎丁ト稱スルハ駕籠(チエヤ)一名モ包含ス)ヲ昇キ營業ト爲ス者小荷物運搬人ト稱スルハ旅

第十五類 保安 第八章 營業

署印

檢印

早船 又 ハ 渡船

乗合船營業

何ノ誰

地質 赤色

文字白ノ染

抜又ハ縫附

竪一尺五寸

客ノ小荷物ヲ運搬シ營業ト爲ス者ヲ云フ

又此ノ規則ニ於テ營業者ト稱スルハ轎丁及小荷物運搬人ヲ總稱ス

第二條 轎丁又ハ小荷物運搬ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ願書ニ住所、氏名、年齢ヲ記シ左記雜形ノ標札ヲ添ヘ所轄警察官署ニ提出シ標札ニ烙印ヲ受クヘシ其ノ標札調製ノ費用ハ願人ノ負擔トス

警何第何號

轎丁(小荷物)營業

住氏所

年名齡

竪三寸

裏 明治年月日許可 烙印

標札ヲ亡失、毀損シ又ハ標札記載ノ事項ニ異動ヲ生シ若ハ字體印章磨滅シタルトキ亦前項ニ同シ

第三條 左ノ事項ノ一ニ該當スル者ハ轎丁又ハ小荷物運搬ノ

第十五類 保安 第八章 營業

營業ヲ免許セス但シ第二號以下ニ該當スル者ニシテ改換ノ情アリト認ムル者ハ特ニ免許スルコトアルヘシ

一 白痴瘋癲、聾、啞其ノ他就業ニ耐ヘスト認ムル者
二 醉狂又ハ暴行ノ癖アル者
三 素行不良ナル者
四 他人ニ對シ侮慢ノ言行ヲ爲ス癖アル者

第四條 營業者ニシテ廢業又ハ死亡シタルトキハ七日以内ニ標札烙印ノ消印ヲ受クヘシ但シ死亡ノトキハ相續人又ハ同居ノ親族ヨリ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條 駕籠及其ノ附屬品ハ左ノ制限ニ從フヘシ
一 駕籠ノ構造ハ堅牢ナルコト
二 桐油製ノ兩具清潔ナル蒲團又ハ毛布及布製ノ日除ケヲ備フルコト

駕籠ノ構造使用ニ耐ヘスト認ムルトキハ警察官吏ニ於テ其ノ使用ヲ停止スルコトアルヘシ

第六條 營業者就業中ハ不潔ナラサル筒袖又ハ法被及股引ヲ著用スヘシ
其ノ筒袖又ハ法被ノ背部ニハ標札ノ番號ヲ日本及亞刺比亞數字ニテ附スヘシ

第七條 標札ハ貸借スルヲ得ス
第八條 營業者ハ就業中左ノ事項ヲ遵守スヘシ
一 第二條ノ標札ヲ携帯スルコト但シ警察官吏又ハ乘客ノ求メアルトキハ之ヲ示スヘキコト

二 頰冠リヲ爲シ又ハ裸體ト爲ラサルコト
三 乘客ノ承諾ナクシテ他ノ駕籠ニ乗セ換ヘサルコト
四 乘客ノ承諾セサル場所ニ誘引セサルコト
五 定リタル賃錢ノ外名義ノ何タルニ拘ハラス旅客又ハ宿屋、溫泉宿、料理屋、飲食店ニ對シ金錢物品ヲ請求セサルコト

六 行人ニ對シ侮慢ノ言行ヲ爲シ又ハ強テ乘駕ヲ勸メサルコト
七 往來ノ妨害ト爲ルヘキ場所ニ於テ乘客ヲ昇降セシメサルコト

八 酷罰シテ就業セサルコト
第九條 營業者ハ乘客ノ求メアルトキハ正當ノ理由ナクシテ出駕籠又ハ小荷物運搬ヲ拒ムヘカラス

第十條 賃錢額ハ駕籠ノ内部前方ニ揭示スヘシ
第十一條 所轄警察官署ハ駕籠及附屬品並服裝ノ検査ヲ爲スコトアルヘシ

第十二條 營業者ハ地形ノ狀況ニ因リ其ノ地ノ一字若ハ數字毎ニ同業組合規約ヲ設ケ所轄警察官署ニ届出認可ヲ受クヘシ其ノ變更ヲ要スルトキ亦同シ

組合規約ノ事項ハ概ネ左ノ如シ
一 組合名稱及事務所ノ位置
二 組合取締ノ選定及變更手續
三 組合取締ノ任期

第五條第一項ノ附屬品ヲ携帯セスシテ營業ニ從事シタル者
第五條第二項ノ停止中駕籠ヲ使用シ又ハ第十六條ノ停止中營業ヲ爲シタル者
正當ノ理由ナクシテ第十一條ノ検査ヲ受ケサル者
第十三條ノ命令ニ從ハサル者

第十九條 此ノ規則施行地ハ別ニ之ヲ定ム
第二十條 此ノ規則ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス但シ本則第十二條ノ組合規約ハ其ノ施行ノ日ヨリ十五日以内ニ認可ヲ受クヘシ

● 轎丁及小荷物運搬人營業取締規則施行地 (明治三十二年六月九日) (縣令第三十三號)

(沿革) 明治四一年八月縣令第六九號改正
明治三十二年六月神奈川縣令第三十二號轎丁及小荷物運搬人營業取締規則施行地ハ左ノ通之ヲ定ム
足柄下郡 箱根山
足柄上郡 南足柄村關本ヨリ同村大雄山最乘寺ニ至ル間

● 雜業取締規則 (明治二十六年十二月二十五日) (縣令第四十五號)

第十五類 保安 第八章 營業

四 組合取締ノ事務
五 駕籠及小荷物運搬賃錢額並其ノ賃錢切符賣捌ノ方法
六 組合費用ノ收入支出手續
七 就業順番取扱手續
八 組合規約違犯處分ノ方法

第十三條 組合規約ハ認可ノ後ト雖不當ト認ムル場合ハ所轄警察官署ニ於テ改正又ハ削除ヲ命スルコトアルヘシ
第十四條 同業組合ニ加入セスシテ開業スルヲ得ス
第十五條 組合取締ハ駕籠及小荷物運搬ノ賃錢額ヲ日本文及英吉利文ニテ木札ニ記シ駕籠ノ立場ニ掲クヘシ

第十六條 營業者ニシテ左ノ事項ノ一ニ該當スルトキハ營業ヲ停止シ又ハ標札ヲ引揚ケルコトアルヘシ
一 此ノ規則ニ依リ一箇年內ニ三回以上處分ヲ受ケ尙ホ改換ノ情ナシト認ムルトキ
二 第三條第一號以下ニ觸レタルトキ
三 同業組合ニ加入セサルトキ

第十七條 營業者ニシテ一箇年以上休業シタルトキハ免許ノ效ヲ失フモノトス
前項ノ場合ニ於テハ標札烙印ノ消印ヲ受クヘシ
第十八條 左ノ事項ニ該當スル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
一 第二條、第四條、第七條、第八條、第九條、第十條、第十二條ニ違背シタル者

第十五類 保安 第八章 營業

一二九

第十五類 保安 第八章 營業

(沿革) 明治四十二年六月縣令第五四號、大正二年五月同第六五號改正

雜業取締規則左ノ通之ヲ定ム

雜業取締規則

第一條 本則ニ於テ雜業ト稱スルハ家屋外ニ於テ左ノ業ヲ爲ス者ヲ云フ

第一類 紙屑拾 紙屑買 襤褸寸斷ノ買

硝子毀レ買 木葉拾 明礬明礬買

第二類 下足直シ 靴直シ 蝠蝠傘直シ

錠前賣 錫掛 刃物研キ

第二條 雜業ヲ爲サントスル者ハ左ノ標札ヲ製シ管轄警察官署ノ檢印ヲ受ケ就業中ハ容器ノ見易キ場所ニ掲出スヘシ標札ハ毎年十月管轄警察官署ノ檢査ヲ受クヘシ其ノ檢査ヲ受ケサルモノハ無効トス

第	號	大正	年	月	日	交付
雜	業	何々何々	住	所	氏	名
何々何々	何々何々	何々何々	何々何々	何々何々	何々何々	何々何々
印	察	官	署	烙	印	ト
大正	年	月	日	檢	〇	
大正	年	月	日	檢	〇	

第三條 紙屑拾、紙屑買、襤褸買業者ノ携帶スル容器ハ目籠ニ限リ其他ノ各業者ハ蓋ナキ籠又ハ明キ箱ニ限ルヘシ但シ錠前賣、錫掛職、刃物研キ職ハ從來慣用ノ容器ヲ用フルコトヲ得

第四條 呼ヒ込マサル人ノ邸宅ニ入り又ハ日没後日出前ハ路次内ニ立入ルヘカラス

第五條 面部ヲ隠蔽シテ本業ニ従事スルコトヲ得ス

第六條 第一類ノ雜業者ニシテ買受又ハ讓受タルモノ、内ニ金員若クハ他ノ物品アルヲ發見シタルトキハ直チニ所有主ニ返還シ所有主分明ナラサルトキハ警察官署ニ届出ツヘシ

第七條 第二類ノ雜業者ニシテ道路ヲ汚損シタルトキハ即時ニ掃除ヲナシ置クヘシ

第八條 標札ハ他人ニ貸與スヘカラス

第九條 標札面ニ異動ヲ生シ又ハ之ヲ遺失毀損シタルトキハ更ニ標札ヲ調製シ管轄警察官署(轉居ニ保ルトキハ其ノ出テ檢印ヲ受クヘシ但シ廢業シタルトキハ管轄警察官署ヘ標札ヲ持參シ消印ヲ受クヘシ)

第十條 雜業者ノ携帶スル容器及標札ハ警察官吏ニ於テ檢査スルコトアルヘシ

第十一條 本則第二條第三條第四條第五條第六條第七條第八條第九條ニ違背シタル者及第十條ノ檢査ヲ拒ミタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第九章 交通 ● 街路取締規則

(明治二十二年四月二十四日) 縣令第二十一號

(沿革) 明治三三年八月縣令第四六號、三六年五月同第三三號、三九年一月同第七〇號、四〇年六月同第六七號、四一年九月同第七八號、四五年七月同第五七號 改正

街路取締規則別冊ノ通り相定メ來ル五月十五日ヨリ施行ス但明治十四年八月甲第三百三十四號布達ハ本令施行ノ日ヨリ廢ス

(別冊) 街路取締規則

第一章 通則

第一條 此規則ニ於テ街路ト稱スルハ市街ノ道路橋梁及ヒ道路ニ沿フタル下水ヲ云フ

第二條 此規則ニ於テ自費ヲ以テ爲スヘキ義務ヲ怠リタル者アル時ハ時宜ニ由リ官ニ於テ執行シ其費用ヲ徵收スヘシ

第二章 街路ノ安寧 第三條 街路ニ建物軒先旗柱看板物干等ヲ設ケ或ハ出スコトヲ得ス

第四條 但特ニ許可ヲ得タルモノハ此限リニアラス 左ニ制限シタル物件ハ街路ニ出スコトヲ得

第十五類 保安 第九章 交通

一 釣看板ハ地盤ヲ距ル一丈以上ニ限リ二尺以内

二 日除ハ支柱ヲ用ヒス地盤ヲ距ル七尺以上ニ限リ三尺以内

三 掲燈ハ地盤ヲ距ル七尺以上ニ限リ二尺以内

第五條 左ノ事項ヲ爲サントスル者ハ其場ノ圖面ヲ添ヘ縣廳ヘ願出免許ヲ受クヘシ

一 國道ヲ修理スル事

二 下水又ハ瓦斯管ヲ布設シ及ヒ之ヲ修理スル爲メ一時國道ヲ掘鑿スル事

三 國道ニ華表ヲ建設スル事

四 公衆ノ通路ニ供シタル私設道路ヲ閉鎖若クハ變更スル事

五 街路ニ電鈴線又ハ其ノ他線條ヲ架設セムトスルトキ警察署又ハ分署ヘ願出免許ヲ受クヘシ

一 街路ニ樹木ヲ植ヘ又ハ街燈ヲ建テ若クハ之ヲ取除ク事

二 街路ニ齒止石ヲ置キ又ハ一時柵欄支柱ヲ設クル事

三 街路ニ指道標其他公衆ノ用ニ供スル標識ヲ建設スル事

四 街路ニ目塗土置揚ヲ設クル事

五 工事ノ爲メ一時街路ニ竹木土石類ヲ置キ或ハ板圍繩張足代ヲ設ケ其他街路ヲ使用スル事

六 街路ヲ經テ建物ヲ移シ又ハ街路ヲ壅塞スヘキ長大ノ物件ヲ運搬スル事

第十五類 保安 第九章 交通

- 七 一時街路ニ舞臺掲燈小屋掛及ヒ店飾ヲ設ケル事
- 八 街路ニ神輿山車又ハ手踊屋臺等ヲ出ス事
- 九 神佛送迎ノ爲メ街路ニ飾物ヲ出シ又ハ奉納物ヲ牛車ニテ運搬スル事
- 十 歩行道ノ設ケアル場所ニ於テ第四條第二項以外ノ日除ヲ設ケル事
- 十一 一時街路ニ消防其他公衆ノ用ニ供スル物件及ヒ番小屋ヲ置ク事
- 十二 牛馬諸車通行止ノ場所ニ之ヲ出入セシムル事
- 第七條 街路ニ公衆ノ用ニ供スル便所ヲ建設セントスルモノハ其場所ノ圖面及ヒ構造仕用書ヲ添ヘ所轄警察署ヘ願出許可ヲ受クヘシ
- 第八條 街路ニ於テ露店屋臺店葭簀張ヲ出シ物品ヲ販賣セントスル者ハ營業ノ種類及ヒ其場所ノ圖面ヲ添ヘ他人ノ屋前ニ係ルモノハ其居住人ノ加印ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署ヘ願出免許ヲ受クヘシ
- 但營業時間ハ日出ヨリ午後十二時限リトス
- 第九條 第八條ノ營業者ニシテ日限ヲ定メサル免許ノ效力ハ其年四月ヨリ翌年三月限リトス
- 第十條 第六條第五項ノ免許ヲ受ケタル者ハ免許ノ年月日及ヒ其期限ヲ記シタル標札ヲ製シ其期限間顯ハニ之ヲ掲出スヘシ
- 第十一條 第八條ノ免許ヲ受ケタル者ハ其營業ノ種類場所免

- 許年月日並ニ住所氏名ヲ記シタル標札ヲ製シ所轄警察署又ハ分署ノ檢印ヲ受ケ營業中顯ハニ之ヲ掲出スヘシ其業ヲ止メタル時ハ五日以内ニ標札ノ消印ヲ乞フヘシ
- 但神佛祭禮年市草市等一時出店スル者ハ此限リニアラス
- 第十二條 第五條第六條第七條第八條ノ各項ニ依リ出願セシ者ト雖トモ實地ノ模様ニ由リ公害アリト認ムル時ハ許可セサルコトアルヘシ又既ニ免許ヲ受ケタル者ト雖トモ必要ノ場合ニ於テハ位置ヲ變更セシメ又ハ免許ヲ取消スコトアルヘシ
- 第十三條 街路ヲ使用シ之ヲ毀損シタル者ハ直チニ原形ニ復スヘシ
- 第十四條 街路ニ沿フタル宅地ニシテ奥行九尺以上ノ空地アル場所ハ其模様ニ由リ道數ノ境界ニ墻塼ノ設置ヲ命スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ指定ノ日限内ニ之ヲ取設クヘシ
- 第十五條 街路ニ沿フタル場所ニ竹木ヲ立置ク者ハ強靱ナル鐵若クハ繩ヲ以テ之ヲ束ネ又薪炭其他ノ物件ヲ堆積スル者ハ願出免許ヲ受クヘシ
- 第十六條 街路ニ沿フタル建物及ヒ樹木等崩壞傾仆ノ虞アルモノハ修理撤却其他豫防ノ手當ヲ爲スヘシ
- 第十七條 街路ニ竹木土石類ヲ置キ及ヒ道路ヲ壅塞シタルトキハ晝間ハ標識夜間ハ標燈ヲ設クヘシ
- 第十八條 (削除)

- 第十九條 道路橋梁溝渠下水ヲ毀損壅塞シ街路ノ樹木ヲ伐採シ又ハ街燈ヲ破毀消滅スヘカラス
- 第二十條、第二十一條 (削除)
- 第二十二條 街路ニ沿ヒタル場所ニ於テ家屋又ハ墻壁ヲ建築修理取崩シ若ハ樹木ヲ伐採セントスルトキハ危險ヲ防止スル爲適當ノ設備ヲ爲スヘシ
- 第二十三條乃至第二十六條 (削除)
- 第二十七條 行商ニ川フル荷車ハ長サ八尺幅三尺屋臺店ハ長サ六尺幅三尺ヲ超過スヘカラス
- 第二十八條 街路ニ於テ濫リニ奇異ノ行裝戲謔ノ言行ヲ爲スヘカラス
- 第二十九條 街路ニ於テ新聞圖書類ヲ讀賣スヘカラス
- 第三十條 街路又ハ店頭ニ於テ家畜鳥類ヲ殺傷シ若クハ殘虐ニ取扱フヘカラス
- 但現場ニ於テ撲殺セサレハ危險ノ虞アルモノ若クハ特ニ免許ヲ受ケ撲殺スルモノハ此限ニアラス
- 第三十一條乃至第三十三條 (削除)
- 第三十四條 街路ニ於テ看護人ナク幼兒ヲ遊歩セシメ又ハ遊戯ヲ爲サシムヘカラス
- 第三十五條 濫リニ街路ニ集合スヘカラス
- 第三十六條 街路ニ於テ容引ヲ爲シ又ハ猥リニ通行人ヲ引止メ若クハ風俗ヲ亂スヘキ所行ヲ爲スヘカラス
- 第三十七條 街路ニ於テ數物疊敷類其他ノ塵芥ヲ掃フヘカラス

第十五類 保安 第九章 交通

- 第三十八條 街路ニ臨ミタル屋根物干又ハ窓手摺等ニ攪擾其他見苦敷若クハ危險ナル物品ヲ置クヘカラス
- 第三章 街路ノ清潔
- 第三十九條 街路ハ常ニ清潔ニ掃除ヲ爲シ塵芥雜草ヲ存スヘカラス
- 第四十條 街路ノ積雪ハ午前八時迄ニ掃除シ其雪ハ河海其他妨害トナラサル場所ニ投棄シ其午前八時後日没迄ノ降雪ハ隨時掃除スヘシ
- 但實際投棄シ難キ場所ニ於テハ適宜路傍ニ掃寄セ置クコトヲ得
- 第四十一條 一 炎天及ヒ風日ニハ乾燥セシ街路ヘ時々撒水スヘシ
- 十一月一日ヨリ翌年二月盡日迄午前九時前午後三時後ハ撒水スヘカラス
- 第四十二條 一 街路ニ接スル河川ニ撒水汲揚ヲ設置セムトスルモノハ其ノ位地及構造圖面ヲ添ヘ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ
- 第四十三條 前三條ニ記載シタル義務ノ負擔ハ兩側居住人ニ於テ各其一半ヲ分擔シ其片側ナルトキハ一方ノ居住人ニ於テ負擔スヘシ其空屋若クハ空地ニ係ルモノハ家主又ハ地主ニ於テ負擔スヘシ
- 但掃除若クハ撒水ノ方法ヲ特ニ規定シタル土地ニ於テハ

第十五類 保安 第九章 交通

此限リニアラス

第四十三條 橋梁其他前條ニ由リ難キ場所ハ其町村ニ於テ負擔スヘシ

第四十四條 汚水ヲ街路ニ撒布スヘカラス

第四十五條 (削除)

第四十六條 街路ヲ運搬スル物品ハ墜落漏出又ハ飛散ヲ防止スルニ足ル装置ヲ爲スヘシ

第四章 街路通行

第四十七條 夜中燈火ナクシテ牛馬ニ乘シ又ハ諸車ヲ疾驅スヘカラス

第四十八條 馬車及ヒ牛車ハ幅三間以内ノ街路ヲ通行スヘカラス

但其街路ニ沿フタル家屋ニ出入スル者ハ此限リニアラス

第四十九條 車ハ小兒車ヲ除クノ外其種類ノ如何ヲ問ハス跡押ノミニテ運轉スヘカラス

第五十條 端ノ尖リタル物又ハ重大ノ物件ヲ運搬スルトキハ危険ナキ標相當ノ装置ヲ爲スヘシ

第五十一條 車馬ニ積卸ノ場合ニアラスシテ街路ニ樽類車輪材木等ヲ回轉運搬スヘカラス

第五十二條 牛馬諸車ヲ竝ヘ轆キ又ハ濫リニ疾驅シテ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第五十三條 車二輛以上ヲ連繫シテ轆クヘカラス

但長大ノ物件ヲ運搬スル爲メ數車ヲ連結スルハ此限リニアラス

第五十四條 牛馬二頭以上ヲ連繫シテ牽クヘカラス

但賣買等ノ爲メ輸送スル牛馬ハ此限ニアラス

第五十五條 牛馬諸車ハ道路ノ左側ヲ通行スヘシ

歩行者ハ歩行道ノ設ケアル地ハ歩行道其ノ設ケナキ地ハ道路ノ左側ヲ通行スヘシ

第五十六條 車馬及ヒ歩行者ニ行逢フトキハ左ニ避ケ軍隊竝ニ砲車輻重車ニ對シテハ右ニ避ケヘシ

第五十七條 大ナル車ニ對シテハ小ナル車之ヲ避ケ實車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ坂路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ

第五十八條 前車徐行シ後車疾行セントスル時ハ後車ヨリ相當ノ合圖ヲ爲シ前車ハ左ニ避ケ後車ハ右ヲ通過スヘシ

第五十九條 郵便用又ハ消防用ニ供スル車馬及ヒ灌水車又ハ祭葬等ノ行列ニ行逢フトキハ避讓スヘシ

第六十條 車馬街角ヲ通行スルトキハ右折ハ大廻リヲ爲シ左折ハ小廻リヲ爲スヘシ

第六十一條 往來雜沓又ハ狹隘ノ場所及ヒ街角橋上ヲ通行スル車馬ハ疾驅スヘカラス

第六十二條 濫リニ出火場其他雜沓ノ場所ニ牛馬諸車ヲ牽入ルヘカラス

第六十三條 街角橋上其他往來ノ妨害トナルヘキ場所ニ牛馬

諸車ヲ駐止スヘカラス

第六十四條 故ナク街路ニ佇立シ又ハ空車ヲ轆テ彷徨シ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第六十五條 街路ニ於テ犬其他ノ獸類ヲ嘍スヘカラス

第六十六條 街路ニ家畜ヲ放チ置キ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第六十七條 歩行道車馬道ノ區別アル場所ニ在リテハ小兒車ヲ除クノ外諸車及ヒ牛馬ハ歩行道ヲ通行スヘカラス又擔荷者ヲ除クノ外濫リニ車馬道ヲ歩行スヘカラス

第五節 罰則

第六十八條 本則ヲ犯シタル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十圓未滿ノ科料ニ處ス

附則

一從前道路營業取締規則ニ依リ道路營業ノ許可ヲ受ケタル者ハ此規則施行後ハ都テ本則ヲ遵守スヘシト雖モ更ニ出願免許ヲ受クルニ及ハス

一本則第三條ニ牴觸スル物件ニシテ本則施行ノ期日ニ取拂ヲナシ難キ事情アルモノハ實地調査ノ上相當ノ猶豫ヲ與ヘ又ハ特ニ許可スルコトアルヘシ

●街路取締規則施行區域

(明治三十九年十二月十八日 縣令第七十一號)

明治二十二年四月縣令第二十五號街路取締規則施行區域左ノ通

第十五類 保安 第九章 交通

改正ス

橫濱市

市内一圓

三浦郡

橫須賀(町)一圓

浦鄉村大字浦郷ノ内小字田浦(谷戸ヲ除ク)小字船越小字日向小字榎戸

田越村ノ内大字逗子大字櫻山假定縣道吉野三崎間往還沿

田越村ノ内大字逗子假定縣道吉野三崎間往還ヨリ分岐シ東

郷橋ニ至ル里道沿

同村大字小坪小字新宿原里道沿

同村逗子停車場ヨリ假定縣道吉野三崎間往還ニ通スル道路

沿

葉山村ノ内大字堀内大字一色大字下山口假定縣道吉野三崎

間往還沿

中西浦村ノ内大字秋谷大字芦名假定縣道吉野三崎間往還

沿

浦賀町ノ内新井洲崎新町大ケ谷築地古町同新町、谷戸、宮

下、田中、紺屋蛇畑、濱町

同町芝生字畑田ノ内一番地ヨリ北山際通

同町芝生字下

同町字荒卷ノ内字荒卷下

同町字洞井戸

同町川間字川間下

子安村ノ内入江橋以西小字入江町小字新宿
保土ヶ谷町ノ内字上帷子字上神戸字下神戸字上岩間字下岩
間元町新町第二號國道沿
川崎町小土呂ヨリ六郷川ニ至ル第一號國道沿
同町ノ内砂子、新宿、堀ノ内、南河原停車場道沿

鎌倉郡

戸塚町第二號國道沿
同町ノ内戸塚小字矢澤戸塚中和田間里道沿
藤澤大富町ノ内大鋸西宮字船久保字大門
川口村ノ内江ノ島入口ヨリ辨天社通龍口寺下ヨリ常立寺橋
ニ至ル假定縣道江ノ島往還沿洲鼻ヨリ片瀬二千八百四十五
番地街角ニ至ル假定縣道江ノ島往還道路沿
腰越津村ノ内字濱上町ヨリ龍口寺下假定縣道江ノ島往還
沿
小坂村ノ内巨福坂ヨリ小袋谷橋ニ至ル假定縣道鎌倉往還及
戸塚雪ノ下間往還沿
鎌倉町ノ内長谷觀音前ヨリ長谷通假定縣道江ノ島往還及名
越橋ニ至ル假定縣道吉野三崎間往還沿
長谷大佛前ヨリ坂ノ下星ノ井戸ニ至ル假定縣道吉野三崎間
往還及同江ノ島往還沿
巨福坂ヨリ八幡前下馬ニ至ル假定縣道鎌倉往還及同吉野橫

須賀間往還沿

八幡前ヨリ金澤道鎌倉宮入口ニ至ル假定縣道吉野橫須賀間
往還沿
材木座光明寺前ヨリ小町真通寶戒寺ニ至ル道路沿
鎌倉停車場ヨリ假定縣道吉野橫須賀間往還ニ通スル道路
沿

高座郡

藤澤大坂町ノ内大字大久保東橫須賀ノ内鐵道線路ヨリ東部
假定縣道江ノ島往還沿道人家及境川ニ至ル
同町ノ内大久保字坂戸入會中橫須賀ノ内鐵道線路ヨリ北部
驛道ニ至ル
同町ノ内字大久保字御殿邊ノ内外御殿作場道及標杭ヨリ西
南部驛道ニ至ル
同町ノ内字坂戸西橫須賀ノ内驛道ヨリ西南部山玉山際作場
道及標杭ニ至ル同西橫須賀花ノ木風早ノ内南部字花ノ木假
定縣道吉野三崎間往還及風早ノ里道ヨリ驛道ニ至ル
茅ヶ崎村ノ内第二號圓道筋東八十間坂町里道迄西ハ字島井
戸人家外レ

中郡

大磯町ノ内大字大磯一圓
平塚町ノ内大字平塚(小字上平塚小字海岸ヲ除ク)
同町ノ内大字平塚新宿一圓
秦野町會屋ノ内乳牛、東道、御門、倉ノ前、池ノ島、下

道、上會屋、中會屋、下會屋、河原町屋及南ハ字臺町ヨリ
片町ヲ經テ字宮ノ前ニ至ル東ハ字入船町下宿、中宿、上宿
ノ内道路沿南秦野村尾尻ノ内、吾妻、秦野間里道沿
同村大字今泉ノ内小字下河原上河原杉木開戸假定縣道矢倉
澤往還沿十字茶碗淵
伊勢原町ノ内大字田中板戸假定縣道矢倉澤往還及相原伊勢
原間里道沿
同町ノ内大字東大竹字千須平塚伊勢原間里道沿
同町ノ内伊勢原
足柄下郡

小田原町一圓
大窪村ノ内板橋第二號國道沿
蘆子村ノ内荻窪池上假定縣道足柄古往還沿
二川村ノ内井細田、多古、下多古
國府津村字廣澤ヨリ以西、親木橋迄第二號國道沿
酒匂村ノ内小八幡第二號國道沿
同村ノ内字酒匂、綱一色、山王原第二號國道沿
湯本村ノ内字湯場、塔ノ澤、旭町、瀧ノ前、彌榮
溫泉村ノ内底倉字宮ノ下字堂ヶ島字小涌谷
蘆ノ湯村一圓
箱根町一圓
津久井郡

中野村ノ内字川和假定縣道津久井往還沿

馬匹運動禁止街路名

(明治三十六年三月三十一日)
(縣令第二十四號)

(沿革)明治三六年四月縣令第三〇號、四一年九月同第七八
號改正
左記ノ街路ニ於テ馬匹ヲ運動セシムル爲テキ歩クコトヲ禁
ス
本令ニ違背シタル者ハ二十圓未満ノ科料ニ處ス
一 橫濱市山手町ノ内戸坂ヨリ山手本町通ヲ經テ山元町二丁
目終端ニ至ル街路
一 橫濱市山手町ノ内谷戸坂通ノ街路

道路橋梁往來止揭示札建設
出願方

(明治二十三年九月二十四日)
(縣令第四十八號)
道路橋梁往來止等揭示札建設ヲ要スルトキハ所轄警察署又ハ
警察分署ヘ出願スヘシ

軌道取締規則

(明治四十年十月二十二日)
(縣令第九十三號)

第十五類 保安 第九章 交通

(沿革)明治四一年九月縣令第七八號、四三年三月同第二二號改正

軌道取締規則左ノ通之ヲ定ム

第一章 總則

第一條 本則ハ軌道條例ニ依リ主務大臣ノ特許ヲ受ケタル運輸軌道ニ適用ス但シ他ニ別段ノ規定若ハ命令事項アルモノハ其ノ規定又ハ命令事項ニ從フ

第二條 本則ノ規定ニヨリ當廳ニ差出スヘキ書類ハ凡テ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

第二章 營業者ニ對スル規定

第三條 軌道ハ危險ノ虞ナキ經常ニ係員ヲシテ注意セシメ車輛運轉上特ニ注意ヲ要スル場所ニハ番人又ハ信號人ヲ置キ之ヲ看守セシムヘシ

第四條 體力強壯ナラサル馬匹ヲ使用スヘカラス

第五條 車輛及之ニ附屬スル機械器具ハ當廳ノ検査ニ合格シ検査證書ヲ受ケタルモノニアラサレハ使用スルコトヲ得ス

第六條 車輛及之ニ附屬スル機械器具竝馬匹ハ毎年一回當廳検査證書ヲ受ケタル後ニ於テ車輛及之ニ附屬スル機械器具ヲ改造若ハ修理セムトスルトキハ其ノ程度及期間ヲ詳記シ著手前當廳ニ届出ツヘシ其ノ竣功後使用ヲ開始セムトスルトキハ更ニ當廳ノ検査ヲ受クヘシ

ノ検査ヲ受クヘシ但シ當廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ臨時検査ヲ施行スルコトアルヘシ

第七條

車輛ニハ左ノ設備ヲ爲スヘシ

- 一、車體ニハ制動器、救難器、音響器及車掌、運轉手間ニ通スル信號器ヲ裝置スヘシ
- 二、客車ニ在テハ其ノ内外、貨車ニ在テハ其ノ外部ニ車輛ノ番號ヲ明記スヘシ
- 三、客車ニハ晝間ハ標札、夜間ハ標燈ヲ以テ其ノ行先ヲ示スヘキ裝置ヲ爲スヘシ
- 四、客車ニハ乗客ノ滿員ヲ示ス爲滿員札ヲ掲クル裝置ヲ爲スヘシ
- 五、客車ニハ唾壺ヲ備ヘ置クヘシ
- 六、客車ニハ車内見易キ場所ニ車輛検査證書、乗客ノ定員表、乘車賃表、車掌、運轉手、馭者ノ氏名ヲ記シタル標札及第四章ノ規定ヲ揭示スヘシ
- 七、客車ノ室内ニハ相當ノ光力ヲ有スル燈火ノ裝置ヲ爲スヘシ

第八條

車輛及之ニ附屬ノ機械器具ハ常ニ安全清潔ニ保持スヘシ

第九條

營業者ハ營業開始前左ノ事項ヲ定メ當廳ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

- 一、乗客ノ昇降場
- 二、車掌、運轉手、轉轍手、馭者及信號人等ノ服制並服務

ニ關スル規定

三、信號人、轉轍手及番人ヲ配置スヘキ場所

第十條 車掌、運轉手、馭者ヲ雇入ムトスルトキハ其ノ原籍、住所、氏名、年齢ヲ記シ履歷書ヲ添ヘ會社所在地、所轄警察官署ニ願出テ免許ヲ受ケシムヘシ

第十一條 車掌、運轉手及馭者ノ職務ハ無免許者ヲシテ代理セシムヘカラス

第十二條 車掌、運轉手、轉轍手、馭者、信號人及番人本則ニ違背シ又ハ其ノ業務ニ不適當ト認ムルトキハ從業ノ停止又ハ禁止ヲ命スルコトアルヘシ

第十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ五日以内ニ當廳ニ届出ツヘシ但シ第一號ノ場合ニ於テハ検査證ノ書換又ハ再渡ヲ受ケ第二號ノ場合ニ於テハ検査證ヲ返納スヘシ

第十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ三日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ但シ第一號ノ場合ニ於テハ免許證ノ書換又ハ再渡ヲ受ケ第二號ノ場合ニ於テハ免許證ヲ返納スヘシ

- 一、車輛検査證書ヲ亡失毀損シ又ハ検査證書記載ノ事項ニ異動ヲ生シ若ハ文字不分明トナリタルトキ
- 二、車輛ノ使用ヲ廢止シタルトキ
- 一、車掌、運轉手、馭者ノ免許證ヲ亡失毀損シ又ハ免許證記載ノ事項ニ異動ヲ生シ若ハ文字不分明トナリタルトキ

第十五類 保安 第九章 交通

二、車掌、運轉手、馭者ヲ解雇シ又ハ死亡若ハ所在不明トナリタルトキ

第十五條 何等ノ事由ヲ問ハス運轉上故障發生シタルトキハ直チニ其ノ額末ヲ具シ發生地及營業所所在地警察官署ニ届出ツヘシ

第十六條 客車ニハ公安風俗ヲ害シ又ハ危險發生ノ虞アル廣告ヲ爲シ又ハ爲サシムヘカラス

第十七條 本縣下ニ營業區域ヲ有スル他管ノ營業者ニシテ其ノ管轄廳ヨリ第五條、第六條ニ該當スル検査ヲ受ケタル者又ハ從業者ニシテ第十條ノ免許證ヲ受有スル者ハ更ニ検査又ハ免許證ヲ受クルヲ要セス但シ第六條ノ臨時検査ハ此ノ限りニアラス

第十八條 從業者ニシテ其ノ管轄廳ノ規定ニ據リ其ノ職務ヲ公認セラレタルモノハ前項ノ免許證受有者ト看做ス

第十九條 第一項營業者ニシテ其ノ管轄廳ヨリ本則第九條第二號ニ該當スル事項ノ認可ヲ受ケタルトキハ其ノ事項ヲ當廳ニ届出ツヘシ

第三章 從業者ニ對スル規定

第十八條 左ニ掲クル者ハ車掌、運轉手、轉轍手、馭者、信號人、番人タルコトヲ得ス

- 一、十八歳未満ノ者
- 二、精神ニ異狀アル者
- 三、素行不良ノ者

四、其ノ他公安風俗ヲ害スル虞アル者

第十九條 車掌、運轉手、轉轍手、馭者、信號人及番人ハ左

記事項ヲ遵守スヘシ

一、從業中制服ヲ脱スヘカラス

二、受持場所ヲ離ルヘカラス

三、酩酊シテ就業スヘカラス

四、馬匹ヲ虐待スヘカラス

五、乗客及公衆ニ對シ侮慢ノ言行ヲ爲スヘカラス

第二十條 車掌、運轉手、馭者ハ左記ノ事項ヲ遵守スヘシ

一、就業中ハ免許證ヲ携帯シ且如何ナル場合ト雖免許證ヲ

有セサル者ニ自己ノ職務ヲ委託スヘカラス

二、電車ノ運轉手已ムコトヲ得スシテ運轉手臺ヲ離ルルト

キハ制御器ノ把手ヲ外シ之ヲ携帯シ其ノ他ノ運轉手ニ

シテ運轉手臺ヲ離ルルトキハ他人ノ制御スルトコト能ハ

サル旨注意ヲナスヘシ

三、制限速度ヲ超過シテ進行スヘカラス

四、道路交叉部、街角、橋上、坂路又ハ往來雜踏ノ場所ニ

於テハ音響器ヲ鳴ラシ徐行スヘシ

五、車馬及歩行者、車ノ前路ヲ通行シ又ハ車ニ接近シタル

トキハ音響器ヲ鳴ラシ徐行シ又ハ停止スヘシ

六、昇降場以外ノ場所ニ於テ假リニ停車スヘカラス

七、乗客ノ昇降ヲ終リタル後ニアラサレハ行車シ又ハ行車

ノ信號ヲ爲スヘカラス

八、消防器械又ハ郵便用馬車若ハ軍隊通過ノトキハ其ノ通

行ノ障礙ヲ與ヘサル様徐行シ又ハ停車スヘシ

九、客車ノ行先ヲ示ス爲書同ハ標札ヲ掲ケ夜間ハ標燈ヲ點

スヘシ

十、定員ヲ超エ客ヲ乗載スヘカラス乗客定員ニ達シタルト

キハ車掌ハ滿員札ヲ揭示スヘシ

十一、客車内ノ燈火ハ隧道内又ハ夜間ニ在リテハ必ス之ニ

點火スヘシ

十二、昇降臺又ハ運轉手臺ニハ客ヲ乗載スヘカラス

第二十一條 車掌ハ左記ノ者ニ對シテハ乘車ヲ拒絕スヘシ

一、酩酊シタル者

二、同乗者ニ厭忌ノ感ヲ起サシムヘキ疾病アル者

三、同乗者ニ不快ヲ感セシムヘキ不潔ノ容裝ヲ爲シタル者

第二十二條 車掌ハ第二十三條ニ違背スル者アルトキハ之ヲ

制止シ尙ホ肯セサルトキハ乘車ヲ拒絕スヘシ其ノ職務上正

當ノ請求ニ應セサルトキ亦同シ

第四章 公衆ニ對スル規定

第二十三條 乗客ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一、攜帶制限ヲ超ユル火藥類及危險ヲ他ニ及スヘキ虞アル

物或ハ不潔臭氣等ノ爲ニ同乗者ノ迷惑トナルヘキ手荷物

ヲ携帯スヘカラス

二、滿員札ヲ掲ケタル場合ハ乘車スヘカラス

三、車ノ進行中昇降スヘカラス

四、昇降口又ハ運轉手臺ニ立止マリ又ハ肢體ヲ車外ニ出ス

ヘカラス

五、唾壺外ニ唾唾スヘカラス

六、車内ノ器具裝置ヲ汚損スヘカラス

七、車窓ヨリ車外ニ物品ヲ投棄スヘカラス

八、放歌、喧嘩又ハ他人ノ嫌惡スヘキ行為ヲ爲スヘカラス

九、車内ニ於テ喫煙スヘカラス但シ橫濱市内線及同市連絡

線以外ハ此ノ限ニ在ラス

十、第二十一條及第二十二條ノ規定ニ依リ車掌ヨリ乗車ヲ

拒絕セラレタルトキハ即時又ハ最近ノ昇降場ニ於テ降

車スヘシ

第二十四條 軌道車輛及電氣ノ裝置ヲ爲シタル機械器具其ノ

他工作物ヲ毀損シ又ハ電線ニ接觸スヘカラス

第二十五條 車ニ竹木瓦石ヲ投擲シ又ハ何等ノ方法ヲ問ハス

車輛ノ進行ヲ妨害スヘカラス

第二十六條 牛車、馬車及重量ノ荷車ハ軌道外ニ相當ノ餘地

ヲ存スルトキハ軌道ヲ通行スヘカラス

第二十七條 車輛通過スルトキハ車馬又ハ通行人ハ軌道外適

當ノ位置ニ避クヘシ

第二十八條 農業用其ノ他止ムヲ得サルニアラサレハ踏切ノ

外專用軌道數ニ立入ルヘカラス

第五章 罰則

第二十九條 本則ニ違背シタル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二

第十五類 保安 第九章 交通

十圓未滿ノ科料ニ處ス

第三十條 十二歳未滿ノ者本則ニ違背シ其ノ所爲監護者ノ怠

慢ニ出タルトキハ前條ノ科料ヲ監護者ニ科ス

第三十一條 法人ノ代表者又ハ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業

務ニ關シ本則ニ違背シタルトキハ第二十九條ノ科料ヲ法人

ノ代表者ニ科ス

附則

第三十二條 電氣動力以外ノ現在營業者ハ明治四十年十一月

三十日迄ニ本則第七條第九條第十條ノ規定ニ從フヘシ

第三十三條 現在ノ電氣鐵道營業者ニシテ當廳又ハ所轄警察

官署ノ検査免許若ハ認可ヲ受ケタル事項ニ付テハ本則ノ手

續ヲ要セス

第三十四條 明治三十七年四月神奈川縣令第三十三號電氣鐵道

取締規則ハ之ヲ廢止ス

● 乗合馬車取締規則

(明治二十二年四月二十四日)

(縣令第二十三號)

(沿革)明治二五年三月縣令第九號、二九年六月同第二七號、

三八年七月同第三七號、三九年一月同第一號改正

乗合馬車取締規則別冊ノ通り相定メ來ル五月十五日ヨリ施行

ス

但明治十四年五月甲第七十八號布達ハ本令施行ノ日ヨリ廢ス

(別冊)

第十五類 保安 第九章 交通

乘合馬車取締規則

第一章 通則

- 第一條 乘合馬車營業ヲ爲サントスル者ハ其營業線路及ヒ駐車場ヲ記載シ所轄警察署ヘ願出免許證ヲ受クヘシ其線路又ハ駐車場ヲ變更セントスル時モ亦同シ
- 出張店又ハ支店ヲ設ル者モ本條ニ據ルヘシ
- 第二條 營業者ハ馭者馬丁ノ族籍住所氏名年齢ヲ所轄警察署ヘ届出一人毎ニ鑑札ヲ受クヘシ
- 此場合ニ於テハ必ス本人ヲ同行スヘシ
- 第三條 營業者自ラ馭者馬丁ノ業ヲ爲サントスル時ハ總テ馭者馬丁ニ關スル規則ニ從フヘシ
- 第四條 馭者馬丁ノ鑑札ハ毎年三月中所轄警察署ノ検査ヲ受クヘシ其検査ヲ受ケサル者ハ無効トス
- 第五條 車體及ヒ馬匹ハ毎年三月及ヒ九月ニ於テ所轄警察署ノ検査ヲ受クヘシ其車體馬匹ヲ變更シ又ハ新ニ使用セントスル時ハ定期ニ拘ハラス検査ヲ受クヘシ
- 第六條 左ノ場合ニ於テハ七日以内ニ所轄警察署ヘ届出書換又ハ再渡ヲ乞フヘシ
 - 一 轉居改氏名其他免許證検査證及ヒ鑑札面記載ノ事項ニ異動ヲ生シタル時
 - 二 免許證検査證鑑札ヲ遺失毀損シ又ハ其文字不分明ニ至リタル時
- 第七條 左ノ場合ニ於テハ七日以内ニ所轄警察署ヘ届出免許證検査證又ハ鑑札ヲ返納スヘシ
 - 一 廢業シタル時
 - 二 車馬ヲ買渡シ又ハ讓渡シ若クハ使用ヲ廢シタル時
 - 三 馭者馬丁ヲ解約シ又ハ馭者馬丁ノ失踪逃亡若クハ死去シタル時
- 第八條 免許證検査證又ハ鑑札ハ之ヲ貸與スヘカラス
- 第九條 車體検査證ハ車體内部見易キ所ニ釘付スヘシ
- 第十條 検査證アル車馬ト雖トモ此規則ノ制限ニ適セス又ハ車體器具ノ破損若クハ不潔ニ至リ或ハ馬匹疾病衰弱ノ狀アル時ハ其使用ヲ差止ムヘシ
- 第十一條 公益上必要ナリト認メタルトキハ營業線路又ハ駐車場ノ變更ヲ命シ若ハ制限ヲ加フルコトアルヘシ
- 第十二條 左ノ事項ノ一ニ該當スルトキハ營業ヲ停止シ又ハ禁止スルコトアルヘシ
 - 一 公安ヲ害スルノ虞アルトキ
 - 一 本則ニ違背シタルトキ
- 馭者馬丁ニシテ前項各號ノ一ニ該當シタルトキハ就業ヲ停止シ又ハ禁止スルコトアルヘシ
- 第二章 車體馬匹及器具
 - 一 車ハ四輪以上ニシテ適當ナル駐車機ヲ備フヘシ
 - 二 車體ハ無地漆塗又ハ磨出ニシテ其屑根覆ハ木製或ハ護從フヘシ

- 三 客座ハ適當ナル裝置ヲ爲スヘシ但シ一人ノ座席巾一尺二寸ヲ下ルヘカラス
- 四 車體ニハ適當ナル泥除ヲ設クヘシ
- 五 車體前面ノ兩側ニハ硝子燈ヲ備フヘシ
- 六 運轉器心棒發條力革手綱及ヒ其他ノ器具ハ堅牢強靱ノモノヲ用フヘシ
- 七 雨具ハ護引又ハズツク製ノモノヲ用フヘシ
- 第十三條 馬匹ハ五歳以上ニシテ強壯ナルモノニ限ルヘシ
- 第三章 馭者馬丁ノ資格及服裝
- 第十四條 馭者ハ滿二十年以上馬丁ハ滿十六年以上ニシテ身體強壯ナル者且ツ馭者ハ馭術ニ熟達シタル者ニ限ルヘシ
- 第十五條 醉狂又ハ暴行ノ癖アル者若クハ盜罪強姦及ヒ過失ニアラサル殺傷罪ヲ犯シ若クハ現ニ監視中ニ係ル者ハ馭者馬丁タルコトヲ得ス
- 第十六條 馭者馬丁ハ左ノ制限ニ從ヒ不潔ナラサル服裝ヲ爲スヘシ
 - 一 馭者ハ帽子筒袖ゾボン靴
 - 二 馬丁ハ帽子又ハ餛飩笠紺無地筒袖若クハ法被及ヒバツチ股引
 - 三 雨具ハ護引桐油製其他雜紗類
- 第四章 馭者馬丁就業制限
- 第十七條 馭者ハ乘合馬車取締規則及ヒ現ニ使用スル所ノ馬

第十五類 保安 第九章 交通

- 匹検査證ヲ所持シ警察官吏又ハ乘客ニ於テ見ンコトヲ求メタルトキハ直チニ之ヲ示スヘシ
- 馭者馬丁ノ其鑑札ニ於ケルモ亦同シ
- 第十八條 馬車ヲ運轉スルニハ馭者馬丁ヲ關クヘカラス
- 第十九條 頰冠リ鉢巻其他不體裁ノ形裝ヲ爲シ又ハ徒跣ニテ業ニ就クコトヲ得ス
- 第二十條 馭者ハ駐車中ト雖トモ馬車ヲ離ルヘカラス但止ムヲ得サル場合ハ馬丁ヲシテ馬車ノ管守ヲ爲サシムヘシ
- 第二十一條 乘客著席シ又ハ降車シ畢リタル後ニアラサレハ車ヲ進行スヘカラス
- 第二十二條 乘客中粗暴ノ所爲アル時ハ之ヲ制止シ若シ肯セサル時ハ降車セシムヘシ
- 第二十三條 馭者臺ニ客ヲ乗載スヘカラス又屋根ニ物品ヲ載スヘキ構造ヲ爲サシテ物品ヲ載スヘカラス
- 第二十四條 行車中ハ飲食ヲ爲スヘカラス又醉中其業ニ就クコトヲ得ス
- 第二十五條 馭者ハ他人ヲシテ馬ヲ馭セシムヘカラス
- 第二十六條 行人ニ對シ強テ乘車ヲ勸メ又ハ侮慢ノ言行ヲ爲スヘカラス
- 第二十七條 定員半數以上ノ乘客アル時ハ正當ノ理由ナクシテ出車ヲ拒ムヘカラス又正當ノ理由ナクシテ定員内ノ乗合ヲ拒ムヘカラス
- 第二十八條 濫リニ出火場祭禮市場等群集ノ場所ニ馬車ヲ入

ルヘカラス

第二十九條 馬車ヲ竝ヘ馳セ又ハ濫リニ疾驅シテ行人ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第三十條 馬車ノ通行及ヒ避讓方ハ左ノ例ニ從フヘシ
一 車馬道ノ設ケアル場所ハ左側其設ナキ場所ハ中央ヲ通行スヘシ

二 車馬及ヒ歩行者ニ行逢フトキハ互ニ左ニ避ケ軍隊並ニ砲車輜重車ニ對シテハ右ニ避ケヘシ

三 實車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ坂路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ

四 前車徐行シ後車疾行セントスル時ハ後車ヨリ相當ノ合圖ヲ爲シ前車ハ左ニ避ケ後車ハ右ヲ通過スヘシ

五 郵便又ハ消防ノ用ニ供スル馬車及ヒ漕水車又ハ祭葬等ノ行列ニ行逢フ時ハ避讓スヘシ

第三十一條 二車以上引續キ行進スル時ハ後車ハ前車ヨリ相當ノ距離ヲ取ルヘシ

第三十二條 往來雜沓又ハ狹隘ノ場所及ヒ街角橋上ヲ通過スル時ハ徐行シ相當ノ相圖ヲ爲シ且ツ馬丁ヲシテ前行セシムヘシ街角ニ於テハ右折ハ大廻リヲ爲シ左折ハ小廻リヲ爲スヘシ

第三十三條 街角橋上其他往來ノ妨害トナルヘキ場所ニ於テ駐車スヘカラス

第三十四條 馬匹ヲ虐使スヘカラス

場ノ見易キ所ニ揭示スヘシ

第四十二條 何等ノ名義ヲ以テスルモ乗客ニ對シ賃錢定額外ノ金錢ヲ請求スヘカラス

第四十三條 駐車場ニハ乗合馬車駐車場ト記シタル標識ヲ設クヘシ

第四十四條 駐車場ノ外車馬ヲ置クヘカラス
但乗客用辦ノ爲メ往來ノ妨害トナラサル場所ニ一時駐車スルハ此限リニアラス

第四十五條 駐車場ノ地盤ハ石煉化石敲キ又ハ板ヲ敷キ且ツ馬尿溜ヲ設クヘシ

第四十六條 駐車場ハ日々掃除ヲ爲シ常ニ清潔ニスヘシ

第七章 保證金

第八章 罰則

第五十一條 此規則第一條第二條第五條第六條第七條第八條第九條第十七條第十八條第二十條第二十一條第二十三條第二十四條第二十五條第二十六條第二十七條第二十九條第三十條第三十一條第三十二條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條第四十條第四十一條第四十二條ニ違背シタル者及ヒ第十條ニ違背シテ使用シタル者第十二條第十六條第三十六條第四十三條第四十五條第四十六條ニ違背シテ官ノ督促ニ從ハサル者第十九條第四十四條ニ違背シテ制止ヲ肯セサル者第三十條第三十一條第三十二條ニ違背シテ通行ノ妨害ヲ爲シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ料

第十五類 保安 第九章 交通

第三十五條 夜中燈火ナクシテ行車スヘカラス

第三十六條 車體馬匹ハ常ニ清潔ニスヘシ

第三十七條 乗客降車ノ際ハ其所持品等ニ注意シ若シ遺留品アリタル時ハ直チニ返付スヘシ其主分明ナラサル時ハ速ニ最寄警察署分署又ハ巡查駐在所巡查派出所ニ申出ヘシ

第五章 乗載制限
第三十八條 乗客ノ員數ハ車體馬力ニ應シテ之ヲ定メ所轄警察署ノ認可ヲ受ケ車内見易キ所ニ標示スヘシ

第三十九條 定員外ノ客ヲ乗載スヘカラス
但十年未滿ノ者ハ二人ヲ以テ一人ト看做シ三年未滿ノ者ハ定員外トス

第四十條 左ニ記載シタルモノハ乗載スヘカラス
但警察官吏ノ承認若クハ指圖ヲ受ケタル時ハ此限リニアラス

一 六種傳染病疥癬癩病其他乗客ニ於テ厭忌スヘキ病狀アル者

二 瘋癲者暴行者亂醉者及ヒ乞食體ノ者

三 汚穢物其他惡臭ヲ發シ又ハ汚染ノ虞アル物品

四 獸類
但獸欄アルモノ若クハ飼主ニ於テ其車輛ヲ屢切タル場合ハ此限リニアラス

第六章 賃錢及駐車場
第四十一條 賃錢額ハ所轄警察署ノ認可ヲ受ケ車内及ヒ駐車

ニ處ス

其刑法ニ正條アルモノハ各其本條ニ依テ處分セラルヘシ

附則
一 從前免許ヲ得タル馬車營業者ニシテ引續キ營業ヲ爲サントスル者及ヒ從前檢印濟ノ馬車ニシテ此規則ノ制限ニ適セサル者ハ來ル十一月十五日限リ此規則ノ手續ニ從ヒ更ニ免許ヲ受ケ且第二條ノ手續ヲ爲スヘシ其期限ヲ過キ之ヲ行ハサル者ハ免許ノ效ヲ失ヒ又ハ使用スルコトヲ得ス

自働車取締規則

(明治四十五年五月十日) 縣令第四十七號

自働車取締規則左ノ通之ヲ定ム

自働車取締規則

第一條 自働車ニ依リ運輸ノ業ヲ營マムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ知事ニ願出許可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ
一、原籍住所氏名年齢但シ法人ニ在リテハ其ノ名稱事務所々在地及代表者ノ氏名ヲ記シ定款ヲ添付スヘシ
二、營業ノ種別
三、營業線路圖面(道路幅員記入)及停車場ノ位置
四、營業時間及客車ニ在リテハ乗客ノ定員賃錢額貨車ニ在リテハ貨物ノ積載量運賃額
五、動力ノ種類名稱構造圖面(寸法記入)

車輛ノ重量箇數構造圖面(寸法記入)

六、制動機制御機音響器其ノ他附屬機械器具ノ構造及圖面(寸法記入)

保安及衛生上必要ト認ムル事項ハ許可ノ條件トシテ命令スルコトアルヘシ

第二條 自家乗用又ハ貨貨用トシテ自働車ヲ使用セムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ知事ニ願出認可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

一、原籍住所氏名年齢但シ法人ニ在リテハ其ノ名稱事務所所在地及代表者ノ住所氏名

二、動力ノ種類原動力機ノ名稱製造年月日及車輛ノ重量寸法箇數

第三條 自働車ノ運轉ヲ爲ス者ハ其ノ原籍住所氏名年齢及履歴書ヲ具シ知事ニ願出免許證ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ必要アリト認メタルトキハ試驗ヲ行フコトアルヘシ但シ之ニ必要スル費用ハ受驗者ノ負擔トス

第四條 車輛ハ左記各號ノ構造又ハ施設ヲ要ス

一、車輛ハ當廳ニ於テ指示スル形狀ノ車輛番號ヲ前部及後部ノ視易キ箇所ニ標示スヘシ

二、自働車ニハ二個ノ制動機ヲ備ヘ一ハ必ス車軸又ハ車輪ニ固著シタル「ドラム」ニ作用セシメ直ニ運轉ヲ停止シ得ヘキモノ他ノ一ハ機關各部ノ逆働ヲ阻止スヘキ裝置ヲ有スルモノニシテ各自働的ニ原動力機ヲ停止シ且速

度ヲ調節シ得ヘキ裝置ヲ爲スヘシ

三、險速器及音響器ノ裝置ヲ爲スヘシ

四、蒸汽瓦斯石油其ノ他爆發性又ハ可燃性ノ物品ヲ容ルヘキ管既場所及電線ハ堅牢ニ造リ漏洩又ハ危險ノ虞ナキ裝置ヲ爲スヘシ

五、明ニ認メ得ヘキ煤煙蒸汽又ハ多量ノ有臭有害ノ瓦斯若ハ運轉中騒響震動ヲ發セサル裝置ヲ爲シ尙ホ泥除ヲ設クヘシ

六、短半徑ノ曲線ヲ以テ容易ニ方向ヲ變シ得ル爲メ「ザフエレンシヤルギア」及「ステーリングギア」ヲ裝置スヘシ

七、車輛ノ前面ニハ「ヘッドライト」ヲ後面ニハ燈火ヲ備ヘ本條第一號ノ車輛番號ヲ照スノ裝置ヲ爲スヘシ

八、車體ハ全長外法十八尺以内幅外法七尺以内ノ構造ト爲スヘシ

前項各號ノ外必要アリト認メタルトキハ危險豫防ノ裝置ヲ命スルコトアルヘシ

第五條 車體及之ニ附屬スル機械器具ハ當廳ノ検査ヲ受ケ其ノ検査證ヲ有スルモノニ非サレハ使用スルコトヲ得ス

検査證ハ車内視易キ箇所ニ之ヲ標示スヘシ

検査證ヲ有スルモノト雖モ前條ノ構造又ハ施設ヲ具備セサルニ至リシ車輛ハ之ヲ使用スヘカラス

危險豫防ノ裝置ヲ命シタルトキハ其ノ裝置ノ完了スル迄検査證ノ返納ヲ命スルコトアルヘシ

第七條 車體及之ニ附屬スル機械器具ハ毎年五月一回當廳ノ検査ヲ受クヘシ但シ必要ト認メタルトキハ臨時検査ヲ施行スルコトアルヘシ

前項ノ検査ニ合格セサルモノハ検査證ヲ返納スヘシ

第八條 検査ノ際ハ検査官吏ノ指示ニ從フヘシ検査ニ因リ生シタル費用及損害ハ受檢者ノ負擔トス

第九條 運轉ニ關シテハ左記ノ事項ヲ遵守スヘシ

一、速度ハ街路ニ在リテハ一時間十哩其ノ他ノ道路ニ在リテハ一時間十二哩ヲ超過スヘカラス但シ雜沓ノ場所ニ於テハ歩行者ニ等シキ速度ニ依ルヘシ

二、乗用車輛ハ其ノ幅二倍半未滿ノ道路貨車ハ四間未滿ノ道路ヲ行進スヘカラス但シ特ニ所轄警察官署又ハ警察官吏ノ承認ヲ受ケタル場合ハ此限ニアラス

自家又ハ他人ノ家ニ出入スル爲メ他ニ規程以上ノ通路ナク已ムヲ得サル場合ニ於テハ三町以内ニ限リ前項但書ノ承認ヲ受ケサルコトヲ得

三、運轉ニ從事スルモノハ免許證ヲ携帶シ警察官吏ノ求めアルトキハ之ヲ提示スヘシ

四、運轉者ノ免許證ハ之ヲ貸與スヘカラス

五、警察官吏ニ於テ停車ヲ命シタルトキハ直ニ之ニ應スヘシ

六、夜間ハ制規ノ燈火ヲ點スヘシ

第十五類 保安 第九章 交通

第十五類 保安 第九章 交通

度ヲ調節シ得ヘキ裝置ヲ爲スヘシ

三、險速器及音響器ノ裝置ヲ爲スヘシ

四、蒸汽瓦斯石油其ノ他爆發性又ハ可燃性ノ物品ヲ容ルヘキ管既場所及電線ハ堅牢ニ造リ漏洩又ハ危險ノ虞ナキ裝置ヲ爲スヘシ

五、明ニ認メ得ヘキ煤煙蒸汽又ハ多量ノ有臭有害ノ瓦斯若ハ運轉中騒響震動ヲ發セサル裝置ヲ爲シ尙ホ泥除ヲ設クヘシ

六、短半徑ノ曲線ヲ以テ容易ニ方向ヲ變シ得ル爲メ「ザフエレンシヤルギア」及「ステーリングギア」ヲ裝置スヘシ

七、車輛ノ前面ニハ「ヘッドライト」ヲ後面ニハ燈火ヲ備ヘ本條第一號ノ車輛番號ヲ照スノ裝置ヲ爲スヘシ

八、車體ハ全長外法十八尺以内幅外法七尺以内ノ構造ト爲スヘシ

前項各號ノ外必要アリト認メタルトキハ危險豫防ノ裝置ヲ命スルコトアルヘシ

第五條 車體及之ニ附屬スル機械器具ハ當廳ノ検査ヲ受ケ其ノ検査證ヲ有スルモノニ非サレハ使用スルコトヲ得ス

検査證ハ車内視易キ箇所ニ之ヲ標示スヘシ

検査證ヲ有スルモノト雖モ前條ノ構造又ハ施設ヲ具備セサルニ至リシ車輛ハ之ヲ使用スヘカラス

七、運轉手ハ就業中其ノ車體ヲ離ルヘカラス但シ已ムヲ得ス其ノ位置ヲ離ル、トキハ危險豫防ニ適當ナル方法ヲ爲スヘシ

八、他車ト併行シ又ハ競争スヘカラス

九、自働車二輛以上連續行進スルトキハ後車ハ前車ニ對シテ三十間以上ノ距離ヲ保ツヘシ

十、往來雜沓ノ場所、第二號ニ依リ規程未滿ノ道路ヲ行進スルトキ又ハ街角橋上坂路等ヲ通過スルトキハ絶ヘス音響器ヲ鳴ラシ徐行スヘシ

街角通過ノ際ハ右ハ大廻リヲ爲シ左ハ小廻リヲ爲スヘシ

十一、街角橋上其ノ他往來ノ妨害ト爲ルヘキ場所ニ停車スヘカラス

十二、消防機械又ハ郵便用車馬若ハ軍隊其ノ他ノ隊伍及葬儀等ニ行進ヒタルトキハ其ノ進行ニ障害ヲ與ヘサル様徐行シ又ハ停車スヘシ

十三、馬匹ニ近ツクトキハ速度ヲ緩メ恐ラセシメサル様注意スヘシ但シ馬匹驚奔シ又ハ其ノ處アルトキハ直ニ停車シ若ハ路傍ニ避クヘシ

第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ自働車營業又ハ自家乗用及貨貨用自働車ノ使用ヲ停止若ハ禁止シ又ハ其ノ許可若ハ認可ヲ取消スコトアルヘシ

一、本則又ハ本則ニ依リ發シタル命令ニ違背シタルトキ

二、公安ヲ害スルノ虞アリト認メタルトキ

第十一條 從業者本則又ハ本則ニ依リ發シタル命令ニ違背シ若ハ就業上不適當ナリト認メタルトキハ就業ヲ停止シ又ハ免許ヲ取消スコトアルヘシ
前項ニ依リ免許ヲ取消サレタルトキハ速ニ免許證ヲ當廳ニ返納スヘシ

第十二條 左ノ場合ニ於テノ三日以内ニ當廳ニ届出ツヘシ但シ第一號ノ場合ハ検査證又ハ免許證ノ書替若ハ再下付ヲ受ケ第二號第四號ノ場合ハ検査證又ハ免許證ヲ返納シ第五號ノ場合ハ戸主又ハ家族ヨリ其ノ手續ヲ爲スヘシ
一、車輛ノ検査證又ハ運轉手ノ免許證ヲ亡失毀損シ若ハ其ノ證書記載ノ事項ニ異動ヲ生シ又ハ其ノ文字不分明トナリタルトキ

二、車輛ヲ讓與シ又ハ使用ヲ廢止シタルトキ
三、運轉手ヲ雇入タルトキ
四、運轉手ノ解雇死亡又ハ所在不明トナリタルトキ
五、營業者又ハ所有者ノ異動死亡又ハ所在不明トナリタルトキ

第十三條 本則ニ依リ當廳ニ差出スヘキ願届ハ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

第十四條 第一條第一項第二條第三條第五條乃至第九條第十條ニ違背シ又ハ第一條第二項ノ命令事項若ハ第十條及第十一條ノ處分ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第十五條 營業者貸貸業者又ハ自家用自動車ノ使用者ハ其ノ

代理人家族雇人其ノ他ノ從業者ニシテ業務又ハ其ノ使用ニ關シ前條ノ違背行為アリタルトキハ自己ノ關知セサル故ヲ以テ處罰ヲ免カル、コトヲ得ス營業者貸貸業者又ハ自家用者カ未成年又ハ禁治産者ナルトキハ本則ニ依リ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス

法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタル場合ニ於テハ本則ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス

法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告トス

附則

第十六條 明治三十七年八月神奈川縣令第五十三號自動車取締規則ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第十七條 本令施行以前ヨリ使用スル自家用又ハ貸貸用ノ自動車及運轉手ハ本令施行ノ日ヨリ三十日以内ニ本令ノ手續ヲ爲スヘシ

● 自轉車取締規則

(明治三十五年七月十五日)
(縣令第五十二號)

(沿革)明治四一年九月縣令第七八號改正
自轉車取締規則左ノ通之ヲ定ム

第一條 道路ニ於テ自轉車ヲ乘用スルトキハ他人ニ警戒ヲ與ヘ得ヘキ號鈴又ハ號笛ヲ車體ニ裝置シ若ハ携帯スヘシ

第二條 道路ニ於テハ左ノ行為ヲ爲スヘカラス

- 一 乗車ノ練習ヲ爲シ又ハ曲乘若ハ競走スルコト
- 二 車輛ノ定員外ニ乗車スルコト
- 三 二輛以上ヲ竝ヘ乗車スルコト

第三條 交通頻繁ノ道路ヲ通行シ若ハ街角ヲ廻ルトキハ號鈴又ハ號笛ヲ鳴ラシ徐行スヘシ

第四條 坂路又ハ狹隘ノ道路ニ於テハ徐行スヘシ但シ急斜セ

第五條 市街地ニ在リテハ乘車中同時ニ兩手ヲ「ハンドル」ヨリ離スヘカラス

第六條 軍隊又ハ學生生徒其ノ他葬儀等ノ列伍ニ行遇フトキハ軍隊ハ右側ニ其ノ他ハ左側ニ避クヘシ

第七條 諸車ヲ追越サルトキハ右側ヨリ通過スヘシ

第八條 夜間乘車スルトキハ燈火ヲ點スヘシ

第九條 警察官吏ニ於テ危險其ノ他必要ト認ムルトキハ下車ヲ命シ又ハ乘車ヲ停止スルコトアルヘシ

第十條 本則第一條乃至第五條及第八條ニ違背シタル者及第九條ノ命令ニ從ハサル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十圓未滿ノ科料ニ處ス

● 人力車營業取締規則

(明治二十五年七月四日)
(縣令第五十號)

(沿革)明治三一年五月縣令第二〇號、同年一〇月同第四六

號、三四年八月同第四五號、三五年四月同第三〇號、三六年五月同第三九號、三七年七月同第四九號、三八年四月同第一九號、同年六月同第三二號、三九年六月同第三七號、四一年九月同第七八號改正
人力車營業取締規則左ノ通之ヲ定ム
但明治二十二年四月縣令第二十二號營業人力車取締規則ハ自今之ヲ廢止ス

第一章 通則

第一條 人力車營業トハ輓子ヲシテ車ヲ輓カシメ又ハ車ヲ貸貸スルヲ以テ營業トスルモノヲ云フ
輓子トハ車ヲ賃借シ又ハ人力車營業者ニ雇ハレ稼業ヲナスモノヲ云フ

第二條 人力車營業ヲ爲サントスル者ハ管轄警察官署ニ願出免許ヲ受ケ同時ニ車體ノ検査證ヲ受ケヘシ

第三條 輓子ヲラントスル者ハ族籍住所氏名生年月日ヲ記シ營業者之ニ連署シ管轄警察官署ニ願出鑑札ヲ受ケヘシ

第四條 醉狂又ハ暴行ノ癖アル者若クハ盜罪強姦及幼者ヲ略取誘拐スル罪又ハ過失ニアラサル殺傷罪ヲ犯シタル者ハ輓子タルコトヲ得ス但管轄警察官署ニ於テ改悛ノ狀顯著ナリト認ムルモノハ特ニ許可スルコトアルヘシ

第五條 車體及其ノ附屬品ハ毎年四月五月ノ間ニ於テ管轄警察官署ニ出頭シ又ハ其ノ指定スル場所ニ於テ定期ニ検査ヲ受ケヘシ

車體ヲ新造改造又ハ買受ケ譲受ケヲ爲シタルトキハ使用前ニ願出臨時検査ヲ受クヘシ
警察官署ハ検査ニ際シ車體ニシテ一ケ年ノ保存ニ耐ヘスト認ムルトキハ特ニ使用ノ期限ヲ付スヘシ使用期限ヲ過キタル車體ハ使用スルコトヲ得ス

第六條 輓子鑑札ハ毎年四月五月ノ間ニ於テ管轄警察官署ノ検査ヲ受クヘシ其検査ヲ受ケサルモノハ無効トス

第七條 管轄警察官署ハ第五條第六條ノ定期ニ拘ハラヌ臨時検査ヲ爲スコトアルヘシ

第八條 左ノ場合ニ於テハ三日以内ニ管轄警察官署ニ届出テ鑑札検査證ノ書換再渡又ハ消印ヲ請フヘシ但輓子ノ届書ハ營業者ノ連署ヲ要ス

一 廢業又ハ轉居改氏名其他鑑札検査證面記載ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキ

二 鑑札検査證ヲ亡失毀損シ又ハ其文字不分明ニ至リタルトキ

三 車ヲ賣渡シ又ハ讓渡シ若クハ使用ヲ廢シタルトキ

四 輓子ノ失踪逃亡若クハ死去シタルトキ

第九條 鑑札、検査證及番號ヲ付シタル冠リ物ハ之ヲ貸借スヘカラス

第十條 検査證ハ車ノ賦込正面ニ釘付スヘシ

第十一條 検査ノ證アル車ト雖トモ警察官吏ニ於テ第十六條ノ制限ニ適セス又ハ破損若クハ不潔ニ至リタルヲ認ムルト

キハ其使用ヲ差止ムヘシ
第十二條 鑑札検査證ニ充ツル木札ハ左ノ寸法ニ據リ營業者ニ於テ之ヲ調製スヘシ
鑑札 堅二寸横三寸
検査證 堅三寸横四寸

第十三條 營業者自ラ車ヲ輓クトキハ總テ輓子ニ關スル規則ニ從フヘシ

第十四條 人力車營業者ハ警察官署ノ管轄區域毎ニ組合ヲ設クヘシ但シ地形ノ狀況ニ因リ組合ヲ合併シ又ハ分離スルコトヲ得
前項ノ組合ニ入ラサル者ハ人力車營業者タルコトヲ許サス組合規約ハ管轄警察官署ニ届出テ認可ヲ受クヘシ
組合ニハ取締人ヲ置キ營業ニ關スル願届書ニ加印シ其ノ他取締人ハ組合ニ關スル一切ノ事務ヲ整理スヘシ
取締人ハ願届書ノ加印ヲ拒ムコトヲ得ス若シ意見アルトキハ別ニ意見書ヲ付スヘシ

第十五條 管轄警察官署ハ輓子ニシテ第二十條第二十二條第二十三條第三十二條第三十三條ヲ犯シタル者又ハ營業者ニシテ第三十一條第三十三條ヲ犯シタル者再ヒ同罪ヲ犯シ處罰ヲ受クルモ仍ホ改悛ノ狀ナシト認メタルトキハ其ノ鑑札ヲ取揚ケ又ハ其ノ免許ヲ取消スコトアルヘシ

第二章 車體ノ構造及附屬品ノ制限

第十六條 車體ハ堅牢ニシテ其構造及附屬品ハ左ノ制限ヲ下

ルヘカラス

一 壹人乗ハ横幅内法二尺未満貳人乗ハ二尺以上トス

二 車體ハ無地漆塗中張ハ革天鷲絨羅紗ノ類ヲ用フヘシ但シ白地ノ上張リヲ用フルコトヲ得

三 車體ト同一ノ泥除ヲ備フヘシ

四 護謨引又ハ桐油製ノ母衣前掛清潔ナル蒲團及膝掛ヲ備フヘシ但シ晴天ニハ日除ノ爲制限外ノ母衣ヲ使用スルコトヲ得

五 營業用ノ提燈ニハ組名ヲ記シ且ツ日本亞刺比亞兩數字ニテ輓子鑑札ノ番號ヲ附記スヘシ但シ數字ノ上ニハ組名ノ頭字(組合ヲ設ケタル鐵道停車場ニ在リテハ日本數字ノ上ニ組名ノ頭字及鐵ノ字亞刺比亞數字ノ上ニ組名ノ頭字及Sノ字)ヲ和英兩文ニテ冠記スヘシ

第十七條 輓子就業中ノ服裝ハ左ノ制限ニ從ヒ破損又ハ不潔ナルモノヲ著用スヘカラス但シ著服竝ニ雨具ノ背及冠物ニハ第十六條第五ノ規定ニ依リ其ノ文字ヲ記スヘシ

一 著服ハ筒袖又ハ法被及バツチ又ハ股引

二 冠物ハ帽子又ハ饅頭笠

三 雨具ハ護謨引桐油製又ハ絨製但シ防水布製筒袖又ハ法被ヲ著用スル者ハ本具ヲ省クコトヲ得

第十八條 輓子就業中ハ鑑札ヲ所持シ警察官吏又ハ乗客ノ要求アルトキハ之ヲ示スヘシ

第十九條 煩冠リ鉢卷其他見苦シキ形裝ヲ爲スヘカラス

第十五類 保安 第九章 交通

第二十條 乗客ノ承諾ヲ得ス途中ニ於テ他車ニ乗セ替ヘ又ハ駐車シ若クハ下車ヲ請フヘカラス

第二十一條 道路ニ於テハ駐車場ノ外車ヲ置クヘカラス

第二十二條 宿屋飲食店及其他ノ營業者ト謀リ乗客ヲ誘引シ又ハ乗客ノ指示セサル場所ニ輓入ルヘカラス

第二十三條 行人ニ對シ強テ乗車ヲ勸メ又ハ侮慢ノ言行ヲ爲スヘカラス

第二十四條 車通行及避讓方ハ左ノ例ニ從フヘシ

一 道路ノ左側ヲ通行スヘシ
二 車馬及歩行者ニ行進フトキハ左ニ避ケ軍隊竝ニ砲車輻重車ニ對シテハ右ニ避ケヘシ
三 實車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ坂路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ

四 前車ニ先チ後車進行セントスルトキハ後車ヨリ懸聲ヲ爲シ前車ハ左ニ避ケ後車ハ右ヲ通過スヘシ

五 郵便用消防用ノ車馬及灌水車又ハ祭葬等ノ行列ニ行進フトキハ避讓スヘシ

六 街角ヲ過クルトキハ右折ハ大廻リヲ爲シ左折ハ小廻リヲ爲スヘシ

第二十五條 往來雜沓又ハ狹隘ノ場所及街角橋上ヲ通過スルトキハ徐行スヘシ

第二十六條 二輛以上ノ車ヲ連繫シテ輓クヘカラス

第二十七條 街角橋上其他往來ノ妨害ト爲ルヘキ場所ニ於テ

客ヲ昇降セシムヘカラス

第二十八條 夜中燈火ナクシテ行車スヘカラス

第二十九條 客ヨリ求メアリタルトキハ正當ノ理由ナクシテ乗車ヲ拒ムヘカラス

第四章 貨錢

第三十條 貨錢額ハ組合ニ於テ豫メ之ヲ定メ管轄警察官署ニ届出テ認可ヲ受クヘシ之ヲ更正セントスルトキ亦同シ

第三十一條 營業者ハ検査證ノ寸法ニ等シキ木札ノ貨錢表ヲ製シ車體ノ賦込ニ釘付スヘシ之ヲ更正シ又ハ其文字不分明トナリタルトキハ書換ヲ爲スヘシ

横濱市内ニ於テ營業スル者ノ貨錢表ハ木札又ハ板紙ニ和英兩國文ヲ以テ之ヲ併書スルコトヲ要ス

警察官吏又ハ乘客ニ於テ貨錢表ノ提示ヲ求ムルトキハ直ニ之ニ應スヘシ

第三十二條 何等ノ名義ヲ以テスルモ乘客ニ對シ定額外ノ金錢ヲ請求スヘカラス

第三十三條 乘客ニ於テ單ニ行先ヲ示シ其道筋ヲ定メサルトキハ最近ノ路程ニ依リ貨錢ヲ計算スヘシ

第五章 乗載制限

第三十四條 一人乗ニ二人二人乗ニ三人以上ヲ乗載スヘカラス但十年未滿ノ者ハ二人ヲ以テ一人ニ算シ三年未滿ノ者ハ定員外トス

第三十五條 汚穢物其他車ヲ汚染シ又ハ惡臭ヲ遺留スヘキ物

品又ハ車體外ニ張出スヘキ長大ノ物品ヲ乗載スヘカラス

第六章 駐車場

第三十六條 駐車場ヲ分テ公設私設ノ二種トス

第三十七條 公設駐車場ハ管轄警察官署ニ於テ之ヲ定メ標示スヘシ

第三十八條 私有地ニ私設駐車場ヲ設ケントスル者ハ管轄警察官署ニ願出テ許可ヲ受ケ之ヲ標示スヘシ

第三十九條 公設駐車場ニ在ル人力車ハ整列ノ順序若クハ籤取ヲ以テ出車スヘシ但客ノ特ニ指定シタル場合ハ此限ニアラス

第七章 罰則

第四十條 本則第二條第三條第八條第九條第十條第十四條第十六條第十七條第十八條第十九條第二十條第二十二條第二十三條第二十九條第三十條第三十一條第三十二條第三十三條第三十五條第三十八條第三十九條第四十一條ニ依リ使用ヲ差止メラレタル車ヲ使用シタル者第三十九條ニ違ヒ争ヲ生シタル者第十六條第四十二條ニ違ヒ督促ニ從ハサル者第十九條第二十一條第二十六條第二十八條第三十四條ニ違ヒ制止ヲ肯セサル者第二十四條第二十五條第二十七條ニ違ヒ通行ノ妨害ヲ爲シタル者及検査ヲ受ケス又ハ検査期限使用期限ヲ經過シテ車體ヲ使用シ若ハ營業者ニシテ免許證札ヲ受有セサル者ニ車體ヲ貸與シタル者及ヒ輓子ニシテ車體ノ轉貸ヲ爲シタル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十圓未滿ノ料料ニ處

ス

附則

一 從前下附シタル車體検査證及輓子鑑札ハ明治二十五年十月検査ノ期迄有效トス

二 乗車貨錢額ハ本則第二十九條ニ從ヒ本則施行ノ日迄ニ更ニ届出テ且ツ第三十條ニ從ヒ其表ヲ車體ニ釘付スヘシ

● 荷車取締規則

(明治三十三年十二月十八日) 縣令第七十四號

(沿革) 明治四二年四月縣令第二十七號改正 荷車取締規則左ノ通之ヲ定ム

荷車取締規則

第一條 此ノ規則ニ於テ荷車ト稱スルハ貨物運搬ニ使用スル諸車ヲ謂フ

第二條 荷車ニハ所有者ノ住所氏名ヲ車體ノ右側路易キ所ニ明示スヘシ

第三條 車輪ノ齒幅ハ左ノ制限ニ從ヒ且ツ齒面ヲ直形ニ製造スヘシ

- 一 牛車
 - 三寸以上
- 二 馬車
 - 甲 車臺低クシテ取者臺ノ設ケアルモノノ即チ重臺車ト稱スルモノ及重臺車以外ノ構造ニシテ彈條ヲ具セサルモノ 二寸以上
 - 乙 甲以外ノ構造ニシテ彈條ヲ具スルモノ 一寸五分以上

- 三 前各號以 荷臺ノ平 一 寸以上
- 外ノ諸車 四 坪以上 甲 彈條ヲ具セサルモノ 八 分 以上
- 乙 彈條ヲ具スルモノ

第四條 積荷ノ容積ハ左ノ制限ヲ超ユヘカラス但シ竹木其ノ他分割スヘカラサル物件又ハ輕量ナルモノハ此ノ限ニ在ラ

- 一 高さ 荷臺ヨリ六尺
- 二 前後ノ出幅 荷臺ヨリ各一尺
- 三 左右ノ出幅 荷臺ヨリ各一尺

第五條 牛馬力ニ適セサル重荷ヲ積載スヘカラス

警察官吏ニ於テ重量過當ト認メタルトキハ直ニ其ノ積荷ノ減少ヲ命スルコトアルヘシ

第六條 積荷ハ墜落セサル様緊束スヘシ

第七條 荷車二輛以上連行スルトキハ各車ノ間相當ノ距離ヲ保ツヘシ

第八條 荷車ハ牛馬ノ蕪飲貨物ノ積卸其ノ他必要ナル停止ヲ爲ストキノ外街路ニ停止スヘカラス

第九條 荷車ヲ停止スルトキハ路傍ニ片寄セ其ノ牛馬ハ奔逸セサル様緊束スヘシ

第十條 荷車ハ如何ナル場合ト雖疾驅スヘカラス

第十一條 夜中燈火ナクシテ荷車ヲ運轉スヘカラス

第十二條 狂躁ノ癖又ハ甚シキ外傷アル牛馬ヲシテ荷車ヲ輓カシムヘカラス

第十五類 保安 第九章 交通

- 第十三條 荷車ハ取車臺ノ設ケアルモノノ外乗車スヘカラス
牽綱ハ三尺以上ニ延シテ牽クコトヲ得ス
- 第十四條 荷車ヲ運轉スルニハ所用ノ如何ヲ問ハス道路ヲ破
壞スル齒止其ノ他ノ器具方法ヲ施スヘカラス
- 第十五條 荷車ハ後押ノミニハ運轉スヘカラス
- 第十六條 牛馬車營業ヲ爲サムトスル者ハ創業前左ノ事項ヲ
具シ所轄警察官署ニ届出ツヘシ
- 一 原籍、現住所、身分、氏名、年齢
 - 一 使用スヘキ荷車ノ種類、輛數
 - 一 牛馬ヲ使用スルトキハ其ノ種類、頭數及其ノ飼養場
前項届出事項ニ異動ヲ生シタルトキハ三日以内ニ届出ヘシ
廢業シタルトキ亦同シ
- 第十七條 營業者ニ於テ取者及牽子ヲ雇入レタルトキハ三日
以内ニ其ノ者ノ原籍、現住所、身分、氏名、年齢ヲ詳記シ
鑑札ヲ製シ所轄警察官署ニ届出テ檢印ヲ受クヘシ
- 取者牽子就業中ハ必鑑札ヲ携帯スヘシ
- 營業者自ラ取者牽子ヲ爲サムトスルトキハ前二項ノ例ニ依
ル
- 第十八條 營業者ニ於テ取者、牽子ニ異動ヲ生シタルトキハ
三日以内ニ所轄警察官署ニ届出テ鑑札檢印ノ消除ヲ受クヘ
シ
- 第十九條 牛馬車營業者ニ於テ使用スル牛馬ノ飼養場ハ所轄
警察官署ノ認可ヲ受クヘシ

- 飼養場ハ清潔ヲ主トシ日掃除ヲ爲スヘシ
- 第二十條 此ノ規則第二條、第三條、第四條、第六條、第九
條、第十條、第十一條、第十二條、第十三條、第十四條、第
十五條、第十六條、第十七條、第十八條、第十九條ニ違
背シタル者及第五條ノ命ニ從ハサル者ハ一圓九十五錢以下
ノ科料ニ處シ又ハ十日以下ノ拘留ニ處ス
- 附則
- 第二十一條 従前ノ牛馬車營業者ハ本則施行ノ日ヨリ三十日
以内ニ更ニ此ノ規則第十六條、第十七條、第十九條ノ手續
ヲ爲スヘシ
- 第二十二條 第三條ノ制限ニ適合セサル荷車ハ明治三十四年
十二月三十一日限り之ヲ使用スルコトヲ得ス
- 第二十三條 明治二十二年四月神奈川縣令第二十七號營業荷馬
車取締規則ハ廢止ス

表

番 號	取者(牽子)鑑札
原籍現住所身分誰雇	
氏 名	
年 齡	

鑑札雛形

三寸

荷積牛車等檢印ノ件

(明治四十二年四月二十日)
訓令第二十四號

横濱市役所

自今其ノ役所ニ於テ荷積牛車荷積馬車荷積大車ニ檢印ノ場合
ハ荷車取締規則ノ制限ニ適合セルヤ否ヲ檢査シ車臺ノ外車輪
ノ踏易キ所ニ檢印ヲ爲スヘシ

第十章 風俗

娼妓取締細則

(明治三十三年十月三十日)
縣令第六十四號

娼妓取締細則左ノ通之ヲ定ム

娼妓取締細則

第一條 娼妓名簿ノ登錄ヲ申請セムトスル者ハ明治三十三年

第十五類 保安 第十章 風俗

内務省令第四十四號娼妓取締規則第三條ノ外左ノ各號ヲ具
備スルヲ要ス

- 一 娼妓稼ノ年限
- 二 妓名及揚代金額
- 第二條 娼妓同一ノ指定地域内ニ於テ住居ヲ移轉セムトスル
トキハ娼妓取締規則第三條本則第一條各號中異動ヲ生スル
事項ヲ記シ所轄警察官署ニ申請スヘシ
- 第三條 娼妓ハ道路又ハ道路ヨリ見透シ得ヘキ場所ニ於テ佇
立又ハ彷徨スヘカラス
- 第四條 娼妓左ノ各號ニ該當スルトキハ三日以内ニ所轄警察
官署ニ申請スヘシ

 - 一 娼妓稼年限ノ變更
 - 二 三日以上ノ休業及其ノ就業
 - 三 族籍氏名妓名又ハ揚代金額ノ變更

- 第五條 娼妓ハ妊娠滿六ヶ月後又ハ分娩後滿三ヶ月以内ハ其
ノ稼ヲ休止スヘシ
- 第六條 娼妓取締規則第七條ニ依リ指定地域外ニ出テムトス
ルトキハ行先外出ノ日時及事由ヲ具シ所轄警察官署ニ願出
テ外出證ヲ受ケ之ヲ携帯スヘシ歸寓シタルトキハ其ノ證ヲ
返納スヘシ
- 第七條 娼妓指定地域外ニ出ツルトキハ左ノ各號ヲ遵守スヘ
シ

 - 一 客ト同行セサルコト

- 二 常人ニ異ナル扮装ヲセサルコト
- 三 公園、演藝場、遊藝場、遊技場及待合茶屋、料理屋、温泉宿ニ出入セサルコト
- 第八條 娼妓客ノ遺留品アリタルヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ貸座敷營業者ニ通知スヘシ
- 第九條 娼妓取締規則若ハ本則ヲ犯シタル者ハ其ノ業ノ停止又ハ禁止ヲ命スルコトアルヘシ
- 第十條 貸座敷營業者ニ於テ娼妓ニ對シ賚費ヲ強ヒ又ハ不正實ノ所爲アルトキハ警察官吏ニ申告スルコトヲ得
- 第十一條 本則第二條第三條第四條第五條第六條第七條第八條ニ違背シタル者ハ三日以上十日以下ノ拘留又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

附則

第十二條 明治三十年四月神奈川縣令第二十九號貸座敷引手茶屋及娼妓取締規則ハ之ヲ廢止ス

●貸座敷引手茶屋取締規則

(明治三十三年十月三十日)
縣令第六十五號

(沿革) 明治三十七年四月縣令第三〇號、三十八年九月同第四五號改正

貸座敷引手茶屋取締規則左ノ通之ヲ定ム

第一章 貸座敷引手茶屋

第一條 貸座敷引手茶屋

- 第一條 貸座敷引手茶屋ノ營業ハ別ニ指定スル地域内ニ限ル
- 第二條 貸座敷又ハ引手茶屋ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ族籍、住所、氏名、年齢及樓名屋號ヲ記シタル書面ニ營業地名、番地其ノ坪數、間數、間取、出入口ヲ記シタル建物ノ圖面ヲ添ヘ所轄警察官署ニ願出免許ヲ受クヘシ其ノ家屋ノ改築、増築、變更ヲ爲サムトスルトキ亦同シ
- 第三條 他人ニ名義ヲ假シ又ハ公安ヲ害スルモノト認ムルトキハ營業ヲ免許セス又ハ免許シタル後ト雖モ之ヲ停止シ若ハ免許ヲ取消スコトアルヘシ
- 第四條 貸座敷引手茶屋指定地域内ニ於テ宿屋又ハ雇人口入營業ヲ爲ス者ハ貸座敷又ハ引手茶屋營業者タルコトヲ得ス
- 第五條 貸座敷又ハ引手茶屋ノ營業者死亡シ其ノ營業ヲ承繼セムトスルトキハ死亡ノ日ヨリ七日以内ニ相續人ニ於テ其ノ旨所轄警察官署ニ届出ヘシ其ノ期日内ニ届出サルトキハ免許ノ效ヲ失フモノトス
- 第六條 貸座敷ノ構造ハ左ノ制限ニ從ヒ工事落成ノ上ハ其ノ旨所轄警察官署ニ届出テ認可ヲ受クヘシ
- 一 客室ハ空氣ヲ疏通セシメ道路又ハ貸座敷引手茶屋指定地域外ヨリ見透サシメサルコト
- 二 家族及同居娼妓ノ員數ニ適當ナル浴場ヲ設クルコト
- 三 便所ハ臭氣ノ客室ニ及ハサル所ニ設ケ糞尿ヲ受容スヘシ

- キ部分ハ石敲キ又ハ陶器ノ類ヲ以テ構造シ且ツ小便所ハ一口毎ニ區劃ヲ爲スコト但シ別ニ便所構造ニ關スル規則ヲ施行スル場所ハ尙其ノ規則ニ從フヘシ
- 四 便所ニハ臭氣拔ヲ設クルコト
- 貸座敷ハ前項構造制限ノ外左ノ規程ニ從フヘシ但シ本項ハ土地ノ狀況ニ依リ所轄警察官署ノ許可ヲ經テ之ニ據ラサルコトヲ得

- 一 建造物五十坪毎(二階以上ハ各別トス)ニ一個臺所浴場等ニハ一ヶ所毎ニ一個ノ消火器ヲ設備シ其ノ設置ノ場所ハ所轄警察官署ノ指定ヲ受クヘシ
- 二 燈火ノ油壺ハ金屬ノモノヲ使用スヘシ
- 第七條 貸座敷營業用ニ供スル家屋ニシテ所轄警察官署ニ於テ衛生上其ノ他危險ノ虞アリト認ムルトキハ其ノ修築ヲ命シ又ハ營業ヲ停止スルコトアルヘシ
- 第八條 二箇以上ノ營業所ヲ設クルトキハ營業者自ラ管理スルモノノ外管理人ヲ定メ所轄警察官署ニ届出ヘシ
- 第九條 貸座敷ニ於テハ左ノ所爲ヲ爲スヘカラス
- 一 娼妓ヲシテ張見世ヲ爲サシムルコト
- 二 道路ヨリ見透シ得ヘキ場所ニ人目ヲ惹クヘキ裝飾ヲ爲シ若ハ寢具其ノ他ノ物品ヲ顯ハシ置クコト
- 第十條 左ノ各號ハ事實ノ生シタル日ヨリ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ
- 一 三日以上ノ休業及休業後ノ就業

第十五類保安 第十章 風俗

- 二 族籍、住所、氏名及樓名、屋號ノ異動
- 三 法定代理人又ハ管理人ノ族籍、住所、氏名ノ異動或法定代理人ノ終了又ハ管理人ノ解除
- 四 娼妓死亡シ又ハ行衛不明トナリタルトキ又ハ行衛不明ノ娼妓一ヶ年以内ニ歸寓シタルトキ
- 第十一條 貸座敷營業者ハ遊客人名簿ヲ製シ遊客ノ住所、氏名、職業、年齢等ヲ詳記シ翌日午前中ニ警察官吏ノ檢閲ヲ受クヘシ
- 第十二條 雇人ヲ雇入レタルトキハ其ノ族籍、住所、氏名、年齢ヲ詳記シ三日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ其ノ異動アリタルトキ亦同シ
- 第十三條 貸座敷引手茶屋營業者ハ左ノ各號ヲ遵守スヘシ
- 一 學生、生徒其ノ他未成年者ニ遊興セシムヘカラス
- 二 遊客ニ面會ヲ求ムル者アルトキハ之ヲ拒ムヘカラス
- 三 客引ヲ出シ又ハ廣告其ノ他如何ナル方法ヲ問ハス遊興ヲ勸誘スヘカラス
- 四 客ノ需メサル飲食物ヲ出シ又ハ之ヲ強ユヘカラス
- 第十四條 遊興費ニ充ツル爲強ヒテ客ノ著衣其ノ他ノ物品ヲ受取り又ハ之ヲ預リ若ハ買入、賣却等ノ周旋ヲ爲シ又ハ爲サシムヘカラス但任意ニ出ルモノハ警察官ノ承認ヲ受クヘシ
- 第十五條 貸座敷ニ於テ娼妓ニ對シ苛酷ノ取扱ヲ爲シ又ハ貸座敷引手茶屋ニ於テ娼妓若ハ遊客ニ對シ不正ノ所爲アリト

認ムルトキハ營業ノ停止又ハ禁止ヲ命スルコトアルヘシ
第十六條 引手茶屋ハ遊客又ハ娼妓ヲ宿泊セシムヘカラス
第十七條 客ノ遺留品アリタルトキハ物主判明ノモノハ速ニ之ヲ交付シ其ノ判明セサルモノハ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第十八條 貸座敷引手茶屋營業者ハ毎月收入金高遊客人員及娼妓ノ稼金高ヲ翌月五日限所轄警察官署ニ届出ヘシ
第十九條 貸座敷引手茶屋營業者ハ其ノ營業上ニ就テハ家族雇人ノ所爲ト雖其責ヲ免ルコトヲ得ス

第二十條 貸座敷引手茶屋指定地域内ノ道路ノ幅員、出入口ノ數及障扉ハ土地ノ狀況ニ依リ別ニ指定スルコトアルヘシ
第二十一條 遊廓地外ノ貸座敷引手茶屋ハ午後十二時以後ニ於テ歌舞音曲ヲ爲サシムヘカラス

第二十二條 遊廓地外ノ貸座敷引手茶屋營業者ハ樓名又ハ屋號ヲ記シタル看板若ハ標燈ノ外外觀ヲ裝フヘキ裝飾等ヲ爲スヘカラス

第二十三條 貸座敷引手茶屋營業者ハ其ノ指定地域毎ニ同業組合規約ヲ設ケ所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ其ノ改正ヲ要スルトキ亦同シ

第二十四條 貸座敷引手茶屋營業者ハ同業組合ニ加入セスシテ營業スルコトヲ得ス

第二十五條 同業組合ニ於テ規約スヘキ事項概ネ左ノ如シ

第二章 組合
一 組合會議ノコト
二 取締ノ人員選舉ノ方法及其ノ任期ノコト
三 取締以下職務ノコト
四 取締以下報酬ノコト
五 組合加入及脱退手續ノコト
六 遊客名簿ヲ備フルコト
七 組合費用收入支出方法及精算ノコト
八 規約違背者處分ノコト
九 右各號ノ外組合ニ必要ト認ムル事項

第二十六條 組合取締ノ處辨スヘキ事項左ノ如シ
一 貸座敷引手茶屋娼妓名簿ヲ整備スルコト
二 法令其他ノ命令ヲ組合内ニ周知セシムルコト
三 毎月末日娼妓ト貸座敷トノ精算ヲ査閱認印スルコト
四 健康診斷準備ニ關スルコト
五 貸座敷引手茶屋及娼妓ノ收入金高遊客人員ノ届書ヲ取纏メ其ノ筋ニ差出スコト
六 前各號ノ外組合ニ關スル一切事務

第二十七條 取締ハ貸座敷引手茶屋及娼妓ノ營業ニ關スル願書ニ加印スヘシ但シ娼妓名簿ノ登錄刪除ノ申請書ハ此ノ限ニ在ラス
第二十八條 組合取締其ノ他組合ノ役員ハ其ノ住所、氏名及前項願書ニ對シ取締ニ於テ意見アルトキハ其旨附記シ速ニ相當官署ニ差出スヘシ

役名ヲ組合取締ヨリ所轄警察官署ニ届出ヘシ其ノ變更ノトキ亦同シ
第二十九條 警察官署ニ於テハ組合役員ヲ不相當ト認メタルトキハ其ノ改選ヲ命スルコトアルヘシ

第三章 罰則
第三十條 本則第四條第五條第八條第九條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第十六條第十七條第二十一條第二十二條第二十四條第二十七條第二十八條ニ違反シ第二條ノ免許ヲ受ケスシテ營業ヲ爲シ又ハ第三條ノ停止中營業シタル者若ハ第六條ノ認可ヲ受ケスシテ使用シタル者ハ三日以上十日以下ノ拘留又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

附則
第三十一條 本令施行前與ヘタル貸座敷引手茶屋營業免許ハ本令施行後仍其ノ效力ヲ有ス

第三十二條 従前ノ同業組合規約ハ本令ニ依リ更ニ認可ヲ受クルヲ要セス

第三十三條 本則第六條第二項ニ定ムル消火器ニシテ現ニ設備ナキモノハ明治三十七年六月三十日迄ニ設備スヘシ

貸座敷引手茶屋營業免許區

（明治三十年四月六日）
（縣令第三十號）

（沿革）明治三〇年五月縣令第三三號、同第三四號、三三年一

第十五類 保安 第十章 風俗

月同第一號、三六年三月同第一八號、同第一九號改正

貸座敷、引手茶屋營業免許區域左ノ通之ヲ定ム

橫濱市 永樂町
橫濱市 眞金町
橋樹郡 神奈川町 小字反町
同 郡 川崎町 小字元木耕地、見染耕地
同 郡 保土ヶ谷町 小字西町裏
三浦郡 豐島村 小字渡戸、柏木田
同 郡 浦賀町 小字荒卷下中田、八郡田
同 郡 三崎町 小字諏訪上
鎌倉郡 戸塚町 小字矢澤
高座郡 藤澤大坂町 小字東横須賀
中 郡 大磯町 小字竹繩
同 郡 平塚町 小字東上ノ臺
足柄下郡 小田原町 新玉四丁目
津久井郡 吉野驛 龍田

附則
左ニ列記スル從來ノ貸座敷及引手茶屋營業者中橋樹郡川崎町及足柄下郡小田原町ハ明治三十六年十二月三十一日迄ニ其他ハ明治三十六年三月三十一日マテニ新指定ノ營業區域内ニ移轉スヘシ其期限ヲ過キ移轉セサル者ハ免許ノ效ヲ失フモノトス

橋樹郡 神奈川町 字西ノ町、仲ノ町、十番地、宮洲町、瀨下町、七軒町代地、七軒町二

一五九

- 丁目、久保
町、宮ノ町
同 郡 川崎町 久根崎十六番地、十七番地以西
同 郡 保土ヶ谷町 新宿字久保町
三浦郡 浦賀町 谷戸 上神戸
同 郡 三崎町 入船
鎌倉郡 戸塚町 戸塚一丁目ヨリ
同 郡 藤澤大富町 大鋸
高座郡 藤澤大坂町 坂戸町、白旗横町迄
中 郡 平塚町 字西仲町、東仲町、
同 郡 大磯町 字南木町、北木町、
足柄下郡 小田原町 十字、幸町、
津久井町 吉野驛 字新町、木町、
龍田
- 待合茶屋、料理屋、飲食店**
取締規則 (明治二十九年二月二十五日)
(沿革) 明治三六年二月縣令第一三號、三九年一月同第六
五號、四一年七月同第六一號改正
待合茶屋、料理屋、飲食店取締規則左ノ通之ヲ定ム
- 第一條** 左ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ族籍、住所、氏名、年

- 齡、營業場所、營業種類、屋號等ヲ詳記シ管轄警察官署ニ
願出免許ヲ受クヘシ其ノ營業種類ヲ變更増減セムトスルト
キ亦同シ
- 一 待合茶屋、貸席、料理屋、ミルクホール、醃酒屋(酒
ノ類)
- 二 客室ヲ設ケタル飲食店
- 第二條** 營業者雇人ヲ雇入レタルトキハ寄留ト否トヲ問ハス
左ノ事項ヲ詳記シ三日以内ニ管轄警察官署ニ届出ヘシ但シ
一時限リ雇入ルル者ハ此ノ限ニ在ラス
- 一 雇人ノ住所、氏名、身分、年齢
- 二 口入人アルトキハ其住所、氏名、職業
- 三 雇賃額
- 四 前ノ住所、職業若シ雇主アリタル者ハ其ノ住所、職業
及解雇ノ年月日
- 第三條** 他人ニ名義ヲ假シ又ハ公安ヲ害シ若ハ風俗ヲ壞亂ス
ルモノト認ムルトキハ營業ヲ免許セス又ハ免許シタル後ト
雖モ之ヲ停止シ若ハ免許ノ失効ヲ命スルコトアルヘシ
- 第四條** 左ノ事項ハ三日以内ニ管轄警察官署ニ届出ヘシ
- 一 廢業又ハ十日以上ノ休業
- 二 營業場所ノ移轉、住所、氏名、屋號ノ變更
- 三 雇人ノ解雇又ハ死亡
- 第五條** 營業者ニシテ一箇年以上休業シタルトキハ免許ノ效
ヲ失フモノトス

第六條 營業上ニ就テハ左ノ事項ヲ爲スヘカラス

- 一 形容若ハ言語ヲ以テ通行人ヲ勸誘シ又ハ客引ニ紛ハシ
キ所業ヲ爲スコト
- 二 無實ノ招牌ヲ掲ケルコト
- 第七條** 本則第一條、第二條、第四條ニ違背シタル者及第三
條ノ停止中營業シタル者並ニ第六條ニ違背シ警察官吏ノ制
止ニ從ハサル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾
錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス
- 附則

- 第八條** 本則ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス
- 第九條** 本則第一條ニ該當スル從前ノ營業者ハ本則實施ノ日
マテニ第一條、第二條ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第十條** 現ニ「ミルクホール」ヲ營ム者ニシテ尙引續キ營業ヲ
爲サムトスル者ハ明治二十九年十二月十五日迄ニ第一條第
二條ノ手續ヲ爲スヘシ

第十一章 興行、遊技
演藝場取締規則

(明治三十年十二月十四日)
縣令第六十一號

(沿革) 明治三十七年四月縣令第二八號、三八年八月同第四〇
號、四二年六月同第五二號、四三年四月同第三二號
改正

第十五類 保安 第十一章 興行、遊技

演藝場取締規則左ノ通之ヲ定ム

第一章 通則

- 第一條** 本則ニ於テ演藝場ト稱スルハ劇場及寄席ヲ云フ
- 第二條** 演藝場ヲ常設セムトスル者ハ左ノ事項ヲ具備シ警察
官署ヲ經テ縣廳ニ願出免許ヲ受クヘシ其ノ再築又ハ改造ヲ
爲サムトスルトキ亦同シ但シ借地ニ係ルモノハ地主ノ承諾
書又ハ貸借ニ關スル契約書ノ謄本ヲ添付スヘシ
- 一 建物ノ平面圖正面圖側面圖及正面圖並ニ側面圖ノ内部
切斷圖 平面圖ニハ舞臺、棧敷、平場、追込席、樂屋、
花道、通路、淨瑠璃場、囃シ場、臨檢席、勘定
場、茶屋、下足置場、木戸口、便所、湯殿、非常口、
井戸、消防具置場等、劇場又ハ寄席ノ構造區別ニ從ヒ
詳記スルヲ要ス
- 二 劇場ハ二町以内寄席ハ一町以内ノ地圖地圖ニハ郡、市、
地現在ノ建造物種類、官署、公署、學校、病院、
社寺等ノ位置ニ對スル距離ヲ詳記スルヲ要ス
- 三 構造ノ仕様書
- 四 落成ノ期限
- 五 觀客ノ豫定人員
- 六 非常ノ警備方法
- 第二條ノ二** 常設演藝場ハ靜肅風致若ハ公安ヲ害スト認ムル
場所又ハ演藝場觀物場等設置ノ慣行ナキ場所ニハ設置ヲ許
可セサルコトアルヘシ

第十五類 保安 第十一章 興行、遊技

公安衛生上必要ト認ムル場合ハ左記事項ニ據リテ構造若ハ施設ヲ指定スルコトアルヘシ

- 一 不燃質物ノ建築ト爲シ若ハ防火壁ノ築造又ハ特定ノ空地ヲ保有スルコト
- 二 附近ノ建造物ト均衡ノ建築ヲ爲スコト
- 三 音響ノ防止危害豫防若ハ衛生上必要ト認ムル施設ヲナスコト

第三條 常設演藝場ノ工事落成シタルトキハ管轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出検査ヲ受クヘシ其検査ヲ受ケスシテ使用スルヲ得ス

前項検査ノ際仕様書ニ違ヒ又ハ堅牢ナラスト認ムルトキハ之レカ改造ヲ命スルコトアルヘシ

第四條 常設演藝場ノ工事落成シタルトキハ開業前左ノ事項ヲ管轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ其ノ變更ノトキ亦同シ

- 一 観客ノ定員
- 二 座名

第五條 左ノ事項ノ一ニ該當スルトキハ七日以内ニ管轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ但シ賣買讓與ニ係ルモノハ雙方連署シ又ハ之ヲ證明スヘキ書類ノ謄本ヲ添付スヘシ

- 一 廢場ノトキ
- 二 持主ノ住所氏名變更ノトキ
- 三 賣買讓與ノトキ

第六條 常設演藝場ニシテ左ノ事項ノ一ニ該當スルトキハ免許ヲ取消スルコトアルヘシ

- 一 工事ノ落成期限ヲ過キタルトキ
- 二 二箇年以上休場シタルトキ
- 三 建物ノ構造ニ危害ノ虞アリト認ムルトキ

第七條 小屋掛又ハ既設ノ建物ヲ使用シ演藝場ヲ假設セムトスル者ハ左ノ事項ヲ具備シ管轄警察官署ニ願出免許ヲ受クヘシ但シ借地又ハ借家ニ係ルトキハ所有主ト連署シ若ハ其ノ承諾書ヲ添付スヘシ

- 一 建物ノ平面圖
- 二 近傍ノ地圖
- 三 小屋掛ニ係ルモノハ柱組ミ仕様ノ概略既設建物ノ使用ニ係ルモノハ其ノ建物ノ種類

四 使用日數

前項ノ願書ハ第二十二條ノ興行願書ト同時ニ提出スルコトヲ得

第八條 假設演藝場ハ常設演藝場所在ノ地ニハ免許セズ但シ祭典祝日其ノ他一時ノ餘興ニ係ルモノハ此ノ限ニ在ラス

第九條 假設演藝場ノ使用期限ヲ滿了シタルトキハ十日以内ニ其ノ裝置ヲ撤去スヘシ

第十條 演藝場ハ官署、公署、學校、病院其ノ他必要ト認ムル場所ニ對シ適當ノ距離ヲ保タシムルコトアルヘシ

第十一條 左ノ事項ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ演藝場ノ使用ヲ停止スルコトアルヘシ

用ヲ停止スルコトアルヘシ

- 一 安寧秩序ニ害アリト認ムルトキ
- 二 風火震災等ニ際シ危害アリト認ムルトキ
- 三 建物ノ構造ニ危害アリト認ムルトキ

第十二條 観客ノ座席ハ一人ニ付曲尺方一尺六寸以上ノ割合ニ爲スヘシ

第十三條 観客ノ定員ハ樓敷、平場、追込席等ノ區別ヲ爲シ場内見易キ場所ニ揭示スヘシ

第十四條 非常口ニハ見易キ標札ヲ掲ケヘシ

第十五條 演藝場ノ持主其ノ所在地ニ居住セサルトキハ管理入ヲ定メ管轄警察官署ニ届出ヘシ其ノ異動アリタルトキ亦同シ

第二章 劇場構造

第十六條 常設劇場ノ構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ

- 一 柱礎棟梁其ノ他ノ材料ハ堅牢ニシテ屋根葺ハ不燃質物ヲ用フルコト
- 二 建物ノ周圍ハ二間以上ノ空地ヲ存スルコト但シ道路ノ幅員二間以上ノ場所ニ沿フトキハ前面ヲ除ク外一間マテ減縮スルコトヲ得
- 三 非常口ハ幅一間以上高サ七尺以上ニシテ建物ノ前後左右各二箇所以上ヲ設クルコト但シ扉ハ外開キ又ハ引戸ニ爲スコトヲ要ス
- 四 舞臺及棧敷ハ堅牢ニ造築シ平場ハ渾テ板張又ハ疊敷ニ爲スコトヲ要ス

第十五類 保安 第十一章 興行、遊技

爲スコト

- 五 平場ノ中央ニハ左右ノ外廊下ヘ建スル一尺五寸以上ノ通路ヲ設クルコト
- 六 平場ノ左右ニハ幅一尺以上ノ通路棧敷ニハ幅二尺以上ノ廊下ヲ設クルコト
- 七 天井ヲ設クルトキハ床上ヨリ高サ六尺五寸以上ト爲スコト
- 八 棧敷ニハ幅四尺以上踏上げ六寸以下蹴込ミ八寸以上ノ階段各二箇所以上ヲ設クルコト
- 九 平場棧敷ノ周圍ニハ空氣抜ヲ設クルコト
- 十 樂屋及藝人ノ休憩所ハ場外ヨリ見通サシメサルコト
- 十一 便所ハ臭氣抜ヲ設ケ一人別仕切ヲ爲シ其ノ受容器ハ不滲透質ノモノヲ用フルコト
- 十二 湯殿ノ流シ場及下水ハ不滲透質ノモノヲ以テ構造スルコト
- 十三 水道又ハ用水ノ便ナキ場所ハ井戸二箇所以上ヲ設クルコト
- 十四 浴場其ノ他火焚場及石油、ランプ置場等ハ石煉瓦其ノ他不燃質物ヲ以テ構造スルコト
- 十五 警察官吏ノ臨檢席ハ全場ヲ見通シ得ヘキ場所ニ設クルコト

第十七條 常設劇場ハ建造物五十坪毎(二階以上ハ各別トス)

ニ一個臺所浴場等ニハ一個所毎ニ一個ノ消火器ヲ設備シ及

唧筒一臺以上ヲ常置シ開演中ハ消防ノ心得アル者三名以上ヲ準備シ置クヘシ
警察官署ハ前項器具設置ノ場所ヲ指定シ及劇場ノ構造又ハ位置ニ依リ必要ト認メタルトキハ器具人員ノ増設ヲ命スルコトヲ得

第十八條 假設劇場ノ構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ

- 一 建物ノ周圍ニハ一間以上ノ空地ヲ存スルコト但シ道路ノ幅員一間以上ノ場所ニ沿フトキハ前面ヲ除ク外三尺マテ減縮スルコトヲ得
 - 二 柱礎棟梁舞臺棧敷ハ堅牢ニシテ平場ハ板張又ハ濕氣ノ浸サ、ル敷物ヲ用フルコト
 - 三 非常口ハ間口一間以上扉ハ外開キ又ハ引戸ト爲シ建物ノ前後左右ニ設クルコト
 - 四 平場及棧敷ニハ一尺以上ノ通路ヲ設クルコト
 - 五 棧敷ニハ堅牢ナル扶欄ヲ附シ階段ハ踏上ケ六寸以下ト爲スコト
 - 六 便所ハ一隅ニ區畫シ男女ノ區別及見隠ヲ設クルコト
 - 七 樂屋湯殿ハ外部ヨリ見通サ、ル裝置ヲ爲スコト
 - 八 警察官吏ノ臨檢席ハ全場ヲ見通シ得ヘキ場所ニ設クルコト
- 前項ノ外警察官署ニ於テ特ニ構造ヲ指示シタルトキハ其ノ指示ニ從フヘシ

第三章 寄席構造

第十九條 常設寄席ノ構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ

- 一 建物ノ前面ハ二間以上其ノ他ノ周圍ハ一間以上ノ空地ヲ存スルコト但シ道路ノ幅員二間以上ノ場所ニ沿フトキハ前面ノ空地ハ一間以上其ノ他ハ三尺マテ減縮スルコトヲ得
 - 二 木戸口ノ外非常口二箇所以上ヲ設ケ其ノ間口ハ六尺以上扉ハ外開キ又ハ引戸ニ爲スコト
 - 三 二階席ハ階子二個以上ヲ設クルコト
 - 四 階子ハ幅四尺以上ニシテ踏上六寸以下蹴込ミ八寸以上トナシ堅牢ナル扶欄ヲ設クルコト
 - 五 客席ニハ相當ノ通路ヲ設ケ且空氣ノ疏通ヲ長クシ便所ニハ臭氣抜ヲ設クルコト
 - 六 浴場其ノ他火焚場及石油、ランプ置場ハ石、煉瓦其ノ他不燃質物ヲ以テ構造スルコト
 - 七 警察官吏ノ臨檢席ハ全場ヲ見通シ得ヘキ場所ニ設クルコト
- 前項構造制限ノ外建造物五十坪毎ニ(二階以上ハ各別トス)一個及臺所浴場等ニハ一個所毎ニ一個ノ消火器ヲ設備スヘシ
- 警察官署ハ前項器具設置ノ場所ヲ指定シ及寄席ノ構造又ハ位置ニ依リ必要ト認メタルトキハ消火器ノ増設並ニ唧筒ノ設置消防ノ心得アル人員ノ配置ヲ命スルコトヲ得

第二十條 假設寄席ノ構造ハ土地ノ狀況ニ因リ第十九條ノ規

定ヲ酌量シテ免許スルコトアルヘシ

第二十一條 寄席ニハ花道ヲ設ケ又ハ大道具ヲ用フルヲ得

第四章 興行

第二十二條 演藝興行ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具備シ

- 一 管轄警察官署ニ願出免許ヲ受クヘシ
- 二 演藝場ノ名稱
- 三 興行日數及開閉時限
- 四 木戸錢、席料、下足料
- 五 火氣其ノ他劇發質ノ物品ヲ使用スルモノハ其ノ危害豫防設備

前項第三號乃至第五號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ豫メ管轄警察官署ニ届出ヘシ

第二十三條 演劇興行ハ其ノ演劇脚本又ハ筋書ヲ開業四十八時間前ニ管轄警察官署ニ差出シ検査ヲ受クヘシ其ノ變更セムトスルトキ亦同シ但シ脚本ノ興行權アルモノ又ハ脚本筋書ニシテ既ニ検査済ノ證アルモノハ其ノ年月日、標題、番號及著者ノ氏名ヲ記シ開業前日マテニ届出ルコトヲ得

第二十四條 演藝時間ハ晝間ハ日出ヨリ夜間ハ十二時ヲ限リトス

第二十五條 演藝ノ所作ニシテ危險又ハ安寧風俗ヲ害シ若ハ検査ヲ受ケタル脚本又ハ筋書ニ相違スルモノト認ムルトキ

第十五類 保安 第十一章 興行、遊技

ハ演藝ノ全部又ハ一部ヲ停止スルコトアルヘシ

第二十六條 演藝中他人ノ毀譽ニ關スル事項ハ關係人ノ申請ニ因リ其ノ全部ヲ停止スルコトアルヘシ

第二十七條 演藝興行中ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

- 一 觀客ノ定員ヲ超過セシメサルコト
- 二 觀客ヲ樂屋ニ入ラシメサルコト
- 三 非常口ハ直ニ開放シ得ヘキ準備ヲ爲シ置クコト
- 四 寄席ニ於ケル藝人ハ臺ヲ用キ又ハ演劇類似ノ所作ヲ爲サ、ルコト
- 五 便所其ノ他ノ場所ヲ清潔ニスルコト
- 六 電氣瓦斯其ノ他安全ノ燈火ヲ用フルコト

第二十八條 名義ノ何タルニ拘ハラズ富籤類似ノ方法ヲ以テ觀客ニ金品ヲ與フヘカラス

第二十九條 左ノ事項ハ觀客心得トシ場内見易キ場所ニ揭示スヘシ

- 一 演藝中舞臺又ハ花道ヲ徘徊セサルコト
- 二 場内ニ於テ種々ノ物品ヲ投棄シ又ハ喧噪其ノ他ノ行爲ヲ以テ他人ノ觀覽ヲ妨ケサルコト
- 三 袒裼、裸體、頰冠、鉢卷等ヲ爲サ、ルコト
- 三 祖揚、裸體、頰冠、鉢卷等ヲ爲サ、ルコト
- 第三十條 興行中近傍ニ出火アルトキハ直ニ非常口ヲ開放シ遠隔ノ場合ニ於テハ速ニ其ノ方向ヲ觀客ニ示スヘシ

第三十一條 慈善會又ハ復習會其ノ他名義ノ何タルニ拘ハラズ演藝ヲ衆庶ノ觀覽ニ供スルモノニハ總テ本章ヲ適用ス

第五章 罰則

第三十二條 左ニ掲クル諸項ノ一ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

- 一 免許ヲ受ケスシテ演藝場ヲ設置シ又ハ之ヲ再築若ハ改造ヲ爲シタル者
- 二 第三條ノ検査ヲ受ケス又ハ第六條ノ免許ヲ取消シタル後使用シタル者
- 三 第四條第五條ノ届出ヲ怠リタル者
- 四 第九條、第十五條、第十七條、第二十一條、第二十二條、第二十三條第二十七條第一號乃至第四號第二十八條第三十條ニ違背シタル者
- 五 第十一條ノ停止中使用シタル者
- 六 第二十五條、第二十六條ノ停止ニ係ル事項ヲ演藝シタル者
- 七 第十三條、第十四條、第二十四條及第二十七條第五號第六號、第二十九條ニ違背シ警察官吏ノ制止又ハ督促ニ従ハサル者

第六章 附則

第三十三條 明治十四年十二月第二十二號布達劇場取締規則明治十四年十二月第二十四號布達寄席取締規則ハ之ヲ廢止ス

第三十四條 從來ノ常設演藝場ニシテ此ノ規則第二章第三章ノ制限ニ適セサルモノハ此ノ規則施行ノ日ヨリ一箇年以内ニ改造スヘシ若シ改造シ能ハサルモノハ其ノ事由ヲ具シ改

造ノ猶豫又ハ免除ヲ管轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ願出ルコトヲ得

第三十五條 現ニ設置ノ浴場其ノ他火焚場及石油、ランプ置場等ニシテ本則第十六條第十四號及第十九條第六號ニ適合セサルモノハ明治三十七年十二月三十一日迄ニ改造スヘシ本則第十七條及第十九條第二項ニ定ムル唧筒及消火器ニシテ現ニ設備ナキモノハ明治三十七年六月三十日迄ニ設備スヘシ

● 觀物場取締規則

(明治三十年十二月七日) 縣令第六十號

(沿革) 明治三十七年四月縣令第二十九號、四二年六月同第五三號、四三年四月同第三一號改正

觀物場取締規則左ノ通之ヲ定ム

觀物場取締規則

- 第一條 此ノ規則ニ於テ觀物場ト稱スルハ左ニ掲クル種類ヲ衆庶ノ觀覽ニ供スル場所ヲ云フ
 - 一 曲馬、相撲、武術、輕業、手品、足藝、力持、獨樂廻シ、太神樂、倭獅子、覗目鏡、人形其ノ他ノ諸藝
 - 二 幻燈寫シ繪、蓄音器、パノラマ、自動鐵道、山嶽橋梁其ノ他風景ノ模造眺望又ハ納涼ニ供スル大廈高樓八幡知ラス(又ハ數潛リ)トモ云フ
 - 三 動植物其ノ他工藝又ハ美術品

第二條

觀物場ヲ常設セムトスル者ハ左ノ事項ヲ詳記シ管轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ願出免許ヲ受クヘシ其ノ改造又ハ變更ノトキ亦同シ但シ借地ニ係ルモノハ地主ノ連署又ハ承諾書ヲ添付スヘシ

- 一 建物ノ側面圖及平面圖(平面圖ニハ木戸口、非常口、樂屋、通路、囃シ場、臨檢席等ヲ記ス)
- 二 壹町四方ノ地圖(建設位置ヲ朱記シ郡、市、町、村、字名番地敷地及建物ノ各坪數並ニ官署、公署、學校、病院等ヘノ距離ヲ記ス)
- 三 構造ノ仕様書
- 四 落成ノ期限
- 五 觀客豫定人員

第二條

常設觀物場ハ靜肅風致若ハ公安ヲ害スト認ムル場所又ハ觀物場演藝場等設置ノ慣行ナキ場所ニ設置ヲ許可セサルコトアルヘシ
公安衛生上必要ト認ムル場合ハ左記事項ニ據リテ構造若ハ施設ヲ指定スルコトアルヘシ

- 一 不燃質物ノ建築ト爲シ若ハ防火壁ノ築造又ハ特定ノ空地ヲ保有スルコト
- 二 附近ノ建造物ト均衡ノ建築ヲ爲スコト
- 三 音響ノ防止危害豫防若ハ衛生上必要ト認ムル施設ヲ爲スコト

第三條

常設觀物場ノ構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ

第十五類 保安 第十一章 興行、遊技

一 建物ノ前面ハ二間以上其ノ他ノ周圍ハ一間以上ノ空地ヲ存スルコト但シ道路ノ幅員二間以上ノ場所ニ沿フトキハ前面ノ空地ハ一間其ノ他ハ三尺マテ減縮スルコトヲ得

- 二 柱礎、棟梁、棧敷ノ堅牢ナルコト
 - 三 客席ノ腰掛ニアラサル座席ハ濕氣ノ浸潤セサル様適當ノ設備ヲ爲スコト
 - 四 非常口ハ間口一間以上ニシテ扉ハ外開又ハ引戸ト爲シ四方各一箇所以上ヲ設クルコト
 - 五 平場又ハ棧敷ニハ適當ノ場所ニ幅一尺五寸以上ノ通路ヲ設クルコト
 - 六 棧敷ニハ堅牢ナル扶欄ヲ附スルコト
 - 七 天井ノ高サハ六尺五寸以上トシ其ノ周圍ニハ空氣抜ヲ設クルコト
 - 八 便所ハ一隅ニ區畫シ男女ノ區別及見隠ヲ設クルコト
 - 九 浴場其ノ他火焚場及石油、ランプ置場等ハ石、煉瓦其ノ他不燃質物ヲ以テ構造スルコト
 - 十 警察官吏ノ臨檢席ハ全場ヲ見透スニ便利ノ場所ニ設クルコト
- 前項構造制限ノ外建造物五十坪毎(二階以上ハ各別トス)ニ一箇臺所浴場等ニハ一箇所毎ニ一個ノ消火器ヲ設備シ其ノ設置ノ場所ハ管轄警察官署ノ指定ヲ受クヘシ

第四條

常設觀物場ノ工事落成シタルトキハ左ノ事項ヲ記シ

管轄警察官署ニ届出検査ヲ受クヘシ其ノ検査ヲ受ケスシテ使用スルヲ得ス

- 一 観客ノ定員(一人ニ付曲尺一方一尺六寸ノ割合ヲ以テ定ムルモノトス)
- 二 座名アルモノハ其ノ稱號

前項検査ノ際仕様書ニ違ヒ又ハ堅牢ナラスト認ムルトキハ之レカ改造ヲ命スルコトアルヘシ

第五條 常設観物場ニシテ左ノ事項ノ一ニ該當スルトキハ七日以内ニ管轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ但シ賣買譲與ニ係ルモノハ双方連署シ又ハ之ヲ證明スヘキ書類ノ謄本ヲ添付スヘシ

- 一 廢場、崩壞又ハ燒失ノトキ
- 二 持主ノ住所氏名變更ノトキ
- 三 管理人ノ設定又ハ其ノ管理人ノ住所氏名變更ノトキ
- 四 賣買譲與ノトキ
- 五 持主ノ死亡ニ因リ承繼ノトキ

第六條 常設観物場ニシテ左ノ事項ノ一ニ該當スルトキハ免許ヲ取消スコトアルヘシ

- 一 落成期限ヲ過キタルトキ
- 二 二箇年以上休場シタルトキ
- 三 建物ノ構造ニ危害アリト認ムルトキ

前項第三號ノ規定ハ假設観物場ニモ適用ス

第七條 観物場ヲ假設セムトスルトキハ左ノ事項ヲ詳記シ管轄警察官署ニ願出免許ヲ受クヘシ但シ借地ニ係ルモノハ地

主ノ連署又ハ承諾書ヲ添付スヘシ

- 一 建設地ノ郡、市、町、村、字、番地及使用坪數竝ニ見取圖
- 二 棧敷ヲ設クルモノハ其ノ構造仕様ノ大要若シ既設建物ノ使用ニ係ルモノハ其ノ建物ノ種類間取
- 三 使用日數
- 四 観客豫定ノ人員(一人ニ付曲尺一尺六寸ノ割合)
- 五 既設ノ建物ヲ使用スルモノハ持主ノ承諾書

前項ノ規定ハ第十條ノ観物興行願書ト同時ニ提出スルコトヲ得

第八條 假設観物場ニシテ建物ヲ設クルモノハ左ノ制限ニ從フヘシ

- 一 建物ノ周圍ハ板又ハ布、蓆、葭簀ノ類ヲ以テ見隠ヲ設クルコト
- 二 屋根ヲ設クルモノハ板又ハ天幕、布、蓆、葭簀ヲ用フルコト
- 三 棧敷ハ堅牢ノ木材ヲ用キ鐵絲又ハ麻繩ノ類ヲ以テ結束スルコト

第九條 假設観物場ノ使用日數ヲ經過シタルトキハ其ノ装置ヲ七日以内ニ取拂フヘシ

第十條 観物興行ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ記シ管轄警察官署ニ願出免許ヲ受クヘシ但シ他人ノ所有ニ係ル観物場ヲ使用スル場合ハ持主ノ連署又ハ貸與ニ係ル證明書ヲ添付

スヘシ

- 一 観物ノ種類
- 二 常設観物場ヲ使用スルモノハ其ノ所在及稱號
- 三 日數及開閉時限
- 四 観覽料
- 五 火氣又ハ劇發質若ハ猛獸或ハ惡臭毒氣其ノ他観客ニ危害ヲ與フルノ虞アルモノヲ用フルトキハ其ノ危害豫防方法

前項免許ヲ受タル事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ旨届出ヘシ

第十一條 観物興行ニシテ安寧風俗ヲ害シ又ハ危險ノ虞アリト認ムルトキハ興行ヲ免許セス既ニ免許シタルモノト雖之レカ停止又ハ取消ヲ命シ若ハ除害装置ヲ命スルコトアルヘシ

第十二條 観物場ニ於テハ左ノ事項ヲ爲スヘカラス

- 一 不具ノ人體ヲ観覽セシムルコト
- 二 富籤ニ類スル抽籤ノ方法ニ依リ観客ニ金品ヲ與フルコト
- 三 風俗ヲ害シ又ハ秩序ヲ紊シ若ハ實物ニ相違スル看板ヲ掲ケ若ハ虚偽ノ廣告ヲ爲スコト
- 四 臺又ハ大道具類ヲ使用シ演劇類似ノ所作ヲ爲スコト
- 五 強テ通行人ニ観覽ヲ勸メ又ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シ客引ヲ爲スコト

第十三條 興行中ハ電氣瓦斯其ノ他安全ノ燈火ヲ用ユヘシ

第十四條 興行時間ハ午前八時ヨリ午後十二時限リトス但シ祭典、祝日又ハ縁日等ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 左ニ掲クル諸項ノ一ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

- 一 第二條、第四條、第五條、第七條、第九條、第十條、第十二條ニ違背シタル者
- 二 第六條ノ免許ヲ取消シタル後ニ於テ使用シタル者
- 三 第十一條ノ命令ニ違背シタル者
- 四 第十三條、第十四條ノ規定ニ違背シ制止ニ從ハサル者

附則

第十六條 明治十四年十二月甲第二百三十七號布達観物場取締規則ハ此ノ規則施行ノ日ヨリ廢止ス

第十七條 從來ノ常設観物場ニシテ此ノ規則第三條ノ制限ニ適セサルモノハ此ノ規則施行ノ日ヨリ一箇年以内ニ改造スヘシ若シ改造シ能ハサルモノハ其ノ事由ヲ具シ猶豫又ハ免除ヲ管轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ願出ルコトヲ得

第十八條 現ニ設置ノ浴場其ノ他火焚場及石油、ランプ置場等ニシテ本則第三條第九條ニ適合セサルモノハ明治三十七年十二月三十一日迄ニ改造スヘシ

本則第三條第九條ニ定ムル消火器ニシテ現ニ設備ナキモノハ明治三十七年六月三十日迄ニ設備スヘシ

●遊技場取締規則

(明治三十一年七月十二日) 縣令第三十號

(沿革) 明治三十八年九月縣令第四四號改正

遊技場取締規則左ノ通改正ス

遊技場取締規則

第一條 此ノ規則ニ於テ遊技場ト稱スルハ室内射的、大弓、

半弓、楊弓、玉突、玉投、投扇、玉轉、吹矢、魚釣其ノ他

衆人ヲシテ遊技ヲ爲サシムル公開ノ營業場所ヲ云フ

第二條 遊技場營業ヲ爲サシムル者ハ左ノ事項ヲ具備シ所

轄警察官署ニ願出免許ヲ受クヘシ

一 遊技ノ名稱

二 屋號アルモノハ其ノ名稱

三 構造ノ規定アルモノハ其ノ仕様書及圖面

四 遊技料

第三條 左ニ掲クル事項ノ一ニ該當スル者ハ遊技場營業ヲ免

許セス又其ノ營業上ノ使用人タルコトヲ得ス但シ改悛ノ狀

アリト認ムル者ハ特ニ免許スルコトアルヘシ

一 猥褻、姦淫、賭博、富籤ノ罪ニ依リ處罰セラレタル者

二 密賣淫又ハ其ノ媒合容止ノ罪ニ依リ處罰セラレタル者

三 娼妓稼業後滿二箇年ヲ經過セサル者

四 素行不良ニシテ風俗ヲ紊ス者ト認ムル者

五 待合茶屋、料理屋、飲食店ノ營業ヲ爲ス者

第四條 室内銃場及空氣發矢銃場ノ構造ハ左ノ制限ニ從フヘ

一 シ 射場ハ高サ五尺以上幅九尺以上ニシテ室内銃場ニ在リ

テハ一寸以上ノ厚板ヲ用キ空氣發矢銃ニ在リテハ疊又

ハ土俵等ヲ用キルコト

二 射場ノ後面ニハ九尺ノ空地ヲ存スルコト

三 射道ノ左右ニハ板又ハ幕ヲ以テ境界ヲ設クルコト

第五條 大弓場、半弓場、弩弓場ノ構造ハ左ノ制限ニ從フヘ

一 シ 射場ハ高サ八尺以上ニシテ幅一丈二尺以上ノ石垣又ハ

厚壁土俵ヲ以テ構造シ其ノ土臺ハ厚サ三尺以上ト爲ス

コト

二 射場ノ後面ニハ六尺以上ノ空地ヲ存スルコト

三 射道ノ左右ニハ高サ六尺以上ノ空隙ナキ障壁ヲ設クル

コト

四 射場ト射場トノ中央上部及射場正面ノ上部ニハ板又ハ

幕ヲ以テ矢止ヲ設クルコト

第六條 室内空氣銃及楊弓場、吹矢場ハ左ノ制限ニ從フヘ

一 シ 射道ノ左右ニハ板又ハ幕ヲ以テ境界ヲ設クルコト

二 標的ノ背部及左右ニハ幕ヲ以テ矢止ヲ設クルコト

第七條 遊技場免許ヲ得タル後正當ノ理由ナクシテ三十日以

内ニ開場セス又ハ六箇月以上休業シタルトキハ其ノ免許ノ

效ヲ失フモノトス

第八條 遊技場ニ使用スル婦女ヲ雇入レタルトキハ其ノ年月

日、氏名、年齢從前ノ職業雇主アリシ者ハ其ノ住所氏名ヲ

記シ四十八時間以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第九條 營業者ニシテ族籍、住所、氏名又ハ屋號ヲ變更シ若

ハ廢業又ハ死亡シタルトキハ其ノ事由ヲ五日以内ニ所轄警

察官署ニ届出ヘシ但シ死亡ハ其ノ遺族ヨリ届出ヘシ

第十條 遊技場ニハ其ノ名稱及營業者ノ住所、氏名、屋號ヲ

記シタル看板ヲ掲ケ夜間ハ標燈ヲ掲ケヘシ

第十一條 遊技場ノ營業ハ夜間十二時限リ閉場スヘシ

第十二條 構造ノ制限アル遊技場ニシテ破損シタルトキハ修

繕ヲ加ヘシテ開場スルヲ得ス

第十三條 遊技場ニ於テハ左ノ事項ヲ爲スヘカラス

一 白痴、瘋癲其ノ他亂醉者ニ遊技ヲ爲サシムルコト

二 抽籤又ハ符合等ヲ用キ物品ヲ與ヘ又ハ遊客ヲシテ之ヲ

爲サシムルコト但シ技術ノ優劣ニ依リ景物ヲ與フルハ

妨ケナシ

三 遊客ニ酒食ヲ供シ又ハ宿泊セシムルコト

四 不實ノ看板ヲ掲ケ又ハ廣告ヲ爲シ若ハ通行人ニ遊技ヲ

勧誘スルコト

五 破損シタル弓銃ヲ使用セシムルコト

六 銃器、雷管等ヲ場外ニ持出サシムルコト

七 名義ノ何タルニ拘ハラズ定リタル遊技料ノ外金錢ヲ徴

スルコト

第十五類 保安 第十一章 興行、遊技

第十四條 遊技場ハ場内見易キ場所ニ揭示スヘシ

第十五條 街路ニ沿フ遊技場ニ於テハ路上ヨリ遊、ヲ爲サシ

ムヘカラス

第十六條 左ニ掲クル事項ノ一ニ該當スル者ハ所轄警察官署

ニ於テ遊技場營業ヲ停止シ又ハ其ノ免許ヲ取消スコトアル

ヘシ

一 此ノ規則第三條ノ各號ニ觸レタル者又ハ其ノ觸レタル

使用人タルコトヲ知テ解雇セサル者

二 此ノ規則ニ違背シ一箇年三回以上處罰セラレタル者

三 遊技場ノ構造危險ト認ムル者

四 風俗ヲ紊リ又ハ公安ヲ害スル虞アルトキ

第十七條 此ノ規則第二條第八條第九條第十條第十一條第十

二條第十三條第十四條第十五條ニ違背シタル者第十六條ノ

停止中營業ヲ爲シタル者ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科

料ニ處シ又ハ一日以上十日以内ノ拘留ニ處ス

附則

第十八條 此ノ規則施行前免許ヲ受ケタル遊技場營業者ハ明

治三十一年八月三十一日マテニ此ノ規則第二條ノ手續ヲ爲

スヘシ其ノ手續ヲ爲サ、ル者ハ免許ノ效ヲ失フモノトス

第十九條 明治二十年六月縣令第三十三號遊技場規則ハ之ヲ廢

止ス

第十二章 湯屋、温泉、游泳

●湯屋營業取締規則

(大正三年三月六日)
縣令第十六號

湯屋營業取締規則左ノ通改正ス

湯屋營業取締規則

- 第一條 浴場ヲ建設シ湯屋營業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ其改築、増築、修繕、變更ヲ爲サムトスルトキ亦同シ但此場合ニ於テハ第四號、第五號、第六號ノ事項ヲ具スルヲ要セス
- 一 本籍、住所、屋號、氏名、生年月日、但法人ニ在リテハ其定款寫ヲ添附スルヲ要ス
- 二 建設地
- 三 建物ノ構造仕様書及ヒ建設地附近ノ見取圖並浴場平面圖、但見取圖ニハ浴場ノ位置ヲ朱引ト爲シ平面圖ニハ出入口、番臺、脱衣場、流シ場、浴槽、湯槽、水槽、火焚場、煙筒、火消場、灰置場、燃料置場、燃料小出場、便所、汚物流シ口等ノ位置ヲ詳記スルヲ要ス
- 四 四隣浴場ニ對スル最近距離ヲ示シタル實測圖
- 五 湯質、但源泉ヲ用キルモノニ在リテハ其分析成績書寫、藥湯ニ在リテハ賣藥免許鑑札寫ヲ添附スルヲ要ス
- 六 燃料ノ種類

- 七 煙筒ノ構造法、但材料ノ種類、地上及ヒ屋頂並周圍ニ十間以内ノ最高建造物ノ屋上ヨリ突出スル高サヲ詳記スルヲ要ス
- 八 汚水排除ノ方法
- 九 落成期日
- 第二條 所轄警察官署ハ公安保持上若ハ土地ノ狀況ニ因リ前條ノ許可ヲ爲サルコトアルヘシ
- 第三條 浴場ヲ借受ケ又ハ讓受ケ若ハ相續ニ因リ湯屋營業ヲ爲サムトスル者ハ第一條第一號、第五號、第六號ノ事項ヲ具シ被承繼人ノ連署若不能ナルトキハ其事項ノ證明書ヲ添附シ三日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ
- 第四條 浴場ノ構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ
 - 一 建物ノ屋根ハ瓦、金屬其他ノ不燃質物ヲ以テ覆葺スルコト但屋上制限令施行地域ニ於テハ該規定ニ從フコト
 - 二 浴場ノ出入口、脱衣場及ヒ浴槽ハ男女ヲ區別シ互ニ且外部ヨリ見透サル様裝置ヲ爲スコト
 - 三 浴客ノ衣類、下足其他ノ携帶品ヲ安全ニ保管シ得ヘキ設備ヲ爲スコト
 - 四 浴客ノ便所ヲ設クルコト
 - 五 流シ場ハ水液ノ滲透セサル礫石、煉瓦石、陶器其他ノ不滲透質又ハ厚板ヲ以テ敷設シ浴用ニ供シタル汚水ヲ屋外ノ下水溝ニ流下セシムルコト

- 六 流シ場ニハ水槽及ヒ湯槽並十分ナル換氣及ヒ採光ノ窓ヲ設クルコト
- 七 火焚場ノ周圍ハ石又ハ煉瓦石ヲ以テ築造シ天井ハ鐵又ハ亞鉛板ニテ張り其高サハ地盤ヨリ八尺以上ト爲シ且竈ニハ防火戸ヲ設クルコト
- 八 煙筒ハ石、煉瓦石、陶器、金屬其他ノ不燃質物ヲ以テ建設シ屋頂ヨリ十尺以上若周圍二十間以内ニ之ヨリ高キ建造物アルトキハ其屋上ヨリ六尺以上突出セシメ且煤煙及ヒ火粉ノ飛散ヲ防止スヘキ裝置ヲ爲スコト但木造家屋ニ金屬製ノ煙筒ヲ建設スルトキハ其接觸部分ハ厚サ五寸以上ノ石又ハ煉瓦石ヲ以テ包圍スルコト
- 九 火消所及ヒ灰置場ハ火焚場内ニ地盤ヲ穿テテ之ヲ設ケ石又ハ金屬製ノ蓋ヲ設クルコト
- 十 燃料置場ヲ設クルトキハ石又ハ煉瓦石其他ノ不燃質物ヲ以テ築造シ窓ヲ設ケス其出入口ニハ防火戸ヲ設クルコト若火焚口ヨリ三間以内ニ築造スルトキハ其出入口ハ火焚口ヨリ最遠ノ方向ニ設クルコト
- 十一 燃料小出場ハ不燃質物ヲ以テ築造シ防火扉ヲ設クルコト
- 第五條 第一條ノ許可ヲ得タル後其構造落成シタルトキハ所轄警察官署ニ届出使用ノ認可ヲ受クヘシ
- 第六條 營業者ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ
 - 一 入浴料ハ脱衣場ニ揭示シ置クコト

- 二 營業時間中ハ脱衣場及ヒ下足其他ノ携帶品保管場ニ看守ヲ置クコト
- 三 火焚場内適當ノ場所ニ消火器ヲ設備スルコト
- 四 浴客ノ垢流ニ從事スル者ハ傳染性疾患ナキモノニシテ其從業中ハ半袖襪衣及半股引ヲ着用セシムルコト
- 五 浴湯ハ二十時間以上浴用ニ供セサルコト
- 六 竈及ヒ煙筒ハ毎月二回以上掃除スルコト但豫メ期日ヲ定メ所轄警察官署ヘ届出ルコト
- 七 燃料ハ燃料置場及ヒ小出場外ニ置カサルコト
- 八 消炭、灰ハ火氣消盡シタル後ニ非サレハ火消所外ニ出サ、ルコト
- 第七條 所轄警察官署ハ公安又ハ衛生上必要ト認ムルトキハ浴場ノ構造ニ特殊ノ施設ヲ命シ又ハ營業方法ニ關シ制限ヲ加フルコトアルヘシ
- 第八條 左ノ場合ニ於テハ三日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ
 - 一 第一條第一號ノ事項ニ異動ヲ生シ又ハ同第五號、第六號ノ事項ヲ變更シタルトキ
 - 二 十日以上ノ休業ヲ爲サムトシ又ハ廢業シタルトキ
- 第九條 左ノ事項ノ一ニ該當スルトキハ營業ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ
 - 一 浴場建設ノ許可ヲ得タル日ヨリ六十日以内ニ建設ニ著手セサルトキ

二 落成期日ヲ經過シ尙ホ竣工ノ見込ナキトキ
第十條 公安又ハ衛生ヲ害シ若ハ他人ニ名義ヲ假シ其他就業
上不適當ト認ムルトキハ營業ヲ停止シ又ハ許可ヲ取消スコ
トアルヘシ

第十一條 營業者ハ所轄警察官署區域内ニ限り組合ヲ設クル
コトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ規約ヲ定メ所轄警察官署ノ認可ヲ受ク
ヘシ之ヲ變更サムトスルトキ亦同シ

第十二條 本則第一條ニ違犯シ又ハ第七條ノ命令、制限若ハ
第十條ノ停止命令ニ違犯シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第十三條 營業者ニシテ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本
則ニ依リ之ヲ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但
其營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル滿十四歳以上ノ
未成年者ニ付テハ此限ニ在ラス

第十四條 營業者ハ其代理人、戸主、家族、同居者、雇人其
他ノ從業者ニシテ其業務ニ關シ本則ニ違犯シタルトキハ自
己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ル、コトヲ得ス

第十五條 營業者タル法人ノ代表者、雇人、其他ノ從業者法
人ノ業務ニ關シ本則ニ違犯シタル場合ニ於テハ第十二條ノ
罰則ハ其法人ニ適用ス

法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人ト

更ニ知事ノ認可ヲ享クルニアラサレハ使用又ハ存置スルコ
トヲ得ス

第三條 第一條ニ依リ認可シタル後ト雖溫泉地區現在ノ狀況
ニ障害若ハ危害ヲ及ホスノ虞アリト認ムルトキハ之ヲ取消
シ又ハ制限シ尙ホ復舊工事ヲ命スルコトアルヘシ

第四條 本則ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

● 水浴場取締規則

(明治三十七年五月十日)
(縣令第四十號)

(沿革) 明治四一年九月縣令第七八號改正
明治二十一年八月縣令第三十四號水浴場取締規則左ノ通改正ス

水浴場取締規則

第一條 本則ニ於テ水浴場ト稱スルハ左記ノモノヲ謂フ

- 一 多衆ノ沐浴若ハ游泳ニ供スル水面及其ノ附屬地
 - 二 自然多衆來集シ沐浴若ハ游泳スル水面及其ノ附屬地
- 休憩所及更衣所ト稱スルハ浴客ノ休憩若ハ更衣ヲ目的トシ
テ設備シタル場所ヲ謂フ

第三條 水浴場又ハ休憩所若ハ更衣所ヲ設置セムトスル者ハ

- 住所氏名年齢(團體ニ在リテハ其ノ代表者)ヲ記シ左ノ區
別ニ依リ所轄警察官署ノ免許ヲ受クヘシ其ノ變更ヲ要スル
トキ亦同シ但シ自己ニ屬セサル場所ニ在リテハ使用許可書
又ハ承諾書ノ謄本添付ヲ要ス
- 一 水浴場ニ在リテハ其ノ地名及區域ノ圖面

第十五類 保安 第十二章 湯屋、温泉、游泳

ス

附 則

第十六條 本則施行前ニ許可ヲ受ケタル浴場ニシテ第四條ノ
構造制限ニ適セサルモノハ大正六年二月末日限改修スヘシ
其改修セサル者ニ對シテハ第十條ヲ適用ス

第十七條 明治三十三年六月神奈川縣令第三十六號ハ之ヲ廢
止ス

● 温泉地區取締規則

(明治四十四年八月二十九日)
(縣令第五十三號)

温泉地區取締規則左ノ通之ヲ定ム

温泉地區取締規則

第一條 温泉湧出町村内ニ於テ温泉ヲ試堀シ又ハ池井其ノ他
地下ヲ穿鑿セントスルトキハ左記事項ヲ具シ場所ノ圖面ヲ
添ヘ所轄警察官署ヲ經テ知事ノ認可ヲ受クヘシ温泉所有者
又ハ管理者ニ於テ其ノ温泉ヲ堀下其ノ他手入ヲ爲サムトス
ルトキ亦同シ

- 一、試堀又ハ穿鑿者ノ住所氏名職業
- 二、試堀又ハ穿鑿ノ場所並ニ目的
- 三、試堀又ハ穿鑿ノ方法及其ノ深長

試堀又ハ穿鑿ノ場所ニシテ他人ノ所有ニ係ルトキハ其ノ承
諾書ヲ添付スヘシ

第二條 試堀又ハ穿鑿ノ場所ニ於テ温泉湧出スルコトアルモ

二 休憩所若ハ更衣所ニ在リテハ其ノ地名建物及便所構造
ノ設計書

本條免許ノ效力ハ其ノ年十月三十一日限リトス

第三條 左ノ事項ノ一ニ該當スルトキハ水浴場、休憩所、更
衣所ノ設置ヲ免許セス又ハ免許後ト雖モ其ノ業務ノ停止若
ハ免許ノ失效ヲ命スルコトアルヘシ

- 一 本則ニ違背シタルトキ
- 二 危險若ハ衛生上有害ノ虞アリト認ムルトキ
- 三 公益ニ反シ又ハ公安ヲ害シ若ハ風俗ヲ紊ルト認ムルト
キ

第四條 免許權ヲ移轉シ又ハ相續セムトスルトキハ所轄警察
官署ノ免許ヲ受クヘシ

第五條 水浴料、休憩料、更衣料ヲ受ケムトスル者ハ其ノ額
ヲ定メ所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ

第六條 水浴場、休憩所、更衣所ノ設置者ハ左ノ場合ニ於テ
八十日以内ニ警察官署ニ届出ヘシ

- 一 一ヶ月以上ノ休業又ハ廢業
- 二 住所氏名ノ變更

第七條 水浴場設置者ハ左ノ設備ヲ爲スヘシ

- 一 水浴場ノ區域ヲ標示スルコト
- 二 水浴ノ場所ハ男女ヲ區分スルコト
- 三 水浴場ニハ救命浮環繩繩其ノ他相當ノ救命器具ヲ備フ
ルコト